日本女子体育大学 | 2025年度 | シラバス

Japan Women's College of Physical Education

ダンス学科　カリキュラムマップ

専門基礎教育・専門教育科目

卒業研究

舞台上演法

テクニック＆レパートリー

レパートリー研究

現代の舞踊論

スポーツ・舞踊活動特別実習

舞踊創作原論

創作Ⅱ

舞台制作Ⅱ

表現運動学演習（演技）

舞踊音楽演習（ヴォイス・トレーニング）

舞踊史学

舞踊指導演習（高齢者・障害者指導法）

舞踊美学

舞台演出論

マルチメディア・パフォーマンス

ミュージカル論

比較舞踊学

ダンスセラピー演習

ダンス制作論

舞台芸術論

創作Ⅰ

舞踊指導演習（舞踊家・一般成人指導法）

舞踊分析法（舞踊技術論を含）

舞踊創作・振付法

野外上演法

ジャズダンスⅡ

クラシックバレエⅡ・Ⅲ

舞台制作Ⅰ

舞踊音楽演習（パーカッション）

生涯ダンス論

ボディ・コンディショニング

舞踊分析演習

インプロヴィゼーション

コンテンポラリーダンスⅡ

モダンダンスⅡ・Ⅲ

シアタージャズダンス

舞踊音楽制作

舞踊音楽論

学校教育ダンス

舞踊方法学

コンテンポラリーダンスⅠ

クラシックバレエⅠ

舞台制作基礎

コンタクトワーク

ジャズダンスⅠ

モダンダンスⅠ

シアターダンステクニック

ストリートダンス

タップダンス

スペイン舞踊

日本舞踊

舞踊学原論

表現運動学

表現運動学演習（エアロビックダンス）

体育関連科目

学校保健

精神保健

スポーツ社会学

スポーツ栄養学

女性のライフステージと運動

衛生学・公衆衛生学

スポーツ史

スポーツマネジメント

救急処置法

機能解剖学

スポーツ生理学

発育発達論

健康科学論

スポーツ心理学

スポーツ原論

スポーツ運動学

体操

器械運動

陸上競技

水泳

バスケットボール

バレーボール

柔道

ソフトボール

新体操

フォークダンス

教養科目

データ分析と統計学

ジェンダー論

フランス語

ドイツ語

社会のしくみとキャリア形成

中国語

コリア語

英語EAPⅠ・Ⅱ 英語EGCⅠ・Ⅱ

国語表現Ⅱ

コンピュータ実践演習

人間心理の理解

日常生活の社会学

現代の倫理

ボランティア活動論

日常生活の法律

レクリエーションミュージック・合奏

ヨーロッパの文学と文化

英語Ⅱ（基礎・初級・中級）

国語表現Ⅰ

情報処理Ⅱ

教養演習

生理・生化学入門

栄養学入門

数と論理

知の哲学

女性と仕事

日本国憲法

近現代史入門

教養としての経済学

教養としての日本文学

音楽の世界

人間生活と地球環境

英語Ⅰ（基礎・初級・中級）

情報処理Ⅰ

教職科目

教職実践演習（中・高）

教育実習（事前・事後指導を含む）

教育社会学

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

道徳教育の理論と方法

教育相談

保健科教育法Ⅰ・Ⅱ

体育科教育法Ⅰ・Ⅱ

生徒指導法（進路指導を含む）

教育原論（教育課程論を含む）

教育心理学

教育の方法と技術

特別支援教育入門

教職論

ダンス学科　科目ナンバー（2024年度カリキュラム）

１桁目：学科コード（S=スポーツ科学科，D=ダンス学科，H=健康スポーツ学科，C＝子ども運動学科）／２～４桁目：分野コード／５桁目：授業レベル／６～７桁目：枝番

分類		基礎科目（100番台）		初級科目（200番台）		応用科目（300番台）		上級科目（400番台）	
		科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー	科目名	ナンバー
教養科目	必修科目	日本国憲法	DLR101	国語表現Ⅱ	DLR201				
		女性と仕事	DLR102						
		教養演習	DLR103						
		情報処理Ⅰ	DLR104						
		情報処理Ⅱ	DLR105						
		国語表現Ⅰ	DLR106						
		英語Ⅰ（基礎）	DLR107						
		英語Ⅰ（初級）	DLR108						
		英語Ⅰ（中級）	DLR109						
		英語Ⅱ（基礎）	DLR110						
		英語Ⅱ（初級）	DLR111						
		英語Ⅱ（中級）	DLR112						
	選択科目	栄養学入門	DLE101	英語ＥＡＰⅠ	DLE201				
		生理・生化学入門	DLE102	英語ＥＧＣⅠ	DLE202				
		近現代史入門	DLE103	英語ＥＡＰⅡ	DLE203				
		人間心理の理解	DLE104	英語ＥＧＣⅡ	DLE204				
		ボランティア活動論	DLE105	ドイツ語	DLE205				
		日常生活の社会学	DLE106	フランス語	DLE206				
		数と論理	DLE107	中国語	DLE207				
		現代の倫理	DLE108	コリア語	DLE208				
		日常生活の法律	DLE109	社会のしくみとキャリア形成	DLE209				
		教養としての経済学	DLE110	データ分析と統計学	DLE210				
		知の哲学	DLE111	ジェンダー論	DLE211				
		教養としての日本文学	DLE112	コンピュータ実践演習	DLE212				
		音楽の世界	DLE113						
		人間生活と地球環境	DLE114						
		ヨーロッパの文学と文化	DLE115						
		レクリエーションミュージック・合奏	DLE116						
専門基礎教育科目	必修科目	スポーツ運動学	DBR101	スポーツ栄養学	DBR201				
		スポーツ生理学	DBR102	女性のライフステージと運動	DBR202				
		スポーツ原論	DBR103						
		スポーツ心理学	DBR104						
		機能解剖学	DBR105						
		舞台制作基礎	DBR106						
		モダンダンスⅠ	DBR107						
		クラシックバレエⅠ	DBR108						
		ジャズダンスⅠ	DBR109						
		コンテンポラリーダンスⅠ	DBR110						
	選択科目	健康科学論	DBE101	舞踊分析法（舞踊技術論を含む）	DBE201	比較舞踊学	DBE301		
		発育発達論	DBE102	生涯ダンス論	DBE202	舞踊美学	DBE302		
		表現運動学演習（エアロビックダンス）	DBE103	衛生学・公衆衛生学	DBE203	舞踊創作原論	DBE303		
		ストリートダンス	DBR104	スポーツマネジメント	DBE204	ミュージカル論	DBE304		
		体操	DBR105	救急処置法	DBE205	学校保健	DBE305		
		器械運動	DBR106	スポーツ史	DBE206	精神保健	DBE306		
		陸上競技	DBR107	舞踊音楽演習（パーカッション）	DBE207	表現運動学演習（演技）	DBE307		
		水泳	DBR108			舞踊音楽演習（ヴォイス・トレーニング）	DBE308		
		バスケットボール	DBR109			スポーツ社会学	DBE309		
		バレーボール	DBR110						
		新体操	DBR111						
		フォークダンス	DBR112						
		ソフトボール	DBR113						
		柔道	DBR114						
専門教育科目	必修科目	表現運動学	DMR101	舞踊創作・振付法	DMR201				
		舞踊学原論	DMR102	舞踊方法学	DMR202				
		シアターダンステクニック	DMR103	舞台芸術論	DMR203				
				舞踊音楽論	DMR204				
				創作Ⅰ	DMR205				
				野外上演法	DMR206				
	選択科目	タップダンス	DME101	ボディ・コンディショニング	DME201	舞台演出論	DME301	舞台上演法	DME401
		コンタクト・ワーク	DME102	舞踊分析法演習	DME202	現代の舞踊論	DME302	卒業研究	DME402
		スペイン舞踊	DME103	舞踊音楽制作	DME203	ダンスセラピー演習	DME303		
		日本舞踊	DME104	舞台制作Ⅰ	DME204	マルチメディア・パフォーマンス	DME304		
				モダンダンスⅡ	DME205	レパートリー研究	DME305		
				モダンダンスⅢ	DME206	創作Ⅱ	DME306		
				クラシックバレエⅡ	DME207	テクニック＆レパートリー	DME307		
				クラシックバレエⅢ	DME208	舞台制作Ⅱ	DME308		
				ジャズダンスⅡ	DME209	舞踊史学	DME309		
				シアタージャズダンス	DME210	ダンス制作論	DME310		
				コンテンポラリーダンスⅡ	DME211	舞踊指導演習（高齢者・障害者指導法）	DME311		
				インプロヴィゼーション	DME212	スポーツ・舞踊活動特別実習	DME312		
				舞踊指導演習（舞踊家・一般成人指導法）	DME213				
				学校教育ダンス	DME214				
教職科目		教職論	DTE101	教育原論（教育課程を含む）	DTE201	道徳教育の理論と方法	DTE301	教職実践演習（中・高）	DTE401
				教育心理学	DTE202	教育社会学	DTE302	教育実習（事前・事後指導を含む）	DTE402
				教育の方法と技術	DTE203	教育相談	DTE303		
				特別支援教育入門	DTE204	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	DTE304		
						生徒指導法（進路指導を含む）	DTE305		
						保健科教育法Ⅰ	DTE306		
						保健科教育法Ⅱ	DTE307		
						体育科教育法Ⅰ	DTE308		
						体育科教育法Ⅱ	DTE309		

【卒業認定方針と科目の関連性】

スポーツ科学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ方法	各種運動・スポーツ種目の基本的な技能や戦術を理解するとともに身につけ、実践することができる
⑦	スポーツコンディショニング	スポーツの技能・競技力を最大限に発揮できる身体的・心理的条件を整えるコンディショニングの知識・理論を身につけ実践できる
⑧	スポーツコーチング	競技力を向上させるトレーニング理論や実践的なプログラミング・コーチング理論を身につけ実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

ダンス学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	ダンス芸術	ダンスの身体技能を合理的に構築し、質の高いダンスとして表現できる 作品創作や振付方法、演出方法に関する知識と理論を修得し、高度な表現の実現に応用できる
⑦	ダンス教育	多様な対象に適したダンスの学習目的に応じた内容・方法に関する知識と理論を修得し、幅広くダンス指導に応用できる
⑧	ダンス・マネジメント	ダンス上演やダンス学習を支える環境の管理および方法に関する知識と理論を修得し、実践できる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

健康スポーツ学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学修ならびに研究に必要な基礎的知識およびスキルを修得し発揮できる
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術を修得し発揮できる
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーを修得し実践に生かすことができる
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等に関する知識・理論およびスキルを修得し実生活に応用できる
⑤	キャリア教育	自らの将来を自律的に考え実現するための実学的資質を身につけ活用できる
⑥	スポーツ教育	教員として質の高い保健体育の授業を実践し、運動部活動では児童生徒の心身の実態に則した適正な指導を行うことができる。また、地域のスポーツ指導者として地域住民のニーズと実態に応じたスポーツ活動を提供し指導できる
⑦	健康運動指導	健康や体力について専門的に学び、多様な対象者に健康体力の保持・増進を目的とした健康運動指導を行うことができる
⑧	スポーツマネジメント	地域活動やＮＰＯ及びビジネスとしてのスポーツなどの効果的な仕組み作りやその運営を行うことができる
⑨	教職科目	体育教師としての強い使命感、的確な生徒理解力、および豊かな教養を身につけ、学習者の成長発展に寄与する指導力を発揮できる

子ども運動学科のディプロマポリシーに対する育成能力

①	導入科目	大学における学習・学問に必要とされる基礎的スキルの修得
②	教養高き社会人養成（読む・書く・測る）	国語・外国語・情報処理等の能力・技術の向上
③	教養高き社会人養成（クリティカルシンキング）	問題発見力・メディアリテラシーの向上
④	教養高き社会人養成（公共性）	社会・倫理・地域連携・コミュニケーション等への応用力の向上
⑤	キャリア教育	学生の将来に関わる実学的資質の育成
⑥	子どもの運動能力や感性	子どもの運動能力や感性を育てるための働きかけ方を学ぶ
⑦	子どもの健康と発達	子どもの心身の健康に関わる理論や実践方法を学ぶ
⑧	子育て支援	保育を広くとらえ、特別な配慮を必要とする子どもや保護者などへの支援の理論と方法を学ぶ

科目名	日本国憲法			担当者	中村　安菜	
英文名	Constitutional Law					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR101・DLR101・HLR101・CLR101		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

日本という国の基本的なあり方を決めている日本国憲法。この法がどのような内容であり、どのように役立っているのかを学ぶ。人権に関する規定、統治機構に関する規定ともに出来るだけ具体的・現実的な事件・出来事等と結びつけながら解説する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
憲法に関する基礎的事項・理論について	理論や学説等を理解し自らまとめて説明できる。	憲法に関する理論や学説を教科書や配布資料を参照しながら説明することができる。	理解が不十分で説明できない。
憲法に関する研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら自ら説明することができる。	知見の理解が不十分で説明できない。
憲法の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について自らの意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で自らの意見を述べることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション、憲法とは何か
【　到達目標　】
(1)体育大学生が必修で日本国憲法について学ぶ理由を理解する。
(2)憲法がどのような法であるのかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「開講」と「第1講」を熟読する。(4.0hr)

第２回　憲法の歴史：立憲主義の登場と日本における憲法の歩み
【　到達目標　】
(1)立憲主義について理解する。
(2)大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程とその内容の違いについて理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第2講」を熟読する。(4.0hr)

第３回　基本的人権総論
【　到達目標　】
(1)基本的人権の種類を理解する。
(2)基本的人権が誰に、どの程度保障されるのかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第3講」・「第4講」を熟読する。(4.0hr)

第４回　法の下の平等
【　到達目標　】
(1)法の下の平等とはどのようなことであるかを理解する。
(2)具体的な事例で不合理な差別とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第5講」を熟読する。(4.0hr)

第５回　思想・良心の自由と信教の自由
【　到達目標　】
(1)思想・良心の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)信教の自由とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第6講」を熟読する。(4.0hr)

第６回　学問の自由
【　到達目標　】
(1)学問の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)大学の自治とはどのようなことであるかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第6講」を熟読する。(4.0hr)

第７回　表現の自由総論
【　到達目標　】
(1)表現の自由とは何かを理解する。
(2)表現の自由の重要性を理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第7講」を熟読する。(4.0hr)

第８回 表現内容規制と表現内容中立規制
【　到達目標　】
(1)表現の自由に対する規制の種類を理解する。
(2)表現の自由に対する規制の合憲性判断基準について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第8講」を熟読する。(4.0hr)

第９回　経済的自由権
【　到達目標　】
(1)職業選択の自由とはどのようなことであるかを理解する。
(2)財産権とはどのようなものであるかを理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第9講」を熟読する。(4.0hr)

第10回　社会権
【　到達目標　】
(1)社会権が保障されることになった歴史的背景を理解する。
(2)生存権等の社会権の具体的内容を理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第11講」を熟読する。(4.0hr)

第11回　労働権・労働基本権
【　到達目標　】
(1)労働権と労働基本権について理解する。
(2)公務員の労働基本権に対する制約について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第12講」を熟読する。(4.0hr)

第12回　象徴天皇制
【　到達目標　】
(1)憲法上の天皇に関する規定について理解する。
(2)天皇の存在と国民主権主義の関係について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第24講」を熟読する。(4.0hr)

第13回　国会
【　到達目標　】
(1)国会の地位と構成・役割について理解する。
(2)国会と国民主権の関係について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第15講」・「第16講」・「第17講」・「第18講」を熟読する。(4.0hr)

第14回　内閣
【　到達目標　】
(1)行政権の概念について理解する。
(2)内閣の地位と構成、役割や権能について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第19講」を熟読する。(4.0hr)

第15回　裁判所
【　到達目標　】
(1)司法権の概念やその限界、司法権の独立について理解する。
(2)違憲審査制について理解する。

【授業時間外学修】
教科書の「第20講」・「第21講」を熟読する。(4.0hr)

各回の授業の内容は変更される場合がある。

【学修上の留意点】

授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリント（Googleクラスルームを通して配布）と補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすること、自分で考えることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学修を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。授業に関する質問は積極的に受け付ける。

【教科書・参考書など】

「現代憲法入門講義　新7版」加藤一彦・植村勝慶編著、北樹出版、2024（新6版とは内容が変更されているため、シラバスで指定されている「新7版」を購入すること。）

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。なお、シラバスに記載されている成績評価方法に変更がある場合は、適宜授業内で連絡する。

科目名	女性と仕事			担当者	新免　玲	
英文名	Career Development Studies (Women and Work)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	講義	科目ナンバー	SLR102・DLR102・HLR102・CLR102		卒業認定方針との関連	③⑤

【到達目標】

本学の教育理念に沿い、主体的な生き方を自ら創造するキャリア形成の基礎力を身につけることを目的とします。働く環境がめまぐるしく変化する社会にあって、自らのキャリアについて考える機会を持ち、「働くこと」の意味や「仕事」について、自ら課題を発見し自律的に思考できるようになることを目指します。将来のありたいライフキャリア像に向けて、キャリア形成の心理学理論や研究を学び、演習などを通じて、科学的な自己理解・他者理解、社会の理解を深めつつ、今後の学生生活の目標を設定し、行動計画を立てられるようになることが目標です。２年次の「社会のしくみとキャリア形成」に接続します。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
キャリア形成の基礎力の習得	自らのキャリア形成に向けた行動計画が具体的に立てられて、動き出せている。	自らのキャリア形成に向けた行動計画が具体的に立てられている。	自らのキャリア形成に向けた行動計画が具体的に立てられていない。
働くことの意味や仕事についての理解	自らの課題を発見し、自律的に思考ができている。	自らの課題を発見すべく自律的な思考ができている。	自らの課題の発見や自律的思考はできていない。
自己理解を深めることの必要性	自己理解を深める為に何をすればよいか考え、継続した取り組みプランが描けている。	自己理解を深める為に何をすればよいか考えられている。	自己理解を深めるために何をすればいいのか考えられていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（＊必ず参加してください）
【　到達目標　（目的とねらい）　】
オリエンテーション（授業への導入・シラバス・学習目標（目的・ねらい）の確認）、毎時の授業の進め方・課題および成績評価についての説明、キャリア形成の意味・心理学的基盤を理解する。

【授業時間外学修】
第2回に向けた準備、自己紹介スライドの作成。第15回までの授業について概観する。(4.0hr)

第２回　キャリアについて学ぶ
【　到達目標　（目的とねらい）　】
ジョハリの窓と自己紹介I（自己理解：強み編）グループ分け、強みについて
キャリアデザインの必要性を理解し、現在の自分を知る、ライフキャリアについて学ぶ

【授業時間外学修】
課題：ジョハリの窓とアンケートの提出。(4.0hr)

第３回　社会で求められるスキルとは
【　到達目標　（目的とねらい）　】
ジョハリの窓を使った自己理解、グループワークの有効性について
自己理解のワーク①強みワークI（自己理解：能力(強み）編）

【授業時間外学修】
課題：自己理解のワークI（強みワークIワークシート１と２）の提出。(4.0hr)

第４回　自己理解を深める①
【　到達目標　（目的とねらい）　】
社会人基礎力、キャリアの発達理論、相手に伝える力を学ぶ。
自己理解のワーク①強みワークI（自己理解：能力(強み）編）続き

【授業時間外学修】
課題：自己理解のワークI（強みワークIワークシート２と３）の提出。(4.0hr)

第５回　自己理解を深める②
【　到達目標　（目的とねらい）　】
3つのステップ：自己理解・職業理解・マッチングの理解のやり方を学ぶ
就職とは、マッチングの連続、仕事の考え方、キャリアプランニングについて考える。
ペアまたはトリオチームで、各自の自己PR書を踏まえた自己PRとフィードバック
【授業時間外学習】
課題：自己理解についての整理、ワークシート１～３を踏まえた自己PR文書の作成と提出。(4.0hr)

第６回　ガイダンス：キャリアデザインのための3つのステップ
【　到達目標　（目的とねらい）　】
3つのステップ：自己理解・職業理解・マッチングの理解のやり方を学ぶ
就職とは、マッチングの連続、仕事の考え方、キャリアプランニングについて考える。

【授業時間外学習】
課題：自分の仕事に対する考え方の整理、自己PR文書の修正。(4.0hr)

第７回　自己理解を深める③
【　到達目標　（目的とねらい）　】
選択理論心理学、マズローの欲求理論
キャリア選択とは、キャリアの転機とその対処
自己理解のワーク②（価値観（欲求））MSCI①の実施
【授業時間外学習】
課題：自己理解のワーク②（価値観（欲求））MSCIの実施、ワークシートの提出。(4.0hr)

第８回　ケーススタディ①　　※ゲスト講師の都合により回が変更になる可能性あり
【　到達目標　（目的とねらい）　】
キャリア形成に関するケーススタディと検討
活躍中の社会人による講演を通して仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成を考える。

【授業時間外学習】
課題：ゲスト講師の話を聴いて自分の考えを整理する。ワークシート提出。(4.0hr)

第9回　自己理解を深める④
【　到達目標　（目的とねらい）　】
キャリア選択とは、キャリアの転機とその対処
自己理解のワーク②（価値観（欲求））MSCI②の実施、アクションプランの整理

【授業時間外学習】
課題：自己理解のワーク②（価値観（欲求））MSCIの実施、ワークシートの提出。(4.0hr)

第10回　ケーススタディ②　　※ゲスト講師の都合により回が変更になる可能性あり
【　到達目標　（目的とねらい）　】
自分の興味や強みとマッチする仕事の探し方
活躍中の社会人による講演を通して仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成を考える。
ワーク①②の振り返り（自己理解：価値観（欲求）,能力（強み）,誘因（興味）のまとめ）
【授業時間外学習】
課題：ゲスト講師の話を聴いて自分の考えを整理する。ワークシート提出。(4.0hr)

第11回　仕事理解を深める①
【　到達目標　（目的とねらい）　】
キャリア・アダプタビリティ、キャリアの多様性、仕事の選び方、情報収集やリソース活用方法を学ぶ。

【授業時間外学習】
課題：興味が持てる1社を選ぶ。自己理解のワーク③強みワークIIの実施とワークシートの提出。(4.0hr)

第12回　仕事理解を深める②
【　到達目標　（目的とねらい）　】
職業理念、職業選択理論、自己理解・職業理解・マッチングの理解の深め方。
自己理解のワーク③強みワークII（業界・仕事理解：誘因（興味）編）

【授業時間外学習】
課題：強みのワークを踏まえて、自己紹介スライド作成に向けた自己PR書の修正と提出（4.0h）

第13回　キャリア形成に必要な自分の伝え方②　1/15
【　到達目標　（目的とねらい）　】
自己理解のワーク④強みワークIII（マッチングの理解編）①プレゼンテーション
自己PR書を踏まえたプレゼンテーションの実施（自己紹介IIの実施とグループ内で相互評価）
代表プレゼンテーションとの比較、スライド作成のために自己PR書内の要素を検討する。
【授業時間外学修】
自己紹介スライド作成・リハーサル（4.0h）

第14回　ケーススタディ③
【　到達目標　（目的とねらい）　】
自己理解のワーク④強みワークIII（マッチングの理解編）①プレゼンテーション
自己紹介スライドによるプレゼンテーション本番（自己紹介IIの実施とグループ内で相互評価）
グループ内で実施と振り返り
【授業時間外学習】
課題：第1回目の提出済自己紹介スライドと第13回作成スライドの比較と改善案の検討・提出（4.0h）

第15回　環境変化が激しい時代におけるキャリア選択と今後の大学生活
【　到達目標　（目的とねらい）　】
第1回目の提出済み自己紹介スライドとの比較・振り返りフィードバック共有、目標達成の確認、
今後について、アクションプラン
心理学的基盤の応用、発展学習の提示。
【授業時間外学修】最終レポート
これまでの学修を踏まえ、自己のキャリア形成について考えを整理する。アクションプランの提出。(4.0hr)

【学修上の留意点】

1. 本授業では、キャリア形成に関する講話やグループワークによる受講生同士のコミュニケーションの機会を増やし、大学での関係性向上や情報交換等、相互に成長する学修を目指します。そのため、出席は毎時行うグループワークなどの演習に参加するために、とても重要です。欠席しても必ず次回に向けて課題提出やグループワークを忘れずに行ってください。
2. 学生は、毎授業開始時、実施中および終了後にレポート（各15回＋最終レポート）を記入し、提出してください。

・課題の締め切りは、他の受講生にも影響が出てしますので、必ず守ってください。事前の相談がなく遅れたら課題の点数は-10%になります。必ず期日前までに教員へ相談し、遅れる場合も事前に相談の上、提出日および提出方法を確定してください。
・授業内容は場合によって変わることがあるので、Phollyや掲示板を見て確認してください。

【教科書・参考書など】

指定書籍：1.「キャリア心理学“強み”デザインガイドブック：自分にワクワクできるワークショップ」ナカニシヤ出版 予価2,200円（ISBN：978-4-7795-1851-5）　2.「キャリアデザインワークブック」ムイスリ出版　予価1,500円（ISBN978-4-89641-345-8）
それ以外のワークシートや動画などの教材は授業内で指示します。　ワークシートや動画などの教材は授業内やPhollyで指示します。毎時の授業時には、上記指定図書2冊と前回の【授業時間外学習】で提示された課題を持参してください。課題は、必ず紙もしくはパソコン等で開けるように用意してください。
参考書：就職四季報、業界地図、日経テレコン、東洋経済デジタル・ライブラリーなどのデータベースコンテンツ
　※毎授業時、次回の課題を含めて提示します。不明な点がある人は、次回まで待たずに必ず個別に確認してください。

【成績評価方法】

覚えたことを書くタイプの試験はありません。成績評価も、あなたが自分なりに考えたことを基本に評価します。高い評価はどのようなものかは講義中に都度示していきます。
具体的な成績評価は、①講義前後の小レポート／ワーク（オンライン提出中心）50%、②授業・グループワークでの貢献度・成果物20%、③学期内のレポート・課題(最終レポート含む）30%、の配分とし、総合して評価する。
課題提出遅延は、Phollyに記載の通り、減点します。　※授業への参加、貢献度：授業中のワーク（個人・ペア（トリオ）・グループでの活動）への参加態度も含みます。

科 目 名	教養演習			担当者		
英 文 名	Preparations for Academic Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR103・DLR103・HLR103・CLR103		卒業認定方針との関連	①③④

【到達目標】

この授業は、大学での学修の基礎となる知識・技術の習得を目的とした初年次教育の授業である。授業では以下の４点を重点的に養成する。①アカデミック・スキルズ(大学での学修・調査・研究に必要な諸技術)の習得、②日本女子体育大学の一員としての自覚と責任の養成、③社会の一員として必要となるソーシャル・スキルズの向上、④教養力の養成。これらの目的を達成するため授業は少人数クラスでの演習形式で行われる。また下記の授業内容に加え、必要に応じて各種の配布物を使った課題およびワークショップ的内容も実施する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
アカデミック・スキルズについて	スキルズを習得し活用できる	ハンドブック等を参照しながら活用できる	習得が不十分で活用できない
ソーシャル・スキルズについて	スキルズを習得し活用できる	ハンドブック等を参照しながら活用できる	習得が不十分で活用できない
レポート・プレゼンテーションについて	やり方を習得し自分で行うことができる	ハンドブック等を参照しながら行うことができる	習得が不十分で行うことができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　アイスブレイク
【　到達目標　】
クラスメイトと「アイスブレイク」の活動を通して、仲間と打ち解けあい、よりよい集団づくりをしていくには何が必要かを体験的に学ぶ。

【授業時間外学修】
学習内容を今後のクラス、部活動、諸活動などの実践の場で活かすよう工夫する。(4.0hr)

第２回　私の学生生活
【　到達目標　】
成人としてのルール・マナー、学生生活で起こりうるトラブルを確認し、自分の大学生活を有意義なものしていくにはどうすればよいか、を自覚的に考える。

【授業時間外学修】授業で確認した内容を踏まえ、今後の大学生活をどう送るかについて各自の自覚を深める。(4.0hr)

第３回　大学とはどんなところか
【　到達目標　】
大学の制度や教職員の働き方など、多くの点で高校と異なることを理解し、より良い大学生活を送る上で、様々な相談窓口があることを知る。授業の種類や単位について学び、単位習得の条件や授業時間以外の学習の必要性を考える。
【授業時間外学修】授業で確認した内容を踏まえ、実際に学内を回って相談窓口を確認し、自らの履修登録内容から学習計画を立てる。(4.0hr)

第４回　日本女子体育大学を知る
【　到達目標　】
日本女子体育大学の創立者である二階堂トクヨの生涯を概観し、本学がどのようにして創立されたのかを理解し、説明できるようになる。また、建学の精神・教育理念を理解し、本学の一員としての自覚と責任を深めて、本学で学ぶことの意義を考える。
【授業時間外学修】創立者二階堂トクヨのことや本学の建学の精神・教育理念を必要な場で話すことができるよう、学習内容を確認する。(4.0hr)

第５回　講義ノートをつくる
【　到達目標　】
大学で行われる授業の性質・特徴を踏まえて、講義ノートの意義・留意点を確認する。
担当教員の指示に従ってノートつくりを実践し、各自の改善点を探る。

【授業時間外学修】
講義ノートをつくる技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第６回　図書館などの大学施設を活用しよう
【　到達目標　】
大学の学びのサポートにはどのようなものがあるかを理解し、図書館の活用や情報検索の方法、施設利用のマナーや利用手続きなどを体験的に学ぶ。

【授業時間外学修】
学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第７回　ハラスメントについて学ぶ
【　到達目標　】
ハラスメントの特徴を踏まえて、大学生活で起こりうるハラスメントや、ハラスメント問題の対応と対策を考える。

【授業時間外学修】
学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第８回　データを読む技術
【　到達目標　】
量的データを扱う際の初歩的な統計的計算方法やスキルを、基本問題の実践を通じて習得する。

【授業時間外学修】
データ解釈の技術を今後の講義・演習・研究に活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第９回　データをまとめる技術
【　到達目標　】
質的データを、整理・分析・考察の有効な資料にしていくための「まとめる」スキルを学ぶ。ここでは「マインド・マップ」と「ＫＪ法」を習得する。

【授業時間外学修】
授業で実践したスキルを、今後の授業・研究などで実践してみる。(4.0hr)

第10回　話し合いの技術
【　到達目標　】
集団で物事を決定する際の諸方法の長所・短所を比較考察し、話し合いの目的や決める内容に応じた適切な方法を考える。

【授業時間外学修】
学習内容を今後のクラス・部活動・諸活動などの実践の場で活かせるよう工夫する。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーションの技術
【　到達目標　】
プレゼンテーションに求められる姿勢・準備方法等を理解し、その効果的な実施方法や手順を習得する。

【授業時間外学修】
学習内容を今後の授業・ゼミ・部活でのプレゼンに活かすよう工夫する。(4.0hr)

第12回　レポート・論文作成の技術
【　到達目標　】
レポート・論文作成に求められる基本姿勢・思考法・研究倫理を理解し、作成の手順等を、内容と形式の両面から習得する。また、レポート・論文作成における不正行為を防ぐ方法を学習し、参考文献を正しく利用することで論考の質を高める技術を実践的に習得する。
【授業時間外学修】
今後、各種の授業レポート・論文作成で応用してみる。(4.0hr)

第13回　専門への架け橋
【　到達目標　】
「卒業研究」の概要を理解し、先輩たちの体験アンケート結果を参考にして、自分の卒業研究の方向性を考える。

【授業時間外学修】
学習内容を踏まえ、自分が書きたい卒業研究のテーマ・内容を考える。(4.0hr)

第14回　キャリアプランとライフプラン
【　到達目標　】
「キャリア」について理解し、これからの時代（社会情勢やAI）に対し、自分の将来像を考える。数年後、数十年後のライフプランを立てることにより、自分の価値観に合うキャリアを探る。
【授業時間外学修】
学習内容を踏まえ、自分が想像するキャリアプラン・ライフプランを考える。(4.0hr)

第15回　レポート・プレゼンテーション
【　到達目標　】
担当教員の指示の下に、レポート・プレゼンテーションの作業を行う。

【授業時間外学修】
受講生各自がレポート・プレゼンテーションの反省点・改善点を確認する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

この授業は、講義ではなく「演習」である。そこでは受講生ひとりひとりが読み、考え、書き、意見交換をし、調べ、報告する様々な「活動」が中心となる。良識ある態度で授業に臨み、教員・クラスメイトと協力し合って、この演習を有意義なものにすることが望まれる。

【教科書・参考書など】

『教養演習ハンドブック』を用いる。他にも必要に応じて随時ハンドアウト・資料等を配布する。
第２回では、入学時に配布された『ニチジョ info.』、『学生生活スタートブック 学生生活は危険がいっぱい』、『学生便覧』を持参し、第７回では、『キャンパス・ハラスメント防止および問題解決のためのガイドライン』（日本女子体育大学ハラスメント防止委員会編）が、追加資料となる。

【成績評価方法】

スキル・課題の習得度・達成度を50%、レポート・プレゼンテーションの達成度50%で評価する。

科 目 名	情報処理Ⅰ			担当者	牧　琢弥・水野　有希 阿南　大・竹内　由利子	
英 文 名	Information Literacy Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR104・DLR104・HLR104・CLR104		卒業認定方針との関連	②③

【到達目標】

ICT（Information & Communication Technology）の基礎や情報倫理を理解した上で、文書作成、表計算等に関するアプリケーションの活用法を学び、実践することができる。また、ネットワークのしくみの基本を理解し、インターネットやメーラーの活用法やコンピュータウイルスに対する対策についても理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
PCを利用するために必要最低限な知識	PCの利用で問題点などを判断できる知識を習得し、実践することができる。	Web上のマナー・著作権・ネットの仕組みを理解し、説明することができる。	利用するためのネットの仕組や注意点などが、無理できていない。
アプリケーションの大学生としての標準的スキル	与えられた課題を思考・判断して取り組む力を習得し、実践することができる。	Officeアプリの標準的なスキルを習得し、説明することができる。	大学生としての標準的スキルの習得が不十分である。
周辺機器の標準的な利用方法	周辺機器を自律駆に使いこなせる能力を習得し、実践することができる。	ファイルと保存，プリンタなどの設定方法を習得し、説明することができる。	周辺機器の利用と設定に支障がある。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　インターネットについての理解と利用
【　到達目標　】
(1)ポータルサイトの概要やオンライン授業について理解し、利用方法を習得する。
(2)メールの署名の設定し、メールの送り方を理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第２回　情報倫理と著作権
【　到達目標　】
(1)情報倫理について概要を学び、ネットを利用することで生じる問題を理解する。
(2)著作権を学び、生活の中で発生する著作権法違反を理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第３回　メディアリテラシーとWebコミュニケーション
【　到達目標　】
(1)情報におけるメディアリテラシーの重要性を理解する。
(2)Webコミュニケーションのマナー、活用法や問題点を理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第４回　情報化社会の問題と情報セキュリティー
【　到達目標　】
(1)情報化社会における問題点を知り、情報漏洩の経路や原因を理解する。
(2)情報セキュリティーの必要性と対策を理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第５回　文書作成法の理解
【　到達目標　】
(1)文書の構成の知識と文書作成ソフトウェアの知識を理解する。
(2)テキストデータ作成と編集について理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第６回　文書作成の方法
【　到達目標　】
(1)Wordによる文書レイアウトの操作に関する知識を得る。
(2)文書のレイアウト方法や編集について理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第７回　ビジュアル表現法の理解
【　到達目標　】
(1)文書上のオブジェクトについて理解する。
(2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第８回　ビジュアル表現の方法
【　到達目標　】
(1)文書上の図形描画（ドロー系コンテンツ）を習得する。
(2)文書の印刷方法について理解し、習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第９回　数値分析・データ加工法の理解
【　到達目標　】
(1)コンピュータによるデータの蓄積と分析の知識を得る。
(2)表計算ソフトEXCELの基本操作ができるようになる。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第10回　数値分析・データ加工の方法
【　到達目標　】
(1)EXCELによるデータ分析、シートの編集・印刷についての知識を得る。
(2)数値計算・統計計算への応用ができるようになる。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第11回　プレゼンテーション法の理解
【　到達目標　】
(1)PCを使ったプレゼンテーションについて理解する。
(2)PowerPointによるスライド作成を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第12回　プレゼンテーションの方法１
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーション・スライドの応用的利用について理解する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第13回　プレゼンテーションの方法２
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーション・スライドの効果的利用方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第14回　OSとアプリケーションとファイルについての理解
【　到達目標　】
(1)OSとアプリケーションについての知識を得る。
(2)Word文書をPDF形式に保存する方法・EXCELをCSV形式に保存する方法等を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第15回　ファイルについての知識および管理の方法
【　到達目標　】
(1)ファイルについての知識および管理方法を習得する。
(2)様々な保存形式について理解する。
(3)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

【学修上の留意点】

単なるアプリケーションの活用と習得だけでなく、背景にある文書の構成やコンピュータの分析処理の基本的な知識や考え方を学び、情報機器の活用に必要となる情報倫理や著作権などの知識を学ぶことで、専門科目における活用の基礎となるスキルと知識を得ることを目標とする。

【教科書・参考書など】

別途、授業時に指示する。

【成績評価方法】

毎回の提出課題を１００％として評価する。

科 目 名	情報処理Ⅱ			担当者	牧　琢弥・水野　有希 阿南　大・竹内　由利子	
英 文 名	Information Literacy Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR105・DLR105・HLR105・CLR105		卒業認定方針との関連	②③

【到達目標】

「情報処理Ⅰ」よりワンランク上の内容を学ぶ。Wordでは、より高度な文書作成（データの差し込み等）を学び、報告書や論文作成に活用できる操作を習得する。Excelでは、高度な計算に加えて、データの並べ替えや抽出等の操作を習得して活用できる。Power Pointでは、相手に伝わるプレゼンテーションを作るための工夫を学び、実際にプレゼンテーションを行うことができる。また、画像や映像ファイルの編集方法を学び、実際に撮影や録画したデータから作品を作り、情報発信することができる。さらに、ネットワークコンピューティング、OSやファイル管理、周辺機器やメディアについても理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
PCを実用的に利用できる高度な知識	実際に発生する問題の解決・判断と知識を習得し、実践することができる。	WebやPCの利用に関する問題意識と適切な判断と知識を取得し、説明することができる。	WebやPC利用上の適切さ・知識が欠如し、説明することができない。
アプリケーションの実際的問題を解決する力	実際の問題に対し、PCアプリやWebによる高度な解決能力を取得し、実践することができる。	PCアプリの実用的課題に対し自律的に計画できる能力を身につけ、説明することができる。	PCアプリによる実用的問題への解決能力が欠如し、説明することができない。
周辺機器を含めたPCの総合的な利用	高度なファイル管理やクラウドの設定を理解し、実践することができる。	ファイル管理・ネットワーク機器・クラウドの設定を標準的理解し、説明することができる。	ファイル管理・ネットワーク機器の利用知識が欠如し、説明することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　情報ツールとネットワーク・コンピューティング
【　到達目標　】
(1)情報端末機器とWebについての理解する。
(2)情報ツール、Wifiについて理解する。
(3)クラウド（Cloud）について理解する。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第２回　パソコンの構成と周辺機器
【　到達目標　】
(1)パソコンの構成を理解する。
(2)パソコンの周辺機器の用途や機能について理解する。
(3)パソコンの設定について理解する。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第３回　文書作成の方法（応用）
【　到達目標　】
(1)高度なワード文書の作成に必要な機能を理解する。
(2)文書上のオブジェクトの編集方法を習得する。
(3)校閲、参考資料の機能を理解し、操作方法を修得する。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第４回　ビジュアル表現の方法（応用）１
【　到達目標　】
(1)目的・用途に合わせた表や図形の編集方法を習得する。
(2)画像編集ソフトの活用を修得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第５回　ビジュアル表現の方法（応用）２
【　到達目標　】
(1)複雑な図形表現の方法を習得する。
(2)作成されたオブジェクトの利用方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第６回　ビジュアル表現の方法（応用）３
【　到達目標　】
(1)文書上のオブジェクトについて理解する。
(2)文書上の画像コンテンツのレイアウト方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第７回　数値データの分析１
【　到達目標　】
(1)EXCELの式と関数によるデータ処理を理解する。
(2)絶対参照の利用方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第８回　数値データの分析２
【　到達目標　】
(1)統計に必要な関数の利用方法を習得する。
(2)データに条件をつけて分析・表示させる方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第９回　数値データのビジュアル化
【　到達目標　】
(1)分析に適したグラフを理解する。
(2)分析結果をグラフで表現する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第10回　データベースのデータの活用
【　到達目標　】
(1)データベースについて理解する。
(2)データベースのデータを文書に差し込む方法を習得する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第11回　マルチメディアデータの取込と編集
【　到達目標　】
(1)知的財産権について理解する。
(2)マルチメディアのファイルについて理解する。
(3)マルチメディアをPCで取込む方法や編集ソフトの利用方法を習得する。
【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第12回　スライドを使ったプレゼンテーション１
【　到達目標　】
(1)プレゼンテーション内容に適したスライド作成を理解する。
(2)グループワークによりプレゼンテーション用スライドを作成する。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第13回　スライドを使ったプレゼンテーション２
【　到達目標　】
(1) スライドの作成を完了する。
(2) プレゼンテーションを行うための資料作成を行う。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第14回　スライドを使ったプレゼンテーション３
【　到達目標　】
(1)スライドを使ってプレゼンテーションを行う。
(2)他のグループによる評価を行い、プレゼンテーションしたグループにフィードバックする。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

第15回　ファイル管理とPCの設定
【　到達目標　】
(1)高度なファイル操作・管理・設定を習得する。
(2)提出課題ポートフォリオによるスキルの自己チェックを行う。

【授業時間外学修】
予め教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業で学んだ内容を復習すること。(4.0hr)

【学修上の留意点】

「情報処理Ⅰ」で学んだ事を踏まえて、アプリケーションのスキルアップをするとともに、ネットワーク・コンピューティングの仕組みと活用についての実践的知識を習得することで、専門科目、卒業研究などに活用可能な知識を得ることを目標とする。

【教科書・参考書など】

別途、授業時に指示する。

【成績評価方法】

毎回の提出課題を１００％として評価する。

科目名	国語表現Ⅰ		担当者	石元　みさと・並木　真理子 高橋　良久		
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR106・DLR106・HLR106・CLR106		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

・国語力や読解力、文章力を養い、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力を高めることを目的とする。
・自ら主体的に言語生活の充実を図るとともに、言葉に関する視野を広げ、実生活に活きて働く基本的なリテラシーを養う。
・文章を読んだり書いたりすることを通して、批判的思考力を養う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
言語運用能力を高める	十分な言語運用能力を得られた	標準的な言語運用能力を得られた	十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う	十分な言語リテラシーを得られた	標準的な言語リテラシーを得られた	十分な言語リテラシーを得られなかった
批判的思考力を養う	十分な批判的思考力を習得できた	批判的思考力を習得できた	批判的思考力を身につけられなかった

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）
【　到達目標　】
この授業の目的とねらい、学習方法を理解し、各自が学習目標を設定する。

【授業時間外学修】授業内容を復習し、自身の立てた目標を達成するために必要なことをリストアップする。(4.0hr)

第２回　国語力（知識）を身につける①（敬語）
【　到達目標　】
・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。

【授業時間外学修】
日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする(4.0hr)

第３回　国語力（知識）を身につける②（文法）
【　到達目標　】
・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。

【授業時間外学修】
テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる(4.0hr)

第４回　国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）
【　到達目標　】
・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。

【授業時間外学修】
SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)

第５回　国語力（知識）を身につける④（手紙・メール）
【　到達目標　】
・手紙のマナーや書き方について理解を深める。
・Eメールのマナーや書き方について理解する。

【授業時間外学修】
実際にEメールを作成してみる。(4.0hr)

第６回　読解力を身につける①（文章整序・長文読解）
【　到達目標　】
・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。

【授業時間外学修】
新聞記事や他授業で用いる教科書、論文なども積極的に読んでみる。(4.0hr)

第７回　読解力を身につける②（要約）
【　到達目標　】
・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。

【授業時間外学修】
新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。(4.0hr)

第８回　読解力を身につける③（根拠の検討、分析）
【　到達目標　】
・文章中の事実と意見を区別できるようにする。

【授業時間外学修】
教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。(4.0hr)

第９回　文章力を身につける①（レポートの書き方）
【　到達目標　】
・構成について学ぶ。

【授業時間外学修】
新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)

第10回　文章力を身につける②（成文化）
【　到達目標　】
・根拠や理由で主張に肉付けする。

【授業時間外学修】
書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)

第11回　文章力を身につける③（接続詞）
【　到達目標　】
・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。

【授業時間外学修】
新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)

第12回　文章力を身につける④（文構造）
【　到達目標　】
・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)

第13回　文章力を身につける⑤（反論）
【　到達目標　】
・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。

【授業時間外学修】
他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)

第14回　文章力を身につける⑥（修正）
【　到達目標　】
・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。

【授業時間外学修】
書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)

第15回　目標達成度確認・国語表現Ⅱへの課題
【　到達目標　】
自己評価により目標達成度を測り、国語表現Ⅱへの課題を確認する。

【授業時間外学修】
授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること(電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨)。

【教科書・参考書など】

教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。
参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド ： 大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織［ほか］著（大修館書店）2020年

【成績評価方法】

毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40%

科目名	英語Ⅰ（基礎）			担当者	加賀　岳彦	
英文名	English Ⅰ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR107・DLR107・HLR107・CLR107		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では英語の基礎を確認・再学習し、その応用演習を行う。要点は、1）基本語彙を覚える、2）文法・発音の基礎を復習・確認する、3）平易な英文・対話文でコミュニケーションができるようになる、の3点である。また受講生の必要に応じて英語になじむための活動や、各自がこれから自立して英語を学習していけるようになるための演習を取り入れる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の基礎的な語彙・文法を習得する	授業で学習した語彙・文法が身についている	授業で学習した語彙・文法が辞書・ノートを参照して理解・運用できている	授業で学習した語彙・文法が習得できていない
基礎的な英文を理解し、表現する	授業で学習した英文を辞書・ノートなしで理解・表現できる	授業で学習した英文を辞書・ノートを参照して理解・表現できる	授業で学習した英文を理解・表現できない
英語学習を主体的に行う	授業前・授業・授業後に自発的な学習を行う	自発的な学習を自分のペースで行う	自発的な学習姿勢が身についていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学修】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　英語基礎演習① Be More Polite (1)
【　到達目標　】
大学生の使う英語には「丁寧さ」が求められる。初対面の人とのコミュニケーションで用いる politeな表現を実践的に学習する。
また日常生活で頻繁に使う表現や疑問文の politeな表現の仕方を練習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第３回　英語基礎演習② Be More Polite (2)
【　到達目標　】
前回学習した内容を応用して、さらに英語でpoliteに表現する方法・知識を学習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第４回　英語基礎総合演習③　My Major & Degree (1)
【　到達目標　】
「大学生」の自己紹介は、高校生の時と同じであってはならない。大学生になった自分を英語で自己紹介し、自分を理解してもらうための「大学生ヴァージョン」の表現を実践的に学ぶ。
また自分の「専門」や将来の希望を英語で表現する方法・語彙を習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第５回　英語基礎演習④　My Major & Degree (2)
【　到達目標　】
前回の学習内容を応用して、さらに「大学生になった」自分のこと、専門、将来の希望等を明確に英語で表現する方法を習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第６回　英語基礎演習⑤　My Sports/Dance Experiences (1)
【　到達目標　】
自分が行ってきた、あるいは行っているスポーツ・ダンスなどの「経験」を、分かりやすく的確に英語で表現する方法を学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第７回　英語基礎演習⑥　My Sports/Dance Experiences (2)
【　到達目標　】
前回の学習内容を応用して、さらに自分のスポーツ・ダンスの経験、およびそれに付随するさまざまな「経験」を英語でどのように表現するかを学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第８回　英語基礎演習⑦　Review (1)
【　到達目標　】
第2回から第7回までの総復習を行い、各自の弱点を把握するとともに、ここまで学習した知識をさらに拡充させる。
【授業時間外学修】
総復習の内容をもう一度点検する。(4.0hr)

第９回　英語基礎演習⑧　My Habit (1)
【　到達目標　】
「習慣」がその人をつくるとよく言われる。とすれば「習慣」も重要な「自己」の一部である。
この回では自分の生活上の「習慣」に関する語彙・英語表現を学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第10回　英語基礎演習⑨　My Habit (2)
【　到達目標　】
前回の内容に引き続き、自分の生活上の「習慣」に関する語彙・英語表現を、アクティヴィティを通じてさらに広く学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第11回　英語基礎演習⑩ My Personality (1)
【　到達目標　】
自分の「性格・個性」を英語で表現できる日本人は少ない。自分の性格を簡潔かつ平易に英語で表現するための語彙・文のつくり方、表現法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、担当教員の指示に従って予習を行う。(4.0hr)

第12回　英語基礎演習⑪　My Personality (2)
【　到達目標　】
前回の学習内容を応用して、自分のみならず、他者の性格・個性を理解するのに必要かつ有効な語彙・表現方法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第13回　英語基礎演習⑫　My Health (1)
【　到達目標　】
「健康」は世界の誰とでも共有できるテーマである。国際的な自分の「健康状態」を伝えたり「体調不良」を英語で表現する際に有用な語彙・表現法を実践的に学習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、担当教員の指示に従って予習を行う。(4.0hr)

第14回　英語基礎演習⑬　My Health (2)
【　到達目標　】
前回の学習内容を応用して、自分が「健康のために」どのようなことに注意したり行っているかを英語で表現する演習を行い、その語彙・表現法を習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第15回　英語基礎演習⑭　Review (2)
【　到達目標　】
第9回から第14回までの総復習を行い、各自の弱点を把握するとともに、ここまで学習した知識をさらに拡充させる。
【授業時間外学修】
総復習の内容をもう一度点検する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

予習・復習を継続し、毎回課される小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題の結果は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。

【教科書・参考書など】

授業用のハンドアウトを使用する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。

【成績評価方法】

原則として、授業への出席・参加(小テスト等を含む)50%、期末試験50%から評価する。

科目名	英語Ⅰ（初級）			担当者	穴沢　良子	
英文名	English Ⅰ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、英語の基礎知識の復習・確認をしながら、日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生がこれから自立的学習を行っていけるようになるための学習指導も取り入れる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学修】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　英語初級総合演習①
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら、理解を深める。英語の特徴について学ぶ。
〈学修内容（テキストUnit 1）〉
テーマ：Unusual Summer Jobs　文法事項：YesかNoで答えられる疑問文の作り方
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語初級総合演習②
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら、理解を深める。英語の特徴について学ぶ。
〈学修内容（テキストUnit 2）〉
テーマ：Choosing a “Sub-Circle” at College　文法事項：WH-Questions の作り方
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語初級総合演習③
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら、理解を深める。英語の特徴について学ぶ。
〈学修内容（テキストUnit 3）〉
テーマ：Funny Pet Videos on TikTok　文法事項：疑問詞+ yes/no 疑問文
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語初級総合演習④
【　到達目標と学修内容（テキストUnit 4）】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 4）〉
テーマ：Ordering Clothes and Shoes Online　文法事項：動名詞（-ing）
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語初級総合演習⑤
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 5）〉
テーマ：ChatGPT　文法事項：Makeを使った言い回し
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語初級総合演習⑥
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 6）〉
テーマ：Fried Chicken is Popular　文法事項：every と each の使い方
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語初級総合演習⑦
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 7）〉
テーマ：Shower or Bath?　文法事項：Take を使った言い回し
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語初級総合演習⑧
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 8）〉
テーマ：Food Trucks on Campus　文法事項：不定詞の用法
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語初級総合演習⑨
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 9）〉
テーマ：What Makes a Good Meeting Spot？　文法事項：再帰代名詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語初級総合演習⑩
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit10）〉
テーマ：Foods That Should Be Eaten Every Day　文法事項：名詞と名詞用法の不定詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語初級総合演習⑪
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 11）〉
テーマ：Smartphone Gigabytes 文法事項：How + 形容詞/副詞…? どのくらいの程度か尋ねる
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語初級総合演習⑫
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 12）〉
テーマ：Christmas Lights… at Halloween?! 文法事項：時を表す前置詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語初級総合演習⑬
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 13）〉
テーマ：Animal Cafés　文法事項：場所を表す前置詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語初級総合演習⑭
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 14）〉
テーマ：Gel Nails　文法事項：make + 名詞 + 形容詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題に取り組む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

英語辞書を必ず持参すること（紙の辞書または電子辞書）。
主体的に授業に参加すること。
授業内で与えられた課題に取り組み、発表する。教員はこれに対してフィードバックをおこなう。
各自予習・復習を継続しておこなうこと。

【教科書・参考書など】

『エッセイと会話の基礎英語読本 Read On, Getting Started』Jonathan Lynch, Atsuko Yamamoto, Kanako Watanabe著、三修社、価格2,000円+税

【成績評価方法】

平常点50%、試験25%、課題25%を原則とし、総合的に評価する。

科目名	英語Ⅰ（初級）			担当者	小山　さや香	
英文名	English Ⅰ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR108・DLR108・HLR108・CLR108		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では，英語の基礎知識の復習・確認をしながら，日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・表現力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また受講生がこれから自立的学習を行っていけるようになるための学習指導も取り入れる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し，集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学修】
試験における反省点を把握し，教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　イントロダクション・ Unit 1: People　Lesson A
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら，理解を深める。
英語の語彙や文法を学ぶ。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　Unit 1: People　Lessons B and C
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら，理解を深める。
英語の語彙や文法を学ぶ。□
英語の特徴を理解しながら，リスニング演習に取り組む。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　Unit 1: People　Lessons C and D
【　到達目標　】
英語の基礎について復習しながら，理解を深める。
英語の語彙や文法を学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，リーディング演習に取り組む。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　Unit 1: People　Lesson E, Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 1で習った語彙・文法を理解し、使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　Unit 2: A Day in the Life　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　Unit 2: A Day in the Life　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　Unit 2: A Day in the Life　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　Unit 2: A Day in the Life　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 2で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　Unit 3: Going Places　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　Unit 3: Going Places　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　Unit 3: Going Places　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　Unit 3: Going Places　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 3で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　Units 1-3　復習
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・リーディングに取り組む。
Units 1-3で習った語彙・文法・表現を復習・理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　Units 1-3　まとめ
【　到達目標　】
前期に習った英語表現について復習しながら，理解を深める。
前期に習った語彙・文法・表現を復習・理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
前期の学習内容を振り返ると共に不確かな点を復習し，知識の定着を図る。(4.0hr)

【学修上の留意点】

主体的に授業に参加し，各自予習・復習を継続しておこなうこと。

【教科書・参考書など】

World English 1A, Third Edition: Combo Split 1A with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning. (ISBN: 9798214085395)
※クラス分け後の初回授業時に購入サイトのURLをお知らせします

【成績評価方法】

原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。

科 目 名	英語Ⅰ（中級）			担当者	中村　大輔	
英 文 名	English Ⅰ (Intermediate)					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR109・DLR109・HLR109・CLR109		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、英語の基礎知識(語彙・文法・発音等)を踏まえて、コミュニケーションの実践および学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また受講生が自立的学習を行っていけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語基礎知識の強化	高校レベル以上の英語基礎知識を習得できる	高校レベルでの未習得知識を習得できる	高校レベルでの未習得知識を習得できない
英語receptive skillsの熟達	授業で扱ったトピックに関して授業外で listening・readingを基礎レベルで運用できる	授業で扱ったトピックに関して授業内で listening・readingを基礎レベルで運用できる	reading・speakingを基礎レベルで運用できない
自立学習の促進	授業外で積極的に英語を学習する意欲を持つ	授業外で英語を予習する意欲を持つ	授業外で英語を学習する意欲を持たない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションおよびプレイスメントテストの実施
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を理解する。
受験上の注意点を把握し、集中して試験に取り組む。
自分はどのような技能が弱いかを自己分析する。
【授業時間外学修】
試験における反省点を把握し、教員の指示に従って次回からの授業の準備をする。(4.0hr)

第２回　Introduction　英語総中級合演習①: Unit 1: Roomates (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第３回　英語総中級合演習②: Unit 1: Roommates (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第４回　英語中級総合演習③: Unit 2: Checking out (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第５回　英語中級総合演習④: Unit 2: Checking out (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第６回　英語中級総合演習⑤: Unit 3: Get in Shape (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第７回　英語中級総合演習⑥: Unit 3: Get in Shape (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第８回　英語中級総合演習⑦: Unit 4: Money Manegement (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第９回　英語中級総合演習⑧: Unit 4: Money Manegement (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第10回　英語中級総合演習⑨: Unit 5: Close Ties (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第11回　英語中級総合演習⑩: Unit 5: Close Ties (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第12回　英語中級総合演習⑪: Unit 6: Time to Celebrate (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第13回　英語中級総合演習⑫: Unit 6: Time to Celebrate (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第14回　英語中級総合演習⑬: Unit 7:Animals in Danger (1)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第15回　英語中級総合演習⑭: Unit 7: Animals in Danger (2)
【　到達目標　】
演習を通して、英語の理解力・表現力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に必要なスキルを身につける。
強化した英語基礎知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
Unit1-14の復習（4.0 hr）

【学修上の留意点】

予習をして授業に参加すること。授業時の私語を慎むこと。

【教科書・参考書など】

角山　照彦, Andrey Dubinsky, David Edward Keane.(2018). New Connection.Book 2. CEFR A2-B1.『４技能を高める英語演習』. 成美堂

【成績評価方法】

平常点（授業内発表、小テスト等）50%、試験50%で判断する。

科目名	英語Ⅱ（基礎）			担当者	加賀　岳彦	
英文名	English Ⅱ (Elementary)					
単位数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR110・DLR110・HLR110・CLR110		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、「英語Ⅰ（基礎）」を踏まえて、さらに英語の基礎全般を確認しながら、大学生向けの英語の表現力およびコミュニケーション力の向上を図る。また、これから受講生が自立（自律）して英語を学習していけるようになるための演習を行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の基礎的な語彙・文法を習得する	授業で学習した語彙・文法が身についている	授業で学習した語彙・文法が辞書・ノートを参照して理解・運用できている	授業で学習した語彙・文法が習得できていない
基礎的な英文を理解し、表現する	授業で学習した英文を辞書・ノートなしで理解・表現できる	授業で学習した英文を辞書・ノートを参照して理解・表現できる	授業で学習した英文を理解・表現できない
英語学習を主体的に行う	授業前・授業・授業後に自発的な学習を行う	自発的な学習を自分のペースで行う	自発的な学習姿勢が身についていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業説明および英語基礎演習①
【　到達目標　】
この授業の目標・内容・計画を確認する。
受講生各自が、自己の英語学習の改善点を意識し、自立的学習を行っていけるよう方向づけを行う。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を確認し、担当教員の指示に従って次回の予習を行う。(4.0hr)

第２回　英語基礎演習②　Specific Questions (1)
【　到達目標　】
他者とコミュニケーションをするとき疑問文は欠かせない表現形式であり、情報をさらに細かく知りたいときはそれに適した表現をしなければならない。この回では、受講生が既に学んだ質問文・疑問文を、より細かく聞いていく際に必要な英語表現の技法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第３回　英語基礎演習③　Specific Questions (2)
【　到達目標　】
前回に引き続き、さまざまな質問文・疑問文を、より細かく聞いていく際に必要な英語表現の技法を実践的に学び、習得する。特に語彙面の習得を重視する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第４回　英語基礎演習④　Specific Questions (3)
【　到達目標　】
前回に引き続き、さまざまな質問文・疑問文を、より細かく聞いていく際に必要な英語表現の技法を実践的に学び、習得する。今回は、相手にとって失礼だったりぶしつけにならない常識的で丁寧な疑問文の作り方を重点的に学ぶ。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、予習を行う。(4.0hr)

第５回　英語基礎演習⑤　Thanking & Apologizing (1)
【　到達目標　】
英語での感謝表現はThank you.だけではない。大学生から社会人まで知っておくべき様々な「感謝表現」を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第６回　英語基礎演習⑥　Thanking & Apologizing (2)
【　到達目標　】
人間はミスを犯せば「謝罪」しなければならない。英語には I'm sorry.以外にも「謝罪」の表現がさまざまにある。この回では英語の多様な謝罪表現を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、予習を行う。(4.0hr)

第７回　英語基礎演習⑦　Super Politeness
【　到達目標　】
人に何かを頼んだり依頼する際は「丁寧」でなければならないし、それが初対面の人や関係が遠い人に対してはなおさらである。この回では、英語でも最上レベルの丁寧表現を使った依頼の仕方を実践的に学習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第８回　英語基礎演習⑧　Review (1)
【　到達目標　】
第2回から第7回までの総復習を行い、各自の弱点を把握するとともに、ここまで学習した知識をさらに拡充させる。
【授業時間外学修】
総復習の内容をもう一度点検する。(4.0hr)

第９回　英語基礎演習⑨　Expressing Emotions
【　到達目標　】
英語による「感情表現」を学ぶ。その語彙と表現法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第10回　英語基礎演習⑩　Advice & Encouragement (1)
【　到達目標　】
よりよい人間関係を築くためには「アドバイス」や「励まし」は欠かせない。この回では、相手に「アドバイス」を求めたり、「アドバイス」を与えたりする際に有用な語彙・表現法を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第11回　英語基礎演習⑪　Advice & Encouragement (2)
【　到達目標　】
英語には「励まし」の表現が豊富にある。今回はさまざまな「励まし」の表現、およびそれにもちいる語彙を実践的に学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、予習を行う。(4.0hr)

第12回　英語基礎演習⑫　Judgement & Opinion (1)
【　到達目標　】
人は日々刻々と何らかの「判断」を下しながら生きている。この回では、日常生活レベルでよく用いる「判断」を表す語彙を学び、文を作って練習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題および予習を行う。(4.0hr)

第13回　英語基礎演習⑬　Judgement & Opinion (2)
【　到達目標　】
前回の Judgementを基に、この回では自分の「意見」を構成する練習を行う。そのための語彙、表現方法を学び、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、予習を行う。(4.0hr)

第14回　英語基礎演習⑭　New Goals
【　到達目標　】
大学生の自分が今抱いている様々な「目標」を英語で語れるようになることを目指す。「目標」を表現するのに有用な語彙、表現方法を学習し、習得する。
【授業時間外学修】
授業で学んだ事項を復習し、課題を行う。(4.0hr)

第15回　英語基礎演習⑮ Review (2)
【　到達目標　】
第9回から第14回までの総復習を行い、各自の弱点を把握するとともに、ここまで学習した知識をさらに拡充させる。
【授業時間外学修】
総復習の内容をもう一度点検する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

予習・復習を継続し、毎回課される小テスト・課題にしっかりと取り組むこと。小テスト・課題の結果は、その学習内容に応じた形で受講生にフィードバックされる。

【教科書・参考書など】

授業用のハンドアウトを使用する。
辞書を持参すること（電子辞書可）。

【成績評価方法】

原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	穴沢　良子	
英文名	English Ⅱ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ、さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また、受講生がこれから自立的学習を行っていけるようになるための学習指導も引き続き行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション・英語初級総合演習①
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。
授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。「英語Ⅰ（初級）」の復習を行う。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　英語初級総合演習②
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 1）〉
テーマ：A New Way to Wake Up　文法事項：形式主語や形式目的語のit
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　英語初級総合演習③
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 2）〉
テーマ：Frame Styles For Glasses　文法事項：名詞の数量表現
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　英語初級総合演習④
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 3）〉
テーマ：Pizza Party Etiquette　文法事項：比較級・最上級の不規則変化
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　英語初級総合演習⑤
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 4）〉
テーマ：Why Do Young People Love Starbucks?　文法事項：集合名詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英語初級総合演習⑥
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学び、日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
〈学修内容（テキストUnit 5）〉
テーマ：Gift Certificates in Convenience Stores　文法事項：和製英語
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　英語初級総合演習⑦
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 6）〉
テーマ：Gift Exchange Party-What Present Would You Buy?　文法事項：仮定法過去
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　英語初級総合演習⑧
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 7）〉
テーマ：Is Learning How to Drive a Manual Car Necessary?　文法事項：書き言葉thusの主な使い方
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　英語運用能力の習得、読解力の向上⑨
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 8）〉
テーマ：Eating While Walking　文法事項：　知覚動詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　英語初級総合演習⑩
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 9）〉
テーマ：How Do You Keep Your Keys?　文法事項：　反対語
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　英語初級総合演習⑪
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 10）〉
テーマ：Tablet-Based Lessons Versus Paper Textbook-Based Lessons　文法事項：　副詞
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　英語初級総合演習⑫
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 11）〉
テーマ：Where Do You Want To Go?　文法事項：動名詞の役割
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　英語初級総合演習⑬
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 12）〉
テーマ：Is Shaking Hands Finished?　文法事項：主語＋used to＋動詞の原型
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英語初級総合演習⑭
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 13）〉
テーマ：Unusual Souvenirs That Foreign Visitors Buy in Japan　文法事項：日本文化紹介
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　英語初級総合演習⑮
【　到達目標　】
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
〈学修内容（テキストUnit 14）〉
テーマ：Smartphone Charging　文法事項：再帰代名詞による強調用法
【授業時間外学修】
授業内容を復習し、課題に取り組む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

英語辞書を必ず持参すること（紙の辞書または電子辞書）。
主体的に授業に参加すること。
授業内で与えられた課題に取り組み、発表する。教員はこれに対してフィードバックをおこなう。
各自予習・復習を継続しておこなうこと。

【教科書・参考書など】

『Read On. Think On 超入門、考える基礎英語読本』Jonathan Lynch, Atsuko Yamamoto, Kanako Watanabe著、三修社、価格2,000円+税

【成績評価方法】

平常点50%、試験25%、課題25%を原則とし、総合的に評価する。

科目名	英語Ⅱ（初級）			担当者	小山　さや香	
英文名	English Ⅱ (Lower-Intermediate)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR111・DLR111・HLR111・CLR111		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、「英語Ⅰ（初級）」を踏まえ，さらに日常生活・一般常識レベルの英語の理解力・コミュニケーション力の全体的な向上・拡充を目指す。また，受講生がこれから自立的学習を行っていけるようになるための学習指導も引き続き行う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英語の語彙・表現	語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	教科書・辞書を参照しながら語彙・表現を理解し、正しく使用できる。	語彙・表現の理解が不十分で正しく使用できない。
英語のリスニング・リーディング	英語の特徴を理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴を必要最低限理解し、英語を聞いたり読んだりできる。	英語の特徴について理解が不十分で聞いたり読んだりできない。
日常生活・一般生活レベルの英語表現	簡単な英語を使用して英語で表現できる。	辞書や資料等を参考にしながら、簡単な英語を使用して英語で表現できる。	理解が不十分で英語で表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション・ Unit 4: Food　Lesson A
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の内容と目標を確認する。
授業時間外学習の方法を振り返り、継続・改善する点を把握する。
日常生活・一般常識レベルの英語運用能力を身につける。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第２回　Unit 4: Food　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第３回　Unit 4: Food　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第４回　Unit 4: Food　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第５回　Unit 4: Food　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 4で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　Unit 5: Sports　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第７回　Unit 5: Sports　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第８回　Unit 5: Sports　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第９回　Unit 5: Sports　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 5で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第10回　Unit 6: Destinations　Lessons A and B
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第11回　Unit 6: Destinations　Lessons C and E
【　到達目標　】
英語の語彙・文法について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・ライティングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第12回　Unit 6: Destinations　Lesson D
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリーディングに取り組む。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力をさらに向上させる。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第13回　Unit 6: Destinations　Review
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
日常生活・一般生活レベルの英語運用能力を向上させる。
Unit 6で習った語彙・文法を理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第14回　Units 4-6　復習
【　到達目標　】
英語の語彙・表現について学ぶ。
英語の特徴を理解しながら，英語のリスニング・リーディングに取り組む。
Units 4-6で習った語彙・文法・表現を復習・理解し，使えるようにする。
【授業時間外学修】
授業内容を復習し，課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第15回　Units 4-6　まとめ
【　到達目標　】
後期に習った英語表現について復習しながら，理解を深める。
後期に習った語彙・文法・表現を復習・理解し，使えるようにする。

【授業時間外学修】
後期の学習内容を振り返ると共に不確かな点を復習し，知識の定着を図る。(4.0hr)

【学修上の留意点】

主体的に授業に参加し、各自予習・復習を継続しておこなうこと。

【教科書・参考書など】

World English 1A, Third Edition: Combo Split 1A with Spark Access + e-Book (1 year access), National Geographic Learning. (ISBN: 9798214085395)

【成績評価方法】

原則として、平常点50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。

科 目 名	英語Ⅱ（中級）			担当者	中村　大輔	
英 文 名	English Ⅱ (Intermediate)					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別	教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR112・DLR112・HLR112・CLR112		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

この授業では、「英語Ⅰ（中級）」を踏まえて、英語のコミュニケーションの実践および英語を用いた学術研究に発展していけるようになるための英語力の養成を図る。また、受講生が自立的学習を行っていけるようになるための学習指導や、知識・視野を広げるための海外事情・国際教養にも言及する。 さらに、speaking 及び writingの育成を図る活動を適宜導入し、基礎的な英語productive skillsの習得を図る。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
発展的英語知識の獲得	初歩的な学術英語表現を獲得できる	日常生活における発展的英語表現を獲得できる	高校レベル以上の知識を獲得できない
英語receptive skillsの熟達	授業で扱っていないトピックに関するlistening・readingで発展的英語知識を運用できる	授業で扱ったトピックに関するlistening・readingで発展的英語知識を運用できる	listening・readingを基礎レベルで運用できない
自立学習におけるテーマの発展	自ら興味を抱いたテーマを継続的に学習できる	授業で扱ったテーマを自ら継続的に学習できる	授業で扱ったテーマを継続的に学習できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　Introduction 英語中級総合演習①: Unit 8: A Fine Art (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第２回　英語中級総合演習②: Unit 8: A Fine Art (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第３回　英語中級総合演習③: Unit 9: Tune in (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第４回　英語中級総合演習④: Unit 9: Tune in (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第５回　英語中級総合演習⑤: Unit 10: Music to Our Ears (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第６回　英語中級総合演習⑥: Unit 10: Music to Our Ears (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第７回　英語中級総合演習⑦: Unit 11: Study Abroad (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）□

第８回　英語中級総合演習⑧:　Unit 11: Study Abroad (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第９回　英語中級総合演習⑨: Unit 12: Technology and You (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第10回　英語中級総合演習⑩: Unit 12: Technology and You (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第11回　英語中級総合演習⑪: Unit 13: Right and Wrong (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第12回　英語中級総合演習⑫: Unit 13: Right and Wrong (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第13回　英語中級総合演習⑬: Unit 14: Your Career starts now (1)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習と次章の予習（4.0 hr）

第14回　英語中級総合演習⑭:　Unit 14: Your Career starts now (2)
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識をlistening及びreadingで積極的に活用する。
【授業時間外学修】
Unit 8-14の復習（4.0 hr）□

第15回　英語中級総合演習⑮: 発展的課題
【　到達目標　】
演習を通して、語彙力・文法力を向上させ、英語コミュニケーション及び学術研究に役立つ理解力・表現力を身につける。
獲得した発展的英語知識を初見の課題で積極的に活用する。
【授業時間外学修】
授業内容の復習（4.0 hr）□

【学修上の留意点】

予習をして授業に参加すること。授業時の私語を慎むこと。

【教科書・参考書など】

角山　照彦, Andrey Dubinsky, David Edward Keane.(2018). New Connection.Book 2. CEFR A2-B1.『４技能を高める英語演習』. 成美堂

【成績評価方法】

平常点（授業内発表、小テスト等）50%、試験50%で判断する。

科目名	国語表現Ⅱ			担当者	石元　みさと・並木　真理子 高橋　良久	
英文名	Japanese Composition and Rhetoric Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・必修	教養・必修	教養・必修	教養・必修
授業形態	演習	科目ナンバー	SLR201・DLR201・HLR201・CLR201		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

・国語表現Ⅰで培った国語力や読解力、文章力の基礎的・基本的な知識を基に、大学・社会生活の基盤となる言語運用能力の一層の伸長を図るとともに、アカデミック・ライティングについての学びを深める。
・新聞やインターネットを活用し、メディア・リテラシーや情報リテラシーを身につける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
言語運用能力を高める	十分な言語運用能力を得られた	標準的な言語運用能力を得られた	十分な言語運用能力を得られなかった
言語に関するリテラシーを養う	十分な言語リテラシーを得られた	標準的な言語リテラシーを得られた	十分な言語リテラシーを得られなかった
アカデミック・ライティングについて	理解して活用できた	理解できた	理解できなかった

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（授業概要理解・学習目標設定）
【　到達目標　】
国語表現Ⅰでの学習を振り返り、各自が学習目標を設定する。

【授業時間外学修】
興味や関心のある新聞記事を探す。(4.0hr)

第２回　国語力（知識）を身につける①（敬語）
【　到達目標　】
・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違いを理解する。
・場面ごとに敬語を適切に使えるようにする。

【授業時間外学修】
日常生活（他授業やアルバイト）での会話でも敬語を使えるようにする(4.0hr)

第３回　国語力（知識）を身につける②（文法）
【　到達目標　】
・「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」の使用を防ぐために、動詞と助動詞の活用について学ぶ。
・使役表現、可能表現を適切に使えるようにする。

【授業時間外学修】
テレビやインターネットの中の「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」を探してみる(4.0hr)

第４回　国語力（知識）を身につける③（仮名遣い・語彙）
【　到達目標　】
・送り仮名などの仮名遣いについて理解し、適切に使えるようにする。
・語彙力を養うために、類義語や対義語などについて学ぶ。

【授業時間外学修】
SPIに頻出する「二語の関係」の問題に取り組む。(4.0hr)

第５回　読解力を身につける①（文章整序・長文読解）
【　到達目標　】
・文章の構成について理解し、文章整序問題に取り組む。
・接続詞やキーワードについて学び、長文読解に取り組む。

【授業時間外学修】
新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)

第６回　読解力を身につける②（専門的な文章を読む）
【　到達目標　】
・論文などの専門的な文章であっても、話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。

【授業時間外学修】
新聞記事や他授業で用いる教科書なども積極的に読んでみる。(4.0hr)

第７回　読解力を身につける②（要約）
【　到達目標　】
・文章の話題を素早くつかみ、キーワードを押さえられるようにする。
・文と文とのつながりを考えながら、一つの文章として読めるように要約する。

【授業時間外学修】
新聞記事などの興味がある文章についても要約をしてみる。(4.0hr)

第８回　読解力を身につける③（根拠の検討、分析）
【　到達目標　】
・文章中の事実と意見を区別できるようにする。
・客観的な事実・データを根拠にした理由に説得力があるか検討、分析する。

【授業時間外学修】
教科書や論文などの文章についても分析をしてみる。(4.0hr)

第９回　アカデミック・ライティングの基礎①（レポートの書き方）
【　到達目標　】
・構成について学ぶ。
・構成メモ（設計図）を書く。

【授業時間外学修】
新聞や書籍、インターネットなどからレポート執筆に必要な情報を集める。(4.0hr)

第10回 アカデミック・ライティングの基礎②（成文化）
【　到達目標　】
・根拠や理由で主張に肉付けする。
・話し言葉や原稿用紙の使い方に注意してレポートを書き上げる。

【授業時間外学修】
書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)

第11回　文章力を身につける①（接続詞）
【　到達目標　】
・接続詞や接続助詞の働きについて理解する。
・前後の文脈を考えて適切に接続詞・接続助詞を使えるようにする。

【授業時間外学修】
新聞記事や評論を接続詞に注目して読む。(4.0hr)

第12回　文章力を身につける②（文構造）
【　到達目標　】
・主語述語を対応させて、文のねじれを防ぐ方法を学ぶ。
・修飾語について理解する。

【授業時間外学修】
新聞記事や評論を主語述語に注目して読む。(4.0hr)

第13回　文章力を身につける③（反論）
【　到達目標　】
・他受講生が書いたレポートを読んで、気づいた点（良い点・疑問点・反論点・改善点など）を具体的に指摘できるようにする。

【授業時間外学修】
他受講生のレポートからの気づきを自分のレポートにも反映する。(4.0hr)

第14回　文章力を身につける④（修正）
【　到達目標　】
・レポートを読んだ他受講生からの指摘をふまえ、レポートがより良くなるように修正する。

【授業時間外学修】
書き上がったレポートは少し時間を置いてから読み直して推敲する。(4.0hr)

第15回　目標達成度確認・今後の言語生活に向けて
【　到達目標　】
自己評価により目標達成度を測り、今後の言語生活に対する見通しを持つ。

【授業時間外学修】
授業全体を振り返って、自己評価を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

ほぼ毎時間、小テストやレポート提出、意見交換が課され、出欠を兼ねる。本授業は演習科目であるため、全時間を通して、実践的・体験的に「聞く・話す・書く・読む」を総合的に学ぶ授業展開となっている。またグループ・ワークを積極的に取り入れるため、授業や課題に対する主体的な参加を求める。欠席は特別な場合を除いて原則として考慮しないので、欠席授業分の学習課題は必ず提出すること。新聞や文庫等のさまざまなメディアを活用した学習課題に取り組むが、授業時間だけでは足りないので、各自が学習課題に対する自習時間の確保に努めること。手元に辞書を用意し、すぐに意味が調べられるようにすること(電子辞書も可、オンラインならばコトバンクやWeblioなどを利用することを推奨)。

【教科書・参考書など】

教科書：授業内にて適宜、資料を配布する。
参考図書：『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド ： 大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織、坂本麻裕子、大野真澄編著（大修館書店）2015年、『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』佐渡島紗織［ほか］著（大修館書店）2020年

【成績評価方法】

毎回の提出物やグループワークの取り組み60%、試験課題40%

科目名	栄養学入門			担当者	古泉　佳代 ・ 趙　秋華	
英文名	Primary Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE101・DLE101・HLE101・CLE101		卒業認定方針との関連	①

【到達目標】

食生活は心身の健康と密接な関わりがあり、そのバランスや豊かさが生活の安定に直結する。特に幼少期からの食生活習慣の形成は、そのあとに続く成人期、高齢期の生活と健康に重要な意味を持ち、また、食は心の健康や社会生活にも大きな影響を及ぼす。
本授業では、栄養に関する基本的な知識を学ぶことを目的とし、「正しく食べる」ことの意味とその影響について考え、受講生自身の食生活への意識、行動も高めることをねらいとする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
食生活を取り巻く環境に関する基礎事項	食生活を取り巻く環境を理解し、自らの言葉で説明できる	食生活を取り巻く環境を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる	食生活を取り巻く環境を理解できない
食生活と健康に関する基礎事項	栄養素に関する基礎事項を理解し、自らの言葉で説明できる	栄養素に関する基礎事項を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる	栄養素に関する基礎事項を理解できない
食生活と文化に関する基礎事項	フードリテラシーや、味わい、食文化を理解し、自らの言葉で説明できる	フードリテラシーや、味わい、食文化を理解し、教科書及び資料を用いて説明できる	フードリテラシー、味わい、食文化を理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス・食生活と社会環境
【　到達目標　】
(1)自分の食生活を振り返り、食べることについて考えることができる。
(2)食生活は色々な環境が関係していることに気付く。

【授業時間外学修】
毎日の食事から食生活を振り返り、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第２回　食を取り巻く環境の変化
【　到達目標　】
(1)フードシステムの複雑化にともなって生じている食生活の課題を認識する。

【授業時間外学修】
食に関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第３回　食料の供給と課題
【　到達目標　】
(1)食料自給率の低下とその背景を理解する。
(2)農業再生に向けた取組みの現状を把握する。

【授業時間外学修】
フードロスに関するニュースを検索し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第４回　食品の安全性①食中毒・リスク分析
【　到達目標　】
(1)食品由来の危害要因と健康へのリスクについて理解する。
(2)食中毒とその危害要因、食中毒の予防について知識を得て行動できるようにする。
(3)リスク分析の考え方と3つの構成要素について理解する。
【授業時間外学修】
食中毒予防を実践し、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第５回　食品の安全性②食品の安全性を確保するための制度
【　到達目標　】
(1)わが国の食品の安全性を確保するための法律と制度について知る。
(2)食品の容器・包装の表示を読み、表示の役割について考えることができる。
(3)食品の安全性やフードシステムについて、ディスカッションできる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第６回　食生活と健康①食物と栄養（栄養バランス）
【　到達目標　】
(1)栄養バランスの評価方法を理解し、栄養バランスの良い食事を考えることができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第７回　食生活と健康②炭水化物
【　到達目標　】
(1)炭水化物の種類、代謝を理解できる。
(2)炭水化物の種類を理解することができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　食生活と健康③食物と栄養（脂質）
【　到達目標　】
(1)脂質の種類、代謝を理解できる。
(2)脂質の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第９回　食生活と健康⑧食生活と健康
【　到達目標　】
(1)青年期の食生活と健康との関わりについて理解する。
(2)エネルギーバランスからウエイトコントロールを考えることができる。
(3)栄養バランスの良い食事をするために重要な点についてディスカッションできる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第10回　食生活と健康⑥たんぱく質
【　到達目標　】
(1)たんぱく質の種類、代謝を理解できる。
(2)たんぱく質の摂取方法について考えることができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第11回　食生活と健康⑦ビタミン・ミネラル・水
【　到達目標　】
(1)ビタミン・ミネラルの種類、代謝を理解できる。
(2)水の出納を理解できる。
(3)ビタミン、ミネラル、水の摂取方法について考えることができる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第12回　食生活と健康⑨食の情報を読み解くリテラシー・飲み物の糖度
【　到達目標　】
(1)食情報のリテラシーの重要性について理解する。
(2)「健康食品」の表示の実態を知り、問題点について指摘できるようにする。
(3)飲み物の糖度について理解できる。(4)糖質の摂取方法について考え、ディスカッションできる。
【授業時間外学修】
健康によい根拠は何かを考え、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第13回　食生活と文化①食物のおいしさ
【　到達目標　】
(1)おいしさの要因や味わい教育、おいしさの表現方法について知る。
(2)おいしさの要因を理解することができる。
(3)おいしさについて、ディスカッションできる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第14回　食生活と文化②日本の食文化・共食の現代的課題
【　到達目標　】
(1)自然環境と歴史のなかで、日本食文化がどのように形成されたかを理解できる。
(2)共食の意義と家族や地域における共食の歴史変遷を知り、有効的な活用について考えることができる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、次回の授業の準備を進める。(4.0hr)

第15回　食育とフード・リテラシー
【　到達目標　】
(1)わが国における食育の推進について、現状と課題を理解できる。
(2)フード・リテラシーとは何か、自分らしい「食」を実現し、「食」を楽しむために、どのようなリテラシーが必要か考えることができる。
【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、フード・リテラシーを生かした食生活を実践する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。受講生は、授業前までにGoogleドライブにアップされた資料をダウンロード、印刷等で用意し、各自準備する必要がある。授業内では、教科書で単語や事例を確認しながら理解を深めていく。本講義を理解するためには、自分自身の食生活を振り返りながら、受講することが大切である。また、授業内で学生同士のディスカッションや食体験を取り入れるため、自分だけなく他者の食生活にも興味を持ちながら受講することも大切である。
講義では、毎回、授業内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。

【教科書・参考書など】

教科書　編著者　金子佳代子・松島悦子「白熟教室　食生活を考える」（アイ・ケイコーポレーション出版）
参考資料は、適宜配布する。

【成績評価方法】

試験を試験期間中に別途実施する。期末テストでの評価は60%、レポート（1題）の評価を10%、理解度テストを30%、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。

科目名	生理・生化学入門			担当者	大澤　拓也	
英文名	Introduction to Human Physiology and Biochemistry					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE102・DLE102・HLE102・CLE102		卒業認定方針との関連	①

【到達目標】

生理学・生化学とは、からだの中でどのようなことが起きているのか、からだの仕組みを機能の観点から明らかにする学問である。本講義では、スポーツ科学や健康科学に関連した基礎的な生理学・生化学を学習する。また、身体運動や環境の変化に対する生理的な適応およびそのメカニズムを理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
知識・理解に関する観点	講義内容を単元ごとでなく、複数の単元をリンクさせて理解することができる。	講義内容を単元ごとに理解することができる。	講義内容を理解できていない。
思考・判断に関する観点	講義内容を自身の生活や運動時などの具体例を挙げながら、自分の言葉で説明できる。	講義内容を講義で上げた例を使って説明できる。	講義内容に関して例を挙げられない。
関心・意欲に関する観点	講義内容に新しさや面白さを発見して、自分でそれを活かす想像ができる、また疑問を持つことができる。	講義内容を実際にあてはめることができる、また疑問を持つことができる。	講義内容を実際にあてはめることができない、また疑問を持たない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション・概論
【　到達目標　】
講義の進め方、生理学や生化学とはどんなことかを理解する。
日常生活やスポーツ・ダンス時における生理応答を考え、その機能を理解する。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第２回　筋（1）
【　到達目標　】
筋線維タイプ、筋収縮の種類、筋の損傷・痛みを理解する。
「筋肉痛はどんなときに起きるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第３回　筋（2）
【　到達目標　】
運動や食事、加齢による筋の変化を理解する。
「筋トレしてすぐにマッチョになるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第４回　神経
【　到達目標　】
神経の種類、運動に関係する自律神経、運動神経・感覚神経を理解する。
「緊張するとなぜ心臓がドキドキするか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第５回　呼吸
【　到達目標　】
呼吸の仕組み、運動時の呼吸の変化、最大酸素摂取量を理解する。
「運動をするとなぜ呼吸が荒くなるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第６回　循環（1）
【　到達目標　】
心臓や血管の役割、運動による変化を理解する。
「運動するとなぜ心臓がバクバクするか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第７回　循環（2）
【　到達目標　】
運動時や運動後の血流・血圧の変化を理解する。
「運動後なぜすぐに脚を止めてはいけないか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第８回　代謝
【　到達目標　】
エネルギー代謝の種類と特徴、乳酸の役割、糖と脂肪の利用を理解する。
「乳酸によってからだは疲れるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第９回　ホルモン（1）
【　到達目標　】
筋活動や興奮、血糖値の調節に関するホルモンを理解する。
「筋トレと有酸素運動のどちらが先か」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第10回　ホルモン（2）
【　到達目標　】
性ホルモンや月経を理解する。
「なぜ月経が止まることがあるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第11回　血液
【　到達目標　】
血液の成分や役割、運動による変化を理解する。
「コロナ感染時、指につけた機器は何だったか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第12回　骨
【　到達目標　】
骨の構造、運動や年齢による変化を理解する。
「カルシウムを取るだけで骨は強くなるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第13回　脂肪
【　到達目標　】
脂肪の種類や代謝、測定法を理解する。
「1週間で3kg痩せられるか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第14回　体温
【　到達目標　】
暑熱環境や寒冷環境下におけるヒトの体温調節を理解する。
「5月と8月の気温30度はなぜ暑さが違うか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第15回　睡眠
【　到達目標　】
睡眠時の生理応答、睡眠が運動パフォーマンスに及ぼす影響を理解する。
「大学生はなぜ１限や3限が眠いか」を他者に話せるようになる。

【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

要点をまとめた穴埋め形式のパワーポイント資料を用いて、口頭でその詳細を説明して講義を進める。講義内では、質疑応答や設問解答による発言、生理学的な実験に関する映像資料の視聴、生理学的測定等を行い理解を深める。また、講義終了時に小レポート、翌回開始時に小テストを実施する。

本講義の理解には、講義内容を自身の経験や実際のスポーツ・ダンス時の身体を想像すること、学んだことを他者(友人や家族など)に話をすることが大切である。

【教科書・参考書など】

特定の教科書・参考書を準備する必要はない。ただし、図書館等で借りられる「運動生理学」「筋」「持久力」、また各運動種目に関する書籍は講義の理解を深める。また、日常にあふれている身体にかかわる情報（例：健康、ダイエット、新たなトレーニング方法など）を疑いながら見聞きすることも重要である。

【成績評価方法】

講義各回での発言・レポートを30%、筆記試験の結果を70%として総合的に評価する。

科目名	近現代史入門			担当者	小薗　崇明	
英文名	Introductory Course to the Modern Japanese History					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE103・DLE103・HLE103・CLE103		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

本授業はアジア・太平洋戦争への過程とその戦争の実態、さらには戦争体験から戦後の高度成長期の日本について、国際関係のなかで位置づけながら講義する。過去の出来事は現代の問題と関連しているが、そのような連続性に注目しながら授業を展開する。歴史的な知識を習得するとともに、様々な資料から歴史を解釈する力を身につけることを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
近現代史を学ぶための知識を身に付ける。	標準的な近現代史のテキストが、参考書なしでも読める。	標準的な近現代史のテキストが、参考書を使いながらであれば読める。	標準的な近現代史のテキストが、参考書を使っても読めない。
読み、書き、発表する能力・技術を身に付ける。	自分の力で、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できる。	アドバイスを受ければ、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できる。	アドバイスを受けても、テキストを読み、何を読み取れたかを自分の言葉で書き、他人に説明できない。
知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。	自分の力で、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。	アドバイスを受ければ、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができる。	アドバイスを受けても、知りたいテーマを設定し、調べて回答することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション
【　到達目標　】
この講義のテーマ、進め方、評価方法などを理解できる。受講を希望する方は必ず出席すること。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第２回　関東大震災と東京大空襲（１）モノから考える
【　到達目標　】
関東大震災の被害についてモノ資料から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第３回　関東大震災と東京大空襲（２）絵画から考える
【　到達目標　】
関東大震災の被害について絵画資料から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第４回　関東大震災と東京大空襲（３）天災と人災
【　到達目標　】
関東大震災の被害について民族問題から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第５回　関東大震災と東京大空襲（４）震災の記憶と防空
【　到達目標　】
関東大震災の記憶が東京大空襲の被害にどのように関連するか理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第６回　関東大震災と東京大空襲（５）空襲体験の記憶と継承
【　到達目標　】
個人の空襲体験から、東京大空襲について理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第７回　アジア・太平洋戦争（１）総力戦とは何か
【　到達目標　】
アジア・太平洋戦争について、映像から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第８回　アジア・太平洋戦争（２）統計データーから考える
【　到達目標　】
アジア・太平洋戦争について、統計データーから理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第９回　戦後日本と高度成長（１）日本国憲法
【　到達目標　】
戦後の日本について、特に日本国憲法を中心に理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第10回　戦後日本と高度成長（２）朝鮮戦争と高度成長
【　到達目標　】
戦後の日本について、特に朝鮮戦争と高度成長を中心に理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第11回　沖縄の戦後史（１）沖縄戦
【　到達目標　】
沖縄戦について、映像から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第12回　沖縄の戦後史（２）沖縄の音楽
【　到達目標　】
戦後の沖縄について、音楽から理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第13回　沖縄の戦後史（３）島ぐるみ闘争
【　到達目標　】
戦後の沖縄について、特に島ぐるみ闘争の理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第14回　沖縄の戦後史（４）ウルトラマンから考える
【　到達目標　】
戦後の沖縄について、沖縄出身のウルトラマンの脚本家を通して理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

第15回　戦後日本の平和と民主主義について考える
【　到達目標　】
アジア・太平洋戦争の後、日本の社会はどのような変遷をたどってきたのか、東アジア情勢を中心にした、国際関係のなかで理解を深める。
【授業時間外学修】
授業で配布された資料を見直しながら、次回の講義の準備を進める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料等を提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。また、授業中に意見や感想を求める。毎回レスポンスカードを配布し、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は、吉田裕『アジア・太平洋戦争　シリーズ日本近現代史6』（岩波書店、2007年）。その他、毎回資料を配布し参考書は随時指示する。

【成績評価方法】

ワークシートと期末レポートで評価する。ワークシート40%、期末レポート60%

科目名	人間心理の理解			担当者	三好　昭子	
英文名	Personality Psychology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE104・DLE104・HLE104・CLE104		卒業認定方針との関連	③

【到達目標】

本講義は、人間の心と行動についてデータに基づき偏りなく、論理的に考えることができるようになることを目的とする。人間が物理的世界をどのように主観的にとらえているのかをふまえ、それぞれ主観的な世界をもつ人間が、他者や自分自身といった人間の心（パーソナリティや知能を含む）をどのようにとらえ、研究してきたのかを理解し説明できるようになる。対人場面での実践的な問題を通して人間心理の多様性を理解し、他者理解とともに自己洞察を深め日常生活に活かすことができるようになる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
人間心理に関する重要キーワードや理論について	自分の言葉で説明できる。	ノートや参考書を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
人間心理についてデータに基づき偏りなく論理的に考える	自分自身でデータに基づき偏りなく論理的に考えることができる。	解説があればデータに基づき偏りなく論理的に考えることができる。	解説があってもデータに基づき偏りなく論理的に考えることができない。
人間心理に関する重要キーワードや理論により自己洞察を深め日常生活に活かす	自分自身で自己洞察を深め日常生活に活かすことができる。	適切な教示があれば自己洞察を深め日常生活に活かすことができる。	適切な教示があっても自己洞察を深め日常生活に活かすことができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　心理学とは
【　到達目標　】
(1)心理学の定義を説明することができる。
(2)人間心理を科学的に研究するということを理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
心理学という学問についての課題を行う。(4.0hr)

第２回　感覚・知覚
【　到達目標　】
(1)人間が外界をどのように知覚するかを理解し説明することができる。
(2)同じものを見ても見え方が異なることを理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
人間の感覚・知覚についての課題を行う。(4.0hr)

第３回　対人認知・印象形成
【　到達目標　】
(1)印象形成の特徴を理解し説明することができる。
(2)対人認知の歪みについて理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
印象形成と対人認知に関する課題を行う。(4.0hr)

第４回　態度変容
【　到達目標　】
(1)態度変容に影響を与える要因について理解し説明することができる。
(2)態度変容をうながすテクニックが悪用される危険性について説明することができる。

【授業時間外学修】
態度変容に関する課題を行う。(4.0hr)

第５回　グループダイナミクス（集団力学）
【　到達目標　】
(1)向社会的行動（思いやり）について理解し説明することができる。
(2)他者への同調・服従について理解し説明することができる。
(3)他者への同調・服従がまねく危険性について説明することができる。
【授業時間外学修】
向社会的行動や同調・服従に関する課題を行う。(4.0hr)

第６回　恋愛
【　到達目標　】
(1)恋愛に関する社会心理学的研究について理解し説明することができる。
(2)恋愛のタイプ分けテストに基づき自己分析することができる。

【授業時間外学修】
恋愛に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　パーソナリティ①類型論
【　到達目標　】
(1)クレッチマーの類型論について理解し説明することができる。
(2)ユングの類型論によるタイプ分けテストに基づき自己分析することができる。

【授業時間外学修】
類型論に関する課題を行う。(4.0hr)

第８回　パーソナリティ②特性論
【　到達目標　】
(1)共通特性について理解し説明することができる。
(2)ギルフォードの特性論について理解し説明することができる。
(3)Big Fiveについて理解し自己分析することができる。
【授業時間外学修】
特性論に関する課題を行う。(4.0hr)

第９回　パーソナリティ③構造論
【　到達目標　】
(1)フロイトの構造論について理解し説明することができる。
(2)レヴィンの構造論について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
構造論に関する課題を行う。(4.0hr)

第10回　防衛機制に基づく個人差と無意識による自己理解
【　到達目標　】
(1)防衛機制に基づく個人差について理解し説明することができる。
(2)投影法を実施し、自己分析することができる。

【授業時間外学修】
防衛機制に基づく個人差と投影法に関する課題を行う。(4.0hr)

第11回　知能とは何か
【　到達目標　】
(1)知能の定義について理解し説明することができる。
(2)知能テストについて理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
知能と知能テストに関する課題を行う。(4.0hr)

第12回　知能の発達
【　到達目標　】
(1)行動遺伝学について理解し説明することができる。
(2)知能やパーソナリティに対する遺伝と環境の影響について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
知能の発達に関する課題を行う。(4.0hr)

第13回　アイデンティティとは
【　到達目標　】
(1)アイデンティティとは何かを理解し説明することができる。
(2)自分のアイデンティティについて自己洞察を深めることができる。

【授業時間外学修】
アイデンティティに関する課題を行う。(4.0hr)

第14回　アイデンティティからの人間理解
【　到達目標　】
(1)アイデンティティを求める人間の傾向について理解し説明することができる。
(2)アイデンティティから恋愛を説明することができる。

【授業時間外学修】
アイデンティティ概念の応用に関する課題を行う。(4.0hr)

第15回　アイデンティティを超えて
【　到達目標　】
(1)自我感覚の拡大について理解し説明することができる。
(2)真の自己実現について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
自我感覚の拡大と自己実現に関する課題を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなうため、深く自分と向き合うことが求められる（それを辛いと感じる方は受講のタイミングを検討する必要がある）。また授業で学んだ知識を日常生活で活かせるようグループワークをおこなうことがあるため積極的に受講することが求められる。資料は毎回、Phollyの参考資料にアップロードする。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。資料は毎回、Phollyの参考資料にアップロードする。
参考書：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃・河内十郎　2020　『心理学　第5版補訂版』　東京大学出版会
　　日本青年心理学会企画　2023　『心のなかはどうなっているの？　高校生の「なぜ」に答える心理学』福村出版

【成績評価方法】

時間外学習としてのPholly「アンケート課題」20%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。合格基準は60%である。

科目名	ボランティア活動論			担当者	宮原　麻季	
英文名	Citizenship Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE105・DLE105・HLE105・CLE105		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

「ボランティア活動」は市民社会活動の一つとして私たちの生活の中で聞き馴染みのあるもので、災害対応をはじめとして地球規模の社会課題解決に向けて一人ひとりの主体的な参加に期待が寄せられている現状がある。本講義では、私たちを取り巻く社会課題をトピックとして取り上げ、それらと自身の暮らしとのつながりへの気づきを促進するとともに、課題解決の取り組み事例を学ぶ。時間外学習として実際にボランティア活動を体験しながら、市民社会におけるボランティア活動の意義を考察することを目的とする。授業履修後も継続的にボランティア活動に参加し、自らの市民性を高め、社会に貢献する人材となることが、本講義の最終的なねらいである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ボランティアと市民社会についての理解と関係性	ボランティアや市民が活動する望ましい市民社会のあり方について自分ごととして独自の考えを展開できている	ボランティアや市民活動の現状と相互の関係性について説明できる	理解が不十分で説明できない
SDGsなどの社会課題に関する基本的な知識と情報	右記に加えてSDGsに代表される社会問題への対策について幅広い情報収集と分析ができている	SDGsとは何か、およびSDGｓに代表される社会問題の現状について説明できる	理解が不十分で説明できない
社会課題に取り組む多様なアクターの意義と役割	ボランティア活動の実践を通して、社会課題への取組の意義を体得し、市民として実生活に応用できる	NPO、NGOなど市民活動の多様なアクターの取組と役割について説明できる。	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（趣旨、学習の進め方）/市民と市民社会
【　到達目標　】
(1)「ボランティア活動論」の全体の流れを理解する。
(2)市民及び市民社会について理解する。
(3)自分の学習目標を決める。
【授業時間外学修】
自分の学習目標を決める。（4.0hr）

第２回　ボランティアの役割と背景
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動の果たす役割を理解する。
(2)ボランティア活動を重視する背景を理解する。
【授業時間外学修】
実施できそうなボランティア活動の情報収集を行い、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第３回　ボランティアを支えるNPO
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動を始めるためのステップを理解する。
(2)ボランティアを支えるNPOなどのしくみを理解する。
(3)ボランティア活動計画書の目的と書き方を理解する
【授業時間外学修】
ボランティア活動計画書の作成を進め、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第４回　ボランティア活動のための自己理解
【　到達目標　】
(1)ボランティア活動における対人関係の側面を理解する
(2)自分自身を理解し、ボランティア活動の実践における自身の課題を明確にする
【授業時間外学修】
ボランティア活動計画書を完成させ、実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第５回　社会課題①　SDGsと自身のつながり
【　到達目標　】
(1)自分の暮らしと世界とのつながりに気づき課題を理解する。
(2)なぜSDGsが必要なのか、どういう枠組みなのかを説明できる。
【授業時間外学修】
SDGｓに関する情報収取を行う。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第６回　社会課題②　児童労働の現実 - 家事使用人の児童労働を事例に
【　到達目標　】
(1)具体的な事例とグループワークを通じて、当事者に寄り添う気持ちを形成する
【授業時間外学修】
児童労働についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第７回　社会課題③　児童労働から考える子どもの権利
【　到達目標　】
(1)子どもの権利条約および児童労働の現状を理解する。
(2)児童労働の課題解決のための取り組みを理解し、自分にできる行動を見つける。
【授業時間外学修】
子どもの権利条約について調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第８回　社会課題④　課題解決としてのフェアトレード－生産者の姿
【　到達目標　】
(1)フェアトレードが必要な背景と概要について理解する
(2)フェアトレードの取り組みを理解し、自分にできる行動を見つける。
【授業時間外学修】
フェアトレードについてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第９回　社会課題⑤ 課題解決としてのフェアトレード－日本でできること
【　到達目標　】
(1)フェアトレードの取り組みを理解し、日本国内で活動に関わる人・団体について学びを深める。
(2)フェアトレードの取り組みの中で日本で自分でできる行動を見つける。
【授業時間外学修】
フェアトレードについてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第10回　社会課題⑥　多文化共生社会の形成
【　到達目標　】
(1)多文化共生社会について自分の暮らしとの繋がり中で理解する。
(2)日本に住む在住外国人が抱える課題とその背景について説明できる。
【授業時間外学修】
共生社会についてさらに調べて学修を展開する。実際にボランティア活動を行う。（4.0hr）

第11回　社会課題⑦　自然災害とボランティア
【　到達目標　】
(1)自然災害発生時の緊急救援について理解する。
(2)どこでも起こり得る災害について、学生に求められる役割と対応について説明できる。
【授業時間外学修】
防災対策についてさらに調べて学修を展開する。ボランティア活動レポートを作成する。（4.0hr）

第12回　ボランティア活動体験と報告（１）
【　到達目標　】
(1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。
(2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る
【授業時間外学修】
実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）

第13回　ボランティア活動体験と報告（２）
【　到達目標　】
(1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。
(2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る
【授業時間外学修】
実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）

第14回　ボランティア活動体験と報告（３）
【　到達目標　】
(1)自分のボランティア活動を振り返り発表し、学習目標の達成度について自己評価できる。
(2)他者のボランティア活動発表と自身の体験を重ねて学びを得る
【授業時間外学修】
実際にボランティア活動を行い、レポートを作成する。（4.0hr）

第15回　再考　市民社会のなかの私（学習目標到達度の検証）
【　到達目標　】
(1)授業で取り上げたトピックを振り返り、市民社会と自身の関わりについて言語化できる。
【授業時間外学修】
関心の高いトピックにおける自分自身の今後の関わり方について情報収集をして検討を進める

【学修上の留意点】

パワーポイントや映像等を用いて学修を進める。本授業は、日常生活および自分自身との向き合いを大切にするため、グループワークやディスカッションへの積極的な参加と自己洞察を求める。ボランティア活動計画書の作成、ボランティア活動体験発表（学生によるプレゼンテーション）、活動レポートの作成および相互評価によるフィードバックを行う。各テーマの理解度テストを行う。

【教科書・参考書など】

資料プリント、映像教材等を使用。授業時に指示する。

【成績評価方法】

各回の授業時での課題、理解度テスト70%、ボランティア活動発表およびレポート30%として評価する。合格基準は60%以上である。

科目名	日常生活の社会学	担当者	田北　康成
英文名	Introductory Sociology		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE106・DLE106・HLE106・CLE106		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

私たちの日常生活が複雑さを増す中で何が本当に大切かを見分ける知性が求められている。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいく。また社会調査という実証の方法についても学ぶ。実際にそれを活かして日常生活を検証してみることを目的とする。授業内で得られた社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的で有効なアイテムとして実感できることを授業のねらいとしている。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
社会学の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
社会学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
社会学の研究知見の実生活への応用に関する事項	研究知見を修得し自らの判断で実生活に積極的に応用できる。	知見の応用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら活用することができる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
(1)本講義の方針、評価方法の説明、履修予定者の状況を把握する。
(2)身の回りの「あたりまえ」を疑い、別の視点からも捉え直して考える習慣を身につける。
(3)日常生活が世界とどこまで、どのように繋がっているかを想像できるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「日本」という国の好きなところ、きらいなところを考えておく。(4.0hr)

第２回　社会学はどのような考え方をし、どのように調べるのか
【　到達目標　】
(1)学問的な「問い」と「答え」を導き出す方法を知る。
(2)社会学の実証研究の方法として量的調査、質的調査共に様々なアプローチがあることを学ぶ。
【授業時間外学修】
予習課題：「スマホ」「インターネット」に頼らない旅行計画を立ててみる。(4.0hr)

第３回　社会で生きる「私」と家族
【　到達目標　】
相互行為と「自我」の意味の形成についての基本的な知識と理解をする。
「地位」と「役割」とは何かについて考えることができるようにする。
家族集団にはどのような特徴があるかを考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「家族」について考えていること、感じていることを整理しておく。(4.0hr)

第４回　性の多様なあり方を考える
【　到達目標　】
(1)生物学的な区分と社会化の過程で作られるジェンダーの違いを学ぶ。
(2)さまざまな性のあり方が知られていく一方で、より固着化していく心理を読み解けるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：子どものときに読んだ絵本やマンガ、遊び方を調べておく。(4.0hr)

第５回　メディアが動かす社会　「ダイエット」をめぐる言説を考える
【　到達目標　】
(1)メディア・情報・コミュニケーションの基本的な知識と理解を得る。
(2)「ダイエット」に関する言説がどのように広まり、誤った認識として広められているかの理解を深める。
【授業時間外学修】
予習課題：「ダイエット」と「健康」についてどのような経験があるか、まとめておく。(4.0hr)

第６回　社会で生活するための社会学―労働・産業・消費―
【　到達目標　】
(1)労働・消費などの活動と企業・産業について基本的な知識と理解を得る。
(2)産業構造の変化とともに、私たちの生活に及んできている影響について考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：子どもの時になりたかった職業、現在考えているキャリアをまとめておく。(4.0hr)

第７回　「格差」の社会学
【　到達目標　】
(1)階層・階級・社会的不平等についての基本的な知識と理解をする。
(2)近年の格差拡大論、階層の変化とジェンダーの観点から「格差社会」を考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：どのくらいの給料ならば満足できるかを考えておく。(4.0hr)

第８回　生活空間としての地域社会について考える（1）
【　到達目標　】
(1)都市・農村などの地域社会・コミュニティについての基本的な知識と理解を得る。
(2)身近な「社会」である地域社会の特徴を知る。
【授業時間外学修】
予習課題：将来、いなかと都会のどちらに住みたいか、その理由も考えておく。(4.0hr)

第９回　生活空間としての地域社会について考える（2）
【　到達目標　】
(1)「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「中間集団」「コミュニティ」などの概念を学ぶ。
(2)コミュニティの繋がり､協力態勢について､主体的な居住者として考えられるようにする。
【授業時間外学修】予習課題：自分が住んでいる地区のゴミ集積所、避難場所、掲示板、広報誌を調べておく。(4.0hr)

第10回　グローバル社会とエスニシティ（1）
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「方言」について考えることをまとめておく。(4.0hr)

第11回　グローバル社会とエスニシティ（2）
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「日本」の好きなところと、きらいなところをまとめておく。(4.0hr)

第12回　グローバル社会とエスニシティ（3）
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。
(3)海外にルーツをもつ隣人とどのように共生していくか、考えられるようにする。
【授業時間外学修】予習課題：海外に旅行／移住・留学をしてみたいと思うか、否か、その理由を考えておく。(4.0hr)

第13回　グローバル社会とエスニシティ（4）
【　到達目標　】
(1)身近なグローバル化について考え、多様なルーツを持つ人々との共生の実例を把握する。
(2)日本のなかのエスニシティについて考えられるようにする。
(3)「国境」の先にある社会と「日本」のつながりを意識できるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：「国境」と往来の自由について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第14回　「宗教」から社会をとらえる
【　到達目標　】
(1)文化・表象・宗教について基本的な知識と理解を得る。
(2)宗教を手がかりとして、社会と文化についての理解を深める。
【授業時間外学修】
予習課題：「日本の宗教」についての自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第15回　逸脱行動と社会問題・犯罪社会学
【　到達目標　】
(1)「自由」「権利」とは何か､なぜ「秩序」が作られ､「逸脱行動」が非難されるかを考える。
(2)法規制の厳罰化や社会的制裁の強化がもたらす影響について考えられるようにし、難しい判断を迫られるような状況にも主体的に取り組むことができるようにする。
【授業時間外学修】
予習課題：許せない他人の癖や行動、ネット上の炎上事件などを調べておく。(4.0hr)

【学修上の留意点】

この授業は、社会学的な思考方法とそれに基づく現実の社会についての理解が求められている。ほぼ毎回、授業開始時に身近な質問が用意されており、授業を受けたことにより考えた内容を問いかけるので、好奇心を持って主体的な参加をしてほしい。毎回の授業後、Phollyでレスポンスシートの提出を課する。記述／質問内容のなかから、履修生全体の学修効果が見られるものについて、次の授業時に匿名で紹介したり、回答したりすることがある。

【教科書・参考書など】

教科書は不使用。
参考書は随時指示するが、下記の文献を事後学習に役立ててほしい。
①篠原清夫・栗田真樹編著（2016）『大学生のための社会学入門』晃洋書房、②田中正人編著（2019）『社会学用語図鑑』プレジデント社

【成績評価方法】

各回のレスポンスシートの評価合計（100%）とし、提出回数や内容によって総合評価とする（提出回数のみでは合格点に達しないことがある）。
※合格基準はいずれも60%である。

科目名	数と論理			担当者	水野　有希	
英文名	Arithmetic and Logic					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE107・DLE107・HLE107・CLE107		卒業認定方針との関連	③

【到達目標】

これまで学んできた数学の知見をおさらいし具体的な問題を解くことで、基本的な数学についての理解を深めます。数の計算、代数の基礎を学び、教員採用試験や企業の適性検査に頻繁に出題されている特殊な計算手法や、集合、論理パズル、表や資料の読み取り方について学習します。社会人になってから求められる実務をこなす基礎能力を身につけ、課題解決に向けた論理的思考を習熟します。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
数学的思考の基本的な概念や原理・法則に関する事項	基本的な概念や原理・法則を十分に理解し、自ら説明できる。	基本的な概念や原理・法則を教科書等を参照にしながら説明できる。	基本的な概念や原理・法則の体系的な理解が不十分で説明できない。
数学的思考を活用した考察に関する事項	数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現で自ら説明できる。	資料等を参照しながら事象を考察し、数学的な表現で説明できる。	数学を活用して事象を考察するのに理解が不十分で説明できない。
体育・スポーツに係る問題の探求に関する事項	数学的思考で論理的論拠に基づいた判断や、問題解決の過程を自ら説明できる。	資料等を参考に、問題解決に向けた判断や解決までの過程を説明できる。	数学的思考を用いて問題解決に向けた判断や考察が不十分で、解決に至らない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　計算の基礎１、整数の基礎
【　到達目標　】
(1)四則算、計算の順序について復習する。
(2)約数と倍数について学ぶ。

【授業時間外学修】
授業時に実施した基礎問題の復習をする。(4.0hr)

第２回　計算の基礎２、平方根
【　到達目標　】
(1)正負、小数点、分数の計算について復習する。
(2)平方根の計算について学ぶ。

【授業時間外学修】
実数および平方根の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第３回　方程式１
【　到達目標　】
(1)１次方程式、連立方程式について学ぶ。
(2)２次方程式について学ぶ。

【授業時間外学修】
方程式の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第４回　方程式２、関数１
【　到達目標　】
(1)２次方程式を復習し、応用を修得する。
(2)比例と反比例、１次関数について学ぶ。

【授業時間外学修】
比例反比例、１次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第５回　関数２
【　到達目標　】
(1)１次関数を復習し、応用を修得する。
(2)２次関数について学ぶ。

【授業時間外学修】
２次関数の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第６回　関数３
【　到達目標　】
(1)２次関数を復習し、応用を学習する。
(2)２次不等式について学ぶ。

【授業時間外学修】
２次不等式の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第７回　数列
【　到達目標　】
(1)関数の領域（不等式）、応用について学ぶ。
(2)等差数列、等比数列について理解し、応用について学ぶ。

【授業時間外学修】
関数の領域（不等式）、数列の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第８回　平面図形
【　到達目標　】
(1)関数と平面図形の応用について学ぶ。
(2)平行線と角、円周角の定義について学ぶ。

【授業時間外学修】
平面図形の公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第９回　空間図形
【　到達目標　】
(1)平面図形の応用と展開図について学ぶ。
(2)立体図形の面積や断面図、体積について学ぶ。

【授業時間外学修】
図形の面積や体積の求め方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第10回　比の計算
【　到達目標　】
(1)比の算出方法について復習する。
(2)割合と値段について学ぶ。
(3)定価・原価・損益について学ぶ。
【授業時間外学修】
百分率や歩合の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第11回　特殊算
【　到達目標　】
(1)仕事算について理解する。
(2)濃度・速さについて理解する。

【授業時間外学修】
濃度・速さの公式や計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第12回　場合の数と確率
【　到達目標　】
(1)順列と組み合わせについて学ぶ。
(2)確率について学ぶ。

【授業時間外学修】
順列と組み合わせの公式および計算の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第13回　集合と命題
【　到達目標　】
(1)集合（全体集合、補集合、共通部分、和集合）について学ぶ。
(2)対偶、三段論法の応用について学ぶ。

【授業時間外学修】
集合や命題の対偶の考え方の予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第14回　推論と表や資料の読み取り
【　到達目標　】
(1)命題の真・偽について論理的に判断する方法を学ぶ。
(2)表や資料から命題の真・偽について判断する方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
推論の考え方、表や資料の見方について予習、確認課題の復習をする。(4.0hr)

第15回 数理処理の応用と実践
【　到達目標　】
(1)教採や公務員試験、SPIなどの過去問を確認する。
(2)これまで学んだ内容について確認する。

【授業時間外学修】
これまで学んだ問題について予習、過去問の復習をする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義は指定の教室で実施し、対面形式とします。毎回、授業日の数日前に講義プリントを配布・配信（本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップ）し、講義時間までにプリントの問題を解くようにしてください。知識を固めるためには、実際に解いてみることが一番です。講義では、公式や法則の説明、問題の解説した後、単元の理解や修得状況の確認のため、後半に20分程度の時間を取り確認問題を解きます。解答はオンライン（フォーム）で提出し、提出後すぐに採点結果がフィードバックされますので、間違えた問題は必ず復習をしてください。

講義後は、復習や振り返りを行うために、講義の解説動画と講義プリントの模範解答（授業時に解説した部分を抜粋したファイル）を、本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップします。事後学習で活用し、論理的思考力（ロジカルシンキング）を効果的に鍛えましょう。

【教科書・参考書など】

講義中に指示します。

【成績評価方法】

毎回行う確認課題50%、期末試験50%（試験は試験期間中に別途実施）として評価します。確認課題は出された授業時間内で必ず提出して下さい。指定された時間外の提出は、いかなる理由であっても認めません。なお、試験を受けるためには、原則として全授業時間数の３分の２以上に出席していることが条件となります。

科目名	現代の倫理			担当者	宇多村 俊介	
英文名	Ethics in Modern Life					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE108・DLE108・HLE108・CLE108		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

倫理学は古くかつ新しい学問分野です。古くは古代ギリシャにまで遡る歴史があり、いかに生きるべきかについて幾多の哲学者たちが連綿と考えつづけてきている点でいにしえの主題であり、また一方では、ますます混迷化の様相を呈する現代にあって、倫理的諸問題が過去のどの時代にもなかった諸条件のもとで現れている点でつねに新しい主題をなしています。この講義では、こうした裾野から私たちを取りまく具体的な問題を手掛かりに、いくつかの倫理学の基本概念と原則を検討し、現代の倫理的な問への視角を学びます。個々の論題に対し、各受講者が倫理学的に何が問題かを把握し、自ら考える端緒としてほしい。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
倫理的思考のもつ特質に関する事項	行動の科学としての倫理的思考のもつ特質を理解し、その視点から考えることができる。	行動の科学としての倫理的思考のもつ特質を、資料等を見ながら説明することができる。	倫理的思考のもつ特質の理解が不十分で、その枠組みの中で考えることができない。
主要な倫理学説・基本原則の考察	各概念による道徳的な善悪導出の機構を理解し、問題点を含め意見を述べることができる。	各概念に基づく善悪導出の機構を理解し、その観点から道徳現象を説明することができる。	各概念の理解が不十分で、その視点から道徳現象を捉えることができない。
現代的諸課題(応用倫理)の考察	各論の倫理的問題の所在を理解し、自ら考え意見を表明することができる。	各論の倫理的問題の所在を、資料等を見ながら説明することができる。	各論の倫理的問題の所在の理解が不十分で、自らの思考に取り入れることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション：倫理的思索が生まれるとき
【　到達目標　】
倫理的な問のもつ特質を理解するとともに、考察に関わる基礎概念の学習を通して倫理と倫理的思索についての輪郭をつかむ。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>に取り組む。(4.0hr)

第２回　「善」とは何かという問：定義
【　到達目標　】
倫理的な脈絡での「善・よい」を把握した上で、「～とは何か」という問を問うために必要な思考の手続きとして定義の構成を理解し、善の定義を試み、その問題点を考察する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第３回　普遍化可能性１：社会契約
【　到達目標　】
道徳規則が万人に対する要請として現れる仕組みと可能性を、社会契約の観点から考察することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第４回　普遍化可能性２：自由意志
【　到達目標　】
自由をめぐる二つの考えを把握し、自由意志に基づく道徳的要請が成立する仕組みとその問題点を理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第５回　普遍化可能性３：功利の原理(1)
【　到達目標　】
現代社会の行為原則として功利の原理のもつ特質とその倫理的含みを理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第６回　功利の原理(2)：他者危害の原則
【　到達目標　】
功利の原理が下敷きにする自由主義的な行為原則のはらむ問題点を、とくに自己決定権、他者危害の原則について考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第７回　正義：自由と平等
【　到達目標　】
自由と平等が民主主義の二つの(別個の)伝統であることを把握し、格差（是正）原理を通してそれらの両立可能性について考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第８回　自然と文明：道具的理性批判
【　到達目標　】
自然と人間、人間と文明がはらむ倫理的問題を、(道具的)理性の批判的検討を仲立ちにして理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第９回　環境倫理：未来に対する責任
【　到達目標　】
現在の個および種としての行為が、未来の他者に及ぼす影響について考え、未来に対する責任を自覚することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第10回　情報化社会の倫理：情報時代と監視社会
【　到達目標　】
メディア文化の来歴を把握し、監視・管理社会にともなう倫理的な諸論題を理解して、その問題点を考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第11回　生命倫理１：人間の尊厳
【　到達目標　】
生命倫理の基本概念を把握し、とくに安楽死をめぐる事案を通して現代医療で生じる諸論題の倫理的問題の所在を理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第12回　生命倫理２：生殖医療
【　到達目標　】
テクノロジーの発達と介入によって生じる、生殖医療をめぐる倫理的問題の所在を理解する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第13回　科学技術時代の倫理：科学者の社会的責任と市民の役割
【　到達目標　】
技術的応用をめぐる科学者の社会的責任論の類型を批判的に吟味することを通して、科学技術の来歴と特質がもつ倫理的含みを考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第14回　倫理的相対主義：多元社会と寛容
【　到達目標　】
倫理の相対主義の問題点を理解し、多元的社会での合意形成の可能性について考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第15回　規範なき時代とニヒリズム
【　到達目標　】
残された、しかし重要な問題として、なぜ道徳的でなければならないか、その可能性を考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

【学修上の留意点】

暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理するために、授業中に７～８回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問は翌週冒頭に取り上げ理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが，各回の主題に沿って原理的に考えることを求めます。事例や具体的状況のなかで倫理的問題の所在がどこにあるのかをつかむには相応の資料を読み一定の思考の手続きを踏むことを要します。新しい事柄やものの見方を学ぶ意欲をもって臨んでください。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。

【成績評価方法】

各回主題への取り組み状況を踏まえた上で，授業内の課題ミニレポート40%、定期試験60%で成績を評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	日常生活の法律			担当者	中村　安菜	
英文名	Law in Everyday Life					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE109・DLE109・HLE109・CLE109		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

私たちが日常生活の中で実際に接する可能性の高い法律問題を選び、それらに関係する基本的な用語や制度を理解する。あわせて、法的問題を解決する場合に必要な思考方法の習得も目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
日常生活に密接な法律の基礎的事項・理論について	理論や学説を理解し自らまとめて説明できる。	理論や学説を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
日常生活に密接な法律の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
日常生活に密接な法の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参照しながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　私たちの日常生活に関わる様々なルールについて
【　到達目標　】
(1)私たちの日常生活には様々なルールが存在していることを理解する。
(2)様々なルールのなかで法律が持つ特性を理解する。

【授業時間外学修】
日本に存在している法律の数を調べる。(4.0hr)

第２回　アルバイトと法律①
【　到達目標　】
(1)契約について理解する。
(2)労働基準法の内容について理解する。

【授業時間外学修】
自分のアルバイトの契約内容について調べる。(4.0hr)

第３回　アルバイトと法律②
【　到達目標　】
(1)労働に関連する法的問題について理解する。
(2)ブラックアルバイトについて理解する。

【授業時間外学修】
ブラックバイトの具体的な事例を調べる。(4.0hr)

第４回　恋愛関係と法律①
【　到達目標　】
(1)恋愛関係による法的問題の存在を理解する。
(2)ストーカー規制法について理解する。

【授業時間外学修】
恋愛関係において発生する問題を調べる。(4.0hr)

第５回　恋愛関係と法律②
【　到達目標　】
(1)DV防止法について理解する。

【授業時間外学修】
DV防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)

第６回　恋愛関係と法律③
【　到達目標　】
(1)リベンジポルノ防止法について理解する。

【授業時間外学修】
リベンジポルノ防止法に関する具体的な事件を調べる。(4.0hr)

第７回　夫婦と法律
【　到達目標　】
(1)婚姻の成立と効果に関する法規定について理解する。
(2)夫婦に関する法的問題について理解する。

【授業時間外学修】
婚姻届けの記載事項を調べる。(4.0hr)

第８回　家族と法律
【　到達目標　】
(1)法的な親子関係の発生について理解する。
(2)親子関係の存否をめぐる問題について理解する。

【授業時間外学修】
親子関係に関する民法の規定がどのように改正されたのかを整理する。(4.0hr)

第９回　戸籍制度
【　到達目標　】
(1)戸籍制度とはどのような者なのかを理解する。
(2)無戸籍が発生する原因を理解する。

【授業時間外学修】
無戸籍者に対する行政の取り組みについて調べる。(4.0hr)

第10回　表現物と法律①
【　到達目標　】
(1)知的財産の種類について理解する。
(2)特許制度について理解する。

【授業時間外学修】
実際に特許をとっている製品を調べる。(4.0hr)

第11回　表現物と法律②
【　到達目標　】
(1)著作権法について理解する。
(2)著作権法において規定されている諸権利について理解する。

【授業時間外学修】
著作権法違反が問題となった事例を調べる。(4.0hr)

第12回　ペットの飼育と法律①
【　到達目標　】
(1)法律における「ペット」の位置づけを理解する。
(2)ペットに関する諸法律の存在について理解する。

【授業時間外学修】
遺棄される動物の数を調べる。(4.0hr)

第13回　ペットの飼育と法律②
【　到達目標　】
(1)動物愛護管理法の内容について理解する。
(2)動物愛護管理法の改正と飼い主の責任について理解する。

【授業時間外学修】
動物愛護に関する具体的な社会的取り組みについて調べる。(4.0hr)

第14回　人身の自由、犯罪の取り調べと裁判の進め方
【　到達目標　】
(1)日本国憲法で保障されている人身の自由について理解する。
(2)取り調べ、起訴から判決までの流れについて理解する。

【授業時間外学修】
日本国内の地方裁判所・高等裁判所の数と所在地を調べる。(4.0hr)

第15回　日々の暮らしと法律
【　到達目標　】
(1)マンションをめぐる法的問題について理解する。
(2)この講義が目指した到達目標の達成度を確認する。

【授業時間外学修】
全体の授業を通して自分が関心をもった事項についてより深く調べ、まとめる。(4.0hr)

各回の授業の内容は変更される場合がある。

【学修上の留意点】

授業ではパワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者には適宜、穴埋め式のプリント（Googleクラスルームを通して配布）と補足資料を配布する。受講者には、ただプリントの穴埋めをするだけではなく、講義をよく聴き、自分で重要だと思う点などを積極的にメモすることが求められる。授業中は、特定のテーマについてディスカッションやグループ学習を導入する。なお、予習・復習として教科書を熟読し、内容を十分に理解することに加え、講義中に興味を持った事柄について、自らすすんで調べ、理解を深めることが肝要である。なお、履修者の理解促進のため、東京弁護士会が主催する出張法教育授業を導入する場合がある。

【教科書・参考書など】

この授業では、教科書等の指定はない。

【成績評価方法】

期末試験の結果100%で評価する（良好な出席状況は、当然の前提である）。試験は試験期間中に実施する。なお、シラバスに記載されている成績評価方法に変更がある場合は、適宜授業内で連絡する。

科 目 名	教養としての経済学			担当者	髙橋　信勝	
英 文 名	Introductory Economics					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE110・DLE110・HLE110・CLE110		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

目的：市場経済社会を俯瞰できるように経済学の基礎理論を学び、経済学的思考の涵養を図る。
ねらい：この授業では、経済学の基礎理論をベースにして、私たちの生活にとって「政治」とともに係りを断つことができない「経済」について学ぶ。新聞の経済トピックの解説や問題演習を随時取り入れて、受講者の理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
経済学の基礎の修得	経済学の基礎を修得し、具体例を挙げて説明できる。	教科書等を参照して、経済学の基礎を説明できる。	経済学の基礎の修得が不十分であり、説明できない。
経済学的視点の修得	経済学的視点にもとづいて経済社会を理解し、説明できる。	経済学的視点にもとづいて身近な生活を理解し、説明できる。	経済学的視点の修得が不十分であり、経済社会と生活の理解がままならず説明できない。
経済学的視点の活用	経済社会の問題について、経済学的視点にもとづいて説明できる。	身近な生活の問題について、経済学的視点にもとづいて説明できる。	経済学的視点にもとづいて、経済問題に関する見解を示せない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　経済学への誘い（１）
【　到達目標　】
市場経済社会の成り立ちを知り、経済学を学ぶ意義を考える。
経済システムと経済問題、経済学の3つの部門（理論、歴史、政策）について学ぶ。
経済学の学問的特質を理解する。
【授業時間外学修】
経済学の偉人について調べる（ケネー）。(4.0hr)

第２回　経済学への誘い（２）
【　到達目標　】
希少性、機会費用、サンクコスト等を学ぶ。
経済学的思考が日常生活のなかで、どのように役立つのかを理解する。
【授業時間外学修】
経済学の偉人について調べる（スミス）。(4.0hr)

第３回　企業と経済
【　到達目標　】
企業とは何か、国民経済における企業の役割を学ぶ。
企業経営におけるイノベーションの必要性、企業間の競争の意義について理解する。
【授業時間外学修】
経済学の偉人について調べる（シュンペーター）。(4.0hr)

第４回　GDPと三面等価の原則
【　到達目標　】
ストックとフロー、GDP・GNI・NDP、三面等価の原則、経済成長、景気循環について学ぶ。
国民経済の数量的把握について理解する。
【授業時間外学修】
経済学の偉人について調べる（ケインズ）。(4.0hr)

第５回　中央銀行の機能と金融政策（１）
【　到達目標　】
貨幣とは何か、貨幣需要、貨幣供給について学ぶ。
中央銀行の機能と金融政策を学ぶ。
金融政策の枠組みについて理解する。
【授業時間外学修】
経済史の重要テーマについて調べる（イギリスの産業革命）。(4.0hr)

第６回　中央銀行の機能と金融政策（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学修】
経済史の重要テーマについて調べる（日本の産業革命）。(4.0hr)

第７回　インフレとデフレ
【　到達目標　】
インフレとデフレとは何かを学び、その国民経済への影響について理解する。
【授業時間外学修】
経済史の重要テーマについて調べる（世界恐慌）。(4.0hr)

第８回　有効需要論（１）
【　到達目標　】
有効需要、45度線分析、乗数、インフレギャップとデフレギャップを学ぶ。
経済のマクロ分析について理解する。
【授業時間外学修】
経済史の重要テーマについて調べる（高度経済成長）。(4.0hr)

第９回　有効需要論（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学修】
日本の財政について調べる（歳入）。(4.0hr)

第10回　IS-LM分析（１）
【　到達目標　】
財市場とIS曲線との関係、貨幣市場とLM曲線との関係を学ぶ。
IS-LM分析にもとづく財政政策・金融政策を学ぶ。
市場経済への公的介入についての理解を深める。
【授業時間外学修】
日本の財政について調べる（歳出）。(4.0hr)

第11回　IS-LM分析（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学修】
日本の財政について調べる（国債残高と財政赤字）。(4.0hr)

第12回　国際収支と為替レート（１）
【　到達目標　】
国際収支、円安と円高、為替レートと貿易収支の関係を学ぶ。
変動相場制と固定相場制、為替レートと物価の関係を学ぶ。
世界経済と日本経済とのかかわりを理解する。
【授業時間外学修】
貿易論の重要テーマについて調べる（リカードウの比較生産費説）。(4.0hr)

第13回　国際収支と為替レート（２）
【　到達目標　】
前回のつづき。
【授業時間外学修】
貿易論の重要テーマについて調べる（リストの経済発展段階論と貿易論）。(4.0hr)

第14回　戦後の日本経済
【　到達目標　】
高度経済成長、バブル、人口減少社会の到来等、戦後の日本経済史について学ぶ。
戦後の日本経済の歩みを回顧し、今日の日本経済が直面している問題について理解を深める。
【授業時間外学修】
貿易論の重要テーマについて調べる（経済のグローバル化）。(4.0hr)

第15回　授業の総復習と問題演習
【　到達目標　】
授業を振り返り、重要なポイントを再確認する。
問題演習に取り組み、知識の定着を図る。
【授業時間外学修】経済学上の対抗思想（経済成長至上主義と定常状態論、大きな政府と小さな政府）を調べる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業理解の第一のカギは継続的な出席である。授業ではキーワードを板書し、教科書とレジュメを参照しながら説明する。詳細な板書は行わないので、受講生はノートを整理し直すこと。理解度を確認するため、問題演習を単元ごとに実施し、後続の授業で解説する。

【教科書・参考書など】

教科書名：『経済認識の扉』高橋信勝・著（八千代出版）。参考文献等は、適宜、紹介する。

【成績評価方法】

問題演習（30%）と期末試験（70%）にもとづいて評価する。試験は、試験期間中に実施する。単位付与の基準は60%である。※詳細は初回授業時に説明する。

科 目 名	英語ＥＡＰⅠ			担当者	中村　大輔	
英 文 名	English for Academic Purposes Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE201・DLE201・HLE201・CLE201		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

学術論文を理解するためには語彙･文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業では学術語彙リスト掲載語彙や文章のアウトラインやフローチャート作成等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。また受講生が今後それぞれの目標・キャリアに応じて自立的に英語を学習していけるようになるための指導や演習も取り入れる。予習を前提としている授業なので、受講生は充分に準備した上で授業に臨むことになる。
350~550語程度で書かれた文章を扱う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英文論理構造の理解	自分の専門分野の論文の論理構造を把握できる	身近な社会問題に関する論文の論理構造を把握できる	topic sentenceやsupporting details等の論理関係を把握できない
英語reading skillsの習得	初見の文章の理解においてreading skillsを使用できる	reading skillsへの意識を高められる	reading skillsを理解できない
学術語彙リスト掲載語彙の獲得	学術語彙リスト掲載の語彙を使用して自らの考えを表現できる	学術語彙リスト掲載の語彙を使用して文章を理解できる	学術語彙リスト掲載の語彙を使用できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション:EAPとは
【　到達目標　】
授業の進め方・学習の仕方を理解する。
授業担当者が提示する英語初期演習を行う。

【授業時間外学修】
Chapter 1に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第２回　英文読解演習 (1): Chapter 1: Work and College
【　到達目標　】
文章のアウトラインを作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 2に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第３回　英文読解演習 (2): Chapter 2: A New Way to Apply to College
【　到達目標　】
情報を表にまとめることができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 3に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第４回　英文読解演習 (3):Chapter 3: How Alike Are Identical Twins
【　到達目標　】
文章のアウトラインを作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 4に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第５回　英文読解演習 (4):Chapter 4: A Healthy Diet for You and Your Family
【　到達目標　】
文章の流れをフローチャートで表すことができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 5に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第６回　英文読解演習 (5):Chapter 5: Volunteer Vacations
【　到達目標　】
情報を表にまとめることができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 6に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第７回　英文読解演習 (6):Chapter 6: Improving Lives with Pet Therapy
【　到達目標　】
Pie Chartを理解できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 7に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第８回　英文読解演習 (7):Chapter 7: Robots
【　到達目標　】
Pie Chartを理解できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 8に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第９回　英文読解演習 (8):Chapter 8: A Blind Man sees Again
【　到達目標　】
図を理解できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 9に関する問題演習を行い、テキストを読んでおく。(4.0hr)

第10回　英文読解演習 (9): Chaptrer 9: Alfred Nobel
【　到達目標　】
文章を要約して表にまとめることができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 10に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第11回　英文読解演習 (10): Chapter 10: Marie Curie
【　到達目標　】
物語の時系列をタイムラインで表すことができるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 11に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第12回　英文読解演習 (11):Chapter 11: Oil as an Important World Resource
【　到達目標　】
比較的長めの文章のアウトラインを作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Chapter 12に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第13回　英文読解演習 (12): Chapter 12: Earthquakes
【　到達目標　】
イラストとテキストから文章の流れをフローチャートを作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
速読に関する問題演習を行う。(4.0hr)

第14回　英文読解演習 (13):Passage cloze (1)
【　到達目標　】
これまで扱った文章の要約を作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
Reading skillsの総復習を行う。(4.0hr)

第15回　英文読解演習 (14): Passage cloze (2)
【　到達目標　】
これまで扱った文章の要約を作成できるようになる。
各種の練習問題を通じて、語彙力を高め、語法の知識を増やす。

【授業時間外学修】
総復習から見えてきた各自の課題点をもう一度復習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。
・授業には辞書を携帯すること。
・履修者のレベルは英語１・2（初級・中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は一切行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。

【教科書・参考書など】

Yamashina, M., Yokoyama, M., & Okino, Y.(2024). Reading Access. Skills for Academic Success. New Edition. 『読解力の基礎を固めるためのリーディングスキル<新版>』センゲージラーニング

【成績評価方法】

原則として、授業内発表50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。

科 目 名	英語ＥＧＣⅠ			担当者	渡邊　浩子	
英 文 名	English for General Communication Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE202・DLE202・HLE202・CLE202		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

This course (English for General Communication I) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
SPEAKING	伝えたい内容を80%以上伝えることができる。	伝えたい内容を50%以上伝えることができる。	伝えたい内容を伝えることができない。
LISTENING	内容を80%以上理解できる。	内容を50%以上理解できる。	内容をほぼ理解できない。
VOCABULARY	語義を英語で説明できる。	語義を日本語で説明できる。	語義を知らない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　Introductions
【　到達目標　】
Previewing contents and goals of the course
【授業時間外学修】
Preview syllabus (4.0hr)

第２回 Hello
【　到達目標　】
Speaking about yourself
【授業時間外学修】
Review vocabulary (4.0hr)

第３回 Small Talk
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第４回　That's a lovely T-shirt.
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第５回　Compliments
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第６回　Pardon
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第７回　I really enjoyed it.
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第８回　Information
【　到達目標　】
Answering with additional information
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第９回　Is that right?
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Review vocabulary (4.0hr)

第10回　Backchanneling
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第11回　How about you?
【　到達目標　】
Previewing vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第12回　Showing interest
【　到達目標　】
Discussing your interest
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第13回 Reading a story
【　到達目標　】
Reading comprehension
【授業時間外学修】
Reading preparation (4.0hr)

第14回　Preparations for Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Previewing the mid-term presentation
【授業時間外学修】
Prepare Mid-term Presentation (4.0hr)

第15回　Presentations　Test
【　到達目標　】
Course Review
【授業時間外学修】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

【学修上の留意点】

Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!

授業時のスマートフォンの使用厳禁

【教科書・参考書など】

担当者が配布するプリント

【成績評価方法】

Participation 40%, Presentations 30% and Tests 30%

科 目 名	英語ＥＡＰⅡ			担当者	中村　大輔	
英 文 名	English for Academic Purposes Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE203・DLE203・HLE203・CLE203		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

学術論文を理解するためには語彙･文法知識だけでは不十分であり、英文の論理構造に関する知識も必要である。この授業では英語EAP1に引き続き学術語彙リスト掲載語彙や文章のアウトラインの把握等のreading skillsを習得し、逐語訳することなく英文の論理構造を把握できるようになることをねらいとする。また受講生が今後それぞれの目標・キャリアに応じて自立的に英語を学習していけるようになるための指導や演習も取り入れる。予習を前提としている授業なので、受講生は充分に準備した上で授業に臨むことになる。なお、英語EAP1よりも１段階難易度を上げた文章(語数500～700語程度）を扱う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
英文論理構造の理解	専門分野以外の学術論文の論理構造を把握できる	専門分野の論文の論理構造を把握できる	topic sentenceやsupporting details等の論理関係を把握できない
英語reading skillsの習得	初見の文章の理解においてreading skillsを使用できる	reading skillsへの意識を高められる	reading skillsを理解できない
学術語彙リスト掲載語彙の獲得	学術語彙リスト掲載の語彙を使用して自らの考えを表現できる	学術語彙リスト掲載の語彙を使用して文章を理解できる	学術語彙リスト掲載の語彙を使用できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション:EAPとは
【　到達目標　】
受講における留意点・授業の進め方を理解する。
時間外学習の方法を把握する。

【授業時間外学修】
Chapter 1に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第２回　英文読解演習 (1) : Chapter 1: Our Internal Clock
【　到達目標　】
情報をベン図で表すことができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 2に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第３回　英文読解演習 (2) :Chapter 2: Is It Ok to Be Late?
【　到達目標　】
文章の流れをフローチャートで表すことができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 3に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第４回　英文読解演習 (3) : Chapter 3: Technology Competes with Family Time
ベン図を利用して類似点/相違点をまとめることができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 4に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第５回　英文読解演習 (4) : Chapter 4: Sign Language for Everyone
【　到達目標　】
文章のアウトラインを作成できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 5に関する問題演習を行い、課題・予習に取り組む。(4.0hr)

第６回　英文読解演習 (5) : Chapter 5: Our Kinds are growing up too fast!
【　到達目標　】
情報を表を使用して整理できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 6に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第７回　英文読解演習 (6) : Chapter 6: Loneliness: How Can We Overcome It?
【　到達目標　】
文章の流れをフローチャートで表すことができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 7に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第８回　英文読解演習 (7) :Chapter 7: Solving Crimes with Modern Technology
【　到達目標　】
線グラフを理解できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 8に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第９回　英文読解演習 (8) :Chapter 8: The Reliability of Eyewitnesses
【　到達目標　】
アウトラインを利用して情報を整理できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 9に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第10回　英文読解演習 (9) :Chapter 9: Innocent until Proven Guilty
【　到達目標　】
文章の流れをフローチャートで表すことができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 10に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第11回　英文読解演習 (10) : Chapter 10: Saving Lives with New Organs
【　到達目標　】
棒グラフを理解できるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 11に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第12回　英文読解演習 (11) : Chapter 11: Objects from Space: Hits and Misses
【　到達目標　】
イラストレーションから情報を読み取ることができるようになる。

【授業時間外学修】
Chapter 12に関する問題演習を行い、テキストを読む。(4.0hr)

第13回　英文読解演習 (12) : Chapter 12: Medicine Today
【　到達目標　】
線グラフを理解することができる。

【授業時間外学修】
これまで扱ったReading Skillsの復習に取り組む。(4.0hr)

第14回　英文読解演習（１３）：未読文章読解演習
【　到達目標　】授業で扱ったreading skillsを初見文章へ応用できるようになる。

【授業時間外学修】
これまで扱ったreading skillsの復習に取り組む。(4.0hr)

第15回　学術論文理解のための英語力とは
【　到達目標　】
授業全体のふり返りを行う。
今後の学習目標を設定する。

【授業時間外学修】
授業内容を復習し、自身の課題を設定する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・講義の理解度確認手段として課題をほぼ毎回出す。授業では冒頭で課題に関する解説を行うことで課題へのフィードバックを行うとともに、課題で習得したスキルを用いて文章構造を把握する問題演習を行う。指定された箇所の予習を確実に行った上で授業に出席すること。
・授業には辞書を携帯すること。
・履修者のレベルは英語１・2（中級）レベルを想定し、文章の大まかな流れは説明するが逐語訳は一切行わない。初回の授業でテキストの難易度を確認すること。

【教科書・参考書など】

Yamashina, M., Yokoyama, M., & Okino, Y. (2023).Reading Choice. Skills for Academic Success. New Editioon.『現代のトピックを読むためのリーディングスキル<新版>』センゲージラーニング

【成績評価方法】

原則として、授業内発表50%、試験・課題50%とし、総合的に評価する。

科 目 名	英語ＥＧＣⅡ	担当者	渡邊　浩子
英 文 名	English for General Communication Ⅱ		

単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE204・DLE204・HLE204・CLE204		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

This course (English for General Communication Ⅱ) will encourage students to use and improve their English-language skills on a variety of topics.

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
SPEAKING	伝えたい内容を80%以上伝えることができる。	伝えたい内容を50%以上伝えることができる。	伝えたい内容を伝えることができない。
LISTENING	内容を80%以上理解できる。	内容を50%以上理解できる。	内容をほぼ理解できない。
VOCABULARY	語義を英語で説明できる。	語義を日本語で説明できる。	語義を知らない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　Introductions
【　到達目標　】
Previewing the contents and goals of the course
【授業時間外学修】
Preview syllabus(4.0hr)

第２回　Thank you so much
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Review vocabulary (4.0hr)

第３回　Thanking
【　到達目標　】
Listening in Context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第４回　Execuse me, but…
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary (4.0hr)

第５回　Complaints
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第６回　This is my fault
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第７回　Apologies
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第８回 I'd rather not say
【　到達目標　】
Dealing with undesirable questions
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第９回　Requests
【　到達目標　】
Practising polite requests
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第10回　Invitations
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第11回 Saying "no"
【　到達目標　】
Practising vocabulary
【授業時間外学修】
Preview vocabulary(4.0hr)

第12回　Softeners
【　到達目標　】
Listening in context
【授業時間外学修】
Practise model conversation (4.0hr)

第13回　Reading a Story
【　到達目標　】
Reading comprehension
【授業時間外学修】
Reading Preparation(4.0hr)

第14回　Preparations for Mid-term Presentations
【　到達目標　】
Previewing the mid-term presentation
【授業時間外学修】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

第15回　Presentations Test
【　到達目標　】
Course Review
【授業時間外学修】
Prepare Mid-term Presentation(4.0hr)

【学修上の留意点】

Any English is better than no English - always try to say something, to give some kind of answer!

授業時スマートフォンの使用厳禁

【教科書・参考書など】

担当者配布のプリント

【成績評価方法】

Participation 40%, Presentations 30% and Tests 30%

科 目 名	ドイツ語			担当者	藤由　順子	
英 文 名	German Language					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE205・DLE205・HLE205・CLE205		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

初級レベルのドイツ語の基礎知識を確実なものにする。ドイツ社会の特徴と全体像をつかむことをめざす。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
基本的なドイツ語運用に必要な文法の理解	ドイツ語の言語的特徴を理解し運用する。	資料を参照しながらドイツ語を運用する。	理解が不十分で説明できない。
ドイツ語圏の文化・社会に対する関心の向上	文化・社会への関心を自学へ導き発展させる。	文化・社会への関心を自学へ導く。	ドイツ語圏の文化・社会に関心がない。
ドイツ語で表現	自分のことや意見を表現できる。	資料を参照しながら自分のことや意見を表現できる	理解が不十分で全く表現できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業内容の説明、テキスト等の紹介／発音とアルファベートの確認
【　到達目標　】
音声的基礎を踏まえ、コミュニケーション能力を高める。
あいさつやとっさの一言が言える。

【授業時間外学修】
アルファベートの確認をし、文字と単語の発音練習をする。(4.0hr)

第２回　発音、基本表現、基礎的文法事項の確認
【　到達目標　】
日常生活レベルの語彙を知り、アクセントや発音の特徴をつかむ。
初めて見る地名や人名を正確に発音できる。

【授業時間外学修】
語彙の発音と意味を確認する。(4.0hr)

第３回　ドイツ語の文構造／自己紹介（1）
【　到達目標　】
「動詞が二番目にくる」というドイツ語文の特徴を理解する。
規則動詞、不規則動詞の人称変化をおさえて、自分について簡単な説明ができる。
例）私は～出身です／～を専攻しています。
【授業時間外学修】
基本的な文を覚える。／基本的な動詞を調べる。(4.0hr)

第４回　ドイツ語の名詞と冠詞の役目を知る、主語となる代名詞を知る
【　到達目標　】
名詞が内包する三要素「性・数・格」を捉えて、その名詞の文中での役割を意識できる。
例）私の父が／一人の友人に／そのピアノを／それは／あなたは／彼は、などを表現できる。
英語のa,an,the,myと異なる、冠詞の役目を確認する。
【授業時間外学修】
格変化の表の見方に慣れる。／自分と関連する名詞を調べる。(4.0hr)

第５回　映画鑑賞（1）
【　到達目標　】
ドイツ人の仕草や言い回しなどから日本との文化の違いを感じ取る。
映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる。

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる(4.0hr)

第６回　映画鑑賞（2）
【　到達目標　】
ドイツ社会の置かれている状況を考える。

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる(4.0hr)

第７回　数詞、複数形
【　到達目標　】
1から12までを確実に言える。13から20までの法則を押さえる。
頻度や回数、継続、曜日、時刻を表現する。（頻繁に、5回、日曜日には、等）
sをつけて複数形を作る英語と異なり、名詞を複数形にするのが単純ではないことを知る。
【授業時間外学修】
自分の予定や身近なことを表してみる。例）私には二人の姉がいる。／靴は3足しかない。(4.0hr)

第８回　人称代名詞、前置詞の格支配
【　到達目標　】
主語だけでなく、目的語になる代名詞を学習して「彼に」・「私たちを」・「それを」などを体得す

状況を説明する、「～と一緒に・～の後で・～のために・～の上で」等を言える。
【授業時間外学修】
自分が何を愛しているのか、口頭や文章で表現する練習をする。(4.0hr)

第９回　映画鑑賞（3）
【　到達目標　】
ドイツ人の仕草や言い回しなどから日本との文化の違いを感じ取る。
映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる。

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる(4.0hr)

第10回 映画鑑賞（4）
【　到達目標　】
東西ドイツの歴史を知り、その実態の一端を映画から受け止める。
映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる。(4.0hr)

第11回　否定表現
【　到達目標　】
否定冠詞を使っての否定文を作る。
否定詞を用いた否定文の法則をしる。
例）兄弟はいない／～を知らない
【授業時間外学修】
自分に関連した否定文を作ってみる。（例：私は魚を食べない、等）(4.0hr)

第12回　助動詞
【　到達目標　】
話法の助動詞を学び、ドイツ語特有の語順を理解する。
例)私は～できる／～したい／～しなければならない。

【授業時間外学修】
自分のしたいこと、できること、好きなことを表現してみる。(4.0hr)

第13回　映画鑑賞（5）
【　到達目標　】
ドイツ語フレーズやアクセントに意識を置いてドイツ映画を観る。
ドイツ人の仕草や言い回しなどから日本との文化の違いを感じ取る。

【授業時間外学修】
映画内で登場したフレーズを覚えて、使ってみる。(4.0hr)

第14回　映画鑑賞（6）
【　到達目標　】
ドイツの社会・歴史的背景を映画から読み取る。

【授業時間外学修】
映画を観て感じたことを感想としてまとめる。(4.0hr)

第15回　理解度の確認と補足説明
【　到達目標　】
習得した文法項目を用いて、自分が表現したい事、相手に尋ねたい事を伝える。

【授業時間外学修】
自分の分からない所を書き出す。(4.0hr)

【学修上の留意点】

※半期しかないので、日本あるいは外国において自分の言いたいことをドイツ語で表現することを常に意識して、授業に集中して臨んでください。

発音練習を自宅で行うようにしてください。理解度確認小テストやレポート課題は実施します。これらを受けて次回授業にフィードバックを行いますので、間違いや指摘されたより適切な表現をしっかり確認して、ドイツ語表現の幅を広げてください。授業の進度や世界情勢に応じて、映画鑑賞の回を変動させることもあります。

【教科書・参考書など】

『お菓子で学ぶドイツ語』小野森都子　平山茂樹　藤由順子著（朝日出版社）
独和辞典はできれば用意してください。小さいものでも電子辞書でも古いものでも構いません。

【成績評価方法】

リアクションペーパー・レポート課題の提出、理解度確認のための小テスト40%、試験結果を60%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。

科 目 名	フランス語			担当者		
英 文 名	French					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE206・DLE206・HLE206・CLE206		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

はじめてフランス語を学ぶ学生を対象とする。音楽や映画を通してフランス語圏の文化を発見するとともに、フランス語の発音・リズム・表現に触れ、この言語が持つ特有の音楽性や詩情の豊かさを体感する。それによって、フランス語を使う人々の表現世界を理解することを目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
フランス語に関する基本的な知見について	フランス語の成り立ちを説明できる	教科書を参照すればフランス語の成り立ちを説明できる	フランス語の成り立ちを説明できない
フランス語の発音と綴り字の規則について	規則を理解し、自律的に運用できる	教科書等を参照すれば発音が理解できる	理解が不十分であり、発音できない
フランス語の文法事項について	名詞の性数を理解し、動詞の活用を運用できる	辞書等を用いれば名詞の性数、動詞の活用が理解できる	動詞の活用や名詞の性数が理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】

第１回　オリエンテーション：挨拶・アルファベ・綴りと発音、フランスとフランス文化
【　到達目標　】
(1)フランス語の挨拶やアルファベ、綴り、発音に触れ、フランスとフランス文化の特徴を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランス語の成り立ち」を読む。(3.0hr)

第２回　フランス語について：沿革と発音の特徴、フランス語の魅力
【　到達目標　】
(1)フランス語の歴史と文化的背景を理解して、フランス語の魅力を発見する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランスとフランス語圏」を読む。(3.0hr)

第３回　フランス語の童謡①
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界を理解する。
(2)フランスのシャンソンの背景や表現を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第４回　フランス語の童謡②
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界を理解する。
(2)フランス語の特徴的な読み方の規則を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って音声を録音・提出。(3.0hr)

第５回　フランス語の文法①
【　到達目標　】
(1)フランス語の基本的な構造を理解する。
(2)主語、動詞の活用を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランス語の文法①」を読む。指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第６回　歌手 Angèle の楽曲「Balance ton quoi」とフランス語の綴り字
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界を理解する。
(2)フランス語の発音と綴り字の規則を理解する。
(3)現代フランス語圏の諸事情、現代フランス語の進化に触れる。
【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第７回　『アナと雪の女王』より「ありのままで」：フランス語の母音・子音
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界の理解。
(2)フランス語の特徴的な発音や有声音と無声音の違いを理解する。

【授業時間外学習】
プリント「「ありのままで」の訳・発音のポイント解説」を読む。指示に従って課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　『アナと雪の女王』『モアナと伝説の海』より：楽曲の翻訳比較
【　到達目標　】
(1)歌の表現世界の理解。
(2)フランス語圏における女性のエンパワーメントの活動と多様性を知る。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第９回　フランス語の文法②
【　到達目標　】
(1)名詞・形容詞の性数一致を理解する。
(2)冠詞の用法を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランス語の文法②」を読む。指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第10回　フランス語の文法③
【　到達目標　】
(1)動詞の時制を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、プリント「フランス語の文法③」を読む。指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第11回　絵本・おとぎ話の読解①
【　到達目標　】
(1)動詞の過去形を理解する。
(2)頻出単語を把握する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第12回 絵本・おとぎ話の読解②□
【　到達目標　】
(1)前置詞を理解する。
(2)前置詞と定冠詞の縮約を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第13回　歌手 Zaz の楽曲「Je veux」で学ぶ聞き取り
【　到達目標　】
(1)聞き取りの発音上のポイントを把握する。
(2)聞き取りと文法の関係を理解する。

【授業時間外学習】
復習(1.0hr)、指示に従って課題を提出。(3.0hr)

第14回　映画『ディリリとパリの時間旅行』で学ぶ聞き取りと場面の再現
【　到達目標　】
(1)指定された場面をスクリプトを元に再現する。

【授業時間外学習】
指示に従って課題を提出。(4.0hr)

第15回　講義総括
【　到達目標　】
(1)名詞・冠詞・形容詞、動詞、前置詞について文法をまとめる。
(2)発音の規則をまとめる。

【授業時間外学習】
授業を振り返り、自分なりのまとめを行う(4.0hr)

【学習上の留意点】

半期の授業なので、毎回集中して授業に臨むこと。授業内容に則した課題を出すので、授業を欠席しないこと。
課題に対するフィードバックは授業内、または個人的に授業時間外に行う。
グループ学習者、学生によるプレゼンテーション、レスポンスカードあり。

【教科書・参考書など】

授業時に適宜プリント配布

【成績評価方法】

試験結果40%、復習・予習課題30%，小テスト30%として評価する（試験は試験期間中に別途実施する）。あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。

科 目 名	中国語			担当者	李　棋	
英 文 名	Chinese					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE207・DLE207・HLE207・CLE207		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

本講義は、初めて中国語を学習する学生を対象に開講します。中国語の文法や漢字に慣れてもらうため、受講生には基礎的な課題を出します。最終目標としては、中国語で自己紹介が出来る水準を目指します。その他に、中国の社会や文化なども紹介して、中国に対する興味や関心を広げることを目的とします。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
初歩の中国語を読んで理解できる。	動詞や形容詞を用いた表現や、完了形を用いた中国語の文章を、全て理解できる。	動詞や形容詞を用いた基本的な中国語の短文が理解できる。	中国語の文章が理解できない。
初歩の中国語の文章を作成できる。	日常生活で用いる単語を使いながら、中国語で自己紹介をすることができる。	定型句を用いて短文を駆使して、中国語で自己紹介をすることができる。	中国語の作文ができない。
初歩の中国語の発音ができる。	講義で学習した中国語の単語を、全て正しく発音できる。	基本的な中国語の単語を正しく発音できるようになる。	正しく中国語の発音ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション：中国語について
【　到達目標　】
(1)言語としての中国語の特性を理解する。

【授業時間外学修】
身近な中国語などを探して、中国語に興味を持つ。(4.0hr)

第２回　発音の基礎：発音記号、四声、子音
【　到達目標　】
言語としての中国語の音声（声調・子音）を習得する。

【授業時間外学修】
授業で習った発音を繰り返し発声する。(4.0hr)

第３回　発音の基礎：母音
【　到達目標　】
言語としての中国語の音声（母音）を習得する。

【授業時間外学修】
授業で習った発音を繰り返し発声する。(4.0hr)

第４回　基礎構文（Ⅰ）：「是」の構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)是を使った構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第５回　基礎構文（Ⅰ）：「是」の構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)是を使った構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第６回　基礎構文（Ⅱ）：目的語がある構文
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)目的語がある構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第７回　基礎構文（Ⅱ）：目的語がある構文の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)目的語がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第８回　基礎構文（Ⅲ）：形容詞がある構文と応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)形容詞がある構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第９回　基礎構文（Ⅳ）：「在」の構文と応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)在を使った構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第10回　基礎構文(Ⅴ)：完了形
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)完了形がある構文を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第11回　基礎構文（Ⅴ）：完了形の応用
【　到達目標　】
(1)中国語の基礎的文章構造を理解する。
(2)完了形がある構文の否定形、疑問形を習得する。

【授業時間外学修】
授業で出題された課題をこなして、基礎的な文法を把握する。(4.0hr)

第12回　作文：自己紹介
【　到達目標　】
自分について紹介する文章を作る。

【授業時間外学修】
自分で作成した中国語の文章を推敲して完成させる。(4.0hr)

第13回　作文：日常の表現
【　到達目標　】
日常表現をするための語彙を増やす。

【授業時間外学修】
普段目に付いたものを中国語で練習する。(4.0hr)

第14回　中国の文化（Ⅰ）：中国文化と中国語Ⅰ
【　到達目標　】
(1)中国語の成り立ちと中国文化を理解する。
(2)中国語の語彙を増やす。

【授業時間外学修】
授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)

第15回　中国の文化（Ⅱ）：中国文化と中国語Ⅱ
【　到達目標　】
(1)中国文化の中で成長した中国語について理解する。
(2)中国語の語彙を増やす。

【授業時間外学修】
授業で触れた中国の文化について、自分でまとめなおす。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義期間中に1度課題を出します。課題の結果は、講義内で解説によるフィードバックをおこないます。参加学生が中国語を用いた会話などを行うことで、中国語を身につけていけるように指導します。普段から復習を心がけ、中国語に触れる機会を増やしましょう。

【教科書・参考書など】

講義用の参考書(講義担当者作成)を準備します。初回のオリエンテーションにて詳細をお伝えします。

【成績評価方法】

授業時の課題が30%、学期末の筆記試験（試験は試験期間中に別途実施）が70%となります。

科目名	コリア語			担当者	李　　美賢	
英文名	Korean language					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE208・DLE208・HLE208・CLE208		卒業認定方針との関連	②

【到達目標】

日ごろからK-ドラマや映画、K-POPなどに関心の高い学生さんが多いはず！大好きなこれらのコンテンツをさらに理解できるよう、韓国語の文字であるハングルの読み書きなどを基本から学びます。韓国語の文字（ハングル）や発音、基礎的な文法、挨拶言葉をはじめとする日常的な会話表現を学び、習得します。また、異国文化の背景にある文化や習慣などにも触れることにより、会話における自然なやり取りやご自分の意見がちゃんとアピール出来るよう、身に着けていきます。さらなるコミュニケーション能力を高めていくことを目標とします。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
韓国語の初級レベルに達するための参加意欲	欠席ゼロで、学習に関する質問を積極的にする	欠席ゼロで、質問に対する答えを積極的にする	何度の欠席、目線を合わせず他のことをする
韓国語の初級レベルの話す能力	自分の意見をきれいな発音で上手に話せる	勇気を出して自分の意見を積極的に言おうとする	呼ばれても何も答えようとしない
韓国語の初級レベルの理解力	フレーズの聞き取りや書き取りができる	フレーズの書き取りより聞き取りができる	フレーズの聞き取り、書き取りが全くできない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション：ハングルとはどういう文字か
【　到達目標　】
(1)言語としての韓国語の特性を理解する。
(2)韓国語の文字であるハングルの成立の文化的背景を理解する。
(3)ハングルの仕組みについて理解する。
【授業時間外学修】
韓国語と日本語の共通点や相違点、ハングルの特性や仕組みについて学習する。(4.0hr)

第２回　ハングルの発音：基本母音字
【　到達目標　】
(1)ハングルの発音・リズムを理解する。
(2)基本母音字を習得する。
【授業時間外学修】
ハングルの仕組みを明確に理解したうえで、基本母音を学習する。(4.0hr)

第３回　ハングルの発音：子音字（１）
【　到達目標　】
(1)ハングルの発音・リズムを理解する。
(2)ハングルの子音（平音・激音）を習得する。
【授業時間外学修】
基本母音字と子音字の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)

第４回　ハングルの発音：子音字（２）
【　到達目標　】
(1)ハングルの子音（濃音）を習得する。
【授業時間外学修】
基本母音字と子音字の組み合わせ及びその発音を学習する。(4.0hr)

第５回　ハングルの発音：合成母音字
【　到達目標　】
(1)合成母音字を習得する。
【授業時間外学修】
子音字と合成母音字の組み合わせ及びその発音を学習する。発音の仕組みについて理解する。(4.0hr)

第６回　ハングルの発音：パッチム、挨拶
【　到達目標　】
(1)文字としてのパッチムを習得する。
【授業時間内学習】
パッチムという概念の理解とその発音を勉強し、基本的な挨拶を学習する。(4.0hr)

第７回　日本語のハングルの表記
【　到達目標　】
(1)日本語の固有名詞のハングル表記を習得する。
(2)辞書の引き方、キーボードの打ち方を習得する。
【授業時間外学修】
日本語の固有名詞のハングル表記を学習し、自分の名前をハングルで書く、辞書を引く、などを学習する。(4.0hr)

第８回　日常生活の表現：肯定表現
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の肯定表現を習得する。
【授業時間外学修】
「～は～です」の表現を勉強し、自己紹介や挨拶の表現を学習する。(4.0hr)

第９回　日常生活の表現：疑問表現
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。質問の仕方や答え方を習得する。
【授業時間外学修】
質問の方法を学習し、趣味の聞き方や答え方などを学習する。(4.0hr)

第10回　日常生活の表現：否定表現
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の否定表現を習得する。
【授業時間外学修】
「～ではありません」の表現を勉強し、否定の仕方を学習する。(4.0hr)

第11回　日常生活の表現：用言の表現（１）
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の基礎の用言の表現を理解する。
【授業時間外学修】
動詞・形容詞などの用言の丁寧形（その１：ハムニダ体）を学習する。(4.0hr)

第12回　日常生活の表現：用言の表現（２）
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の基礎の用言の表現を理解する。
【授業時間外学修】
動詞・形容詞などの用言の丁寧形（その２：ヘヨ体）を学習する。(4.0hr)

第13回　日常生活の表現と韓国文化：過去形
【　到達目標　】
(1)日常会話の表現世界の理解。不可欠の過去形の表現を習得する。
【授業時間外学修】
用言の過去形の作り方を勉強し、過去の出来事の説明の仕方を学習する。(4.0hr)

第14回　日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（１）
【　到達目標　】
(1)韓国語の漢数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。
【授業時間外学修】
漢字語数詞を勉強し、日にちや値段などの言い方を学習する。(4.0hr)

第15回　日常生活の表現と韓国文化：数字の言い方（２）
【　到達目標　】
(1)韓国語の固有数詞を習得し、数詞に表わされる韓国文化を理解する。
【授業時間外学修】
固有語数詞を勉強し、時間や人数や年齢などの言い方を学習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

予習・復習を継続し、日常的に韓国語に触れる（ドラマ、映画、歌など）ようにすることが語学の上達の上で重要である。ほぼ毎回、各課ごとの応用練習帳の作成及び提出の課題が出される。課題の結果、間違いやすい部分や注意すべき点などに関して、次の授業内で解説によるフィードバックを行う。また、1ー2回ほど理解度の確認のため、小テストや中間テストを行う。テスト結果は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「教科書名」：『楽しく学べる韓国語１』（李美賢・李貞旼）著（白水社）　※『楽しく学べる韓国語』の改訂版

【成績評価方法】

各回の授業時での課題40%、理解度確認のためのテスト結果を60%として評価する。試験は試験期間中に別途実施。

科目名	社会のしくみとキャリア形成			担当者	新免　玲	
英文名	Career, Business and Social System					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE209・DLE209・HLE209・CLE209		卒業認定方針との関連	④⑤

【到達目標】

自らのキャリアについて考える機会を持ち、将来のありたいライフキャリアに向けて、リーダーシップとグループダイナミズム（集団心理学）を学び、科学的な自己・他者・社会の理解を通して、今後の学生生活の目標を設定し、行動計画を立てられるようになることを目指します。
・個人のライフキャリアのなかで、「学ぶこと」や「働くこと」の意義や目的を理解する。
・ロールモデルとなる社会人からの話を聴き、社会生活において求められる各種能力と自身の現状を把握する。
・「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活(学修を含む)の目標及び行動計画を立てることができる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
①「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」を考える	自分がイキイキと活動できそうなライフキャリア（ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ像）について具体的なイメージを持ち、活動ができている	自分がイキイキと活動できそうなライフキャリア（ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ像）について具体的なイメージが持てている	自分がイキイキと活動できそうなライフキャリア（ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ像）について具体的なイメージが持てていない
②「グループダイナミズム（集団心理学）」を理解し、グループワークの進め方を学ぶ	グループワークにおける、役割分担や進め方について理解し、自分なりのやり方が検討できている。	グループワークにおける、役割分担や進め方について理解している。	グループワークにおける、役割分担や進め方について理解できていない。
③「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活の目標および行動計画を立てる	「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活の目標を持ち、行動計画を立て、具体的に動き出せている。	「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活の目標を持ち、行動計画を立てられている。	「ありたいライフキャリア（リーダーシップ像）」に向けた学生生活の目標が不明確だったり、行動計画が立てられていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（＊必ず参加してください）3つの学修到達目標について
【　到達目標　】
授業への導入・シラバス・学習目標（目的・ねらい）の確認、毎時の授業の進め方・課題および成績評価についての説明、キャリア形成の意味・心理学的基盤を理解します。

【授業時間外学修】
3つの学習到達目標を踏まえて、自分なりの目標を立てる(4.0hr)

第２回 キャリア、生き方について考える
【　到達目標　】
キャリアデザインの必要性を理解し、現在の自分を知る、ライフキャリアについて学びます。
個人のライフキャリアのなかで、「学ぶこと」や「働くこと」の意義を知り、今できることを考えま

【授業時間外学修】
将来のありたいライフキャリアに向けて、好きなことややりたいことについて考える(4.0hr)

第３回　社会で必要なコミュニケーションについて
【　到達目標　】
グループダイナミズム（集団心理学）を理解し、グループワークの重要性について考えます。
グループワークにおける、役割分担、進め方について学びます。

【授業時間外学修】
自分自身のコミュニケーションの経験、特徴、課題を考える(4.0hr)

第４回　コミュニケーション　実践編
【　到達目標　】
アセスメントで自分のコミュニケーションタイプを知ります。
グループワークにおける自身の課題について考え、グループワークをスムーズに行うための改善策について考え、理解を深めます。
【授業時間外学修】
具体的なコミュニケーション課題について考える(4.0hr)

第５回　自分のこれまでの物語を整理する
【　到達目標　】
ライフラインチャート（モチベーションチャート）の実施。自分の傾向、大切にしたいことを考えて理解を深めます。

【授業時間外学修】
ライフラインチャートの作成を通じて、自分のライフストーリーを整理する(4.0hr)

第６回　自分の強みを知る
【　到達目標　】
強みを言語化し、過去の経験からどのように培ったのかワークを通じて整理します。
強みのワークシート１＆２を実施します。

【授業時間外学修】
強みのワークを通じて、過去の経験から強みの根拠を整理する(4.0hr)

第７回　自分の動機づけを知る
【　到達目標　】
動機づけの方程式について学び、モチベーション（動機付け）の要素を知ります。
過去のエピソードから、自分の動機づけの方程式を作成します。

【授業時間外学修】
動機づけの方程式の理解と1エピソードにおける自分の動機づけの要素を整理する(4.0hr)

第８回　ケーススタディ①　　※ゲスト講師の都合により回が変更になる可能性あり
【　到達目標　】
活躍中の社会人による講演を通して仕事や生き方を学び、自己のキャリア形成を考える。
参考にしたい社会人（ロールモデル）を選定し、インタビューを計画します。
インタビューの仕方について学び、備えます。
【授業時間外学習】
インタビューの実施準備・質問文の作成(4.0hr)

第９回　インタビューの実施（仕事の6分類編　※中間試験2/2)
【　到達目標　】
仕事の6分類について学び、インタビューに備えます。

【授業時間外学修】
インタビューの実施準備・質問文の作成。(4.0hr)

第10回　インタビューのシミュレーション
【　到達目標　】
前の2回で学んだインタビュー内容を踏まえて、インタビュー本番のシミュレーション・準備をします。
グループワークにおける、ロールプレイング。インタビュー実施時のマナー等について確認します。

【授業時間外学修】
インタビューの実施と報告(4.0hr)

第11回　インタビュー結果について、グループ内で共有
【　到達目標　】
グループワークでインタビューした社会人について共有し、学び合います。
インタビューを通じて学んだこと、感想を共有します。

【授業時間外学修】
グループワークを通じて学んだロールモデルについての情報を整理してまとめる(4.0hr)

第12回　ビジネスモデルについて学ぶ①
【　到達目標　】
ビジネスモデル（5W2H）の調べ方を学び、仕事・企業研究の仕方を理解します。
強みのワークシートを用いて、1企業（仕事）のビジネスモデルについて理解を深めます。

【授業時間外学修】
ロールモデルの仕事・所属する企業のビジネスモデルを理解する(4.0hr)

第13回　ビジネスモデルについて学ぶ②
【　到達目標　】
グループワークでビジネスモデルを共有します。
複数の社会人の仕事・所属する企業のビジネスモデルを学びます。

【授業時間外学修】
グループワークを通じて学んだビジネスモデルを整理してまとめる(4.0hr)

第14回　ありたいライフキャリアに向けた今後の学生生活アクションプラン
【　到達目標　】
これまでの学びの振り返り、目標達成の確認、今後の目標設定をします。
これまでの学修を踏まえ、自分のありたいライフキャリア（リーダーシップ像）について考えを整理して、アクションプランを作成します。
【授業時間外学修】
自分の将来のありたいライフキャリアを描き、今後の大学生活におけるアクションプランを作成する。(4.0hr)

第15回　ありたいライフキャリアに向けた今後の学生生活アクションプラン
【　到達目標　】
グループ内で、アクションプランについてのプレゼンテーション実施とフィードバックコメント。
アクションプランを修正・現状の完成版の作成します。

【授業時間外学修】
最終レポート作成を行う(4.0hr)

【学修上の留意点】

1. 本授業では、キャリア形成に関する講話やグループワークによる受講生同士のコミュニケーションの機会を増やし、大学での関係性向上や情報交換等、相互に成長する学修を目指します。そのため、出席は毎時行うグループワークなどの演習に参加するために、とても重要です。欠席しても必ず次回に向けて課題提出やグループワークを忘れずに行ってください。
2. 学生は、毎授業開始時、実施中および終了後にレポート（各15回＋最終レポート）を記入し、提出してください。

・課題の締め切りは、他の受講生にも影響が出てしますので、必ず守ってください。事前の相談がなく遅れたら課題の点数は-10%になります。必ず期日前までに教員へ相談し、遅れる場合も事前に相談の上、提出日および提出方法を確定してください。
・授業内容は場合によって変わることがあるので、Phollyや掲示板を見て確認してください。

【教科書・参考書など】

指定書籍：1.「キャリア心理学“強み”デザインガイドブック：自分にワクワクできるワークショップ」ナカニシヤ出版 予価2,200円（ISBN：978-4-7795-1851-5）　2.「キャリアデザインワークブック」ムイスリ出版　予価1,500円（ISBN978-4-89641-345-8）
それ以外のワークシートや動画などの教材は授業内で指示します。　ワークシートや動画などの教材は授業内やPhollyで指示します。毎時の授業時には、上記指定図書2冊と前回の【授業時間外学習】で提示された課題を持参してください。課題は、必ず紙もしくはパソコン等で開けるように用意してください。
参考書：就職四季報、業界地図、日経テレコン、東洋経済デジタル・ライブラリーなどのデータベースコンテンツ、他
※毎授業時、次回の課題を含めて提示します。不明な点がある人は、次回まで待たずに必ず個別に確認してください。

【成績評価方法】

覚えたことを書くタイプの試験はありません。成績評価も、あなたが自分なりに考えたことを基本に評価します。高い評価はどのようなものかは講義中に都度示していきます。具体的な成績評価は、①講義前後の小レポート／ワーク（オンライン提出中心）50%、②授業・グループワークでの貢献度・成果物20%、③学期内のレポート・課題(最終レポート含む）30%、の配分とし、総合して評価。課題提出遅延は、Phollyに記載の通り、減点します。　※授業への参加、貢献度：授業中のワーク（個人・ペア（トリオ）・グループでの活動）への参加態度も含みます。

科 目 名	データ分析と統計学			担当者	水野　有希	
英 文 名	Data Analysis and Statistics					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE210・DLE210・HLE210・CLE210		卒業認定方針との関連	③

【到達目標】

情報化社会の現代では、溢れる情報から必要な情報を的確に読み取る能力が必要不可欠です。この情報をどのように分析して、どのように結論として導いていくか、その手段として統計学が重要な役割を担っています。本講義では、統計学がどのような場面で使用されているか、実例を多数紹介しながら理解を深め、統計学の基本的な考え方と統計手法を学びます。また、卒業研究や課題レポートなどのデータ分析に活用できるスキルを身につけます。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
統計学の基本的事項・理解に関する事項	基本的な概念や原理・法則を体系的に十分に理解し、自ら説明できる。	基本的な概念や原理・法則を資料等を参照にしながら説明できる。	基本的な概念や原理・法則の体系的な理解が不十分で説明できない。
統計学の実践的な活用に関する事項	事象を適切な分析から考察し、統計学的な表現を用いて自ら説明できる。	資料等を参照に事象を分析し、統計学的な表現を用いて説明できる。	統計学を活用して事象を考察するのに理解が不十分で説明できない。
体育・スポーツ研究の科学的根拠に関する事項	統計学的思考を用いて根拠に基づいた分析や論理的に考察を自ら説明できる。	資料等を参考に、根拠に基づいた分析や論理的に考察を説明できる。	根拠に基づいた分析が不十分で科学的根拠が説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　統計の心構え、ビックデータとAI
【　到達目標　】
(1)世の中にある情報（データ）にどのようなものがあるか理解する。
(2)データの特徴や分析により、様々な課題解決につながることを理解する。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習（度数分布表・ヒストグラム）をする。(4.0hr)

第２回　データの種類・尺度水準、度数分布表とヒストグラム
【　到達目標　】
(1)データの特徴を表すものに代表値がある。代表値とは何か、どのようなものがあるのかを、データの種類や尺度から学ぶ。
(2)データの特徴にはばらつきをとらえるものとして度数分布表やヒストグラムを学ぶ。
【授業時間外学修】
提出課題（尺度水準）の復習をする。(4.0hr)

第３回　データのばらつきを数値に表すには
【　到達目標　】
(1)ばらつきの度合いを数値として表すものには何があるかを学ぶ。
(2)代表値とばらつきを関数を使って算出する方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（分散・標準偏差）の復習をする。(4.0hr)

第４回　散布図と相関、相関係数
【　到達目標　】
(1)散布図を作成し、パターンを理解する。
(2)相関係数の求め方を学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（相関係数）の復習をする。(4.0hr)

第５回 回帰直線
【　到達目標　】
(1)回帰直線を使って予測する方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（回帰直線）の復習をする。(4.0hr)

第６回　データ収集の方法
【　到達目標　】
(1)質的データや量的データの収集の方法を理解する。
(2)アンケート作成の基本を学ぶ。

【授業時間外学修】
アンケート項目を考えアンケートを作成する。(4.0hr)

第７回　仮説検定と有意差について
【　到達目標　】
(1)推計統計学において仮説検定がなぜ必要かを理解する。
(2)確率の意味を復習する。

【授業時間外学修】
提出課題の復習をする。(4.0hr)

第８回　正規分布とその他の分布
【　到達目標　】
(1)どのような分布があるかを学ぶ。
(2)一般のデータを標準正規分布に変換する方法を学ぶ。
(3)標準正規分布表から確率を求める方法を学ぶ。
【授業時間外学修】
提出課題（正規分布）の復習をする。(4.0hr)

第９回　平均と分散の推定と区間推定
【　到達目標　】
(1)データ数が多い場合のデータの特徴を捉えるにはどのような方法があるかを学ぶ。
(2)サンプルから全体の特徴を推定した場合の信頼区間について学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（平均・分散の推定）の復習をする。(4.0hr)

第10回　t検定（対応あり）
【　到達目標　】
(1)平均の差の検定の種類を理解する。
(2)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。

【授業時間外学修】
提出課題（対応のあるt検定）の復習をする。(4.0hr)

第11回　t検定（対応なし）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、t検定の必要なケースを理解する。

【授業時間外学修】
提出課題（対応のないt検定）の復習をする。(4.0hr)

第12回　分散分析（一元配置）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、一元配置分散分析を理解する。

【授業時間外学修】
提出課題（一元配置分散分析）の復習をする。(4.0hr)

第13回　分散分析（二元配置）
【　到達目標　】
(1)実際の例をとらえながら、対応ありの二元配置分散分析を理解する。
(2)実際の例をとらえながら、対応なしの二元配置分散分析を理解する。

【授業時間外学修】
提出課題（二元配置分散分析）の復習をする。(4.0hr)

第14回　カイ二乗検定
【　到達目標　】
(1)仮説検定の考え方を理解する。
(2)カイ二乗値について理解し、求め方と利用方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
提出課題（カイ二乗検定）の復習をする。(4.0hr)

第15回　実践課題
【　到達目標　】
(1)実際のデータを使って分析を行う。

【授業時間外学修】
分析方法と表やグラフについて復習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義は情報処理実習室で授業を実施します。Excelを使い分析することがほとんどですので、初回講義までにExcelの基本操作を復習し、受講の準備を怠らないようにしてください。講義では、できるだけ実際の例を示しながら解説し、数学の苦手な学生も理解ができるように工夫します。講義資料は当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップしますので、事前に講義内容を確認するようにしてください。講義では事前に配信した資料をもとに解説し、講義で行った知識を固めるために、講義の後半15～20分は課題を遂行する時間を取ります。間違えた箇所は復習を心掛けてください。講義後は、講義資料や解説動画（一部）をGoogle Drive 上に1週間掲載しますので、復習や振り返りを行うようにしてください。

【教科書・参考書など】

講義中に指示します。

【成績評価方法】

毎回行われる確認課題(講義中に提出するもの)60%、実践課題(第15回)40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。

科 目 名	知の哲学			担当者	宇多村 俊介	
英 文 名	Philosophy of Knowledge					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE111・DLE111・HLE111・CLE111		卒業認定方針との関連	①③

【到達目標】

この授業は「知」をめぐる哲学上のいくつかの局面から主題を選びながら、物事や資料、読み物を理知的に解読する習慣を養うことに主眼を置いています。これは、何を素材にするにせよ、日常的に筋道立って考え解釈するための基礎作業をなしていて、大学生として最低限、身につけておくべき論理的思考・批判的思考の諸原則と技能とを含みます。取り上げる主題としては、眼前の身近な素材や事例を用いながら、ことによると普段は当然視しているであろう事柄を批判的に捉え直す視角を学びます。各受講生がことばと思考を自覚的に使用し、みずから暮らしを哲学する端緒として欲しい。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
知をめぐる問題の所在と接近法	問題の所在を理解し、知へ接近する道程を多元的に説明することができる。	知の成立条件や知へ到る思考の過程を、資料等を見ながら説明することができる。	理解が不十分で、従前の意識と思考の枠組みから出ることができない。
思考の諸技能と明晰な言語使用	批判的思考の諸要件と諸段階を理解し、実践することができる。	批判的思考の諸要件と諸段階を、資料等を見ながら運用を試みることができる。	原則や概念の理解が不十分で、各諸技能を運用することができない。
知への視角と現代の知の諸相に関する事項	各主題の観点から世界や自己のあり様を分析し意見を述べることができる。	資料等を参照しながら、各主題の観点に基づいて事例を分析し考えることができる。	各主題への理解が不十分で、新しい視点を事例の分析と思考に取り入れることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション：哲学することと知へのアプローチ
【　到達目標　】
哲学的な問のもつ特性を理解するとともに、「考える」という作業の一端を実践して、知へアプローチする上でのその意義を自覚する。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の<検討課題>に取り組む。(4.0hr)

第２回　知の成立条件と定義：必要条件と十分条件
【　到達目標　】
定義の構成と充たすべき要件を理解した上で、知の古典的な定義とその問題点を考察することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第３回　意味と明晰さ：曖昧と漠然
【　到達目標　】
ことばを明晰に使用し、無用な混乱を避けるための分析的な諸観点を弁別して理解し、各種の事例に適用することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第４回　立論の批判的評価の諸段階１：推論の２類型
【　到達目標　】
立論(論証)の構造と、そこに体現される推論の２つの類型を把握した上で、立論の健全さを評価することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第５回　立論の解剖学：樹形図の方法
【　到達目標　】
複合的な立論を分析する手段として樹形図の方法を把握し、任意の立論の論理構造を理解することができる。同時に、この方法から取り出される書き手としての一般原則を把握し、運用することができる。
【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第６回　立論の批判的評価の諸段階２：問と論駁
【　到達目標　】
対話的な討論の枠組みのなかで立論の目的を把握し、いくつかの問のもつ機能と諸特質を弁別して理解することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第７回　　立論の批判的評価の諸段階３：歪んだ思考
【　到達目標　】
成功する立論の充たすべき諸要件に対する違反として欺瞞的な立論（虚偽）の分類と形式を把握し、虚偽を犯した個々の立論をそれと分析することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第８回　知覚経験と認識：現象と実在
【　到達目標　】
知の四つの源泉およびそれらに対応する認識の手段、能力として、感覚・知覚、表象、概念の諸特質を把握して、知覚経験のもつ限界と知覚経験の記述に客観性が成立する諸条件とについて考察することができる。
【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第９回　感情：感情と認識
【　到達目標　】
感情の三つの様態を弁別し、それぞれの認識の三能力との対応関係を理解して、みずからの生活意識を省みることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第10回　思考と行為：プラグマティックな意味基準
【　到達目標　】
行為の一段階として思考を捉える視点からプラグマティズムの守則を理解し、観念や言明を明晰化する方法として適用することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第11回　コミュニケーションの哲学：社会的自我
【　到達目標　】
コミュニケーションという用語の意味、その基本要素と諸段階を確認した上で、自我の社会性および主体性を理解し、コミュニケーションの可能性の基盤を考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第12回　現代の知の諸相１：情報時代の知
【　到達目標　】
現代の知の一形態として集合知の特性を理解し、その正当性の根拠と成立条件、および限界について考えることができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第13回　現代の知の諸相２：科学的接近法
【　到達目標　】
問題解決のための着想を評価する技能として説明上の仮説を理解し、仮説を評価するための検討項目に照らして、任意の仮説を評価することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第14回　現代の知の諸相３：俗悪なものの形而上学
【　到達目標　】
形而上学的な次元が日常的な思考や行動をどう左右するかを理解し、その観点から任意の事例を分析することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

第15回　知の主体的責任と知的誠実性
【　到達目標　】
授業を振り返り、知を表明し伝達することの意味と責任を自覚することができる。

【授業時間外学修】
授業プリント付録の参考文献(の指定箇所)を読む。同<検討課題>(4.0hr)

【学修上の留意点】

暫定的に自分の考えや意見を自覚し整理してもらうために、また、いくつかの思考の技能への一定の習熟を図るために、授業時に５～６回、課題ミニレポートを書き、提出してもらいます。これを除く各回、講義内容を踏まえた考察カードを書いてもらいます。とくに寸評を要する考察や疑問、解答例のある課題については翌週の解答・解説によって理解度を確認してもらいます。予備知識は問いませんが、各回、必ずしも馴染みのない概念や観点を学びます。集中して聴き、把握したことを実地に適用する心構えでいて下さい。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しません。授業ごとにプリントを配付します。参考文献は授業時に適宜指示します。

【成績評価方法】

各回主題への取り組み状況を踏まえた上で，授業内の課題ミニレポート30%、定期試験70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科 目 名	教養としての日本文学			担当者	石元 みさと	
英 文 名	Introduction to Japanese Literature					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE112・DLE112・HLE112・CLE112		卒業認定方針との関連	①④

【到達目標】

現代日本の児童文学作品を通時的・共時的に概観し、児童文学の変化を考察し、マンガやアニメなどの他ジャンルとの関わりにも目を配り、児童文学というジャンルの可能性について検討する授業である。
現代児童文学の状況とその作品に関心を持ち、分析するための基本的な知識を得ることを目標とする。また、関わりのある他ジャンルにも視野を広げ、起こっている現象や問題に意識的になり、自分なりの解釈・分析をできるようになることを目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
現代児童文学の状況とその作品について	背景やジャンルなども含め総合的に説明できる。	基本的な知識を説明できる。	理解が不十分で説明できない。
関心を持つ作品について	自分なりの解釈・分析ができる。	先行論をもとにした解釈・分析ができる。	先行論の理解はできる。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
教養として文学を読むことの意義、授業のねらいと方針、学習方法を理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第２回　解釈するとはどういうことか
【　到達目標　】
作品を読むことについて学び、どういう点に注目すべきか理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第３回　昔話
【　到達目標　】
昔話の特徴について学ぶ。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第４回　昔話の特徴を活かして創作する
【　到達目標　】
昔話についてグループワークをする（創作）。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第５回　創作民話を学ぶ
【　到達目標　】
創作民話『龍の子太郎』について理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第６回　ナンセンス作品を学ぶ
【　到達目標　】
ナンセンス作品について理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第７回 絵を読むとはどういうことか
【　到達目標　】
絵本『すてきな三にんぐみ』を取り上げ、絵を読み解く。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　エンターテインメント作品を読む
【　到達目標　】
『ズッコケ三人組』を取り上げ、エンターテインメントについて理解する。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第９回　詩を読む
【　到達目標　】
「わたしと小鳥とすずと」を扱い、教科書での読まれ方を考える。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第10回　ボーダーレス化する児童文学
【　到達目標　】
1990年代に広がったボーダーレスな作品について学ぶ。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第11回　作品を分析する１
【　到達目標　】
「デューク」を取り上げ、作品を詳細に分析する。ドラマ版を視聴し、他者の解釈を学ぶ。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第12回　作品を分析する２
【　到達目標　】
『西の魔女が死んだ』を取り上げ、作品のテーマについて考える。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第13回　作品を分析する３
【　到達目標　】
『西の魔女が死んだ』を取り上げ、作品のモチーフを分析する。映画版を視聴し、他者の解釈を学ぶ。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第14回　児童文学とメディアミックス
【　到達目標　】
『DIVE!!』を取り上げ、近年盛んに行われているメディアミックスついて考える。
【授業時間外学修】
次の授業で取り上げる内容に関わる課題に取り組む。(4.0hr)

第15回　まとめ
【　到達目標　】
これまで扱った作品を振り返り、自分なりの解釈・分析をする。
【授業時間外学修】
授業全体を振り返り、自己評価を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・毎時間、授業内で小レポート（作品の感想）を課す。その提出をもって出席とみなす。
・読み書きの自主学習が多いためハードである。積極的に学習に取り組む覚悟がなければ本科目は単位習得できないので､中途半端な気持ちで選択しないようにすること。
・グループワーク発表、最終レポートを課す。
・受講人数によって内容を変更する場合がある。

【教科書・参考書など】

教科書　授業時にレジュメを配布する。読み聞かせ、もしくは取り上げる作品のダイジェストを配布するが、できる限り事前に作品全体に目を通してから授業に臨んでほしい。
参考書　授業時に適宜紹介する。

【成績評価方法】

・毎回の課題提出(30%)・グループワーク発表（20%）、最終レポート(50%)
・生成AIを使用したり剽窃をしたりした者には単位を出さない。

科 目 名	音楽の世界			担当者	松橋　輝子	
英 文 名	The World of Music					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別	教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE113・DLE113・HLE113・CLE113		卒業認定方針との関連	④⑤

【到達目標】

音楽とは何か。音楽の構造や楽器に関する基礎的知識、文化としての西洋音楽の歴史を学ぶ。履修者は、解説された事項を理解し、様々な音楽の聴取体験を重ね、音楽に関する基礎的概念を身に着けるとともに、音楽と社会の関わりについても考察することが求められる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
音楽の基礎的概念について	授業で扱った概念をすべて自分の言葉で説明できる	それぞれの概念の意味するところを事典などを参考にしながら理解することができる	それぞれの概念の意味が理解できない
音楽と社会との関わりの分析	自分独自の方法論で分析ができる	授業で説明された分析が理解できる	授業で説明された分析が理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　序説～人間と音楽
【　到達目標　】
人間は音楽をどのような場面で必要とし、どのように音楽と関わってきたのか。
ギリシア語の〈ムーシケー〉に遡り、音楽の概念、音楽の歴史性を考える。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第２回　さまざまな楽器（1）
【　到達目標　】
楽器の分類法について学び、楽器の構造、奏法、歴史を理解する。
体鳴楽器、膜鳴楽器、気鳴楽器について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第３回　さまざまな楽器（２）
【　到達目標　】
弦鳴楽器、電鳴楽器について理解する。
オーケストラの歴史、編成について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第４回　声
【　到達目標　】
歌唱法、声種について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第５回　ノイズ・環境音楽
【　到達目標　】
ノイズを素材としていかに音楽を構成することが出来るのか、実例を鑑賞しながら考察する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第６回 音楽の基礎（１）
【　到達目標　】
音階の定義を学び、異なる音階に基づく音楽がもたらす聴覚的効果について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第７回　音楽の基礎（２）
【　到達目標　】
音楽の様々な基本形式を学び、作品の構造を理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第８回　音楽の基礎（３）
【　到達目標　】
音楽の様々なジャンルを学び、それぞれの音楽の文化的な位置づけを理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第９回　楽譜について（１）
【　到達目標　】
さまざまな種類の楽譜とその変遷について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第10回　楽譜について（２）
【　到達目標　】
自筆譜から出版楽譜、作品目録、批判校訂譜について理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第10回　西洋音楽の歴史（１）
【　到達目標　】
西洋音楽史の時代区分を確認し、ルネサンス時代までの音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第12回　西洋音楽の歴史（２）
【　到達目標　】
西洋音楽史の時代区分を確認し、バロック時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第13回 西洋音楽の歴史（３）
【　到達目標　】
古典派、ロマン派時代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第14回　西洋音楽の歴史（４）
【　到達目標　】
近代の音楽の特徴について実例を鑑賞しながら理解する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第15回 日本における西洋音楽の受容
【　到達目標　】
日本において西洋音楽がいかに受容されてきたのか、主に歴史的視点から考察する。

【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

【学修上の留意点】

教科書は指定せず、授業内容の要点をまとめたパワーポイントを授業後に資料としてデータで配布する。パワーポイント上に授業中、授業後に視聴すべき参考動画のリンクを埋め込む。音楽という科目の性格上、視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席をしないことが大前提となる。なお、各授業時にコメントの提出を求める。このコメントの内容も成績評価の対象とする。受講に際して音楽の知識の有無は問わないが、授業に真摯に向き合うことの出来る学生の参加を求める。

【教科書・参考書など】

参考書は授業の際に随時紹介する。

【成績評価方法】

各授業回で課すコメントの内容50%、学期末レポート50%の割合で評価する。

科目名	ジェンダー論			担当者	藤山　新	
英文名	Gender Issues					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE211・DLE211・HLE211・CLE211		卒業認定方針との関連	③④

【到達目標】

本講義では、日常生活の様々な場面に潜在するジェンダーにまつわる事象や問題について、自分自身に関係のあることとして認識し、理解を深めることを目的とする。また、本学の特徴に合わせ、セクシュアル・マイノリティやセクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、デートDVなど、学校や体育、スポーツの場面で指導的立場に立つうえで必要な知識を身につけることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ジェンダーに関する基礎的知識	知識を理解し、現実社会の課題の理解に応用できる	知識について、配布資料等を参照しながら説明することができる	知識を十分に説明できない
スポーツ場面におけるジェンダー課題について	課題について理解し、それについての自らの意見を述べることができる	課題について理解し、配布資料等を参考に意見を述べることができる	課題の理解が不十分で、意見を述べることができない
保健体育科の教育場面におけるジェンダー課題について	課題について理解し、それについての自らの意見を述べることができる	課題について理解し、配布資料等を参考に意見を述べることができる	課題の理解が不十分で、意見を述べることができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション
【　到達目標　】
(1)セックスおよびジェンダーの概念とその変遷を理解する。
(2)ジェンダー・ギャップ指数（GGI）を通じて、国際社会における日本の位置づけを知る。
(3)ジェンダーの視点から、どのような事柄が課題となりうるのかを把握する。
【授業時間外学修】授業内で提示するジェンダー・ギャップ指数のリポートを閲覧し、日本が特に経済と政治の分野で女性の参画が少ない状況を詳細に把握する。(4.0hr)

第２回　フェミニズムの歴史
【　到達目標　】
(1)フェミニズムの全体的な歴史を知る。
(2)現代のフェミニズムのありかたを理解する。
(3)現代における男性とフェミニズムの関係を理解する。
【授業時間外学修】授業内で提示する参考文献のうち、男性学に関する文献を読み、現代のフェミニズムの特徴を理解する。(4.0hr)

第３回　男女共同参画社会ってなんですか
【　到達目標　】
(1)男女共同参画社会推進法の理念を理解する。
(2)男女共同参画社会を推進するための具体的な取組を知る。
(3)スポーツ場面における男女共同参画に関する取組を知る。
【授業時間外学修】内閣府男女共同参画局HPより、第5次男女共同参画基本計画の説明資料を閲覧し、どの分野でどのような課題と取組があるのかを調べる。(4.0hr)

第４回　セクシュアル・マイノリティの基礎知識
【　到達目標　】
(1)人間の「性」の多様性と多層性について理解する。
(2)セクシュアル・マイノリティに関する今日的な話題・課題を理解する。
(3)当事者の仲間としてできること、大切にすべきことを理解する。
【授業時間外学修】授業内で提示する「マリッジフォーオール・ジャパン」のWEBサイトを閲覧し、同性婚をめぐる訴訟の経緯と現状を調べる。(4.0hr)

第５回　「リプロダクティブ・ヘルス・アンド・ライツ」という考え方
【　到達目標　】
(1)「性と生殖に関する自己決定権」が確立されるために必要な事柄を理解する。
(2)アスリートと生理に関する課題と社会的な動向について知る。
(3)フェムテックをめぐる社会的な動向と課題について理解する。
【授業時間外学修】授業内で紹介する、アスリートと生理について情報発信しているWebサイト内の動画を閲覧し、正確な知識と情報を得る。(4.0hr)

第６回　実は身近なデートDV
【　到達目標　】
(1)デートDVの構造と実態を理解する。
(2)誰もがデートDVの被害者、加害者になりうることを理解する。
(3)「ピア・サポート」の概要と重要性を理解する。
【授業時間外学修】授業中に示すデートDV防止に取り組む団体等のWebサイトを閲覧し、ピア・サポートの重要性について、授業内容とも関連させて理解を定着させる。(4.0hr)

第７回　スポーツ・ジェンダー学という世界
【　到達目標　】
(1)スポーツ・ジェンダー学の特徴を理解する。
(2)ジェンダーの視点でスポーツをとらえた時に見えてくる課題について知る。
(3)オリンピックへの女性の参加の歴史について知る。
【授業時間外学修】あらかじめ『よくわかるスポーツとジェンダー』の「Ｉ総論」を自身のスポーツへの取組と関連させながら読んで、授業に臨む。(4.0hr)

第８回　女子ボクシングの昨日・今日・明日
【　到達目標　】
(1)日本における女子ボクシングの歴史的経緯と現状を知る。
(2)メディアにおける女子ボクサーの描かれ方の特徴を理解する。
(3)スポーツが男／女らしさイメージの問い直しにつながる可能性があることを認識する。
【授業時間外学修】授業内容を踏まえ、スポーツ新聞やボクシング専門誌に目を通し、男性と女性のボクサーの報じられ方の異同について調べる。(4.0hr)

第９回　近代スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)「近代スポーツ」の概念とその歴史的展開を理解する。
(2)「近代スポーツ」と「男らしさ」の結びつきを理解する。
(3)女性とスポーツに関する国際的なムーブメントの歴史とその意義を把握する。
【授業時間外学修】授業内容のうち、「ブライトン宣言」についてWebで調べ、その内容と意義について理解を定着させる。(4.0hr)

第10回　保健体育科教育とジェンダー
【　到達目標　】
(1)トマス・アーノルドと二階堂トクヨの相違点について理解する。
(2)保健体育科教員の男女比の偏りがもたらす問題について理解する。
(3)競技スポーツに偏っている体育のカリキュラムに対するオルタナティブを考える。
【授業時間外学修】授業内で紹介するPEGP研究プロジェクトのリーフレットをWEBで閲覧し、体育が苦手な生徒に対するアプローチの方法を検討する。(4.0hr)

第11回　セクシュアル・マイノリティと学校教育
【　到達目標　】
(1)セクシュアル・マイノリティ当事者が特に体育の場面で体験しがちな困難を理解する。
(2)当事者の体験を踏まえ、教員やスポーツの指導者として、セクシュアル・マイノリティ当事者と接するうえで必要な知識や心構えを理解する。
【授業時間外学修】第4回及び第10回の授業内容とも関連させながら、教員やスポーツの指導者としてセクシュアル・マイノリティ当事者への配慮のありかたを考える。(4.0hr)

第12回　スポーツにおける多様な性1
【　到達目標　】
(1)近年のオリンピックなどで生じた、多様な性をめぐる出来事を的確に理解する。
(2)スポーツにおけるホモフォビアの存在とその現状を理解する。
(3)日本スポーツ協会による指導者への啓発・情報提供の取組の概要を知る。
【授業時間外学修】授業内で提示する日本スポーツ協会のハンドブックを読み、授業内容とあわせ、指導者として知っておくべき事柄を理解する。(4.0hr)

第13回　スポーツにおける多様な性2
【　到達目標　】
(1)トランスジェンダーのアスリートの競技参加に伴う課題を知る。
(2)DSDs（性分化疾患）のアスリートの競技参加に伴う課題を知る。
【授業時間外学修】授業内で紹介する、トランスジェンダーのアスリートの競技参加に関するIOCのルールについて、その変遷をまとめる。(4.0hr)

第14回　メディアとスポーツとジェンダーと
【　到達目標　】
(1)メディアにおける量的なジェンダー格差について理解する。
(2)メディアにおける女性アスリートの描かれ方とその変化について理解する。
(3)メディアコンテンツの分析ツールについて知る。
【授業時間外学修】授業内で紹介する、IOCの表象ガイドラインをWEBで閲覧し、スポーツ団体やアスリートがジェンダー平等な報道を促すためにできることを検討する。(4.0hr)

第15回　日常生活世界に見るジェンダー
【　到達目標　】
(1)スポーツ界特有のセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの構造を理解する。
(2)スポーツ場面における盗撮問題について、その概要を理解する。
(3)育児休業の期間や取得率の男女差、育休後の女性の復職率などの実態を知る。
【授業時間外学修】授業内で提示する男女共同参画白書令和6年版（Web版）の該当箇所を参照し、日本におけるジェンダー問題の現状を数量的に把握する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

・パワーポイントを提示しながらの講義形式で行います。必要に応じ、映像資料等も使用する予定です。
・毎時間ハンドアウトを配布します。授業内容を理解するためには、単なるハンドアウトの穴埋めにとどまらず、積極的にノートを取ることを推奨します。受講者は主体的に授業に参加し、わからない点は積極的に質問するなどしてください。授業中に質問しにくい場合には、授業の前後、およびメールでの質問にも応じます。
・下記に示した参考書や、授業内で紹介する関連書籍・資料等には、積極的に目を通すことを推奨します。
・理解度を確認するためのリアクションペーパーを複数回提出してもらいます。リアクションペーパーの内容については、次回以降の授業で一部を共有し、解説によるフィードバックを行います。

【教科書・参考書など】

教科書　特に指定しない。
参考書　『よくわかるスポーツとジェンダー』飯田貴子・熊安貴美江・來田享子著（2018）ミネルヴァ書房、『データで見るスポーツとジェンダー』日本スポーツとジェンダー学会著（2016）八千代出版、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江著（2013）ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

リアクションペーパー30%、期末試験70%で評価する。※試験は試験期間中に別途実施する。

科目名	コンピュータ実践演習			担当者	水野　有希	
英文名	Lecture and Practice in Information and Communication Technology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE212・DLE212・HLE212・CLE212		卒業認定方針との関連	②③④

【到達目標】

会社や大学、家庭など、ありとあらゆるところに情報技術が利用されています。そのような社会に生きる私たちにとって、情報技術は理論的にも実践的にも重要です。本講義では、情報技術の進歩が私たちの生活や社会にどのように影響を及ぼしているか、どのような利点と欠点が出てきたかをとらえます。また、実践として、インターネットやメールを利用した情報操作、レポート作成、画像処理、関数の応用やデータベース操作を身に付け、ホームページや資料作成などの様々な手法による情報発信技術について学びます。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
情報技術や情報倫理の基本的事項	情報発信を通して、情報の科学的な見方・考え方を自ら説明できる	情報の科学的な見方・考え方を、資料等を参考に説明できる。	情報の科学的な見方・考え方の理解が不十分で説明できない。
情報発信技術の実践的活用に関する事項	Webやアプリを用いた情報発信と情報収集の技術を修得し、自ら説明できる。	資料等を参照してWebやアプリを用いた情報発信と情報収集の技術が説明できる。	情報発信・情報収集の技術の修得が不十分で説明できない。
体育・スポーツ研究のための情報技術活用に関する事項	論文・プレゼン資料作成の高度なスキルを修得し、自ら説明できる。	論文・プレゼン資料作成に必要なスキルを修得し、資料等を参考に説明できる。	論文・プレゼン資料作成に必要なスキルの修得が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　情報技術について
【　到達目標　】
(1)情報技術とは何かを理解する。
(2)情報技術が利用されている例を見ながら理解を深める。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第２回　インターネットの仕組みと現状、情報倫理について
【　到達目標　】
(1)インターネットの仕組みを理解する。
(2)インターネットの現状を把握し、利点と欠点を理解する。
(3)情報についてのマナー、セキュリティー、プライバシー、知的財産権について学ぶ。
【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第３回　レポート・論文作成の基礎
【　到達目標　】
(1)レポートや論文の体裁や作成の注意点などを理解する。
(2)長い文章を意識したWordの技術を学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第４回　レポート・論文作成の応用
【　到達目標　】
(1)注釈、図表番号、目次の作成技術を学ぶ。
(2)レポートや論文に添付する抄録や要約について学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第５回　スライドデザイン技術の基礎
【　到達目標　】
(1)見やすい、わかりやすい、伝わりやすい資料作成について学ぶ。
(2)情報の整理、要素の配置や構成について学び、資料作成技術を修得する。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第６回　スライドデザイン技術の応用
【　到達目標　】
(1)画像処理アプリケーションソフトについて学ぶ。
(2)訴求力の高い、効果的な資料作成技術を修得する。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第７回　ホームページ作成の基礎
【　到達目標　】
(1)Googleサイトを利用したホームページの作成技術を理解する。
(2)ホームページ作成におけるマナーや問題点を理解する。

【授業時間外学修】
さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)

第８回　ホームページ作成の実践
【　到達目標　】
(1)画像データの編集技術について学ぶ。
(2)ホームページを作成・公開までの一連の作業を修得する。

【授業時間外学修】
さまざまなHPから効果的な情報発信方法を体験する。(4.0hr)

第９回　クラウドの活用：アンケート調査の基礎
【　到達目標　】
(1)GoogleDriveを利用したアンケートの作成、集計技術を理解する。
(2)アンケートの質問項目に関する作成手順や注意事項を理解する。
（※ グループワークを行います）
【授業時間外学修】
アンケートフォームからアンケートを体験する。(4.0hr)

第10回　クラウドの活用：アンケート調査の応用
【　到達目標　】
(1)クラウドを用いたデータ集計やデジタルデータの扱い方を理解する。
(2)回収したデジタルデータの整理方法について学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第11回　データベースの基本操作
【　到達目標　】
(1)データベースとは何かについて学ぶ。
(2)質的データと量的データの違いを理解する。
(3)フィルターやピボットの操作について学ぶ。
【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第12回　グラフの作成
【　到達目標　】
(1)基本的なグラフについて復習し、グラフの応用技術を学ぶ。
(2)目的に応じた、効果的なグラフの作成について学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第13回　Excelの上級
【　到達目標　】
(1)Excel関数の応用(IF関数やVLOOKUP関数など)について学ぶ。
(2)データの特徴を捉えるためのデータ整理技術や簡単な統計処理について学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第14回　資料作成の基礎
【　到達目標　】
(1)officeアプリを互換し、資料（報告書）を作成する。
(2)既存の情報（公的機関、論文など）を活用した効果的な資料作成技術を修得する。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

第15回　資料作成の応用
【　到達目標　】
(1)TPOに応じた資料作成技術を習得する。
(2)情報発信方法について「振り返り」をして、効果的な情報発信技術を学ぶ。

【授業時間外学修】
本日の授業内容について復習をする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義は情報処理実習室で実施します。1年生に行った情報処理Ⅰ・Ⅱの知識を基礎として、講義では応用的な内容を学習します。講義資料は当日9:00までに本学ポータルサイトのGoogle Drive 上にアップしますので、事前に講義内容を確認するようにしてください。講義では事前に配信した資料をもとに解説し、後半20分は課題を解く時間とします。解いた課題については、次回解説を行います。間違えた人は必ず復習をしてください。講義後は、講義資料や解説動画（一部）をGoogle Drive 上に1週間掲載しますので、復習や振り返りを行うようにしてください。

【教科書・参考書など】

資料を配付します。

【成績評価方法】

毎回行われる確認課題(講義中に提出)40%、HP作成課題・グループワーク課題（第７，９回）20%、最終レポート40%として評価します。良好な出席状況は、当然の前提です。

科目名	人間生活と地球環境			担当者	新津　修平	
英文名	Human life and Earth Environment					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE114・DLE114・HLE114・CLE114		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

本講義の前半では、生物の共通性について概説し、生命の誕生の歴史とともに、多様な生物が生息する地球環境がどのように形成されてきたのかを説明する。後半では、人間の活動が自然環境に与える影響を解説し、環境問題の現状について理解を深める。そのうえで、自然環境の保全に向けたさまざまな取り組みを学び、持続可能な社会の実現に向けた課題を考察する。最終的に、人間生活の基盤である地球環境の健全性を維持するために、私たちに何ができるのか？を考える。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
地球環境の成立と生物多様性の創出	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
人間活動による自然環境・生物への影響	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
地球環境の維持・保全のための取組	理論を十分理解し、研究知見の要点や活用について意見を示すことができる。	基礎的事項や理論の要点を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
「人間生活と地球環境」の授業の概要とねらいを理解する。
【授業時間外学修】
事前にシラバスを読み、授業内容を確認しておくこと。(4.0hr)

第２回　生物とは何かー生物の共通性ー
【　到達目標　】
生物の基本的な共通性と生命の定義について理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第３回　生物と地球環境
【　到達目標　】
生物と環境の関係性を学び、生態系における生物の役割を理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第４回　生態系の機能と物質循環
【　到達目標　】
生態系の構造と機能、および物質循環の仕組みを把握する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第５回　地球環境の成立と生命の誕生
【　到達目標　】
地球環境の形成過程と生命の起源について理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第６回　生物の多様性とその体系
【　到達目標　】
地球上の生物の多様性とその分類体系の基礎を学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第７回　人間活動と生態系
【　到達目標　】
人間活動が生態系に及ぼす影響を理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第８回　公害と環境汚染
【　到達目標　】
主要な公害や環境汚染の原因と影響について学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第９回　地球温暖化がもたらす影響
【　到達目標　】
地球温暖化の原因とその影響、対策について理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第10回　酸性化する大気と海洋
【　到達目標　】
大気や海洋の酸性化の原因とその影響を学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第11回　オゾン層の破壊
【　到達目標　】
オゾン層の役割とその破壊がもたらす影響を理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第12回　地球のエネルギー資源
【　到達目標　】
地球のエネルギー資源の現状と持続可能な利用について学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第13回　水と人間活動
【　到達目標　】
水資源の利用とその管理の重要性を理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第14回　生態系の危機と生物多様性の保全
【　到達目標　】
生態系の危機的状況と生物多様性保全の取り組みについて学ぶ。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

第15回　ごみ問題と循環型社会の構築
【　到達目標　】
ごみ問題の現状と循環型社会の構築に向けた取り組みを理解する。
【授業時間外学修】
事前に配布された資料の該当部分を読んでおくこと。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義では、毎回配布する講義スライドの詳細を説明するので、しっかりノートをとること。各講義の最後に小テストを実施する。小テストは、講義内容の理解度を確認する選択式と講義内容を踏まえた問いに対する記述式を併用する。結果については、次回の講義の最初に解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に使用せず、講義スライドを資料として配布する。

【成績評価方法】

講義内容の理解度を確認するために、各講義の最後に選択式および記述式の小テストを実施。成績は小テストの達成度を100%として評価する。合格基準は60%である。

科目名	ヨーロッパの文学と文化			担当者	加賀　岳彦	
英文名	European Literature and Culture					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	講義	科目ナンバー	SLE115・DLE115・HLE115・CLE115		卒業認定方針との関連	④

【到達目標】

ヨーロッパの文学は、日本をも含む世界中の文学・芸術・思想に多大な影響を及ぼしてきた。この授業では、ヨーロッパ文学の古典から現代までの代表的作品を、まずはその文化的背景、時代、社会と関連づけながら理解し、そして現代に生きる我々の諸問題と結び付けて考察していく。なお講義の性質上、ヨーロッパ文学と類縁関係にあるアメリカ文学、およびヨーロッパ文学から大きな影響を受けた近代日本文学をも視野に置き、頻繁に言及する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ヨーロッパの歴史の時系列的な流れ	時系列的な流れを理解し説明できる	時系列的な流れをノート等を参照しながら理解し説明できる	時系列的な流れの理解が不十分で説明できない
各時代におけるヨーロッパ文学の特徴	各時代の文学の特徴を理解し説明できる	各時代の文学の特徴をノート等を参照しながら理解し説明できる	各時代の文学の特徴の理解が不十分で説明できない
授業で学習したヨーロッパの文化的な諸側面	諸側面を理解し説明できる	諸側面をノート等を参照しながら理解し説明できる	諸側面の理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業概要の説明・ヨーロッパの地理・歴史の概観
【　到達目標　】
授業内容を理解する。
ヨーロッパの地理・歴史についての基礎概念を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第２回　ヨーロッパ文学の源流　ギリシャ神話
【　到達目標　】
ヨーロッパ文化の源流であるギリシャ神話の自然観・世界観・人間観を理解し、20世紀文学への影響等を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第３回　ヨーロッパ文学の源流　古典ギリシャ文学①
【　到達目標　】
ギリシャ神話を知識を基に、西洋最古の文学であるホメロスの英雄叙事詩『イリアス』を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第４回　ヨーロッパ文学の源流　古典ギリシャ文学②
【　到達目標　】
『イリアス』に続き、ホメロスの英雄叙事詩『オデュッセイア』を概観し、20世紀文学への影響などを考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第５回　ヨーロッパの古典思想　古典ギリシャ哲学
【　到達目標　】
その後のヨーロッパ文明に大きな影響を与えたギリシャ哲学を概観し、特にプラトンの思想を具体的に考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第６回　ユダヤ＝キリスト教①　『旧約聖書』
【　到達目標　】
ギリシャ文学と並び、後世のヨーロッパ文化を決定づけた『旧約聖書』の主要個所を精読し、その世界観・特徴・歴史的重要性を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第７回　ユダヤ＝キリスト教②　『新約聖書』
【　到達目標　】
前回の『旧約聖書』を踏まえて、『新約聖書』の主要個所を精読し、イエスの思想およびキリスト教の特徴を理解し、後世のヨーロッパ文化に与えた影響を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第８回　ヨーロッパ中世の文化
【　到達目標　】
ヨーロッパ「中世」という時代の歴史的背景を捉えた上で、カトリック、マリア崇敬などに見られる中世文化の諸特徴を考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第９回　ヨーロッパ中世の文学
【　到達目標　】
ヨーロッパ中世文学を考察する。ここでは中世期にヨーロッパ中に広まった「アーサー王伝説」およびその物語群を考察し、19～20世紀への影響等を追っていく。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第10回　ルネサンスの文学①
【　到達目標　】
中世からの時代の変化を十分踏まえながら、ルネサンス文学の特徴と本質は何なのかを、セルヴァンテスの『ドン・キホーテ』の主要個所の精読を通して考察する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第11回　ルネサンスの文学②
【　到達目標　】
前回に続きルネサンスの文学を考察する。ここではウィリアム・シェイクスピアの作品を題材に、その表現方法やテーマから、ルネサンス文学の特徴と魅力を掴む。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第12回　宗教改革
【　到達目標　】
宗教改革（Reformation）は単に宗教上の運動にとどまらず、その後のヨーロッパ近代社会の発展に様々な影響を与えた。その内実を、ルター、カルヴァンのテキストを通して理解していく。
【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第13回　ヨーロッパ近代の文学①
【　到達目標　】
宗教改革以降、ヨーロッパの近代文学には何がどのように描かれ、どのような発展と分岐を経ていったのかを概観し、その多様な特徴を理解する。主にディケンズの作品を扱う。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第14回　ヨーロッパ近代の文学②
【　到達目標　】
18～19世紀のヨーロッパ・アメリカにおけるデモクラシー・平等といった近代諸概念を、文学はどう扱い表現していったのか、その特徴を理解する。

【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

第15回　ヨーロッパの現代文学
【　到達目標　】
「戦争の世紀」と言われる20世紀、ヨーロッパでは多くの新思潮が抬頭してきた。それらの傾向と方向性を捉えた上で、モダニズム、実存、不条理など、20世紀ヨーロッパ文学が描き出した人間存在の諸問題を考察する。
【授業時間外学修】
配布資料等で授業内容を復習し、要点をノートにまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業時に配布する資料・テキストをしっかり読み、毎回の授業の復習として授業の要点を各自ノートにまとめておくことを勧める。また授業で触れた作品を自分で読んでみたり、その映画作品を観たりすると、理解が格段に深まる。

【教科書・参考書など】

授業時に資料集を配布する。また随時、重要文献・映像資料等を指示する。

【成績評価方法】

原則として、授業への出席・参加50%、期末試験50%から評価する。

科 目 名	レクリエーションミュージック・合奏			担当者	堤　　由衣	
英 文 名	Recreation music (Ensemble)					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教養・選択	教養・選択	教養・選択	教養・選択
授業形態	演習	科目ナンバー	SLE116・DLE116・HLE116・CLE116		卒業認定方針との関連	④⑤

【到達目標】

高校までの音楽科の授業を発展させる形で、「音を合わせる」ということを学ぶ。合奏や合唱の経験を通して豊かな表現力を養い、協力して一つの曲を完成させる喜びを味わう。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
楽譜についての基礎的な知識について	自ら楽譜を読み、演奏することができる。	楽譜を読み解く際、教員のサポートを得ながら演奏をすることが出来る。	楽譜を用いて演奏することが出来ない。
合奏への参加方法・演奏の習熟	自分の担当する楽器の、その曲における役割を理解し、音楽に対して創意工夫が出来る。	楽器の正しい扱いや発音の原理を理解し、演奏に参加出来る。	楽器の演奏方法を習得できず、合奏に参加出来ない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】

第１回　楽譜の基礎知識①/声のアンサンブル導入
【　到達目標　】
基本的な楽譜の読み方を理解する。歌唱に必要な身体の使い方を理解する。

【授業時間外学修】
楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)

第２回　楽譜の基礎知識②/声のアンサンブル①
【　到達目標　】
校歌の音楽的特徴を理解したうえで、二部合唱で歌う。

【授業時間外学修】
校歌のメロディーを確認する。(4.0hr)

第３回　楽譜の基礎知識③/声のアンサンブル②
【　到達目標　】
ミュージカルの有名曲を通して、合唱を楽しむ。

【授業時間外学修】
楽曲の正しいリズムを習得する。(4.0hr)

第４回　音楽の形式①/楽器のアンサンブル①
【　到達目標　】
各国の伝統的なリズムに触れ、違いを理解する。
カスタネット正しい持ち方や基本的な奏法を理解する。

【授業時間外学修】
打楽器の基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)

第５回　音楽の形式②/楽器のアンサンブル②（発表）
【　到達目標　】
カスタネットやトライアングル等によるアンサンブルを楽しむ。

【授業時間外学修】
第４回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)

第６回　リコーダー導入
【　到達目標　】
リコーダーの正しい持ち方や基本的な奏法を理解する。

【授業時間外学修】
リコーダーの取り扱いを習得する。(4.0hr)

第７回　リコーダー運指①
【　到達目標　】
初歩的な楽曲を用いながら、リコーダーの運指を理解する。

【授業時間外学修】
学修したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)

第８回　ボディーパーカッション①/リコーダー運指②
【　到達目標　】
身体を打ち鳴らして出る様々な音を発見する。リコーダーで１オクターブの音域を使って演奏する。

【授業時間外学修】
学修したリコーダーの運指を復習する。(4.0hr)

第９回　ボディーパーカッション②/リコーダー運指③
【　到達目標　】
グループごとに創意工夫をして、ボディーパーカッションのアレンジをする。
リコーダーのサミングを習得する。

【授業時間外学修】
第８回で扱った楽曲の復習をする。(4.0hr)

第10回　ボディーパーカッション③（発表）
【　到達目標　】
第９回でアレンジした曲を演奏し、互いの演奏を聴き合う。

【授業時間外学修】
第９回で取り組んだ内容の復習をする。(4.0hr)

第11回　トーンチャイム導入
【　到達目標　】
トーンチャイムの正しい持ち方や基本的な奏法を理解する。

【授業時間外学修】
トーンチャイムの基本的な取り扱いを習得する。(4.0hr)

第12回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム①
【　到達目標　】
自らのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。

【授業時間外学修】
トーンチャイム演奏における楽譜の読み方を復習する。(4.0hr)

第13回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム②/リコーダー①
【　到達目標　】
トーンチャイムのパートを正しく把握し、音を鳴らすタイミングを理解する。

【授業時間外学修】
リコーダーの奏法：タンギングの復習をする。(4.0hr)

第14回　楽器のアンサンブル：トーンチャイム③/リコーダー②
【　到達目標　】
トーンチャイム：リズム、メロディーが際立つ演奏をする。リコーダー：チューニングを学ぶ。

【授業時間外学修】
担当するパートの復習をする。(4.0hr)

第15回　リコーダー＆トーンチャイム（発表）
【　到達目標　】
今までに学修したことを生かし、より音楽的に仕上げる。

【授業時間外学修】
第14回の授業内容を復習する。(4.0hr)

【学習上の留意点】

ソプラノリコーダーは、履修する全学生が指示の通りに購入すること。
アンサンブルは一人でも欠けると成立しないため、欠席しないことを条件に課す。

【教科書・参考書など】

適宜楽譜を配布する。

【成績評価方法】

授業における課題達成度および授業内演奏の習熟度50%、授業内課題提出50%で評価する。

科目名	スポーツ運動学			担当者	森井　大樹	
英文名	Sport Movement Theory					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR101		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

スポーツ運動学の基礎的理論・事項及び研究知見について理解し、実戦場面（自らの運動経験）と絡めて説明できる。これらを踏まえて、スポーツ運動学の実践への応用について自らの運動経験と照合でき、実戦場面を想定して説明できる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ運動学の基礎的理論・事項について	理論を理解し、実践場面を想定して説明が可能	理論を教科書等の参照により、説明が可能	理解が不十分で、説明が不可能
スポーツ運動学の研究知見について	研究知見を利用し、実践場面を想定して説明が可能	研究知見に関わる資料等を利用して、説明が可能	研究知見の理解が不十分で、説明は不可能
スポーツ運動学の実践への応用について	理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合ができ、実践場面を想定して説明が可能	理論・研究知見を踏まえて運動経験との照合しての説明が可能	理論・研究知見への理解が不十分で、説明が不可能

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　スポーツ運動学とはどんな学問か
【　到達目標　】
科学の学問的特徴を理解する。
スポーツ運動学の学問的特徴を理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第２回　スポーツ種目の分類
【　到達目標　】
スポーツ種目は勝敗の決定方式によって三つの競技領域に分類できることを理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第３回　運動技能の構造
【　到達目標　】
運動技能を構成する要因である「技術」「戦術」「体力」の関係について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第４回　運動における意識の特徴
【　到達目標　】
潜在意識の概念について理解する。
運動習熟のメカニズムについて理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第５回　運動学における「コツ」と「カン」
【　到達目標　】
運動学的な「コツ」と「カン」の概念について理解する。
コツとカンの関係性について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第６回　動感の言語化
【　到達目標　】
運動における「できる」と「わかる」を運動学的に理解する。
運動構造の認識について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第７回　運動構造の運動学的認識①局面構造について
【　到達目標　】
運動形式（循環性運動、非循環性運動、運動組み合わせ）について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第８回　運動構造の運動学的認識②運動リズムについて
【　到達目標　】
運動学における運動リズムの概念について理解する。
運動のリズム化を促す要因（分節化，アクセント，時間の長短）について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第９回　運動構造の運動学的認識③動きの系統生について
【　到達目標　】
運動発生の順序性について理解する。
動きの類縁性について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第10回　運動の発生と習熟位相
【　到達目標　】
運動学習の位相論について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第11回　運動技能の上達過程
【　到達目標　】
コツを掴む過程について理解する。
運動の意味付けについて理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第12回　運動における空間の捉え方
【　到達目標　】
客観的事実と人間の感覚の特徴について理解する。
運動学における空間の概念について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第13回　運動における時間の捉え方
【　到達目標　】
客観的な時間について理解する。
運動学的な時間感覚について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第14回　できれば教えられるのか
【　到達目標　】
運動を覚える能力と教える能力の関係性について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

第15回　運動を指導する能力
【　到達目標　】
運動指導に必要な能力（観察・交信・代行・処方）について理解する。

【授業時間外学修】
配布プリントと教科書の授業内容と関連している該当箇所の熟読。(4.0hr)

【学修上の留意点】

スポーツ運動学における発生論、構造論、伝承論の領域を相互関連的に理解する必要があり、パワーポイント画面を写すだけでは表層的な理解に留まる恐れがある。自らメモをとるとともに、自己のスポーツやダンスの経験と照らし合わせながら理解することが最も重要である。また、書く力、表現する力といった総合的な能力を陶冶することが求められる。毎回の小レポートの記述を求める。さらに、スポーツ運動学では、一つの正解を覚える、または、一つの正解しかないという発想を捨てることが求められる。

【教科書・参考書など】

教科書：配布プリント
参考書：「マイネル　スポーツ運動学」Ｋ．マイネル著、金子明友訳（大修館書店）
「教師のための運動学」金子明友・監修　吉田茂、三木四郎・編（大修館書店）
「スポーツ運動学序説」朝岡正雄・著（不昧堂出版）、「スポーツ運動学」金子明友・著（明和出版）

【成績評価方法】

小レポート２０％　最終レポートもしくは試験８０％
試験の場合は、試験期間中に別途実施する。

科 目 名	スポーツ生理学			担当者	星川　佳広	
英 文 名	Sport Physiology					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR102		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

私たちの身体の諸機能のうち、スポーツ・ダンスなど身体運動と関係が深い神経系、筋系、呼吸系、循環系、内分泌系、体温調節などについて、その生理学的な仕組みの基礎を学ぶ。運動に対して身体がどのように応答するか、またそれを繰り返す（＝トレーニング）と身体はどのように変化するかに関して、ダンスの実践や指導、体育教師に必要となる生理学的理解の基礎を作る。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ生理学の基礎的知識	知識を理解し、自らの言葉で説明できる	知識を理解し、資料等を見ながら説明できる	理解が不十分で説明できない
スポーツ生理学の専門的知識	知識を理解し、自らの言葉で説明できる	知識を理解し、資料等を見ながら説明できる	理解が不十分で説明できない
スポーツ生理学の基礎・専門的知識の応用事例	ダンスの実践や指導の様々な事象への応用事例を考えることができる	授業で紹介されたダンスへの応用事例が理解できる	理解が不十分で応用事例がわからない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　スポーツ生理学とは何か
【　到達目標　】
スポーツ生理学の概要と本講義における学習到達目標を理解する。
【授業時間外学修】
教科書第1章の予習をする。(4.0hr)

第２回　スポーツと骨格筋・神経①
【　到達目標　】
骨格筋・神経の解剖、生理について理解を深める。特に筋が収縮する仕組みと筋線維組成について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。(4.0hr)

第３回　スポーツと骨格筋・神経②
【　到達目標　】
神経系からの指令を受けた筋が収縮し、運動が発現する仕組みについて理解する。
脳が筋を調節し、巧みに動く仕組みについて理解する
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第1章・7章の予習をする。(4.0hr)

第４回　スポーツとエネルギー供給機構
【　到達目標　】
エネルギーを生み出す仕組みとその種類について理解し、トレーニングに応用できる。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第2章の予習をする。(4.0hr)

第５回　スポーツと呼吸①
【　到達目標　】
運動時の呼吸機能の変化と調節機構について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。(4.0hr)

第６回　スポーツと呼吸②
【　到達目標　】
最大酸素摂取量、最大酸素借について理解する。有酸素性、無酸素性運動、体力の特性について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第3章の予習をする。(4.0hr)

第７回　スポーツと循環①
【　到達目標　】
循環系の解剖､生理について理解を深める。特に心臓の役割と運動中の心臓血管系の応答について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。(4.0hr)

第８回　スポーツと循環②
【　到達目標　】
運動中の血圧応答、トレーニングに利用できる心拍数の変化について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第4章の予習をする。(4.0hr)

第９回　スポーツと代謝、栄養①
【　到達目標　】
異化と同化、運動中のエネルギー基質利用、エネルギー必要量について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。(4.0hr)

第10回　スポーツと代謝、栄養②
【　到達目標　】
運動に関係する栄養成分の働きと特性の基礎を理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第5章・9章の予習をする。(4.0hr)

第11回　スポーツと内分泌・ストレス
【　到達目標　】
運動やストレスに対する内分泌系応答とトレーニングによる変化について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第6章の予習をする。(4.0hr)

第12回　スポーツと体組成
【　到達目標　】
体組成の概念と無酸素性、有酸素性トレーニングの効果について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第10章の予習をする。(4.0hr)

第13回　スポーツと発育発達
【　到達目標　】
身体サイズの発育および諸機能の発達について概要を理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第11章の予習をする。(4.0hr)

第14回　スポーツと体温調節
【　到達目標　】
体温調節の仕組みとパフォーマンスへの影響について理解する。暑熱環境への適応と対策について理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。教科書第12章の予習をする。(4.0hr)

第15回　スポーツと身体不活動
【　到達目標　】
運動不足や身体不活動が及ぼす身体諸機能への影響を理解する。
【授業時間外学修】
講義内容を教科書およびノートにより復習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

教科書と図表スライドを用いて講義内容の要点を示し、口頭および板書にて詳細を説明する。ほぼ毎時間、講義内容に関する予習、復習課題がある。
情報量は非常に多い。そのため講義での説明に加えて、各自で予習、復習を通し教科書を繰り返し読むことが必須である。
小テストを複数回行い、授業内でフィードバックを行うことで、知識の定着を図る。

【教科書・参考書など】

「スポーツ生理学」冨樫健二編（化学同人）

【成績評価方法】

毎回の授業への取り組み（予習・復習含む）を重視する。毎回の課題提出50%、小テスト25%、定期試験25%で評価する。

科目名	スポーツ原論			担当者	都筑　真	
英文名	Principle of Sports					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR103		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

古代から現代に至るまでのスポーツや体育に関する歴史や哲学を概観しながら、これまでのスポーツや体育のあり様や諸問題について理解し、説明できるようになる。これまでのスポーツや体育のあり様を学ぶことを通じて、現在のスポーツや体育が抱える諸問題をより深く理解し、さらにそのことを通じて、これからのスポーツや体育のあり方について自らの考えを表明できるようになる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ史学やスポーツ哲学の基礎的事項	基礎的事項を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
スポーツ史学やスポーツ哲学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
スポーツ史学やスポーツ哲学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学修】
参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)

第２回　古代のスポーツ
【　到達目標　】
(1)ギリシャやローマなどの古代のスポーツのあり様を理解し、説明することができる。
(2)古代のスポーツと現在のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第３回　中世のスポーツ
【　到達目標　】
(1)ヨーロッパや日本などの中世のスポーツのあり様を理解し、説明することができる。
(2)中世のスポーツと現在のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第４回　近代のスポーツ①
【　到達目標　】
(1)イギリスにおける近代スポーツの発展過程を理解し、説明することができる。
(2)イギリスで近代スポーツが発展した理由について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第５回　近代スポーツ②
【　到達目標　】
(1)近代スポーツが国際的に普及していく過程を理解し、説明することができる。
(2)近代スポーツが国際的に普及した意義について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第６回　近代オリンピックの創始
【　到達目標　】
(1)近代オリンピックが何故創始されたのかを理解し、説明することができる。
(2)日本の近代オリンピックとの関わりを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第７回　近代オリンピック開催を脅かしてきた様々な問題
【　到達目標　】
(1)近代オリンピックの開催を脅かしてきた問題について理解し、説明することができる。
(2)近代オリンピックが戦争やボイコットなどと関係する理由について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第８回　体育とスポーツの違いと体育の目的
【　到達目標　】
(1)体育とスポーツの概念を整理し、両者の違いを理解し、説明することができる。
(2)体育は何を目的として行われているのかを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第９回　体育の理念の変遷
【　到達目標　】
(1)体育の理念の変化について理解し、説明することができる。
(2)体育において求められる人間像の変化について理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第10回　社会変化と今後の体育
【　到達目標　】
(1)社会の変化やスポーツ需要の変化を理解し、説明することができる。
(2)社会やスポーツ需要の変化を踏まえ、今後の体育のあり方について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第11回　スポーツのグローバリゼーションとナショナリズム
【　到達目標　】
(1)スポーツのグローバリゼーションの背景や具体例を理解し、説明することができる。
(2)スポーツのグローバリゼーションの長所や問題点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第12回　スポーツと政治
【　到達目標　】
(1)スポーツ界が掲げる「政治的中立」という理想と現実について理解し、説明することができる。
(2)スポーツと政治の関係について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第13回　スポーツとドーピング
【　到達目標　】
(1)スポーツ界におけるドーピング問題と反ドーピングの取り組みを理解し、説明することができる。
(2)ドーピング問題の解決に向けて自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第14回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)スポーツにおける男性中心主義とそれを解消する取り組みについて理解し、説明することができる
(2)性の多様なあり方がスポーツにもたらす課題について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第15回　「スポーツ・フォー・オール」運動
【　到達目標　】
(1)ヨーロッパにおける「スポーツ・フォー・オール」運動の背景や展開、そしてその影響を受けて日本で展開されてきた「生涯スポーツ」の推進について理解し、説明することができる。
(2)今後の「生涯スポーツ」推進策について自らの考えを表明できる。
【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義ではほぼ毎回、講義内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。「スポーツ史」と併せて履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版）と『教養としての体育原理』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店）を講義の参考書として利用すること。

【成績評価方法】

講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。

科 目 名	スポーツ心理学			担当者	佐々木 万丈	
英 文 名	Sport Psychology					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR104		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

スポーツ心理学に関連する理論や研究知見および最新の研究成果に関わる基礎的事項を理解し説明できる。また、スポーツ競技者やダンサーとその指導者、健康運動活動に取り組む人々とその指導実践担当者、さらに、幼児を対象に運動あそび等を通じて発達を支援する保育者として、学修したスポーツ心理学の知見を有効に活用することができる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ心理学の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
スポーツ心理学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
スポーツ心理学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用を具体的に提案できる。	知見の活用法を理解しており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　スポーツ心理学概説
【　到達目標　】
(1)スポーツ心理学の定義を理解し、説明することができる。
(2)スポーツ心理学における研究課題の枠組みを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
復習課題（授業のまとめ）と予習課題（不安の役割を調べる）に取り組む。(4.0hr)

第２回　スポーツと不安
【　到達目標　】
(1)不安には状態不安と特性不安が仮説的に定義されていることを理解し、説明できる。
(2)逆U字理論を理解し説明できる。
(3)不安と覚醒水準の関係を理解し、競技場面の緊張の調整に対する活用法を説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業のまとめ）と予習（ストレスの解説を読み自分の経験を整理）に取り組む。(4.0hr)

第３回　スポーツとストレス
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の認知や行動の問題の理解と改善に、心理学的ストレス研究がどのように貢献できるのかを説明できる。
(2)競技場面のストレス状況を解消するための認知的評価と対処行動の活用法を説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（動機づけの解説を読みその定義を考える）に取り組む。(4.0hr)

第４回　スポーツと動機づけ（１）
【　到達目標　】
(1)動機づけ、欲求、誘因について理解し、説明できる。
(2)内発的動機づけおよび外発的動機づけを理解し、それぞれの理論的背景を説明できる。
(3)自己決定理論を理解し、スポーツ活動を適正に実施するための活用法を説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（資料を読みやる気を高める方法を考える）に取り組む。(4.0hr)

第５回　スポーツと動機づけ（２）
【　到達目標　】
(1)期待価値理論、原因帰属理論、社会的学習理論、達成目標理論をそれぞれ理解し、説明することができる。
(2)動機づけの諸理論を活用したスポーツ場面のやる気を高める方法について説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（運動技能の分類について整理する）に取り組む。(4.0hr)

第６回　スポーツと運動学習
【　到達目標　】
(1)運動学習における運動技能と認知技能について理解し、説明することができる。
(2)練習方法の種類について理解し、練習内容・手順について具体的に提案できる。

【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（ガイダンス仮説､文脈干渉効果などを調べる）に取り組む。(4.0hr)

第７回　運動学習とフィードバック
【　到達目標　】
(1)練習の違い（ブロックとランダム）、文脈干渉効果、ガイダンス仮説を説明できる。
(2)フィードバックの種類と方法を理解し、説明できる。
(3)運動学習の理論的背景に基づいた効果的な練習法を考案し説明することができる。
【授業時間外学修】
復習(授業まとめ)と予習(自分の心理的競技能力のレベルを測定する)に取り組む。(4.0hr)

第８回　スポーツと心理的競技能力
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手に必要な心理的要素について理解し、説明できる。
(2)自らの心理的競技能力を把握し、向上のための方法を具体的に提案できる。

【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（自らを振り返りケガの要因をまとめる）に取り組む。(4.0hr)

第９回　スポーツ傷害・障害と選手の心理
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の傷害・障害発生を心理学的に理解し、説明することができる。
(2)ストレス理論を用いたスポーツ傷害・障害の予防及び対処の方法を説明できる。
(3)リハビリテーションの心理的留意事項を理解し、効果的な取り組みの方法を説明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（バーンアウト、学習性無力感について調べる）に取り組む。(4.0hr)

第10回　スポーツとバーンアウト
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手のバーンアウトや体育学習者の学修性無力感の発症機序を説明できる。
(2)バーンアウトや学習性無力感に陥らないための対処法を、具体的に提案できる。

【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（配布資料を読んで自分の引退後を考える）に取り組む。(4.0hr)

第11回　スポーツとキャリアトランジション
【　到達目標　】
(1)スポーツ選手の競技引退に関わる問題や課題を理解し、説明することができる。
(2)部活動引退後の自らのキャリア形成に関する展望を具体的に立案し提示できる。

【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（ライフスキルの定義を調べ、内容を整理する）に取り組む。(4.0hr)

第12回　スポーツとライフスキル
【　到達目標　】
(1)スポーツ活動により獲得される心理社会的スキルの内容を説明できる。
(2)心理社会的スキルがライフスキルに般化することを理解し、その影響要因を説明できる。
(3)ライフスキルの形成に寄与するスポーツ活動の在り方を理解し、指導法を提案できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（LGBTを告白したスポーツ選手を調べる）に取り組む。(4.0hr)

第13回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
(1)ジェンダーの概念、LGBTQなどの基本的事項を理解し、説明できる。
(2)スポーツ活動場面のジェンダー問題や課題を具体的に説明できる。
(3)スポーツ活動に関わるジェンダー問題の課題解決について自らの考えを表明できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（神経性やせ症、神経性過食症、過食性障害について調べる）に取り組む。(4.0hr)

第14回　スポーツと摂食障害
【　到達目標　】
(1)摂食障害の一般的な症状について理解し、説明することができる。
(2)国内外のスポーツ選手の摂食障害の実態とその原因を理解し、説明できる。
(3)スポーツ競技者の摂食障害を防ぐための認知・行動的留意事項を提案できる。
【授業時間外学修】
復習（授業まとめ）と予習（平均が頻繁に使用される理由を考える）に取り組む。(4.0hr)

第15回　スポーツ心理学研究法
【　到達目標　】
(1)心理学研究法（質問紙法、面接法、事例研究法）の違いを理解し、説明できる。
(2)量的研究で用いられる統計分析法の種類を理解し、使用目的を説明することができる。
(3)度数分布、平均、標準偏差を求め、標本の特徴をまとめ、説明することができる。
【授業時間外学修】
本時の復習課題に取り組むと共に、改めて全体をノートに基づき振り返る。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて要点を指摘し、口頭で詳細を説明する。受講者は、指摘された重要事項を整理しながら記録すると共に、集中してメモを取り、運動やスポーツの実践あるいはその指導に役立つオリジナルのノートの作成を目指さなければならない。また、毎時間、その時間の内容に関する復習課題と次時の内容に関する予習課題を提示する。特に、復習課題では、授業で説明された理論や心理学的知見を、スポーツの活動や指導の実践場面で具体的にどのように活用するのか、自らの考えをまとめ説明することが課題となる。したがって、授業以外の時間を有効に使い、学修事項の理解を深め、知識としての定着を図る努力が必要である。復習課題に対する回答には、評価とコメントを付しフィードバックするので、受講者は内容を確認の上、以降の自らの学修の参考にしなければならない。

【教科書・参考書など】

教科書として「基礎から学ぶスポーツの心理学」（著者：佐々木万丈、出版社：勁草書房）を使用する。また、 適宜、参考資料を配付する。

【成績評価方法】

各授業回の予習課題と復習課題は提出が必須であり、毎回評価する。さらに期末試験を実施する。15回分の予習課題に対する評価、15回分の復習課題に対する評価、および期末試験の得点を総合して成績処理（S・A・B・C・D）を行う。なお、期末試験は100点満点で実施し60点に満たない場合は、予習課題と復習課題の評価を合わせても合格にはならないこととする。

科目名	機能解剖学			担当者	永野　康治	
英文名	Functional Anatomy					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR105		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

本講義の目的は骨格と各関節の構造、特徴、運動、および筋の走行、機能を学び、身体の動きを関節運動と筋肉の働きから理解することである。本講義のねらいは、体育・スポーツに関わる者として、身体の構造や動きを骨格や筋機能の面から理解することで、自らのスポーツ活動におけるパフォーマンス向上や怪我の予防に活かし、さらには運動を指導する立場において効率的な評価、処方、指導ができるようになることである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
全身の骨格について	骨格の形状やその特徴を関連付け，正しく選択，記述することができる。	骨格の形状やその特徴を資料を参考にして，正しく選択，記述することができる。	骨格の形状やその特徴を正しく選択，記述できない。
全身の関節について	関節の構造や関節運動を関連付け，正しく選択，記述することができる。	関節の構造や関節運動を資料を参考にして，正しく選択，記述することができる。	関節の構造や関節運動を正しく選択，記述できない。
スポーツ活動・指導への応用	機能解剖学の内容を，自らのスポーツ活動・指導にて実践し，見解を示すことができる。	機能解剖学の内容の一部を，自らのスポーツ活動・指導にて実践することができる。	機能解剖学を，自らのスポーツ活動・指導にて実践できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　機能解剖学概論（機能解剖学の基礎）
【　到達目標　】
(1)機能解剖を学ぶうえで必要な基礎事項や用語の定義を説明できる。
(2)全身の骨格を概観し、全身の骨の名称とその位置を同定できる。

【授業時間外学修】
全身の骨の名称とその位置を覚える。(4.0hr)

第２回　上肢の骨格1：鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨
【　到達目標　】
(1)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の骨の形状を図示できる。
(2)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)上肢(鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
鎖骨、胸骨、肩甲骨、上腕骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第３回　上肢の骨格2：尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨
【　到達目標　】
(1)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の骨の形状を図示できる。
(2)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)上肢(尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
尺骨、橈骨、手根骨、中手骨、指節骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第４回　下肢の骨格1：寛骨、大腿骨、膝蓋骨
【　到達目標　】
(1)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の骨の形状を図示できる。
(2)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)下肢(寛骨、大腿骨、膝蓋骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
寛骨、大腿骨、膝蓋骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第５回　下肢の骨格2：脛骨、腓骨、足根骨
【　到達目標　】
(1)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の骨の形状を図示できる。
(2)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)下肢(脛骨、腓骨、足根骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
脛骨、腓骨、足根骨の特徴を覚える。(4.0hr)

第６回　体幹の骨格1：脊柱、頚椎
【　到達目標　】
(1)体幹(脊柱、頚椎)の骨の形状を図示できる。
(2)体幹(脊柱、頚椎)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)体幹(脊柱、頚椎)の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
脊柱、頚椎の特徴を覚える。(4.0hr)

第７回　体幹の骨格2：胸椎、腰椎、仙骨、肋骨
【　到達目標　】
(1)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の骨の形状を図示できる。
(2)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の代表的な骨指標を同定できる。
(3)体幹(胸椎、腰椎、仙骨、肋骨)の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】胸椎、腰椎、仙骨、肋骨の特徴を覚える。骨格についての復習課題に取り組む。(4.0hr)

第８回　関節の構造と関節運動　概論
【　到達目標　】
(1)関節の大まかな構造と種類を説明できる。
(2)関節運動の定義と実際の運動を結びつける。
(3)肩甲上腕関節を例に、関節の構造と運動を説明できる。
【授業時間外学修】
各関節運動と実際の運動を一致させて覚える。(4.0hr)

第９回　関節の構造と関節運動　上肢1
【　到達目標　】
(1)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肩甲胸郭関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第10回　関節の構造と関節運動　上肢2
【　到達目標　】
(1)肘関節、前腕、手関節、指節間関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肘関節、前腕、手関節、指節間関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肘関節、前腕、手関節、指節間関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第11回　関節の構造と関節運動　下肢1
【　到達目標　】
(1)股関節、脛骨大腿関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)肘関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)肘関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第12回　関節の構造と関節運動　下肢2
【　到達目標　】
(1)膝蓋大腿関節を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第13回　関節の構造と関節運動　下肢3
【　到達目標　】
(1)足関節、足部を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)足関節、足部の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)足関節、足部の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第14回　関節の構造と関節運動　体幹1
【　到達目標　】
(1)脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)頚部、胸腰部の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)脊柱の関節(椎間関節、椎体間関節)や構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

第15回　関節の構造と関節運動　体幹2
【　到達目標　】
(1)胸郭(肋椎関節)を構成する骨、安定組織を列挙できる。
(2)(呼吸)胸郭運動の運動と作用する筋肉を関係づける。
(3)胸郭の構造や筋機能の特徴を説明できる。
【授業時間外学修】
関節運動と筋肉の対応関係を覚える。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業開始時にその日の内容に関するクイズを出題するので積極的に参加し、基礎知識を確認する。授業は配布される講義ノートへの記述を中心に授業を進める。その際に使用したプレゼンテーション資料はWeb上に公開するので、復習に用いること。授業の中盤、および終了時に理解度確認テストを行い内容を整理する。また、復習用の課題を1、7、13回目に提示し、課題に取り組むことで知識の定着を図る。その際の回答、質問はWeb上から入力し、授業中にフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書：特に指定しない
参考書：アナトミカルキネシオロジー(メディカルサイエンスインターナショナル)
　　筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)

【成績評価方法】

理解度確認テストおよび課題30%，期末試験（試験は試験期間中に別途実施）70%

科 目 名	舞台制作基礎			担当者	安達　詩穂・石川　浩子	
英 文 名	Dance Production Basics					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR106		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

この授業では、舞台上演を念頭に置いた舞踊作品の創作から上演までのプロセスと作品を踊る基礎的技術をダンサーの立場から体得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊作品の創作	振付者の意図に沿って作品創作に積極的に関わることができる。	振付者の意図に沿って作品創作に関わることができる。	振付者の意図に沿って作品創作に関わることができない。
舞踊作品の上演技術	ダンサーとして振付者の求めるダンス表現を十分に体現できる。	ダンサーとして振付者の求めるダンス表現を体現できる。	ダンサーとして振付者の求めるダンス表現を体現できない。
舞踊作品の上演の仕組み	舞踊作品の上演の仕組みを十分に理解できる。	舞踊作品の上演の仕組みを理解できる。	舞踊作品の上演の仕組みを理解できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回
【　到達目標　】
舞台制作基礎の授業の目標と進め方について理解する。

【授業時間外学修】
【授業時間外学修】
情報を収集する。(1.0hr)

第２回
【　到達目標　】
振付者の作品意図・テーマを理解する。

【授業時間外学修】
振付者の作品意図・テーマに関連する資料を収集する。(1.0hr)

第３回
【　到達目標　】
振付者の作品意図・テーマから作品の方向性について振付者とダンサー同士で理解を深める。

【授業時間外学修】
作品のテーマに関連する資料の収集とテーマに沿った動きの創作を行う。(1.0hr)

第４回
【　到達目標　】
振付者の求めるダンス表現、動きの生み出しを実践する。

【授業時間外学修】
授業時間に振り付けられた動きを練習し、新たな動きの創作を進める。(1.0hr)

第５回
【　到達目標　】
振付者の求めるダンス表現、動きの生み出しを実践する。

【授業時間外学修】
授業時間に振り付けられた動きを練習し、新たな動きの創作を進める。(1.0hr)

第６回
【　到達目標　】
振付者の求めるダンス表現、動きの生み出しを実践する。

【授業時間外学修】
授業時間に振り付けられた動きの練習、新たな動きの創作、ダンサー同士の動きの
確認を進める。(1.0hr)

第７回
【　到達目標　】
作品全体の流れを掴み、通して踊ることができる。照明・音楽・衣装・舞台装置の方向性を確認する。

【授業時間外学修】
ダンサー同士で動き・表現の確認、衣装・小道具等の準備を始める。(1.0hr)

第８回
【　到達目標　】
作品全体を通して踊ることができる。

【授業時間外学修】
ダンサー同士で動き・表現の確認、衣装・小道具等の準備を進める。(1.0hr)

第９回
【　到達目標　】
作品全体を通して、テーマに沿った表現、踊り方ができる。

【授業時間外学修】
振付者からのフィードバックに沿って練習する。(1.0hr)

第10回
【　到達目標　】
作品全体を通して、テーマに沿った表現、踊り方ができる。衣装、舞台装置を含めて作品を
踊り通すことができる。

【授業時間外学修】
振付者からのフィードバックに沿って練習する。(1.0hr)

第11回
【　到達目標　】
作品全体の踊り込みを進め、これまでの注意事項を振付者、メンバー同士で確認できる。

【授業時間外学修】
振付者からのフィードバックに沿って練習、上演準備を進める。(1.0hr)

第12回
【　到達目標　】
作品全体の踊り込みを進め、発表前日・当日のスケジュールを把握する。

【授業時間外学修】
振付者からのフィードバックに沿って練習、上演準備を進める。(1.0hr)

第13回
【　到達目標　】
作品全体の踊り込みを進め、発表前日・当日のスケジュールを確認する。

【授業時間外学修】
振付者からのフィードバックに沿って練習、上演準備を進める。(1.0hr)

第14回
【　到達目標　】
実際の舞台上演の成果を振付者、ダンサー同士で共有し、振り返ることができる。

【授業時間外学修】
舞台上演で得られた成果（上演映像、感想アンケート等）を共有、確認する。(1.0hr)

第15回
【　到達目標　】
授業を通じて得られた課題をまとめ、次の実践へ活かす計画を立てることができる。

【授業時間外学修】
授業を通じて得られた課題に関連する資料を収集する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

この授業では、舞台上演を念頭に置いた群舞の舞踊作品におけるダンサーとしての働きを学んでいきます。そのため、受講メンバー同士で協力し、コミュニケーションを十分に取りながら作品を仕上げていく姿勢が求められます。また、毎回の授業参加が必須になります。2年生の「舞台制作Ⅰ」（舞台上演運営技術を学ぶ授業）、3年生の「舞台制作Ⅱ」（舞踊作品創作と振付指導を学ぶ授業）と連動して展開されます。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題（個人カード含む）30%とし、総合的に評価する。

科 目 名	モダンダンスⅠ			担当者	坂本　秀子	
英 文 名	Modern Dance Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1	／選択の区別		専門基礎・必修		
授業形態	実習	科目ナンバー	DBR107		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

本授業では、身体の正しい使い方を理解し、基本的な技術を習得する。また様々な質を持つコンビネーションを体験し、実力を高めていく。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンスの基礎的な身体技能の修得について	基礎的な技能が十分修得できている。	基礎的な技能がおよそ修得できている。	基礎的な技能が不十分で実施できない。
ダンス表現の実現について	動きがダンス表現として成立している。	ダンス表現としてはやや不十分な点がある。	ダンスの表現として成立していない。
ダンスに関する知識と理論について	知識や理論を自ら説明できる。	知識や理論を資料を見ながら説明できる。	知識や理論が理解できていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
授業の取り組み方、その他注意事項も含めてモダンダンス基礎の講座について理解する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第２回　基礎技術の確認
【　到達目標　】
床に正しく立つこと、歩くことの基礎技術を確認し習得する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第３回　コンビネーション１
【　到達目標　】
脚上げの基礎技術を確認し習得する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第４回　コンビネーション２
【　到達目標　】
ターン系の基礎技術を確認し習得する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第５回　コンビネーション３
【　到達目標　】
ジャンプ系の基礎技術を確認し習得する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第６回　コンビネーション４
【　到達目標　】
その他の動きの基礎技術を習得する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第７回　コンビネーション１、２の発展、応用
【　到達目標　】
複合された動きをマスターする。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第８回　コンビネーション３、４の発展、応用
【　到達目標　】
複合された動きをマスターする。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第９回　習作：グループワーク１
【　到達目標　】
グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第10回　習作：グループワーク２
【　到達目標　】
グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第11回　習作：グループワーク３
【　到達目標　】
グループに分かれ、動きを考案し、クラスの仲間に教え合う事によって、動きの本質を確認する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第12回　発表、再検討
【　到達目標　】
改善する箇所を相談し、修正する事によってより深く動きの本質を理解する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第13回　グループワーク、踊り込み練習
【　到達目標　】
複数回練習する事によって、考案したフレーズをなめらかに踊れるようになる。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第14回　発表、評価
【　到達目標　】
発表、評価を通して、動きの習熟度を確認する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

第15回　ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等
【　到達目標　】
ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認する。
【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。

【学修上の留意点】

次ページに続く

科 目 名	モダンダンスⅠ			担当者	中村　恩恵	
英 文 名	Modern Dance Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実習	科目ナンバー	DBR107		卒業認定方針との関連	⑥

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】　※後期１５回分

第16回　授業進行についてのオリエンテーション 【　到達目標　】 授業の取り組み方、その他注意事項も含めて本授業について理解する。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。	**第24回　重心の移動を意識したコンビネーション１の練習** 【　到達目標　】 重心の移動を理解し、効率よく移動できるようになる。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。
第17回　身体のセンターを理解する 【　到達目標　】 身体のセンターについて理解する。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。	**第25回　重心の移動を意識したコンビネーション２の練習** 【　到達目標　】 重心の移動を理解し、ダイナミックな動きを効率よく実施できるようになる。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。
第18回　身体のセンターに対する意識を高める 【　到達目標　】 身体のセンターについて理解し意識を高める。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。	**第26回　重心の移動を意識したコンビネーション３の練習** 【　到達目標　】 重心の移動を理解し、舞踊表現に繋げることができるようになる。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。
第19回　センターを意識した身体の用い方を習得する 【　到達目標　】 身体のセンターを意識して動けるようになる。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。	**第27回　重心の移動を意識したコンビネーション４の練習** 【　到達目標　】 重心の移動を理解し、難度の高い身体表現にも効率よく対応できるようになる。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。
第20回　骨盤に対する意識を理解する 【　到達目標　】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解する。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。	**第28回　グループワーク１回目（話し合いと振付）** 【　到達目標　】 グループワークを通して、より深く動きの本質を理解し実際の動きに結びつける事が出来るようになる。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。
第21回　骨盤に対する意識を高める 【　到達目標　】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、意識を高める。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。	**第29回　グループワーク２回目（振り付けと踊り込み）** 【　到達目標　】 グループワークを通して、より深く動きの本質を理解し実際の動きに結びつける事が出来るようになる。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。
第22回　骨盤に対する意識を動きに反映させる 【　到達目標　】 身体を動かす際の骨盤の重要性について理解し、発展的な動きに取り組む。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。	**第30回　グループ作品の発表と評価** 【　到達目標　】 グループ作品の発表と評価を通して動きの習熟度を確認する。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。
第23回　骨盤に対する意識を理解し応用する 【　到達目標　】 ダンスにおける骨盤の働きを論理的に理解し、身体表現に応用することができる。 【授業時間外学修】モダンダンス作品のビデオ鑑賞や舞台鑑賞を通して、モダンダンスの動きに慣れ親しむ。	

【学修上の留意点】
ダンスする上で、最も重要な基礎を習得するため、毎時間毎時間集中して授業に取り組んで下さい。

【教科書・参考書など】
特にありません。

【成績評価方法】
授業ごとのレポート40%、テスト60%の割合で総合的に評価する。

科 目 名	クラシックバレエⅠ			担当者	渡辺　碧 ・ 曺　旼永	
英 文 名	Classical Ballet Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実習	科目ナンバー	DBR108		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

あらゆる舞踊の基礎となるバレエの基礎技法を正しく理解、体得し、品格のある健康な美しい身体を作り上げる。実践的なバレエの解剖学について学び、バレエにおける正しい身体と筋肉の使い方について理解する。バーでは組み合わせた基礎動作から身体配置を中心に学び、センターでは連続の動きの中でポジションを守ることの至難さ、音楽と動きの融合を実現させ、空間芸術を追究する。またバレエ用語についても取り上げ、ただ単にバレエの動きを体得するだけではなく、用語の名前や意味を正しく理解し、その上で動きを体現出来ることで、より深くバレエを理解することを目指す。バレエの基本3原則であるアン・ドゥオール、アプロン、エレベーションについて理解し、動きの中で常に意識すること、正しく実践できることを最終目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
バレエの基礎技法への理解	バレエの基礎技法を正しく理解し、そして正確にかつ美しく実施することができる。	バレエの基礎技法を理解し、実施することが出来る。	バレエの基礎技法への理解が不十分で、実施できない。
身体配置への理解	正しい身体配置を理解し、1つ1つの動作に必要な骨や筋肉の部分を意識して踊ることが出来る。	正しい身体配置を理解し、動作に必要な骨や筋肉を意識して踊ることが出来る。	正しい身体配置への理解が不十分である。または理解する気がない。
バレエの基本3原則とバレエ用語への理解と実施	バレエの基本3原則およびバレエ用語を正しく理解し、実施および説明することが出来る。	バレエの基本3原則およびバレエ用語を理解し、実施することが出来る。	バレエの基本3原則およびバレエ用語への理解が不十分であるため、実施することが出来ない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　クラス分け
【　到達目標　】
全員でバレエ能力テストを受け、上・中・初級にクラス分けをする。その際にそれぞれの今後の課題について検討し、理解をする。

【授業時間外学修】
テストの出来なかった部分の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第２回　オリエンテーション
【　到達目標　】
それぞれのクラスで、前期を通しての目標を確認するとともに、授業における取り組みの意識を向上させる。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第３回　身体配置（アライメント）の認識①（骨盤への理解）
【　到達目標　】
バレエにおける正しい身体配置（アライメント）について理解する。特に骨盤の構造を理解し、正しい身体配置を認識する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第４回　身体配置（アライメント）の認識②（背骨への理解）
【　到達目標　】
バレエにおける正しい身体配置（アライメント）について理解する。特に背骨の構造を理解し、正しい身体配置を認識する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第５回　バレエの基本3原則（アン・ドゥオール、アプロン、エレベーション）について
【　到達目標　】
これまでのバレエにおける正しい身体配置（アライメント）に基づき、バレエの基本3原則である、①アン・ドゥオール（ターン・アウト）、②アプロン、③エレベーションついて理解し、実践する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第６回　エクササイズ(基礎)①　（骨盤とバレエの基本3原則への理解と実施）
【　到達目標　】
身体の正しいアライメントを踏まえ、バレエの基本3原則を意識した上で、実際に基本的なバーレッスンおよびセンターエクササイズを体験する。特に骨盤を意識して実施する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第７回　エクササイズ(基礎)②　（背骨とバレエの基本3原則への理解と実施）
【　到達目標　】
前回までの復習を通して、体験にとどまらず、今まで習ってきた要素をいかにエクササイズの中で実践していくかについて検討し、それを基に実践する。特に背骨を意識して実施する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第８回　エクササイズ(基礎)③　（脚の構造とバレエの基本3原則への理解と実施）
【　到達目標　】
これまでのまとめとして、基礎的なエクササイズの中で身体を正しく使い、バレエの基本3原則を意識しながら動けているかを確認する。また脚（足）の構造について理解する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第９回　エクササイズ(応用)①　（骨盤周辺の筋肉とバレエの基本3原則への理解と実施）
【　到達目標　】
バー、センターエクササイズを通して、今までの基礎的要素をいかに応用し、より複雑なムーブメントにつなげていくかを体験する。特に骨盤周辺の筋肉の使い方とバレエの基本3原則を意識する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第10回　エクササイズ(応用)②　（背骨周辺の筋肉とバレエの基本3原則への理解と実施）
【　到達目標　】
各エクササイズにおいて、バレエにおける正しい身体配置、バレエの基本3原則を意識しながら、音楽に合わせ、正しいポジションを守りながら踊ることを理解する。特に背骨周辺の筋肉の使い方とバレエの基本3原則を意識する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第11回　エクササイズ(応用)③　（正しい身体配置とバレエの基本3原則の実施）
【　到達目標　】
応用編のまとめとして、バレエのどの動きにおいても、正しい身体配置とバレエの基本3原則を意識して、音楽に合わせ、正しいポジションを守りながら踊ることが出来る。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第12回　練習課題と反復練習①　（実技試験課題練習　振り渡し）
【　到達目標　】
半期のまとめである練習課題を習い、振付を覚える。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第13回　練習課題と反復練習②　（実技試験課題練習）
【　到達目標　】
練習課題を深く理解し、正しく踊ること出来る。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第14回　練習課題と反復練習③　（実技試験課題練習）
【　到達目標　】
練習課題を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

第15回　課題の発表と今後の検討
【　到達目標　】
課題を発表し、第2回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。
自分の中のバレエの位置づけを認識する。教員のフィードバックを踏まえて、今後の自身の目標と課題を検討する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。

【学修上の留意点】

次ページに続く

科 目 名	クラシックバレエⅠ			担当者	渡辺　碧 ・ 曺　旼永	
英 文 名	Classical Ballet Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実習	科目ナンバー	DBR108		卒業認定方針との関連	⑥

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】（後半１５回）

第16回　エクササイズ(前期の復習とその応用)①　（目標設定と自身の課題の分析） 【　到達目標　】 前期15回の評価を踏まえ、後期の授業を通しての目標、自分への今後の課題を認識するとともに、さらなる上達のための意識を高める。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。	**第24回　練習課題と反復練習①　（実技試験課題練習 振り渡し）** 【　到達目標　】 半期のまとめとして練習課題を習い、振付を覚える。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。
第17回　エクササイズ（前期の復習とその応用)②　（骨盤とバレエの基本3原則への理解） 【　到達目標　】 前期で行った内容（特に、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則）についてもう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく踊ることが出来る。 特に骨盤の正しい身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。	**第25回　練習課題と反復練習②　（実技試験課題練習）** 【　到達目標　】 練習課題を深く理解し、正しく踊ること出来る。バレエの基本3原則を意識して踊る努力ができる。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。
第18回　エクササイズ(前期の復習とその応用)③　（背骨とバレエの基本3原則への理解） 【　到達目標　】前期で行った内容（特に､正しい身体配置とその使い方､バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合せて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に背骨の正しい身体配置にフォーカスして、踊ることが出来る。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。	**第26回　練習課題と反復練習③　（実技試験課題練習）** 【　到達目標　】 練習課題を正しく踊ることが出来、自分への課題を見つけることが出来る。また、その課題の改善に向けた努力が出来る。バレエの基本3原則を意識して踊る努力が出来る。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。
第19回　エクササイズ(前期の復習とその応用)④　（脚の構造とバレエの基本3原則への理解） 【　到達目標　】前期で行った内容（特に､正しい身体配置とその使い方､バレエの基本3原則）について、もう一度復習する。応用のエクササイズになっても、これらの意識を失うことなく、音楽に合せて、ポジションを正しく守りながら踊ることが出来る。特に骨盤と背骨の身体配置と脚の構造にフォーカスして、踊ることが出来る。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。	**第27回　練習課題と反復練習④　（実技試験課題練習）** 【　到達目標　】 練習課題を正しく踊ることが出来､さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。 バレエの基本3原則を意識して正しく踊ることができる。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。
第20回　エクササイズとバレエ用語学習①　（骨盤周辺の筋肉の使い方とバレエ用語への理解） 【　到達目標　】 バーやセンターレッスンで用いられるバレエ用語について、内容や意味を理解する。 骨盤周辺の筋肉の使い方とバレエの基本3原則を意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。	**第28回　課題の発表** 【　到達目標　】 課題を発表し、後期初回授業に設定した目標をどれだけ達成しているかを理解する。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。
第21回　エクササイズとバレエ用語学習②　（背骨周辺の筋肉の使い方とバレエ用語への理解） 【　到達目標　】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語と動きを関連させて理解することが出来る。背骨周辺の筋肉の使い方とバレエの基本3原則を意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。	**第29回　バレエ用語の確認** 【　到達目標　】 これまで学んできたバレエ用語が正しく理解出来ているかを、バレエ用語と実際の動きを通して確認する。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。
第22回　エクササイズとバレエ用語学習③　（正しい身体配置とバレエ用語への理解と実施） 【　到達目標　】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。 バレエの流派によって、バレエ用語が異なることを理解する。 複雑なエクササイズの中でも、正しい身体配置とその使い方を意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。	**第30回　理解度の確認と今後の目標の検討** 【　到達目標　】 半期を通し、また、1年間を通して、それぞれの成長を確認するとともにクラシックバレエの重要性を理解する。自分の中においてのバレエの位置づけを認識する。教員のフィードバックを踏まえて、今後の自身の目標と課題を検討する。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。
第23回　エクササイズとバレエ用語学習④　まとめ 【　到達目標　】 実際のエクササイズの中でバレエ用語の意味を理解し、その用語の動きを体現出来る。 また逆に、動きからもバレエ用語が理解出来、その意味を答えることが出来る。複雑なエクササイズの中でも、正しい身体配置とその使い方、バレエの基本3原則を意識して踊ることが出来る。 【授業時間外学修】 本日の復習をする。自分が特に苦手とする部分は、時間をかけて練習を行う。	

【学修上の留意点】

授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第15回の「課題の発表と今後の検討」、第30回の「理解度の確認と今後の目標の検討」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「バレエ用語辞典」（川路明編著／東京堂出版）など、必要な資料は適宜配布します。

【成績評価方法】

実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート（課題提出）40%を総合的に評価する。

科 目 名	ジャズダンスⅠ			担当者	石川　浩子	
英 文 名	Jazz Dance Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実習	科目ナンバー	DBR109		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

ジャズダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化し、体幹を習得させ、それを踏まえた上で、幅広いシーンで対応可能な技術を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
基礎体力	柔軟性・体幹・筋力などの基礎を100%マスターしている	柔軟性・体幹・筋力などの基礎が70%以上ある	柔軟性・体幹・筋力などの基礎が30%以下しかない
技能（テクニック）	必要なテクニックを100%マスターしている	基礎的なテクニックが70%以上ある	基礎的なテクニックが30%以下しかない
表現力	発展した表現のテクニックがある	作品を理解し、それに合わせた表現ができる	作品を理解しているが、上手く表現することができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得　クロスフロアー①
【　到達目標　】
正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。
特にアイソレーションに特化した練習
ジャズダンスのテクニックを入れたクロスフロアーを習得する。
【授業時間外学修】
再度確認をし、練習する必要がある。

第２回　基礎体力・エクササイズ・ストレッチの習得　クロスフロアー②
【　到達目標　】
正しいエクササイズ・ストレッチを理解し、実践する。
特にアイソレーションに特化した練習
ジャズダンスのテクニックを入れたクロスフロアーを習得する。
【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第３回　ジャズダンスコンビネーション①-1
【　到達目標　】
邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第４回　ジャズダンスコンビネーション①-2
【　到達目標　】
邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第５回　ジャズダンスコンビネーション①-3
【　到達目標　】
邦楽を使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、身体を大きく使い体幹がぶれることなく踊れるようにする。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第６回　ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション①に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第７回　ジャズダンスコンビネーション②-1
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第８回　ジャズダンスコンビネーション②-2
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第９回　ジャズダンスコンビネーション②-3
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリの良さ等を、曲を一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第10回　ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション①に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第11回　ジャズダンスコンビネーション③-1
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさ等を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第12回　ジャズダンスコンビネーション③-2
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさ等を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第13回　ジャズダンスコンビネーション③-3
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、女性ならではの色気（セクシー）、しなやかさ等を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第14回　ジャズダンスコンビネーション（最終テスト）実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション①に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は次回追試を行う。それでも達成できなかった場合には、レポートの追加を行う。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第15回　前期ジャズダンスについての復習・レポート作成
【　到達目標　】
前期でのジャズダンスで習得したこと、自分自身の身体のや動きの変化等を、全員で話合い、意見交換する。最後に、それをレポートにまとめ提出する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

【学修上の留意点】

次ページに続く

科 目 名	ジャズダンスⅠ			担当者	石川　浩子	
英 文 名	Jazz Dance Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実習	科目ナンバー	DBR109		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】
ジャズダンスに必要な柔軟性・基礎体力を強化し、体幹を習得させ、それを踏まえた上で、幅広いシーンに対応可能な技術を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
基礎体力	柔軟性・体幹・筋力などの基礎を100%マスターしている	柔軟性・体幹・筋力などの基礎が70%以上ある	柔軟性・体幹・筋力などの基礎が30%以下しかない
技能（テクニック）	必要なテクニックを100%マスターしている	基礎的なテクニックが70%以上ある	基礎的なテクニックが30%以下しかない
表現力	発展した表現のテクニックがある	作品を理解し、それに合わせた表現ができる	作品を理解しているが、上手に表現することができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】（後半１５回）

第16回　ジャズダンスコンビネーション④-1
【　到達目標　】
邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第17回　ジャズダンスコンビネーション④-2
【　到達目標　】
邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第18回　ジャズダンスコンビネーション④-3
【　到達目標　】
邦楽のロックミュージックを使用し、日本語に合わせ、感受性豊かに、ダイナミックに激しく踊れるようにする。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第19回　ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション④に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第20回　ジャズダンスコンビネーション⑤-1
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第21回　ジャズダンスコンビネーション⑤-2
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第22回　ジャズダンスコンビネーション⑤-3
【　到達目標　】
洋楽（アップテンポ）を使用し、繊細で細かい動きや、シャープさ、かっこよさ、ノリのよさ等を、曲と一体となって踊る「グルーブ感」を習得する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第23回　ジャズダンスコンビネーション（小テスト）実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション⑤に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、達成できるまで何回でも追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第24回　ジャズダンスコンビネーション⑥-1
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるような振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。
（ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはＮＧとする）
【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第25回　ジャズダンスコンビネーション⑥-2
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるような振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。
（ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはＮＧとする）
【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第26回　ジャズダンスコンビネーション⑥-3
【　到達目標　】
洋楽（ミディアムテンポ）を使用し、独特な雰囲気を出せるよな振付を渡し、学生ひとりひとりの個性が出せるようにする。
（ただし、与えられた振付を変え、癖を出すことはＮＧとする）
【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第27回　ジャズダンステクニック復習
【　到達目標　】
前期・後期で学んだジャズダンスのテクニックを復習する。
クロスフロアー形式で練習する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第28回　ジャズダンステクニックテスト
【　到達目標　】
ジャズダンスのテクニックを、クロスフロアー形式でテストをする。
できなかった場合には、できるまで追試（再テスト）を行う。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第29回　ジャズダンスコンビネーション(最終テスト)実技テストとして評価対象とする
【　到達目標　】
コンビネーション⑥に対し、与えられた課題を達成する。テストで課題を達成できなかった場合は、次回追試を行う。それでも達成できなかった場合には、レポートの追加を行う。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

第30回　後期ジャズダンスについての復習・レポート
【　到達目標　】
後期でのジャズダンスで習得したこと、自分自身の身体や動きの変化等を、全員で話合い、意見交換する。最後に、それをレポートにまとめ提出する。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに時間を20分程度使い、再度確認をし、練習する必要がある。

【学修上の留意点】
時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。

【教科書・参考書など】
特になし。

【成績評価方法】
各技能の習熟度30%、授業における取組状況20%、実技テスト50%

科 目 名	コンテンポラリーダンスⅠ			担当者	岩淵 多喜子	
英 文 名	Contemporary Dance Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実習	科目ナンバー	DBR110		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

本授業では主にリリーステクニック、フロアーテクニックの基礎の習得を行い、骨格の構造を意識した体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、空間認識などについての理解を深め、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための基礎知識、技術の習得を目的とする。また、作品鑑賞レポートを通して、コンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
フロアーテクニックの理解と習得	床の性質と身体の構造を理解し、合理的に床を利用した動きや発展した動きに適応できる。	床の性質と身体の構造を理解し、フロアーを用いた基礎的な動きができる。	床の性質と身体の構造の理解が不足し、基礎的な動きが合理的に出来ない。
身体のアライメントの理解	身体のアライメントの構造や性質を理解し、身体を制御し表現に繋げることができる	身体のアライメントの構造や性質を理解し、基礎的な動きにおいて身体を制御できる	身体のアライメントの構造や性質への理解が不十分で、自分の身体の制御が困難
リリーステクニックの理解	フォール&リカバリー等のリリーステクニックの基礎を理解し、それが充分に体現できる	フォール&リカバリー等のリリーステクニックの基礎を理解し、体現できる	フォール&リカバリー等のリリーステクニックの基礎を理解が不十分で全く体現できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第２回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　導入
【　到達目標　】
基本エクササイズの流れを習得する。
フロアーテクニックと体のアライメントを用いたエクササイズを体験する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第３回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎①
【　到達目標　】
基本エクササイズの流れを習得する。
具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第４回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎②
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第５回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎③
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第６回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎④
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第７回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎⑤
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第８回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用①
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第９回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用②
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第10回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用③
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第11回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用④
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第12回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用⑤
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第13回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎①
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第14回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎②
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解、動きの質の変化などへの意識を高める。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

第15回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　基礎③
【　到達目標　】
より長いフレーズの中でテクニックへの理解、動きの質の変化などへの意識を高める。
【授業時間外学修】
実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。

【学修上の留意点】

次ページに続く

科 目 名	コンテンポラリーダンスⅠ			担当者	岩淵 多喜子	
英 文 名	Contemporary Dance Ⅰ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・必修		
授業形態	実習	科目ナンバー	DBR110		卒業認定方針との関連	⑥

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】（後半１５回）

第16回　授業進行についてのオリエンテーション 【　到達目標　】 今後の授業の内容と進行について理解する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。	**第24回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用②** 【　到達目標　】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。
第17回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　導入 【　到達目標　】 基本エクササイズの流れを習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。	**第25回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用③** 【　到達目標　】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。
第18回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎① 【　到達目標　】 基本エクササイズの流れを習得する。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。	**第26回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用④** 【　到達目標　】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。
第19回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎② 【　到達目標　】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。	**第27回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用⑤** 【　到達目標　】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。
第20回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎③ 【　到達目標　】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。	**第28回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　①** 【　到達目標　】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。 より長いフレーズを通して基礎テクニックの定着、向上を図る。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。
第21回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎④ 【　到達目標　】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。	**第29回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　②** 【　到達目標　】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。 より長いフレーズを通して基礎テクニックの定着、向上を図る。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。
第22回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　基礎⑤ 【　到達目標　】 使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。 フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し基礎的技術を習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。	**第30回　振り付けフレーズから動きのダイナミクスを学ぶ　③** 【　到達目標　】 より長いフレーズの中でテクニックへの理解を深める。 前期で得た知識、技術を用い、フレーズを個々で踊る。それをもとに前期を振り返り総括する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。
第23回　フロアーテクニックと体のアライメントの理解　応用① 【　到達目標　】 エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。 前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。 【授業時間外学修】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してコンテンポラリーダンスへの理解を深める。	

【学修上の留意点】

実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態で授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台に段階的に難易度が上がっていくため、個々での知識、技術の整理、復習が必要となる。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。

科目名	スポーツ栄養学			担当者	古泉　佳代	
英文名	Sports Nutrition					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR201		卒業認定方針との関連	⑤⑦

【到達目標】

ダンサーや、アスリートにとって、日々の食事は、体格や健康状態に影響を及ぼし、アスリートの競技力の向上にも関連している。そしてアスリートの食事は、競技特性にも関連している。そこで、ダンサーや、アスリートの競技特性に適した食事も理解する。さらに、近年のスポーツ栄養の研究的知見も理解し、自分自身の日常生活において活用できるようにすることが重要である。そのためにも、五大栄養素、水分補給、栄養素の消化・吸収・代謝、エネルギー消費量の推定、女性アスリートの三主徴、及び貧血といった基礎的な事項を理解し、自らの言葉で説明できるようにする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ栄養学の基礎	基礎を理解し、自らの言葉で説明できる	基礎を理解し、教科書及び資料等を参考にして説明できる	基礎を理解できない
ダンサーや審美系競技に適した食生活に関する事項	様々な場面でのダンサーや審美系競技に適した食生活を考え日常生活にも応用できる	ダンサーや審美系競技に適した食生活を理解し、考えることができる	ダンサーや審美系競技に適した食生活を理解できない
スポーツ栄養学の研究的知見の活用	近年のスポーツ栄養の研究的知見を理解し、自らの考えを述べることができる	近年のスポーツ栄養の研究的知見を理解し、活用できる	近年のスポーツ栄養の研究的知見を理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)「ダンサーの食事」について考えることができる。
(2)「食」とダンサーの関係を考えることができる。

【授業時間外学修】
教科書を見直しながら、一日の食事を見直す。(4.0hr)

第２回　栄養バランスの評価①
【　到達目標　】
(1)何を、どのくらい食べるのか、客観的に評価する3つの方法を理解する。
(2)3つの評価方法の関係性を理解し、生活に生かすことができる。
(3)ダンサーの食事のアウトプットについてディスカッションできる。
【授業時間外学修】
一日の食事の栄養バランスを見直す。(4.0hr)

第３回　エネルギー摂取と体重変動
【　到達目標　】
(1)身体活動とエネルギーの関係について理解できる。
(2)体重変動、を説明できる。
(3)推定エネルギー必要量を説明できる。
【授業時間外学修】
自分自身のエネルギー摂取量とエネルギー消費量に気をつけて生活する。(4.0hr)

第４回　ウエイトコントロールと炭水化物①食べる量と質の目安
【　到達目標　】
(1)食事を質で評価することができる。
(2)炭水化物について説明することができる。
(3)炭水化物エネルギー比について理解できる。
【授業時間外学修】
教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)

第５回　ウエイトコントロールと炭水化物②炭水化物の代謝と食品
【　到達目標　】
(1)運動時の炭水化物代謝について説明できる。
(2)根拠を持って、炭水化物を摂取する、しないという選択ができる。

【授業時間外学修】
教科書を見ながら様々な主食の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)

第６回　ウエイトコントロールと炭水化物③炭水化物の食べ方
【　到達目標　】
(1)炭水化物を効率良く摂取するために、食べるタイミング・種類を理解できる。
(2)炭水化物と同時に摂取する栄養素について考えることができる。

【授業時間外学修】
炭水化物を多く含む食品、調理方法を理解して、料理や食品を選ぶ。(4.0hr)

第７回　ウエイトコントロールとたんぱく質①たんぱく質の代謝と食品
【　到達目標　】
(1)たんぱく質代謝を理解できる。
(2)運動時のたんぱく質代謝について、糖質と関連させて説明できる。

【授業時間外学修】
教科書や資料を見ながら様々な主菜の量を計測して、適切な量を把握する。(4.0hr)

第８回　ウエイトコントロールとたんぱく質②たんぱく質の食べ方
【　到達目標　】
(1)たんぱく質の主な供給源となっている食品を説明できる。
(2)運動後に適した食事の献立を考えることができる。

【授業時間外学修】
運動後の食事を考え実践する。(4.0hr)

第9回　からだづくりに関係する栄養素①ビタミンB群とビタミンC
【　到達目標　】
(1)エネルギー代謝におけるビタミンB群の関わりを説明できる。
(2)ビタミンB群、ビタミンCの摂取について理解できる。

【授業時間外学修】
ビタミンB群、ビタミンCが多く含まれる食事を考え実践する。(4.0hr)

第10回　からだづくりに関係する栄養素②ミネラル
【　到達目標　】
(1)ミネラルの種類、体内での働きを理解する。
(2)スポーツ選手の貧血について説明できる。

【授業時間外学修】
教科書を見ながらミネラルの量を意識した献立を考える。(4.0hr)

第11回 エネルギー消費量①女性アスリートの三主徴
【　到達目標　】
(1)女性アスリートの三主徴を説明できる。
(2)エネルギー摂取量と消費量の関係を体重、体脂肪率と関連させて理解できる。
(3)ダンサーの視点でエネルギーの摂取についてディスカッションできる。
【授業時間外学修】
教科書を見ながら自分の消費量に見合った献立を考える。(4.0hr)

第12回　エネルギー消費量②エネルギー消費量の推定方法
【　到達目標　】
(1)エネルギー消費量の推定方法を説明できる。
(2)エネルギー消費量の強度と時間の関係を理解する。
(3)期分けや年代により、エネルギー消費量は変化することを理解する。
【授業時間外学修】
自分自身のエネルギー消費量を推定する。(4.0hr)

第13回　水分補給・サプリメント
【　到達目標　】
(1)水の出納を説明できる。
(2)サプリメント、エルゴジェニックエイド、いわゆる健康食品を説明できる。
(3)健康食品について、ダンサーの視点でディスカッションできる。
【授業時間外学修】
サプリメント、エルゴジェニックエイドについてインターネットを利用し調べる。(4.0hr)

第14回　時間栄養学①脂質と運動
【　到達目標　】
(1)脂質代謝を説明できる。
(2)食事での脂質の摂取を考えることができる。

【授業時間外学修】
脂肪酸の種類を理解して、料理や食品を選ぶ。(4.0hr)

第15回　時間栄養学②運動や食事のタイミングとエネルギー代謝
【　到達目標　】
(1)一晩絶食でのエネルギー代謝を説明できる。
(2)自分に適した食事と運動のタイミングを考えることができる。

【授業時間外学修】
運動と食事のタイミングを考え実践する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義の要点を示し、口頭で詳細を説明する。教科書で単語や数値を確認しながら理解を深めていく。受講生は、授業前までにGoogleドライブにアップされた資料をダウンロード、印刷等で用意し、各自準備する必要がある。
本講義を理解するためには、自分自身の食生活や運動経験を振り返りること、授業内で学生同士のディスカッションや測定、計算等を取り入れるため、自分だけなく、他者の食生活にも興味を持ちながら受講することが大切である。
講義では、毎回、授業内容に関する理解度確認テストを実施し、理解度の確認を行う。

【教科書・参考書など】

「ビジュアルワイド食品成分表　文部科学省科学技術・学術審議会　資源調査分科会　報告　五訂増補日本食品標準成分表」東京書籍
計算が苦手な受講者は電卓を用意しておくこと。
参考図書に関しては授業内で適宜、紹介する。

【成績評価方法】

試験を試験期間中に別途実施する。期末テストでの評価は70%、毎回の理解度テストの評価を30%として、併せて100%で評価する。合格基準は60%である。

科 目 名	女性のライフステージと運動			担当者	井筒　紫乃・沢井　史穂 都筑　真・須永　美歌子	
英 文 名	Life Stage and Physical Activity of Women					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBR202		卒業認定方針との関連	④⑦

【到達目標】

ライフステージによって変わる女性の身体の構造と機能の特徴を知り、幼児期から老年期に至るまでの各ステージに応じた運動への取り組み方について理解し、説明できるようになる。また、女性の性機能と運動の関わり、女性特有の健康問題と運動との関わり、体力・運動能力の男女差、女性アスリートの健康問題等について理解を深め、説明できるようになる。そして、それらの学習成果を実生活に生かすことができるようになる。また、一生を通じて女性が運動・スポーツと関わることの意義や価値を他者に伝えることができるようになる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ライフステージごとの女性の身体の構造と機能の特徴	ライフステージごとの女性の身体の構造と機能の特徴を理解した上で説明できる	参考資料を基にライフステージごとの女性の身体の構造と機能の特徴を説明できる	理解が不十分で説明できない
女性の性機能と運動との関わり	女性の性機能と運動との関わりについて理解した上で説明できる	参考資料に基づいて女性の性機能と運動との関わりを説明できる	理解が不十分で説明できない
女性特有の健康問題と運動との関わり	女性特有の健康問題と運動との関わりを理解し説明できると共に実践につなげることができる	参考資料を基に女性特有の健康問題と運動との関わりについて説明できる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション　女性と運動　（担当：沢井）
【　到達目標　】
(1)女性としての自分と運動・スポーツとの関わり方、年齢と運動との関係、女性スポーツ選手のイメージなど、いくつかのキーワードに沿って女性と運動についての自分の考えを述べることができる。
【授業時間外学修】
メディアや周囲の人が女性と運動との関わりをどうとらえているかを調べる。(4.0hr)

第２回　女性のスポーツ参加の変遷　（担当：都筑）
【　到達目標　】
(1)社会環境の変化にともなう女性のスポーツ参加の変遷を理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
女性の参加する各種競技会やスポーツイベントに関心を持ち、参加したり観戦したりする。(4.0hr)

第３回　女性のスポーツ参加の現状　（担当：都筑）
【　到達目標　】
(1)現代女性の身体活動量、運動・スポーツ実施率の現状を知り、説明できる。
【授業時間外学修】
スポーツ活動に参加したり、定期的な運動習慣を身につける。(4.0hr)

第４回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（乳幼児期）　（担当：井筒）
【　到達目標　】
(1)乳幼児期の身体特性と運動発達との関わりについて理解し、説明できる。
(2)現代の生活環境において幼児の運動経験が健康に及ぼす影響について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
幼児の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第５回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（発育発達期）（担当：井筒）
【　到達目標　】
(1)発育発達期における女子の身体特性と運動発達の特徴について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
発育発達期の運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第６回　体格・身体組成・体力・運動能力における性差　（担当：井筒）
【　到達目標　】
(1)体格や身体能力の性差について、それが生じる要因とともに理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
運動場面で見られる性差について整理し、復習する。(4.0hr)

第７回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（成人期）　（担当：沢井）
【　到達目標　】
(1)現代の若い成人女性が抱える健康問題と運動との関わりについて理解し、説明できる。
(2)思春期の女性が抱える心の問題と運動との関わりについて理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
若い成人女性の身体特性や運動に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第８回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（壮年期）　（担当：沢井）
【　到達目標　】
(1)壮年期女性の身体特性を理解し、適切な運動習慣の取り入れ方について理解し、説明できる。
(2)肥満や生活習慣病の予防としての運動の効果について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
壮年期の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)

第９回　女性の性機能と運動との関わり（女性ホルモンの働きと性周期）（担当：須永）
【　到達目標　】
(1)女性ホルモンの働きと性周期に伴う各種ホルモン、子宮、卵巣の変化を理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
授業で扱った内容を整理し、復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第10回　女性の性機能と運動との関わり（月経と運動）　（担当：須永）
【　到達目標　】
(1)月経周期、月経前症候群（PMS）、月経随伴症状について理解し、運動との関わり方について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第11回　女性の性機能と運動との関わり（妊娠・出産と運動）　（担当：須永）
【　到達目標　】
(1)妊娠・出産に伴う身体の変化について理解し、説明できる。
(2)妊娠期および産褥期における運動への取り組み方について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第12回　女性の性機能と運動との関わり（月経周期と運動パフォーマンス）（担当：須永）
【　到達目標　】
(1)月経周期と運動パフォーマンスとの関係について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第13回　女性アスリートの健康問題　（担当：須永）
【　到達目標　】
(1)現代の女性アスリートが抱える様々な健康問題（月経異常、摂食障害、骨粗鬆症等）について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
女性アスリートの健康問題に関する情報や資料を集めて読む。(4.0hr)

第14回　女性の性機能と運動との関わり（更年期障害と運動）　（担当：沢井）
【　到達目標　】
(1)閉経がもたらす影響と更年期障害について理解し、説明できる。
(2)更年期女性にとっての運動の効果について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
授業で扱った内容を復習するとともに、次回の授業の準備をする。(4.0hr)

第15回　一生を通じての身体の構造と機能の変化と運動（老年期）　（担当：沢井）
【　到達目標　】
(1)加齢にともなう身体機能の低下に応じた運動について理解し、説明できる。
(2)高齢者の運動実施における留意点について理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
高齢者の健康と運動に関連する資料を探して読む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

本授業は4名の教員が講義を担当するオムニバス形式であり、オンデマンド方式で実施する。配信される教材は、各授業回の音声入りパワーポイント動画と資料（保存・印刷可）である。予め資料を学内で受け取るか、各自でダウンロード・印刷して準備をしてから動画を視聴すること。配信は、毎週同一曜日の9:00に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップし、一週間（7日目の24：00まで）掲載する。毎回の受講内容に関する理解度を確認するための小テストがあるので、必ず回答を送信すること。回答結果は直ちにフィードバックされるので、自身の理解度を確認し、復習に繋げること。また、授業に対する感想や質問の記入欄があるので、積極的に記載してほしい。コメントに応じて随時フィードバックを行う。出席は、各授業回で実施する確認テストの回答の送信によって確認する。オンデマンド方式であるが、受け身ではなく積極的に学習する態度で受講してほしい。全授業終了後には別途期末テスト（全範囲から出題）をオンデマンド方式で実施するので、毎回の受講資料をもれなく保管しておくこと。

【教科書・参考書など】

特に指定はない。授業内で適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

各授業回の確認テストと全授業終了後に別途実施する期末テストの得点をあわせて、総合的に評価する。各授業回の確認テストの合計点50%、期末テスト50%、あわせて100%の評価を行う。合格基準は60%である。

科目名	健康科学論			担当者	沢井　史穂	
英文名	Introduction to Health Science					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE101		卒業認定方針との関連	④⑦

【到達目標】

現代人の抱える健康問題を、主に生活環境の変化との関わりから理解し、説明できるようになる。特に、日本における疾病構造の変化と主な死因の推移、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームのリスクファクターとその予防について、運動を中心とするライフスタイルとの関連で理解し、説明できるようになる。また、年齢、性機能、休養、ストレスと健康との関わりについて理解し、説明できるようになる。これらの学習過程を通じて、現代の健康の問題に対する科学的見方を身につけ、実生活の中で活用できるようになる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
現代人の健康問題の原因と予防・改善策	現代人の健康問題を理解した上で、それらの予防・改善策を具体的に講じることができる	正しい情報や資料に基づいて現代人の健康問題を理解し基本的な予防・改善策について説明できる	理解が不十分で説明できない
ライフスタイルと健康との関わり	健康のために望ましいライフスタイルを自ら選ぶことができる	健康のために望ましいライフスタイルを理解し説明できる	理解が不十分で説明できない
年齢や性差が健康に及ぼす影響	年齢や性の違いを考慮した健康づくり対策ができる	年齢や性差が健康に及ぼす影響を理解し説明できる	理解が不十分で年齢や性差の影響を説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　健康科学論ガイダンス
【　到達目標　】
(1)「健康科学論」の学習内容とねらいを理解し、説明できる。
(2)健康に関わるキーワードに対する自己の理解度を確認し、今後の学習課題を示すことができる。
(3)自己の健康観を具体的に説明することができる
【授業時間外学修】
「健康」に関するキーワードの意味を調べる。(4.0hr)

第２回　健康とは何か　健康観の変遷　現代における健康観
【　到達目標　】
(1)「健康」の定義を理解し、説明することができる。
(2)健康観の歴史的推移を知り、現代における望ましい健康観を述べることができる。
【授業時間外学修】
各種メディアの発信する「健康」関連情報に関心を持ち、視聴したり読んだりする。(4.0hr)

第３回　日本人の健康問題　人口構成の推移　疾病構造の変化
【　到達目標　】
(1)死因順位の大きな変化とその要因について理解し、説明することができる。
(2)現代日本人の抱える健康問題を、人口構成の推移、疾病構造の変化とともに理解し、説明することができる。
【授業時間外学修】
授業で扱った健康問題の資料を整理し、復習する。(4.0hr)

第４回　生活習慣病とは
【　到達目標　】
(1)健康な生活を送る上での良い生活習慣について理解し、説明することができる。
(2)生活習慣病の定義、危険因子、予防策について理解し、説明することができる。
【授業時間外学修】
良い生活習慣について復習し、自分の生活習慣を見直して行動変容につなげる。(4.0hr)

第５回　循環系疾患とライフスタイル
【　到達目標　】
(1)心臓病と脳血管病、その基礎疾患としての動脈硬化、高血圧、糖尿病とライフスタイルとの関連を理解し、説明することができる。
【授業時間外学修】
循環系疾患に関連するライフスタイルについて復習し、予防行動につなげる。(4.0hr)

第６回　代謝異常とライフスタイル
【　到達目標　】
(1)脂質異常症とは何かを知り、脂質異常をもたらすライフスタイルを理解し、説明することができる
(2)糖尿病とは何かを知り、糖代謝異常をもたらすライフスタイルを理解し、説明することができる。
(3)代謝異常の予防・改善策を考えることができる。
【授業時間外学修】
代謝異常の予防につながるライフスタイルについて復習し、自らの日常生活に還元する。(4.0hr)

第７回　メタボリックシンドローム・肥満の判定と予防
【　到達目標　】
(1)メタボリックシンドロームの定義と判定基準を理解し、説明することができる。
(2)メタボリックシンドロームの現状、危険因子を理解し、予防・改善策を示すことができる。
(3)肥満の定義と判定基準を理解し、予防と改善策を示すことができる。
【授業時間外学修】
授業の内容を復習し、メタボリックシンドロームや肥満の予防行動につなげる。(4.0hr)

第８回　骨の健康　骨粗鬆症の予防
【　到達目標　】
(1)人の一生を通じた骨量、骨代謝の変化を理解し、説明することができる。
(2)丈夫な骨を形成し、骨粗鬆症を予防するための方策を考え、実践することができる。
【授業時間外学修】
授業の内容を復習し、丈夫な骨を作るための生活習慣を心がける。(4.0hr)

第９回　ロコモティブシンドロームの概念と予防
【　到達目標　】
(1)ロコモティブシンドロームの概念、定義、危険因子を理解し、説明することができる。
(2)ロコモティブシンドロームの予防策を示すことができる。
【授業時間外学修】
授業の内容を復習し、将来のロコモティブシンドロームの予防につながる生活行動を身につける。(4.0hr)

第10回　高齢者の運動と健康
【　到達目標　】
(1)加齢に伴う身体の構造と機能の変化を理解し、説明することができる。
(2)中高齢者、高齢者の健康に運動が果たす役割や意義について理解し、説明することができる。
【授業時間外学修】
高齢者の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第11回　子どもの生活環境の変化と健康
【　到達目標　】
(1)現代の生活環境が子どもの健康に及ぼす影響について理解し、説明することができる。
(2)成長に伴う身体の構造と機能の変化を理解し、説明することができる。
(3)成長期における健康問題について理解し、説明することができる。
【授業時間外学修】
子どもの健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第12回　女性の性機能の変化と健康
【　到達目標　】
(1)女性の一生を通じての性機能の変化と女性特有の健康問題について理解し、説明することができる。
(2)月経周期の正常と異常、体調の変化について理解し、説明することができる。
【授業時間外学修】
女性の健康に関する文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第13回　妊娠と健康
【　到達目標　】
(1)妊娠期の身体の変化と生活の注意点について理解し、説明することができる。
(2)避妊・不妊・出生前診断など、生命倫理に関する問題について自分の考えを示すことができる。
【授業時間外学修】
妊娠にまつわる文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第14回　女性の生理の最新情報
【　到達目標　】
(1)女性の生理に関する最新情報について理解し、説明することができる。
(2)生理にまつわる問題について理解し、自分なりの意見を述べることができる。
【授業時間外学修】
生理にまつわる問題についての文献や資料を探して読む。(4.0hr)

第15回　休養と健康
【　到達目標　】
(1)睡眠の質、サイクルと健康・運動との関わりについて理解し、説明することができる。
(2)休養と健康との関わりについて理解し、説明することができる。
【授業時間外学修】
授業で扱った内容を復習し、毎日の生活の中で適切な休養を心がける。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業では、パワーポイントと配布資料を使って講義を行う。また、授業内で取り上げるテーマに応じて、適宜、視聴覚教材などを使用することで理解を深める。授業中は重要なポイントを確認しながら資料に書き込んでいくので、受け身ではなく積極的に学習する姿勢を持つこと。ほぼ毎時間、授業の最後に受講した内容に関する理解度を確認するための小テストをGoogle Formを使って実施する。回答結果は直ちにフィードバックされるので、自身の理解度を確認し、復習に繋げること。Google Formの中に授業に対する感想や質問の記入欄があるので、積極的に記載してほしい。コメントに応じて次の授業の中でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

特に指定はない。必要な資料をその都度配布（配信）する。

【成績評価方法】

各授業回における理解度確認テストの総合評価（50%）と試験期間中に別途実施する期末テスト(50%）を併せて（100%）評価する。合格基準は60%である。

科目名	発育発達論			担当者	井筒　紫乃	
英文名	Growth and Development					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE102		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

ヒトの一生における発育発達と老化の特性についての知識を身につけるとともに、それぞれの年齢においての発育発達特性を考慮した運動をはじめとする身体活動と健康関連指標との関係と運動指導の重要性を理解する。更に、それぞれのステージの身体の発育と運動発達との関係を理解し、そのステージに必要となる運動プログラムの作成方法について、考慮しなければならないことについて理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ヒトの身体の発育や心・運動発達の過程・理論について	理論について自らまとめて説明できる	理論を資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
ヒトの心身の発育発達の知見に関する事項	発育発達の要点を自らまとめて説明できる	理論を資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない
ヒトの心身の発育発達に関わる運動発達の知見に関する事項	発育発達の要点を自らまとめて説明できる	理論を資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　発育発達とは、心理的特徴
【　到達目標　】
(1)発育発達の概念を理解する。
(2)身体計測の測定法を理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、発育と発達の違いについて調べてくること。(4.0hr)

第２回　地球の誕生・人類の誕生と進化
【　到達目標　】
(1)地球の誕生から、人類への進化過程について理解する。
(2)人類はどのように二足歩行を獲得したのかを理解する。

【授業時間外学修】
ノートに、生物の誕生から人類への進化を時系列にまとめる。(4.0hr)

第３回　赤ちゃんの発育発達
【　到達目標　】
(1)出生後、赤ちゃんはどのように発育し、発達していくかを理解する。
(2)生物学的成熟度について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、生まれた時の自身の身長、体重を調べておくこと。(4.0hr)

第４回　発育発達期の身体的特徴（体重・身体組成）
【　到達目標　】
(1)子どもの肥満の弊害について理解する。
(2)やせの問題について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、子どもの肥満と痩身の出現率を調べ、各々の問題点をまとめてくること。(4.0hr)

第５回　幼児期前期（1～3歳）の発育発達
【　到達目標　】
(1)幼児期前期の身体の発育と運動発達について理解する。
(2)幼児期前期の形態・発達の特徴について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、身体組成の計測方法を調べてくること。(4.0hr)

第６回 幼児期後期（4～5歳）の発育発達
【　到達目標　】
(1)幼児期後期の身体の発育と運動発達を理解する。
(2)幼児期後期の形態・発達の特徴について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、スキャモンの発育曲線について調べてくること。(4.0hr)

第７回　小学生期の発育発達
【　到達目標　】
(1)小学生期の身体の発育と運動発達について理解する。
(2)ゴールデンエイジの身体の発育の発達について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、文部科学省による基本的動作スキルの測定法を調べてくること。(4.0hr)

第８回　ジュニア期の運動発達
【　到達目標　】
(1)ジュニア期の身体の発育と運動発達の特性について理解する。
(2)ゴールデンエイジの運動発達の特徴について理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、プレゴールデンエイジ、ゴールデンエイジについて調べてくること。(4.0hr)

第９回　中学生期の発育発達
【　到達目標　】
(1)身体活動量や座位行動と健康関連指標との関係について理解する。
(2)日本と世界の身体活動量や座位行動の推奨値を理解する。

【授業時間外学修】
受講前に幼児期運動指針を調べてくること。(4.0hr)

第10回　高校生期の発育発達
【　到達目標　】
(1)高校生期の身体の発育と心の発達を理解する。

【授業時間外学修】
スポーツ庁による全身持久力の測定法を調べてくること。(4.0hr)

第11回　日本と世界の子どもの身体的特徴と生活習慣の現状
【　到達目標　】
(1)日本と世界の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。
(2)47都道府県の子どもの身体的特徴と運動などの生活習慣の現状を理解する。

【授業時間外学修】
受講前に、世界の子どもの肥満者と痩身者の出現率を調べてくること。(4.0hr)

第12回　発育発達期の運動プログラム
【　到達目標　】
(1)発育発達期の運動プログラムの留意点を理解する。
(2)発育発達期の運動・スポーツの体力への効果を理解する。

【授業時間外学修】
子どもの運動プログラムを考える際､留意すべき点について意見をまとめてくること｡(4.0hr)

第13回　思春期の女性のからだ
【　到達目標　】
(1)思春期の女性の身体的特徴を理解する。
(2)思春期の身体の変化における心の発達を理解する。

【授業時間外学修】
思春期の女性の身体の変化の留意点ついて意見をまとめてくること。(4.0hr)

第14回　女性とスポーツ
【　到達目標　】
(1)女性選手の三主徴について理解する。
(2)女性の痩せについて理解する。

【授業時間外学修】
受講前に､女性アスリートを指導する際に､留意すべき点について意見をまとめてくること｡(4.0hr)

第15回　ヒトの一生と発育発達
【　到達目標　】
(1)ヒトの一生の発育と成長、心と運動発達を理解する。

【授業時間外学修】
受講前に､14回目まで作成したノートをまとめておくこと。(4.0hr)

【学修上の留意点】

対面形式授業を実施する。各授業回において、パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて資料を配布するため、資料を使用しながら、ノートを作成していく。ほぼ毎時間、講義内容に関する課題について、リアクションペーパーに記入し、提出する。

【教科書・参考書など】

特に指定はしない。

【成績評価方法】

各授業回の課題を40%、期末試験を60%、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。

科 目 名	表現運動学演習（エアロビックダンス）			担当者	安達 詩穂	
英 文 名	Seminar in Expressive Movements (Aerobic Dance)					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE103		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【到達目標】

エアロビックダンスエクササイズはリズミカルな有酸素性運動であるという特性を理解し、エアロビクスの基礎理論、基本構成、基本ステップ等を習得する。
グループエクササイズのプログラム作成・演習を通じて、プログラム作成能力・指導力を身につける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
エアロビックダンスエクササイズの基本ステップについて	基本ステップを習得し正確に大きく伸び伸びと動くことができる	基本ステップを習得し動くことができる	基本ステップ名と動きが一致せず正しく動けない
エアロビックダンスエクササイズのプログラム構成について	プログラム構成の目的と効果を正しく理解し自ら構成ができる	プログラム構成の目的と効果が説明できる	プログラム構成の目的と効果が説明できない
エアロビックダンスエクササイズの指導技術について	動きながらタイミングよくはっきりと的確な指導ができる	動きながら声を出して指導ができる	動きながら必要な声掛け等の指導ができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　エアロビックダンスエクササイズの歴史と発展
【　到達目標　】
エアロビックダンスエクササイズの歴史を習い、それを十分に理解する。
【授業時間外学修】
エアロビックダンスエクササイズの歴史と現状のプログラム内容の復習をする。(4.0hr)

第２回　エアロビックダンスエクササイズの基礎理論
【　到達目標　】
フィットネス全般についてのコンセプトと注意点、及びエアロビックダンスエクササイズの基礎的要素を学び、理解する。
【授業時間外学修】
エアロビックダンスエクササイズ以外の有酸素性運動の種類を事前に調べる。(4.0hr)

第３回　エアロビックダンスエクササイズの研究
【　到達目標　】
エアロビックダンスエクササイズの研究から「エビデンスに基づいた指導」を心掛けられるようにな
【授業時間外学修】
エアロビックダンスエクササイズの研究から実践で活かせる知識をまとめる。(4.0hr)

第４回　エアロビックダンスエクササイズの構成
【　到達目標　】
エアロビックダンスエクササイズの４つのパート（ウォームアップ、メインエクササイズ、筋コンディショニング、クールダウン）の目的と構成を理解する。
【授業時間外学修】
エアロビックダンスエクササイズの４つのパートをまとめて復習する。(4.0hr)

第５回　ウォーミングアップ
【　到達目標　】
ウォーミングアップの目的と構成を理解する。
【授業時間外学修】
目的に沿ったウォーミングアップを作成する。(4.0hr)

第６回　ローインパクトステップ
【　到達目標　】
基本ステップ(ローインパクトステップ)を習得し、正確に動けるようにする。
【授業時間外学修】
基本のローインパクトステップの練習をする。(4.0hr)

第７回　ハイインパクトステップ
【　到達目標　】
基本ステップ(ハイインパクトステップ)を習得し、正確に動けるようにする。
【授業時間外学修】
基本のハイインパクトステップの練習をする。(4.0hr)

第８回　メインエクササイズのプログラム構成
【　到達目標　】
メインエクササイズのプログラム構成と目的を理解する。
【授業時間外学修】
安全で効果的なメインエクササイズのプログラム構成を復習する。(4.0hr)

第９回　メインエクササイズのプログラム作成①
【　到達目標　】
メインエクササイズのアップのプログラムを作成する。
【授業時間外学修】
メインエクササイズ全体の構成を理解しアップのプログラムを作成する。(4.0hr)

第10回　メインエクササイズのプログラム作成②
【　到達目標　】
メインエクササイズのキープのプログラムを作成する。
【授業時間外学修】
運動強度を考慮して、メインエクササイズを作成する。(4.0hr)

第11回　メインエクササイズのプログラム作成③
【　到達目標　】
メインエクササイズのダウンのプログラム作成と、全体のまとめを行う。
【授業時間外学修】
安全で効果的なメインエクササイズの構成であるかチェックし、実際に動いてみる。(4.0hr)

第12回　指導法(対面・背面指導)①
【　到達目標　】
グループエクササイズにおける指導法(対面・背面指導)について学び実践する。
【授業時間外学修】
様々な指導法を用いて声を出しながら指導する練習をする。(4.0hr)

第13回　指導法(対面・背面指導)②
【　到達目標　】
グループエクササイズにおいての効果的な指導技術を学ぶ。
【授業時間外学修】
動きながら声を出しての指導を練習する。(4.0hr)

第14回　指導法(対面・背面指導)③
【　到達目標　】
対面・背面両方の指導技術を習得する。
【授業時間外学修】
明確な動きで解り易く声を出して指導ができるように練習する。(4.0hr)

第15回　筋コンディショニング・ストレッチの基本構成
【　到達目標　】
筋コンディショニング、ストレッチの基本構成について理解する。
【授業時間外学修】
基本の筋コンディショニングとストレッチを復習して練習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

原則として対面形式で授業を実施する。感染予防対策の為に、授業中は換気を徹底して行う。マスクの着用は任意とする。
発熱等で体調のすぐれない場合は、無理をせずに授業は欠席すること。翌週以降に欠席届を提出。
怪我の場合は、本人の自主性に任せるが、見学することもできる。

【教科書・参考書など】

特に指定しない。

【成績評価方法】

実技テスト60%と課題のレポート提出40%の合わせて100%で評価する。

科目名	ストリートダンス			担当者	城所 正樹・仙名 立宗 半井 暁子	
英文名	Street Dance					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR104		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

ソウルダンス、ミュージカルダンス、ヒップホップダンスの基礎を習得する。また各ダンスジャンルの特性を理解し、各種の特徴的なステップを表現できるようになることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
基本リズム	基本的なリズムを踏むことが十分できる	基本的なリズムを踏むことができる	基本的なリズムを踏むことができていない
基本技能	基本技能を十分習得している	基本技能を習得している	基本技能を習得できていない
表現力	表現テクニックを十分習得している	表現テクニックを習得している	表現テクニックを習得できていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ソウルワックダンス①
【　到達目標　】
音楽にノル為のリズムトレーニングの実践　(UP groove)
forcornerの習得、waackの基本的な腕の使い方のdrum習得
forcornerを使い、そこに腕の表現をつけ自由に踊れるためのアレンジの仕方の習得
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第２回　ソウルワックダンス②
【　到達目標　】
音楽にノル為のリズムトレーニングの実践　(DOWN groove)
freaky deaky と tilt の習得、waackの基本的な腕の使い方のtwilの習得
これらの踊りを使い、自由に踊れるためのアレンジの仕方の習得
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第３回　ソウルワックダンス③
【　到達目標　】
音楽にノル為のリズムトレーニングの実践　(UP&DOWN groove)
gigolo & nastyの習得、waackの基本的な腕の使い方のarchの習得
これらの踊りを使い、自由に踊れるためのアレンジの仕方の習得
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第４回　ソウルワックダンス④
【　到達目標　】
①②③で習得した踊りを使った振りを覚え、それぞれの踊りのgrooveとアームズの使い方を理解する。
完了

【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第５回　ソウルワックダンス（復習・テスト）
【　到達目標　】
音楽を感じ、音楽にgrooveしながら自己表現することを目指す。
１つ１つの踊りのgrooveを理解し、表現できることを目指す。
アームズの使い方を理解し、自由に音楽を表現することを目指す。
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第６回　ミュージカルダンス①
【　到達目標　】
第6回～8回についてのガイダンスを聞き、この3回の授業の目的やミュージカル作品の概要について理解する。
実技では、ミュージカルダンス・ナンバーにおける振付家の意図を理解し表現することができる。また作品のシーンを表現するためのテクニックやフォーメーションを意識して踊ることができる。
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第７回　ミュージカルダンス②
【　到達目標　】
ミュージカルダンスナンバーで用いられる歌唱部分について学習し、ダンスを踊りながら
声を出すことできる。また、第7回の授業の最後に行う小テスト（実技試験）に合格できる。

【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第８回　ミュージカルダンス③
【　到達目標　】
第6回および第7回で学んだ基礎を用いながら、ミュージカル作品のシーンに取り組み、
振付家やシーンの意図を逸脱せずに、自己表現することができる。

【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第９回　ミュージカルダンス④
【　到達目標　】
ミュージカルダンスナンバーで用いられる歌唱部分について学習し、作中の登場人物として、
歌唱とダンスを融合しながらシーンを表現する。

【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する必要がある。(1.0hr)

第10回　ミュージカルダンス（復習・テスト）
【　到達目標　】
ミュージカルダンス③及び④で用いたシーンを使用し、実技試験を行う。

【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第11回　ヒップホップ①
【　到達目標　】
ヒップホップのリズム（アップ、ダウン、前後のリズム等）を使い、動きながらリズムをキープすることができる。ヒップホップに必要なアイソレーション（首、肩、胸、腰等）を使い身体の使い方を学ぶ。リズムとアイソレーションをミックスした応用を習得する。
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第12回　ヒップホップ②
【　到達目標　】
ヒップホップの基礎的ステップを習得する。
｛リズム」「アイソレーション」「ステップ」を一体化させて表現できるようにする。

【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第13回　ヒップホップ③
【　到達目標　】
コンビネーション①
①②で学んだスキルを使ったコンビネーションを習得する。
コンビネーションの中で曲を意識したグループ感などを習得する。
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第14回　ヒップホップ④
【　到達目標　】
コンビネーション②
ステップだけでないヒップホップならではの要素を取り込んだコンビネーションを習得する。
力強さ、キレ、トメ、タメなどを習得する。
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

第15回　ヒップホップ（復習・テスト）
【　到達目標　】
コンビネーション①②を使ったまとめ（テスト）
ヒップホップに必要な「リズム」「アイソレーション」「ステップ」を表現するに必要な
グループ感、キレ、トメ、タメ等を総合的に習得すつ。
【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を、次の授業までに20分程度の時間で復習する。(1.0hr)

【学修上の留意点】
ソウルダンス　→　革靴もしくは、滑りやすいスニーカーを推奨

ミュージカルダンス　→
素足ではなくダンス用のシューズ等を着用することが望ましい。歌唱をしながら踊ることを学びますが、踊りながら声を出すことを体験してもらう目的であるため、歌唱力は求めない。

ヒップホップ　→　スニーカー

【教科書・参考書など】
特になし

【成績評価方法】
出席、実技テスト、授業への積極性などを総合的に評価する。
３ジャンル、全て受講すること。

科 目 名	舞踊分析法（舞踊技術論を含む）	担当者	渡沼　玲史
英 文 名	Analytic Methods of Dance		

単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE201		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊作品をさまざまな方法で分析するために必要な基本的な知識を身に着けることを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊作品の様々な分析法	様々な分析法を用いて多角的に分析できる	分析法を用いて分析できる	分析できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　舞踊という現象
【　到達目標　】
舞踊を分析するといっても、分析の対象は様々である。分析の対象としてどのようなものがあるかを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　舞踊の意味と効果
【　到達目標　】
舞踊には意味として把握されるものと、意味にならない知覚に対する効果として働くものがあることを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　舞踊の物語
【　到達目標　】
舞踊の物語の形式を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　物語の構造
【　到達目標　】
舞踊の物語を構造として分析できることを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　動きの意味
【　到達目標　】
動きが様々な意味を持ちうることを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　動きの意味の多様性―解釈
【　到達目標　】
動きの持つ意味作用が多様であることを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回 空間と舞踊
【　到達目標　】
劇場や劇場以外の空間と舞踊の関係について理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　音楽と舞踊（１）
【　到達目標　】
音楽と舞踊の関係について理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　音楽と舞踊（２）
【　到達目標　】
音楽と舞踊の関係を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回 言葉と舞踊
【　到達目標　】
言葉と舞踊の関係を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　映像と舞踊（１）
【　到達目標　】
映像と舞踊の関係を映像作品の中の舞踊から理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　映像と舞踊（２）
【　到達目標　】
映像と舞踊の関係を舞台作品の中の映像から理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　作品分析（１）
【　到達目標　】
具体的な作品を対象としてこれまで学んだ知識を活かして作品を分析することで作品分析を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　作品分析（２）
【　到達目標　】
受講生の分析を紹介しながら、さらに作品を分析することで作品分析を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　作品分析（３）
【　到達目標　】
受講債の分析を紹介しながら作品を分析することで作品分析を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学修上の留意点】

授業計画は目安であり、受講者の理解度や関心におうじて講義の順序や内容を変更することがある。そのため必ずしもシラバス通りには進まない。

【教科書・参考書など】

授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イズリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。

【成績評価方法】

試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が70%、リアクションペーパーと作品分析が30%評価となる。

科 目 名	生涯ダンス論			担当者	安達 詩穂	
英 文 名	Lifelong Dance					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE202		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【到達目標】

本講義では、人間の心身発達の理論とダンスの性質とを結びつけて解説する。発達段階や文化・環境など、異なる条件ごとに、あるいは条件の違いを超えて、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割を理解し、指導者やファシリテーターとして「いつでも、どこでも、だれとでも」ダンス体験を共有することができるための基本的な知識を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連について	人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連を理解し、自らまとめて説明できる。	人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連を、授業資料を参照しながら説明できる。	人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連についての理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。
ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割について	人が持っている条件との関わりで、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割を理解し、自らまとめて説明できる。	ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割と、人が持っている条件との関わりを、授業資料を参照しながら説明できる。	ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割と、人が持っている条件との関わりについての理解が不十分で、資料を参照しても説明することができない。
理論的な知識の、指導実践方法のなかでの活用について	発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を習得しており、具体的で適切な活用方法を述べることができる。	発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を理解し、授業資料をもとに具体的な活用方法を述べることができる。	発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を理解しておらず、資料を参照しても活用方法を述べることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　「生涯ダンス」の理念①
【　到達目標　】
スポーツと芸術とダンスの特性について「あそび」の視点から説明できるようにするための基礎的な概念を理解する。
【授業時間外学修】
シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。(4.0hr)

第２回　「生涯ダンス」の理念②
【　到達目標　】
「ライフステージ」の概念や「わたしらしさ」を特徴づける多様な要素について知り、本講義を「生涯ダンス論」とする意味について理解する。
【授業時間外学修】
ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』による４つの遊びの特性について、各種スポーツと関連づけて理解しておく。(4.0hr)

第３回　子どもとダンス①
【　到達目標　】
乳幼児期の運動発達と身体表現について理解する。
【授業時間外学修】
「子育て支援」の概念と、日本における問題点について調べる。(4.0hr)

第４回　子どもとダンス②
【　到達目標　】
幼児期の模倣動作、リズム運動の発達について理解し、幼児期のダンス活動指導の要点を理解する。
【授業時間外学修】
保育園・幼稚園で行われる「表現」と関わる指導について調べる。(4.0hr)

第５回　青年期とダンス①
【　到達目標　】
青年期を過ごす自分たちの特性が、ダンスとどのように関わっているか理解する。
【授業時間外学修】
各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる①。(4.0hr)

第６回　青年期とダンス②
【　到達目標　】
若者が生み出す文化やダンスと社会の影響関係について理解する。
【授業時間外学修】
各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる②。
①と②をまとめ、レポートとして提出する。(4.0hr)

第７回　壮年期とダンス①
【　到達目標　】
中高年の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツクラブなど健康産業の場面で提供されるダンス関連プログラムにはどのようなものがあるか調べる。(4.0hr)

第８回　壮年期とダンス②
【　到達目標　】
両親の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。
【授業時間外学修】
父母世代にインタビューし、当時の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。(4.0hr)

第９回　老年期とダンス①
【　到達目標　】
高齢者の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。
【授業時間外学修】
フレイルと認知症について調べる。(4.0hr)

第10回　老年期とダンス②
【　到達目標　】
祖父母以上の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。
【授業時間外学修】
父母世代にインタビューし、当時の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。
第８回の成果とともにレポートとして提出する。(4.0hr)

第11回　障害とダンス①
【　到達目標　】
「障害」の概念について理解し、様々な人々の存在とその人たちのダンスについて具体的に想像することができる。
【授業時間外学修】
ICFについて調べ、その趣旨を説明できるようにする。(4.0hr)

第12回　障害とダンス②
【　到達目標　】
個別の「障害」を障壁とせず、共にダンスすることに価値を見いだすインクルーシブなダンス活動について、実践例等から理解する。
【授業時間外学修】
リハビリテーション、ノーマライゼーションの定義を調べる。(4.0hr)

第13回　地域とダンス①
【　到達目標　】
地域活性化、世代間交流、子育て支援など、地域でのダンスの実例に触れて、ダンス活動の持つ力について理解する。
【授業時間外学修】
地域で行われている世代間交流、異文化交流などのプログラムについて調べる。(4.0hr)

第14回　地域とダンス②
【　到達目標　】
生活や人生が展開する場としての「地域」という考え方を理解し、人々を結びつける道具、エンパワメントの道具としてのダンスについて、適切な考えを述べることができる。
【授業時間外学修】
前回までの授業全体を振り返り、生涯学習の内容や道具としてダンスに特有の特徴を導きだす。(4.0hr)

第15回　だれもがダンスのもつ豊かな喜びを享受することができるために
【　到達目標　】
「理解度確認」の中で、「生涯ダンス」の現状についてとこれを振興する上で求められることについて、適切な考えを述べることができる。
【授業時間外学修】
ダンスと関わる進路にはどのようなものがあるか調べ､それに必要な条件を検討する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業はパワーポイントや映像資料を用いながら進行する。授業でのディスカッションの素材を得るために、授業時間外学習において図書やインターネットでの情報検索や、身近な人へのインタビューを求めることがある。毎回の授業終了時に理解度確認のための授業内レポートの提出(GoogleForms)を求める。

出席は、カードリーダーでの読み込みと、上記の授業内レポートによって確認する。その際に質問等を受け付け、次回の授業内でフィードバックを行う。指定した回には、指定された方法で授業時間外学習の成果を提出する。最終回で総合的な理解度の確認を行なう。

【教科書・参考書など】

必要に応じて印刷資料を配布する。

【成績評価方法】

毎回提出する授業内レポート(20%)、授業時間外学習報告を含むノート作成状況(20%)、最終回で行う総合的な理解度の確認状況(60%)を併せて成績評価する。

科目名	衛生学・公衆衛生学	担当者	助友　裕子
英文名	Hygiene and Public Health		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE203		卒業認定方針との関連	④⑤⑦⑨

【到達目標】

我々の健康は、毎日呼吸する空気や飲む水、地球環境や自然的環境、毎日の生活習慣や人間関係、地域や国の社会経済的要因などから強く影響を受けている。これらと健康の関わりを科学的に理解し（衛生学）、地域や国民の健康を実現するための対策について理解する（公衆衛生）ことが、この授業の目的である。
これらの内容は、自立した社会生活の営みや、学校にかかわるすべての人々の健康、学校そのもののあり方、職場や地域を取り巻く社会のあり方の基礎である。こうした基本的理解づくりがこの授業のねらいである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
衛生学・公衆衛生学の基礎的事項への理解（知識）	衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を十分説明している。	衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を説明している。	衛生学・公衆衛生学の基礎的事項を説明できない。
衛生学・公衆衛生学の知識の活用（思考力・判断力・表現力）	衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを良く表現している。	衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを表現している。	衛生学・公衆衛生学の知識を活用して思考・判断したことを表現できない。
衛生学・公衆衛生学を学ぶ主体性（態度）	衛生学・公衆衛生学の学修に積極的に取り組もうとしている。	衛生学・公衆衛生学の学修に取り組もうとしている。	衛生学・公衆衛生学の学修に取り組もうとしていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　健康と公衆衛生
【　到達目標　】
(1)健康には様々な考え方があることを知る。
(2)公衆衛生の定義を知り、その成り立ちを理解する。

【授業時間外学修】
公衆衛生にかかわる身近なサービスについて調べておく。(4.0hr)

第２回　保健統計の活用と応用：健康はどのようにして測られるか
【　到達目標　】
(1)国民の健康状態を測る指標の多様性について理解する。

【授業時間外学修】
政府統計の総合窓口（e-Stat）で健康に関わる統計データを探しておく。(4.0hr)

第３回　疫学：その健康情報はどこからくるか
【　到達目標　】
(1)疫学の起源について知る。
(2)疫学による研究成果が健康情報となる過程を理解する。

【授業時間外学修】
喫煙の健康影響に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)

第４回　ヘルスプロモーション
【　到達目標　】
(1)ヘルスプロモーションの定義、活動方法について知る。

【授業時間外学修】
本学以外の友人や知人と健康づくりの方法について議論しレポートする。(4.0hr)

第５回　世界と日本の健康戦略：SDGsと健康日本21
【　到達目標　】
(1)世界の健康戦略の流れを知る。
(2)世界と日本の健康戦略の流れを理解する。

【授業時間外学修】
教科書で健康指標の年次推移を示しているグラフを選び､説明できるようにしておく。(4.0hr)

第６回　健康の社会的決定要因
【　到達目標　】
(1)健康の社会的決定要因とはどのようなものか理解する。

【授業時間外学修】
現在の自分の目標について、目標達成の過程における生活への影響をレポートする。(4.0hr)

第７回　生活の場と健康
【　到達目標　】
(1)健康に影響をおよぼすあらゆる生活の場について理解を深める。
(2)WHOのsettingsアプローチ、ヘルスコミュニケーション戦略を理解する。

【授業時間外学修】
一週間のうちに自分が行った場所とその場所がもたらす健康影響を記録しておく。(4.0hr)

第８回　がん対策
【　到達目標　】
(1)がんが身近な疾病であることを理解する。
(2)我が国のがん対策の現状を知る。

【授業時間外学修】
がんに関する情報を収集しておく。(4.0hr)

第９回　感染症対策
【　到達目標　】
(1)感染症の成立の条件、予防の原理を理解する。
(2)主な感染症について理解する。

【授業時間外学修】
咳エチケットの方法とその理由について考えておく。(4.0hr)

第10回　環境保健
【　到達目標　】
(1)人間と環境のかかわりについて理解する。
(2)環境問題とその対策について知る。

【授業時間外学修】
地球環境の変化に関する記事・論文を調べておく。(4.0hr)

第11回　産業保健
【　到達目標　】
(1)労働者を取り巻く現状とその対策について知る。

【授業時間外学修】
働くことの意味について自分の考えをまとめておく。(4.0hr)

第12回　メンタルヘルス対策
【　到達目標　】
(1)精神疾患の現状とその対策について知る。

【授業時間外学修】
厚生労働省のメンタルヘルスwebsiteを閲覧しておく。URLは後日指示する。(4.0hr)

第13回　親子保健
【　到達目標　】
(1)我が国の母子保健の水準を知る。
(2)母子保健活動の動向について理解する。

【授業時間外学修】
自分の住んでいる自治体の母子保健サービスを調べておく。(4.0hr)

第14回　地域保健
【　到達目標　】
(1)地域の様々な保健活動を知る。
(2)健康なまちづくりについて理解する。

【授業時間外学修】
自分の住んでいる自治体の地域保健サービスを調べておく。(4.0hr)

第15回　災害時の公衆衛生
【　到達目標　】
(1)災害の種類とその備えについて知る。
(2)自地域の防災について関心を持ち、今できる防災活動について考える。

【授業時間外学修】
少子高齢社会の中で自他が健やかに生きるための方法についてレポートする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

毎回の講義で、その回のキークエスチョンに関して、私見や講義内容を踏まえたミニレポートを提出する。これにより各回の授業内容を振り返る。授業の導入時と終了時で自分の意見がどう変化したのかも考慮に入れながら、授業内容について理解を深めてもらいたい。なお、この毎回のミニレポート内容については、講義内容を踏まえた受講者自身の気づきが記述されていることが重要である。ミニレポートは、ほぼ毎時間行い、次回の授業時に返却するとともに、必要に応じて授業内で優れた内容について全体で共有する。

【実務経験のある教員による授業科目】

行政や公的機関等における公衆衛生学に関する講義・講演等の活動経験を活かし、地域や国民の健康を実現するための対策について講義を行う。

【教科書・参考書など】

「学生のための現代公衆衛生　改訂8版」野中浩一編著（南山堂）
このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

授業中の課題達成度を30%、定期試験の結果を70%で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。

科 目 名	スポーツマネジメント			担当者	上林　功	
英 文 名	Sport Management					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE204		卒業認定方針との関連	⑦⑧

【到達目標】

近年、スポーツ界においてマネジメントへの関心が高まっている。スポーツが経済的に自立することが迫られているとともに、スポーツによる経済社会の活性化、振興という期待があるからである。そこで、本講義では経営学の系譜を踏まえ、スポーツマネジメントの意味、役割、機能を今日的な状況を踏まえながら学際的に学ぶ。具体的には①スポーツとマネジメントの生成と発展、②スポーツ事業のマネジメント、③スポーツ組織と人材マネジメント、④スポーツ施設のマネジメントの大きく4つの視点からスポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツマネジメントの基礎的事項（社会的要請や歴史的変遷）	基礎的事項について自らまとめて説明することができる	基礎的事項の要点について理解している	基礎的事項の要点について理解が不十分である
スポーツマネジメントの理論的知見に関する事項	理論的知見について自らまとめて説明することができる	理論的知見の要点について理解している	理論的知見の要点について理解が不十分である
スポーツマネジメントの理論的知見の活用・応用に関する事項	身近な具体的組織事例を挙げて、知見の活用・応用について論述することができる	知見の活用・応用について自身の考えを論述することができる	知見の活用・応用について自身の考えを論述できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス・スポーツマネジメントの概観
【　到達目標　】
(1)スポーツの様々な捉え方について理解する。
(2)スポーツマネジメントの考え方、活動領域について理解する。

【授業時間外学修】
経営、管理、マネジメントとはどのような活動であるか、自分なりに整理する。(4.0hr)

第２回　マネジメントの誕生とスポーツのビジネス化
【　到達目標　】
(1)マネジメントの誕生（科学的管理法～）ついて理解する。
(2)スポーツのビジネス化とその背景、要因について理解する。

【授業時間外学修】
スポーツのビジネス化の背景について身近な事例を調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツビジネス（企業）の目的と責任
【　到達目標　】
(1)企業の目的について理解する。
(2)マネジメントの使命や役割、社会的責任について理解する。

【授業時間外学修】
スポーツ関連企業の経営理念や組織体制など、IR情報を調べる。(4.0hr)

第４回　スポーツマーケティングの意義と役割
【　到達目標　】
(1)マーケティングとセリングの違いを理解する。
(2)マーケティングにおける市場細分化とターゲッティングを理解する。

【授業時間外学修】
スポーツ企業がおこなっているマーケティング活動について具体的に調べる。(4.0hr)

第５回　マーケティング戦略とスポーツプロダクト
【　到達目標　】
(1)マーケティング戦略のプロセスとマーケティング・ミックスについて理解する。
(2)基本的な経営戦略（競争戦略）について理解する。

【授業時間外学修】
ヒット商品を具体的に浮かべ、なぜ売れるかをその要因について整理する。(4.0hr)

第６回　ミニテスト１
【　到達目標　】
(1)スポーツビジネスの成り立ちとマーケティング手法を理解する。
(2)スポーツビジネスの成り立ちとマーケティング手法について自分なりの言葉で説明できる。

【授業時間外学修】
スポーツ企業の経営戦略（競争戦略）について調べる。(4.0hr)

第７回　スポーツ組織のマネジメント
【　到達目標　】
(1)組織とは何かを理解する。
(2)組織成立の要件を理解する。

【授業時間外学修】
組織はどのようなものか、集団や群衆との違いについて整理する。(4.0hr)

第８回　スポーツ組織の人間的（情緒的）側面
【　到達目標　】
(1)経営管理における人間関係論を理解する。
(2)人材をマネジメントする際の情緒的側面の重要性を理解する。

【授業時間外学修】
組織における人間関係や規範（暗黙のルール）の影響について整理する。(4.0hr)

第９回　スポーツ組織のモチベーション・マネジメント
【　到達目標　】
(1)モチベーションとはなにかについて理解する。
(2)モチベーションの過程論（プロセス論）について理解する。

【授業時間外学修】
何が満たされるとやる気になるのか、についてこれまでの経験を基に考えてみる。(4.0hr)

第10回　ミニテスト２
【　到達目標　】
(1)スポーツ組織におけるマネジメントについて理解する。
(2)スポーツ組織におけるマネジメントについて自分の言葉で説明できる。

【授業時間外学修】
スポーツ組織のマネジメントについて、具体的な事例を出してまとめる。(4.0hr)

第11回　スポーツ組織におけるリーダーシップ
【　到達目標　】
(1)リーダーシップの役割、機能について理解する。
(2)リーダーシップの代表的理論（特性論・行動理論・状況適合理論）を理解する。

【授業時間外学修】
優れたリーダーはどのような資質や行動特性を有しているのかについて整理する。(4.0hr)

第12回　スポーツ施設の運営と管理
【　到達目標　】
(1)我が国のスポーツ施設の現状を理解する。
(2)スポーツ施設の管理・運営に関する制度や法令を理解する。

【授業時間外学修】
身近なスポーツ施設の運営者と管理者について調べる。(4.0hr)

第13回　スポーツマネジメントとガバナンス
【　到達目標　】
(1)マネジメントとガバナンスの違いについて理解する。
(2)スポーツ組織におけるガバナンス事例について理解する。

【授業時間外学修】
自律的な組織マネジメントについて自分の考えをまとめる。(4.0hr)

第14回　ミニテスト３
【　到達目標　】
(1)スポーツ組織におけるガバナンスについて理解する。
(2)スポーツ組織におけるガバナンスについて自分の言葉で説明できる。

【授業時間外学修】
スポーツ組織におけるガバナンスについて自分の考えをまとめる。(4.0hr)

第15回　スポーツマネジメントの展望
【　到達目標　】
(1)スポーツマネジメントについて改めて概観する。
(2)スポーツマネジメントの展望について自分の言葉で説明ができる。

【授業時間外学修】
スポーツマネジメントの将来的な方策について自分の言葉でまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを使用して講義をおこなう。関連資料やVTR等の補助教材も活用し、具体的事例からマネジメントに関する理解を深めていく。受講生は専用のノートを準備し、適宜板書をおこなうこと（講義ノートを作成すること）。毎回の講義後には学生の理解度や疑問点を把握するためのミニッツペーパー（確認テスト/レスポンスカード）を実施し、次回の講義時にフィードバックをおこなう。時間外での主体的な学びを促すための課題（予習・復習課題やレポート等）も課す。さらに、講義形式を中心とした授業の中に、アクティブラーニングの手法を取り入れる。具体的には学生から質問、意見を求めたり、グループ討論の機会を設ける。

【教科書・参考書など】

教科書は特に定めない。
＜参考書＞「スポーツマネジメント（改訂版）」原田宗彦、小笠原悦子（編著）大修館書店、2015年。
※その他の参考文献や参考資料は講義時に紹介する（適宜、配布する）。

【成績評価方法】

各授業回の予習課題と復習課題を課す。各授業回の理解度や予習・復習の状況を把握するための確認テストや課題レポート（講義内での小レポートやミニッツペーパーを含む）を実施する。さらに、全授業終了後に定期試験を実施する。なお、試験は試験期間中に別途実施する。各授業に係る課題やレポートの評価を20%、第6回、第10回、第14回に実施するミニテストを30%、定期試験を50%とし、あわせて100%として総合評価する。

科目名	救急処置法			担当者	夏井　裕明	
英文名	First Aid					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE205		卒業認定方針との関連	⑤⑧⑨

【到達目標】

本講義は臨床スポーツ医学の外科系および内科系として位置づけられる。健康運動指導士・健康運動実践指導者・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の共通科目Ⅰ・Ⅲに関する内容を扱う。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
外傷各論	頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置を説明できる	頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できている	頭部・体幹・四肢外傷・障害の応急処置が理解できていない
スポーツ医学各論	内科的応急処置を説明できる	内科的応急処置が理解できている	内科的応急処置が理解できていない
心肺蘇生法	心肺蘇生法を実践できる	心肺蘇生法を説明できる	心肺蘇生法が理解できていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
講義の目的、進め方、単位認定の方法について理解する。受講に際しての注意点を理解する。
【授業時間外学修】
シラバスを参考にして、授業内容に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回 女性とスポーツⅠ（受精から性成熟期まで）
【　到達目標　】
女性の一生のうち、性成熟期までのスポーツ医学的問題を理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 256 - 260　を読む。(4.0hr)

第３回 女性とスポーツⅡ（妊娠・出産から更年期まで）
【　到達目標　】
女性の一生のうち、妊娠・出産および更年期におけるスポーツ医学的問題を理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 260 - 262　を読む。(4.0hr)

第４回 応急処置総論
【　到達目標　】
RICE処置の内容・方法・効果について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 42 - 47　を読む。(4.0hr)

第５回 頭部のスポーツ外傷
【　到達目標　】
意識障害の診かた、頭部外傷について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 36 - 39、55 - 58、157 - 160　を読む。(4.0hr)

第６回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（鎖骨から肩関節）
【　到達目標　】
鎖骨から肩関節までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 62 - 72　を読む。(4.0hr)

第７回 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（上腕から手指）
【　到達目標　】
上腕から手指までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 72 - 89　を読む。(4.0hr)

第８回 体幹のスポーツ外傷・障害（頸部から腰部）
【　到達目標　】
頭部から腰部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 58 - 61、89 - 100　を読む。(4.0hr)

第９回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ（膝関節）
【　到達目標　】
膝のスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 105 - 123　を読む。(4.0hr)

第10回 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ（大腿、下腿、足部）
【　到達目標　】
大腿および下腿から足部までのスポーツ外傷・障害について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 100 - 105、123 - 139　を読む。(4.0hr)

第11回 内科的疾患とスポーツⅠ（循環器・呼吸器の急性疾患）
【　到達目標　】
運動中の突然死、過換気症候群、運動誘発性喘息とその対策について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 147 - 153、163 - 171、187 - 198　を読む。(4.0hr)

第12回 内科的疾患とスポーツⅡ（慢性疾患と感染症）
【　到達目標　】
貧血と主な感染症について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 180 - 182を読む。(4.0hr)

第13回 内科的疾患とスポーツⅢ（熱中症）
【　到達目標　】
熱中症の要因・症状・応急処置・対策について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 153 - 157　を読む。(4.0hr)

第14回　心肺蘇生法の理論
【　到達目標　】
心肺蘇生法の理論について理解する。
【授業時間外学修】
スポーツ指導者のためのスポーツ医学　第２版　p 213 - 220　を読む。(4.0hr)

第15回　心肺蘇生法実習
【　到達目標　】
心肺蘇生法実習を通じて、BLS（Basic Life Support）ができるようになる。
【授業時間外学修】
BLSヘルスケアプロバイダー　マニュアル　を読む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

本科目は選択科目ではあるが、教員免許取得のための必修科目である。１年次開講の「機能解剖学」、「スポーツ生理学」を履修済みであることを前提とする。
第15回の心肺蘇生法実習は夏休みの補講・集中講義期間中に対面で実施する。
パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。講義の最後に小テストを行い、講義内容の理解度を確認する。

【実務経験のある教員による授業科目】

医師およびスポーツドクターとしての臨床経験を活かし、競技スポーツや学校体育、社会体育におけるスポーツの実践や指導に関連する臨床スポーツ医学のうち、外科系の内容について講義を行う。

【教科書・参考書など】

参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学（第２版）」、小出清一他編、南江堂
「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」、公益財団法人　健康・体力づくり事業財団
「公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ・Ⅲ」、公益財団法人　日本スポーツ協会

【成績評価方法】

期末試験成績（100%）で成績を評価する。合格基準は60%以上である。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科 目 名	スポーツ史			担当者	都筑　真	
英 文 名	Sport History					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE206		卒業認定方針との関連	⑦⑨

【到達目標】

社会の変化に伴うスポーツのこれまでの変化について理解し、説明できるようになる。そして、各時代毎ではなく、現代のスポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、これまでのスポーツの歴史を理解していくことを通じて、今後のスポーツのあり方について自らの考えを表明できるようになる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ史学の基礎的事項	基礎的事項を理解し自らまとめて説明できる。	基礎的事項を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
スポーツ史学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
スポーツ史学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
(1)講義の進め方、聴講上の留意点、評価の方法を確認する。

【授業時間外学修】
参考書の前文を熟読し、本講義で取り上げる学問分野やテーマについて理解する。(4.0hr)

第２回　スポーツ史を学ぶ意義
【　到達目標　】
(1)スポーツ史がどのような学問分野であるかを理解し、説明することができる。
(2)スポーツ史を学ぶ意義について理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第３回　スポーツのルーツへのまなざし
【　到達目標　】
(1)スポーツのルーツが人間のどのような活動にあるかを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第４回　各時代の社会におけるスポーツ
【　到達目標　】
(1)スポーツの時代毎の変化を理解し、説明することができる。
(2)近代までのスポーツと現代のスポーツとの類似点や相違点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第５回　スポーツ種目の誕生と変容
【　到達目標　】
(1)われわれの身近にあるスポーツ種目の誕生と変容を理解し、説明することができる。
(2)これまでのスポーツの変容を踏まえ、今後のスポーツのあり方について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第６回　欧米スポーツの日本への移入
【　到達目標　】
(1)欧米スポーツの日本への導入・普及過程について理解し、説明することができる。
(2)欧米スポーツが日本に普及した意義について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第７回　体操、身体教育、スポーツ教育
【　到達目標　】
(1)古代の体操､近代の身体教育に関する理論と歴史を理解し、説明することができる。
(2)古代の体操､近代の身体教育とスポーツ教育との類似点や相違点について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第８回　スポーツの技術、ルールの歴史的変容
【　到達目標　】
(1)スポーツの技術やルールの歴史的変容を理解し、説明することができる。
(2)スポーツの技術やルールが今後どのように変化していくのかについて自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第９回　近代の戦争と体育・スポーツ
【　到達目標　】
(1)近代における体育・スポーツと戦争との関係について理解し、説明することができる。
(2)体育・スポーツが戦争と関係する理由について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第10回　オリンピックムーブメントと世界平和
【　到達目標　】
(1)オリンピックムーブメントがどのような運動であるかを理解し、説明することができる。
(2)オリンピックが国際親善や世界平和につながる理由について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第11回　日本のスポーツ振興政策とスポーツ基本法
【　到達目標　】
(1)日本のスポーツ振興政策を概観しながら、スポーツ基本法制定へと至る過程や理由を理解し、説明することができる。
(2)これまでのスポーツ振興政策踏まえて、今後とるべき振興政策について自らの考えを表明できる。
【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第12回　スポーツ産業の歴史的発展とスポーツの経済効果
【　到達目標　】
(1)スポーツの発展に貢献した「モノ」「場」「サービス」の歴史を理解し、説明することができる。
(2)スポーツの経済効果について理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第13回　女性スポーツの展開と現在
【　到達目標　】
(1)女性にとってのスポーツの歴史を理解し、説明することができる。
(2)女性にとってスポーツが今後どのようなものとなっていくかについて自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第14回　スポーツとメディア
【　到達目標　】
(1)スポーツとメディアの歴史的関係を理解し、説明することができる。
(2)スポーツとメディアの今後の関係について自らの考えを表明できる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、次の授業までに作成する。(4.0hr)

第15回　スポーツと環境問題
【　到達目標　】
(1)スポーツと環境問題の関係を理解し、説明することができる。
(2)スポーツ界における環境保全の取り組みを理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
到達目標に関連したレポートを、指定した期日までに作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

講義では、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。講義毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、期末試験に備えること。講義では毎回、講義内容の理解を深めるために、小レポートを課す。「スポーツ原論」と併せて履修することが望ましい。

【教科書・参考書など】

特定の教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。
『体育・スポーツ史概論』(木村吉次編著、市村出版)と『スポーツの歴史と文化』(新井博／榊原浩晃編著、道和書院)を講義の参考書として利用すること。

【成績評価方法】

講義毎に課す小レポート(10%)及び期末試験の結果(90%)で評価する。試験は試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。

科 目 名	体操			担当者	木皿 久美子	
英 文 名	Gymnastics					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR105		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

手軽に行うことのできる色々な運動や律動的な運動の実践を通して、自分の体を知り、自分の体の状態に応じて体の調子を整えたり、運動の実践を通して仲間と積極的に交流ができるようにする。運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとすること、健康・安全を確保することができるようにすることを目的とする。適宜、指導法についても解説する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
体操の基礎的な動きの習得について	見本となるデモンストレーションができる。	体操の基礎的な動きを習得することができる。	体操の基礎的な動きを習得することができない。
体操の基礎的な知識について	理解し自ら説明できる。	資料等を参照しながら説明することができる。	理解が不十分で説明できない。
体操の意義について	様々な対象者を想定して、運動プログラムを構成することができる。	他者に対して体力に応じた動きが想定できる。	他者に対して体力に応じた動きが想定できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーションと体気づき、体ほぐし
【　到達目標　】
体操のねらい、学習の方法、授業の進め方について理解する。

【授業時間外学修】
自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)

第２回　ストレッチ体操：アライメントチェックとストレッチの基本
【　到達目標　】
体の歪みをチェックし、日常生活で体を歪める原因となる姿勢や行動について考える。

【授業時間外学修】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、
自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)

第３回　ストレッチ体操：2人組のストレッチ体操
【　到達目標　】
自分と相手の体と心に気づき、調整しながら運動が行える。

【授業時間外学修】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、
自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)

第４回　ストレッチ体操：音楽に合わせたストレッチ体操
【　到達目標　】
音楽に合わせた一連のストレッチ運動を覚えて実施する。

【授業時間外学修】学習したストレッチ体操や徒手体操を日常生活に取り入れ、
自身のからだを管理し、良い姿勢・立ち方・歩き方などの改善を図る。(1.0hr)

第５回　手具体操（ボール）の特性について
【　到達目標　】
ボールの特性を活かした運動を実践できる。
ボールの動きと巧みさの関係を理解する。

【授業時間外学修】
手具体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第６回　手具体操（ボール）とトレーニング体操
【　到達目標　】
ボールの特性を活かした運動を実践できる。
2人組やグループになり、他者に応じたボールコントロールを体験する。

【授業時間外学修】
手具体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第７回　手具体操（長縄とび）の特性について
【　到達目標　】
長縄跳びの特性を考え、実践できる。

【授業時間外学修】
手具体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第８回　手具体操（長縄とび）の発展と方法
【　到達目標　】
長縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。

【授業時間外学修】
手具体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第９回　手具体操（短縄とび）の効果について
【　到達目標　】
タイミングの良い運動と発展させた運動が実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第10回　手具体操（短縄とび）の効果について
【　到達目標　】
短縄跳びの特性と効果について理解し、正しく実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第11回　手具体操（フープ）の特性について
【　到達目標　】
フープの特性を活かした運動を実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第12回　手具体操（フープ）の発展と方法
【　到達目標　】
グループになり、フープを操作する面白さを体感する。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第13回　リズム体操：実技課題の実践①（リズム体操の構成）
【　到達目標　】
音楽のリズムと動きのリズムを調和させながら、フレーズの動きを実践できる。
様々なステップを実践することで、動きのリズムを習得する。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第14回　リズム体操：実技課題の実践②（リズム体操の発展）
【　到達目標　】
これまで習得した動きの修正を行い、更にスムーズな一連の動きになるよう実践を重ねる。
一連の動きを自然な動きで実践できる。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

第15回　体操の課題発表
【　到達目標　】
これまで習得した良い動きを、のびのびとした動作で発表できる。
他者の動きを観察し、自己の参考にする。

【授業時間外学修】
体操の概要を調べ、時代と共に体操がどのように変わってきたのかを理解する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

アクセサリー類や時計等、相手や自らの怪我を引き起こす危険性があるものは身につけない。
服装・身だしなみは実習にふさわしいものとする。インシューズを準備する。
自分の「からだ」について理解を深め、ひとの動き方などを参考にして、できない動きや不慣れな動きのコツを習得できるよう工夫し、良い動き方を身に付けられるよう努める。
毎時間授業内容に関する復習課題を提示し、学期末には実技テストを行い、理解度の確認を行う。課題の内容は、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

必要に応じて、プリント教材を配布します。

【成績評価方法】

実技試験70%、レポート30%

科 目 名	器械運動			担当者	森井　大樹	
英 文 名	Apparatus Exercise					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR106		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

達成スポーツとしての器械運動では、さまざまな運動が行われる。その運動は「技」と呼ばれ、「技」は運動構造によって易しいものからむずかしいものへと体系的に分類されている。その体系にしたがって基本的な技を正しく習得すると発展的な技の習得も容易となる。本授業では、器械運動の基本的な技について、その基礎技能も含めいろいろな段階的練習方法を通して身につけていく。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
マット運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。	技の成立条件を満たす実施ができない。
とび箱運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。	技の成立条件を満たす実施ができない。
鉄棒運動の基本的な技の技能	欠点がなく、安定した実施ができる。	多少の欠点はあるが、安定した実施ができる。	技の成立条件を満たす実施ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　マット運動の基礎技能
【　到達目標　】
(1)器械運動に必要な動きと練習方法を理解する。
(2)マット運動の基礎技能の習熟を図る。

【授業時間外学修】
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第２回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）①
【　到達目標　】
(1)倒立の基礎知識・技能を習得する。
(2)前転、後転の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第３回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）②
【　到達目標　】
(1)倒立の静止技能および歩行技能を習得する。
(2)前転、後転の変形技を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第４回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）③
【　到達目標　】
(1)倒立前転の技能を習得する。
(2)伸膝後転の技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第５回　マット運動（倒立の基礎・接転系の技）④
【　到達目標　】
(1)倒立前転の技能テスト
(2)伸膝後転の技能テスト

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第６回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）①
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転習得のための基礎知識・技能を習得する。
(2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第７回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）②
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転の技能を習得する。
(2)ハンドスプリング習得のための基礎知識・予備技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第８回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）③
【　到達目標　】
(1)側方倒立回転の技能テスト
(2)ハンドスプリングの技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第９回　マット運動（倒立回転系・倒立回転とびの技）④
【　到達目標　】
(1)ハンドスプリングの技能テスト

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第10回　とび箱運動（反転系の技の基礎技能）
【　到達目標　】
(1)反転系の技の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第11回　とび箱運動（反転系の技・開脚とび）
【　到達目標　】
(1)開脚とびの技能を習得する。
(2)開脚とびの技能テスト

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第12回　とび箱運動（反転系の技・閉脚とび）
【　到達目標　】
(1)閉脚とびの技能を習得する。
(2)閉脚とびの技能テスト

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第13回　鉄棒運動（支持回転系の技）①
【　到達目標　】
(1)鉄棒運動の基礎知識・技能を習得する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第14回　鉄棒運動（支持回転系の技）②
【　到達目標　】
(1)支持回転系の技の技能を習得する。
(2)支持回転系の技の技能テスト

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

第15回　課題の達成度と身体知
【　到達目標　】
(1)技の習得に必要な身体知について理解する。
(2)達成できた動きの身体知について理解する。

【授業時間外学修】各回の授業で実践した動きかたの感じ(動感)を思い出しながら(想起)、
次の授業に向けてどのように動いたらうまくできるのかを考える。(1.0hr)

【学修上の留意点】

課題として取り上げられた技は、体育教員として身につけておきたい最低限のものである。授業では、それぞれの技の感覚を順を追って習得していく。すでに、課題をできる受講生にとっては、あらためて動きができるための「道しるべ」を確認することになり、中学・高等学校時に器械運動の授業を受けていない学生にとっては、新たな「身体知」を獲得する場となる。積極的な参加を望む。

【教科書・参考書など】

＜参考書＞
「教師のための器械運動指導法シリーズ：マット運動、鉄棒運動、平均台・とび箱運動」金子明友・著（大修館書店）

【成績評価方法】

課題技の達成度　100%

科 目 名	陸上競技			担当者	大橋　祐二・中野　美沙	
英 文 名	Track and Field					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR107		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

陸上競技は、走・跳・投運動による最大達成を競う種目である。多くの種目の中から、走種目として100m走、跳種目として走り幅跳び、投種目として砲丸投げを取り上げ、それぞれの種目を実習し、基本技能を習得する過程を経験することと、それぞれの種目の学習方法について理解することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
陸上競技の技能について	基本的な技能だけでなく 発展的な技能まで実践できる。	基本的な技能を実践できる。	基本的な技能を実践できない。
陸上競技の理論について	理論を理解し自分の動きに応用できる。	理論を理解し説明できる。	理論の理解が不十分で説明できない。
陸上競技の競技規則について	競技規則を理解し、正しく競技運営を行うことができる。	競技規則を理解し説明できる。	競技規則の理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業内容の説明（採点表）
【　到達目標　】
100m走、走り幅跳び、砲丸投げの種目特性を理解する。単位認定の条件（達成記録、習熟度）を確認する。

【授業時間外学修】
これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第２回　100m走の走り方：中間疾走
【　到達目標　】
短距離走の走り方として、中間疾走を行う中で、まず支持局面を意識して実践してみる。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第３回　クラウチングスタートのしかた
【　到達目標　】
自分にあったクラウチングスタートの方法を身につける。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第４回　スタート～加速のしかた
【　到達目標　】
クラウチングスタートからトップスピードを作り出す加速局面で、問題点を把握してその改善を図る。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第５回　スタート、加速疾走、中間疾走
【　到達目標　】
100m走記録測定の準備として、100mという距離を走る体験をする。その中で、前半と後半の身体への負担がどのようであるかを実感し、特に後半の走り方をイメージできるようにする。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第６回　100m走記録測定
【　到達目標　】
100m走の記録測定を行う。達成記録がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第７回　走り幅跳びの基本技術とルール
【　到達目標　】
走り幅跳びの一連の動きを実習しながら、基本技術及びルールを身につける。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第８回　短助走跳躍
【　到達目標　】
短助走跳躍を実践する中で、自分にあった効果的な踏み切り技術を探り当てる。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第９回　全助走跳躍
【　到達目標　】
自分にあったおおよその助走距離を見つけ、同時に踏み切り板に足が合う正確な距離を見つけ出す。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第10回　走り幅跳び記録測定１
【　到達目標　】
走り幅跳びの記録測定を行う。達成距離がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第11回　走り幅跳び記録測定２
【　到達目標　】
前回の達成距離を更新するために、改善点を見つけ出しより高いレベルにチャレンジする。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第12回　砲丸投げの基本技術とルール
【　到達目標　】
砲丸投げの基本技術であるつき出し動作のドリルを実習することによって、つき出しの動き方を確認する。同時に、砲丸投げのルールを理解する。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第13回　メディシンボールによるつき出し
【　到達目標　】
メディシンボールによるつき出し、砲丸を用いてのつき出しを繰り返し行うことによって、合理的なつき出し動作を身につける。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第14回　ホップ、グライドからの投げ
【　到達目標　】
つき出しがより力強く行われるように、サークル内でホップ、ステップの「助走」をつけて行う。うまく加速できる方法を見つけ出す。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

第15回　砲丸投げ記録測定
【　到達目標　】
砲丸投げの記録測定を行う。その記録がどのレベルにあるかを把握する。

【授業時間外学修】日頃から､陸上競技の基本となるスプリント・ランニング運動に取り組み、これらの能力向上を目指す。(1.0hr)

【学修上の留意点】

各種目の技能を習得するため、ふさわしい服装とシューズを使用すること。また、目標記録到達を手助けする手段としてスパイクシューズの使用が望ましい。適宜ルール等に関する小テストを実施し、授業内でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

「陸上競技指導教本アンダー16・19［初級編］　基礎から身につく陸上競技」公益財団法人日本陸上競技連盟 編（大修館書店）
「陸上競技指導教本アンダー16・19［上級編］　レベルアップの陸上競技」公益財団法人日本陸上競技連盟 編（大修館書店）

【成績評価方法】

各種目の実技試験における達成記録による評価を70%、動きの習熟度による評価を30%として評価する。

科目名	水泳			担当者	兵頭　洋樹	
英文名	Swimming					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR108		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

水の特性に慣れることからはじめ、４種目泳法の各種技術練習を通して水泳の基本技能を修得すると共に、水泳運動の学習方法を理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
4泳法の泳技能の習得	4泳法を効率の良い泳ぎで25m泳ぐことができる	4泳法を規定の泳ぎで25m泳ぐことができる	近代4泳法を規定の泳ぎで25m泳ぐことができない
長く泳ぐための泳力および泳技能の習得	クロールと平泳ぎの効率の良い泳ぎで100mを完泳することができる	クロールと平泳ぎで100mを完泳することができる	クロールと平泳ぎで100mを完泳することができない
水泳学習における基礎知識の理解	各泳法に関する基礎的な知識を理解し、水泳学習の段階的な指導を説明できる	各泳法に関する基礎的な知識を説明できる	各泳法に関する基礎的な知識について十分に理解していない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　水慣れ
【　到達目標　】
水に入る、浮く、沈む、歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ等を通して、水の特性に慣れる。

【授業時間外学修】
に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第２回　けのび、グライダー姿勢、クロールの導入
【　到達目標　】
正しいけのびの型を理解し、修得する。グライダー姿勢を理解し、修得する。クロールのバタ足を修得する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第３回　クロールの泳法実習
【　到達目標　】
クロールのキックおよびストロークを修得する。
クロールの呼吸法を修得する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第４回　クロールの泳法実習と背泳ぎの導入
【　到達目標　】
クロールにおいて随時呼吸を行い、正しいフォームを修得する。
背泳ぎの導入としての背浮きを修得する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第５回　背泳ぎの泳法実習
【　到達目標　】
背泳ぎのキックおよびストロークを修得する。
背泳ぎの呼吸法を修得する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第６回　クロールと背泳ぎのまとめ（泳法の確認）
【　到達目標　】
クロールおよび背泳ぎにおいて、競技規則に則った正しいフォームを修得しているか確認する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第７回　平泳ぎの導入と泳法実習
【　到達目標　】
平泳ぎのキックを修得する。
あおり足とかえる足の違いを理解する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第８回　平泳ぎの泳法実習とバタフライの導入
【　到達目標　】
平泳ぎのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。
バタフライのキックを修得する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第９回　バタフライの泳法実習
【　到達目標　】
バタフライの呼吸法を修得する。
バタフライのストロークを修得し、手足のタイミングを整える。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第10回　平泳ぎおよびバタフライのまとめ（泳法の確認）
【　到達目標　】
平泳ぎおよびバタフライにおいて、競技規則に則った正しいフォームを修得しているか確認する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第11回　周辺技術（スタートおよびターン）の修得①
【　到達目標　】
水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。
クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第12回　周辺技術（スタートおよびターン）の修得②
【　到達目標　】
水面上からの飛び込み型スタートを段階的に修得する。
クロールおよび平泳ぎのターンを修得する。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第13回　４泳法のまとめとクロールのトレーニング
【　到達目標　】
４泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。
100mクロールに向けたトレーニングを行う。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第14回　４泳法のまとめと平泳ぎのトレーニング
【　到達目標　】
４泳法の競技規則に則ったフォームを再確認する。
100m平泳ぎに向けたトレーニングを行う。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

第15回　100mクロールおよび100m平泳ぎの確認
【　到達目標　】
100mクロールおよび100m平泳ぎを泳ぐ。

【授業時間外学修】書籍およびメディア等を活用して４泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）に関する技術への理解を深める。(1.0hr)

【学修上の留意点】

プールでの安全管理および安全対策の理解の一環として、アクセサリー類の着用は不可とする。
水泳は、普段の生活とは異なる水中環境下での運動となるため、様々な身体への影響が生じる。そのため、実習への参加に際し、健康状態に配慮することが必要である。

【教科書・参考書など】

参考書：「水泳指導教本」　日本水泳連盟編、大修館書店

【成績評価方法】

1.泳法試験(70%)、２.クロールおよび平泳ぎの泳力試験(30%)とする。評価は、上記に加えて授業における課題達成度を含め、総合的に判定する。

科 目 名	バスケットボール			担当者	佐々木 直基	
英 文 名	Basketball					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR109		卒業認定方針との関連	⑥⑨

【到達目標】

バスケットボールのゲームを行うために必要とされる基礎的な個人技術を習得し、その上でグループ・チーム戦術へと発展させ、ゲームの中で習得した個人技術、グループ・チーム戦術を発揮することが目的である。さらに、ルールを理解することも目的である。習得した個人技術、グループ・チーム戦術を実際に指導するための基礎作りが本実習のねらいとなる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
知識と技能について	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）をしっかりと説明でき、技能をゲームで十分に発揮することができる	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）を説明でき、技能をゲームで発揮することができる	バスケットボールの知識（技術・戦術やルール）を説明することができず、技能をゲームで発揮することができない
思考力・判断力・表現力について	グループ活動の中で自らの意見を理解してもらえるよう仲間に伝えることができる	グループ活動の中で自らの意見を仲間に話すことはできる	グループ活動の中で自らの意見を仲間に十分に伝えることができない
学びに向かう力について	授業に対して主体的・積極的に非常によく取り組むことができる	授業に対して主体的・積極的に取り組むことができる	授業に対して主体的・積極的に取り組むことができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業のねらいと進め方
【　到達目標　】
1　授業のねらいと進め方、バスケットボールの特性を理解する。
2　導入としてコーディネーショントレーニングの必要性を理解し、実践する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第２回　基礎的な個人技術　ドリブルシュート①
【　到達目標　】
1　ワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートの技術を理解し、習得する。
2　利き手および非利き手でのワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートの習得を目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第３回　基礎的な個人技術　ワンハンドシュート①
【　到達目標　】
1　ゴール下でのワンハンドシュートの技術を理解し、習得する。
2　利き手および非利き手でのワンハンドシュートの習得を目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第４回　基礎的な個人技術　パスとキャッチ①
【　到達目標　】
1　ボールキャッチの技術を理解し、習得する。
2　いろいろなパスの技術を理解し、習得する。
3　試しのゲームを実践する。
【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第５回　ゲーム
【　到達目標　】
1　バスケットボールの特性を理解し、ゲームを実践する。
2　チームの仲間と協力してゲームを実践する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第６回　基礎的な個人技術　ドリブルシュート②
【　到達目標　】
1　ドリブルからのワンハンドでのオーバーハンド・レイアップシュートを理解し、習得する。
2　利き手および非利き手でのドリブルを習得する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第７回　基礎的な個人技術　ワンハンドシュート②
【　到達目標　】
1　動きながらのゴール下ワンハンドシュートを理解し、習得する。
2　ワンハンドシュートでのシューティングゲームを実践する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第８回　基礎的な個人技術　パスとキャッチ②
【　到達目標　】
1　走りながらのパスとキャッチを理解し、習得する。
2　走りながらのパスとキャッチを用いた対人ドリルを実践する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第９回　ゲーム〔リーグ戦①〕
【　到達目標　】
1　リーグ戦形式でのゲームを実践する。
2　バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第10回　グループ戦術　パス＆ラン
【　到達目標　】
1　グループ戦術としてのパス＆ランの原則を理解し、習得する。
2　ゲームの中でパス＆ランが実践できるよう目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第11回　グループ戦術　ドライブ＆合わせ
【　到達目標　】
1　グループ戦術としての１対１（ドライブ）とそこからの合わせの原則を理解し、習得する。
2　ゲームの中でドライブ＆合わせが実践できるよう目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第12回　ゲーム〔リーグ戦②〕
【　到達目標　】(1)ゴールに近い場所でのワンハンドシュートの技術を習得する。
1　リーグ戦形式でのゲームを実践する。
2　バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第13回　チーム戦術　５人でのセットプレー
【　到達目標　】
1　５人でのセットプレーを理解し、習得する。
2　ゲームの中でセットプレーが実践できるよう目指す。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第14回　ゲーム〔リーグ戦③〕
【　到達目標　】
1　リーグ戦形式でのゲームを実践する。
2　バスケットボールのルール、試合運営方法を理解する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

第15回　基礎的な個人技術の総合的検証
【　到達目標　】
1　習得した基礎的な個人技術の習熟度を検証する。

【授業時間外学修】
各回で習得する技術･戦術について調べ､振り返る｡また､バスケットボールのルールについて調べる。(1.0hr)

【学修上の留意点】

実習の授業となるため、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。アクセサリー類は決して身につけない。本実習はグループ毎に活動するので、ただ参加するのではなく積極的にグループの中で活動し、さらにはリーダーシップを取って授業を受ける。また、バスケットボールのルールを理解し、ゲームでは審判を行うこともあるので、ゲームの知識・理解を深めるように努める。

【教科書・参考書など】

参考書
「バスケットボール指導教本改訂版　上・下巻」（公財）日本バスケットボール協会編（大修館書店）

【成績評価方法】

平常授業での到達目標に対する到達度を60%、スキルテストを40%として評価する。

科目名	バレーボール			担当者	湯浅　暁子	
英文名	Volleyball					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR110		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

バレーボールでは個人の基礎技能(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・スパイク・サーブ)の定着を図り、バレーボールゲームをおこなう上で必要な基礎技術・戦術を理解・実践し、それらをチームとしての戦術へと発展させていきスムーズなゲームの完成を目指す。またルールやゲームの進め方および審判法を理解し、ゲームの運営について学ぶことも目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
バレーボール用語、ルール、成り立ちについて	用語やルールをよく理解し、説明することができる	用語、基本的なルールを理解している	用語、ルールを理解できていない
基本の技術の習得に関する事項	正しいフォームで行うことができる	正しいフォームに近い形で行うことができる	正しいフォームを形成できない
試合形式での実施に関する事項	システムを理解し、試合が行える	試合中のラリーに加わることができる	試合のシステムを理解できていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　バレーボールの歴史と発展
【　到達目標　】
(1)バレーボールの起源、発展、ルールの変遷等を理解する。

【授業時間外学修】
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第２回　基礎技能の習得Ⅰ(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス)
【　到達目標　】
(1)各パスをおこなうための体の使い方を理解する。
(2)ボールを正確にコントロールする能力を身につける。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第３回　基礎技能の応用(各種レシーブ・トス)
【　到達目標　】
(1)強いボールに対する対応、移動しながらの技能を身につける。
(2)方向転換していろいろな方向へコントロールできる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第４回　基礎技能の習得Ⅱ(サーブ)
【　到達目標　】
(1)アンダーハンドサーブ、フローターサーブの打ち方をマスターする。
(2)狙ったコースへコントロールできる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第５回　基礎技能の習得Ⅲ(スパイク)
【　到達目標　】
(1)助走のステップ、スイングを身につける。
(2)タイミングを合わせてボールを打つことができる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第６回　集団技能の理解と集団での技術・戦術
【　到達目標　】
(1)基礎技能と集団技能の結びつきについて理解する。
(2)集団で発揮する技術・戦術を理解する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第７回　基本戦術の習得Ⅰ(3段攻撃)
【　到達目標　】
(1)「レシーブ→トス→スパイク」の流れを理解・実践する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第８回　基本戦術の習得Ⅱ(フォーメーション)
【　到達目標　】
(1)基礎的な守備フォーメーションを理解・実践する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第９回　ゲームの進め方・ルール・審判法の理解
【　到達目標　】
(1)ゲームを行う上での主なルールを理解する。
(2)主審・線審の役割とシグナル方法を理解する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第10回　ゲーム実践Ⅰ
【　到達目標　】
(1)オフィシャルルールで実践する。
(2)すべてのポジションの役割を経験する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第11回　個人技能の評価方法と技能修正方法
【　到達目標　】
(1)オフィシャルルールで実践する。
(2)すべてのポジションの役割を経験する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第12回　個人技能の評価方法と技能修正方法
【　到達目標　】
(1)個人技能の評価方法を理解し、実践できる。
(2)個人技能の正しい方法への修正をすることができる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第13回　バレーボールのポジションとその役割の理解
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロ・スパイカーについて理解・実践する。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第14回　ゲーム実践Ⅲ
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。
(2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

第15回　ゲーム実践Ⅳ
【　到達目標　】
(1)セッター・リベロを設定してゲームをおこなう。
(2)ポジションの役割を理解してゲームを実践できる。

【授業時間外学修】基礎技能の反復練習をし､技能習得に努める｡ゲームをおこなう際のルール
や各種フォーメーションについて事前に理解を深めておく。(1.0hr)

【学修上の留意点】

実習の授業なので、服装・身だしなみは体育実技にふさわしいものとする。特にアクセサリー類の着用は禁止とし、また髪が長い者は必ず束ねて授業に参加すること。バレーボールはチームスポーツである。そのため、基本的にグループ単位で活動するので、自分勝手な行動はせずに、グループの活動が効率良くできるように努めること。不明な点はそのままにせず、教員に質問する等解決のための努力を怠らないようにすること。

【教科書・参考書など】

教科書は特になし。

【成績評価方法】

基礎技能の実技テストを80%、ゲーム実践の達成度を20%として評価する。

科 目 名	比較舞踊学			担当者	渡辺　碧	
英 文 名	Comparative Theory of Dance					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE301		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

世界の舞踊には様々な種類がある。舞踊といえば、西洋舞踊を思い浮かべがちであるが、果たして自国の舞踊について、皆さんはどれ程、熟知しているだろうか。この授業では特に、西洋舞踊と日本の舞踊の比較を通して、多彩な舞踊文化を持つ、日本の舞踊の重要性や必要性を理解することを目的とする。さらに民族・民俗を含め、日本の舞踊の価値を相対化させて問うことをねらいとする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
西洋舞踊史への理解	西洋舞踊史について改めて深く理解し、自らの言葉で説明できる。	西洋舞踊史について理解し、資料を参考にしながら、説明できる。	理解が不十分で説明できない。
日本の舞踊	日本の舞踊について理解し、自らの言葉で説明できる。	日本の舞踊について理解し、資料を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
西洋舞踊と日本の舞踊の比較	西洋舞踊と日本の舞踊を比較し、その違いについて理解し、自らの言葉で説明できる。	西洋舞踊と日本の舞踊を比較し、その違いについて理解し、資料を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション－舞踊の種類と形態、自国の舞踊を考える
【　到達目標　】
この授業の目的とねらいを理解する。この世に存在する舞踊の種類と形態を把握し、
日頃から身近な西洋舞踊だけでなく、様々な種類があることを理解する。

【授業時間外学修】
事前に舞踊の種類がどれだけあるか、またその歴史について調べる。(4.0hr)

第２回　時代ごとによる芸能様式－西洋舞踊（バレエ）の歴史①
【　到達目標　】
時代の流れを踏まえながら､西洋舞踊の歴史（バレエ）を再確認するとともに､それに伴った
大まかな日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を理解する。

【授業時間外学修】
西洋舞踊史について、事前に復習しておく。(4.0hr)

第３回　時代ごとによる芸能様式－西洋舞踊（モダン・ダンス～コンテンポラリー・ダンス）の歴史②
【　到達目標　】
時代の流れを踏まえながら、西洋舞踊の歴史（モダン・ダンス～コンテンポラリー・ダンス）を
再確認するとともに、それに伴った大まかな日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を理解する。

【授業時間外学修】
日本の時代ごとの歴史的出来事の概要を復習しておく。(4.0hr)

第４回　日本の伝統芸能の特性
【　到達目標　】
日本の伝統芸能の特性について理解する。日本の伝統芸能が、歴史的・文化的背景と
密接に関わっていることを理解する。

【授業時間外学修】
西洋と日本の舞踊についての歴史的・文化的背景について調べる。(4.0hr)

第５回　日本の伝統舞踊－「舞」と「踊り」、「民族」と「民俗」
【　到達目標　】
「舞」とは､「踊」とは何かを理解する。西洋舞踊のそれとは､特に何が異なるかを理解する。
古典（民族）舞踊と民俗舞踊との違いを理解する。世界の民族・民俗舞踊の種類、日本の民族
舞踊について理解する。
【授業時間外学修】
事前に日本の古典舞踊、民族舞踊の種類には何があるかとその歴史的背景を調べる。(4.0hr)

第６回　日本の古典舞踊－舞楽
【　到達目標　】
古典舞踊の舞楽を理解する。

【授業時間外学修】
授業で扱ったもの以外の舞楽の作品を鑑賞し、舞楽への理解を深める。(4.0hr)

第７回　日本の古典舞踊－能楽
【　到達目標　】
古典舞踊の能楽を理解する。

【授業時間外学修】
授業で扱ったもの以外の能楽を鑑賞し、能楽への理解を深める。(4.0hr)

第８回　歌舞伎
【　到達目標　】
歌舞伎の概要を理解する。

【授業時間外学修】
事前に歌舞伎の作品にはどのようなものがあるかを調べる。(4.0hr)

第９回　文楽
【　到達目標　】
文楽の概要を理解する。

【授業時間外学修】
授業で扱ったもの以外の文楽の作品を鑑賞し、文楽への理解を深める。(4.0hr)

第10回　民俗舞踊
【　到達目標　】
民俗舞踊（神楽・田楽／風流・獅子芸能）を理解する。

【授業時間外学修】
全国の民俗舞踊には何があるかを調べる。(4.0hr)

第11回　日本舞踊
【　到達目標　】
日本舞踊の概要を理解する。

【授業時間外学修】
事前に日本舞踊の種類と流派を調べる。(4.0hr)

第12回　江戸時代以降の日本の舞踊―日本への洋舞輸入
【　到達目標　】
日本に存在する多彩な舞踊文化について理解し、その内容を把握する。
西洋舞踊がどのように日本に受容されたかを理解する。

【授業時間外学修】
日本の洋舞の歴史を事前に調べる。(4.0hr)

第13回　日本の舞踊史と西洋舞踊史
【　到達目標　】
時代の流れを踏まえつつ、日本の舞踊史と西洋舞踊史を理解し、比較できる。

【授業時間外学修】
日本舞踊史と西洋舞踊史のそれぞれの特徴、相違点を整理する。(4.0hr)

第14回　日本の舞踊の様式
【　到達目標　】
日本舞踊の様式（演技・演出・音楽・装置・衣裳・化粧・かつらなど）を概観、考察し、
西洋舞踊と比較する。

【授業時間外学修】
日本の舞踊の様式の特徴と西洋舞踊との相違点を整理する。(4.0hr)

第15回　西洋舞踊と日本の舞踊
【　到達目標　】
これまでに学んだ日本に存在する舞踊について総括し、日本の舞踊と西洋舞踊を比較することが
出来る。比較することにより、日本の舞踊の重要性を認識し、伝承していく意義を理解する。

【授業時間外学修】
授業で取り扱わなかった世界各国の舞踊と日本の舞踊を比較する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業は、主にスライドと映像資料を用いて行う。授業で指定する回によっては、課題提出やディスカッション、口頭発表、小課題などを求めることがある。小課題については、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。また上記の他に中間レポートを課す。中間レポートの提出と理解度確認テストの両方がなされて、初めて評価（単位認定）の対象となる。いずれかを未提出・未受験の場合は、単位認定は行わない。

【教科書・参考書など】

適宜、参考資料を配付する。
「ダンス・バイブル：コンテンポラリー・ダンス誕生の秘密を探る」（乗越　たかお/河出書房新社）　「日本舞踊辞典」（郡司　正勝/東京堂出版）
「舞踊形式論　表現と可能性」（旗野　恵美/HCI PUBULICATIONS）

【成績評価方法】

授業内レポート、小課題など30%、中間レポート20%、理解度確認テスト50%で総合的に評価する。

科 目 名	舞踊美学			担当者	渡沼　玲史	
英 文 名	Dance Aesthetics					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE302		卒業認定方針との関連	⑥⑧

【到達目標】

舞踊を説得力のある論理に基づいて分析できるようになることが目標である。この論理は必ずしもある特定の学問分野の体系である必要はない。さまざまな学問分野の議論を参照しながら舞踊について論じるための知識と考え方を理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊理論	舞踊を様々な理論を用いて解説できる	理論を用いて舞踊を説明できる	理論を用いて舞踊を説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
この授業では何を目指し探求するのかを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　舞踊と身体
【　到達目標　】
舞踊において身体が自明視されていることが殆どである。身体を改めて問い直すための問題設定を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　舞踊とメディア（１）
【　到達目標　】
舞踊とメディアの関係についての概要と問題系を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　舞踊とメディア（２）
【　到達目標　】
舞踊とメディアについて様々なメディアとの関係を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　舞踊と意味（１）
【　到達目標　】
舞踊の意味には様々な位相があることを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　舞踊と意味（２）
【　到達目標　】
舞踊の意味の様々な位相の具体的にあり方と意味作用の仕組みを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　舞踊とパフォーマンス（１）
【　到達目標　】
パフォーマンスという用語の多様な意味を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　舞踊とパフォーマンス（２）
【　到達目標　】
舞踊の分析にパフォーマンスという概念を導入することで分析可能になる現象を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　舞踊と身体 再考
【　到達目標　】
これまで学んだことを使いながら舞踊と身体についてどのような分析が可能なのかを再考する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　舞踊と社会（１）
【　到達目標　】
様々な社会における舞踊の役割について理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　舞踊と社会（２）
【　到達目標　】
近代以降に劇的に進化した社会と舞踊の役割について理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　舞踊作品分析の実際（１）
【　到達目標　】
これまで学んだことを活かしながら具体的な舞踊を分析するために必要なことを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　舞踊作品分析の実際（２）
【　到達目標　】
舞踊作品の様々な見方を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　舞踊と現代
【　到達目標　】
現代という時代から舞踊を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　まとめ
【　到達目標　】
講義で学んだそれぞれの項目と舞踊との関係を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業計画は目安であり、受講者の理解度や関心におうじて講義の順序や内容を変更することがある。そのため必ずしもシラバス通りには進まない。

【教科書・参考書など】

授業中に指示するが､参考書として､『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イズリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。

【成績評価方法】

試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。

科 目 名	舞踊創作原論			担当者	渡沼　玲史	
英 文 名	Theory of Creating Dance					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE303		卒業認定方針との関連	⑥⑧

【到達目標】

「動きが生まれる条件を設定する」というアプローチを体験し、振付を“作る”のではなく“発生させる”ための具体的なシステムを構築できるようになる。
身体や空間、他者との関係など、複数の要素が絡み合う中で創作を行う際に、創造性を発揮しつつ理論的に自分の作品を分析できる力を身につける。
振付を記号化したり、言語化する手法を学び、独自の創作ツールを開発・運用する基礎を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊の創作法	多様な創作法を用いて舞踊を創作できる	創作法を用いて舞踊を創作できる	創作法を用いた舞踊の創作ができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
授業の概要、評価方法、到達目標を共有し、舞踊創作における構造化された即興のコンセプトを理解する

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　条件設定の実際
【　到達目標　】
条件設定で生まれる動きを体感する。その応用を考える。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　条件設定の実践
【　到達目標　】
第2回で考案した応用を試してみる。その効果と課題について考える。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　記譜法を知る
【　到達目標　】
動きの記号化の歴史とその効用について考える。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　記譜法の応用（１）
【　到達目標　】
記譜法・記号化の応用としてマース・カニンガムのチャンス・オペレーションズを実践する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　記譜法の応用（２）
【　到達目標　】
記譜法・記号化の応用としてトリシャ・ブラウンの手法を実践し、その応用を考える。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　偶然性と意図の交差点
【　到達目標　】
偶然的要素と意思決定的要素を組み合わせて、より複雑な構成を試す。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　記号化×即興×偶然性の統合
【　到達目標　】
これまで扱った手法を複合的に用いて、より広い可能性を探究する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　Choreographic Objectの理解
【　到達目標　】
Choreographic Objectのコンセプトを理解したうえでChoregraphic Objectを制作する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　Choreographic Objectの発表
【　到達目標　】
各自が制作したChoreographic Objectを発表する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　創作システムのデザイン（中間まとめ）
【　到達目標　】
自分が扱いたいテーマや動きの特徴に合った「創作システム」をデザインできるようにする。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　小作品制作①―テーマ設定と条件デザイン
【　到達目標　】
テーマ（またはコンセプト）と条件を明確化する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　小作品制作②―試作とフィードバック
【　到達目標　】
試作した動きや条件、作品構想を発表し、クラス全体でフィードバックを行う。

を追求する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　最終発表・講評
【　到達目標　】
設定した条件が生み出す動きを作品として提示し、全体の講評を通して学びを総括する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　総括
【　到達目標　】
具体的な作業手順から、その原理や理念までをもう一度振り返り舞踊創作法の理解を深める。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学修上の留意点】

授業計画は目安であり、受講者の理解度や関心、人数に応じて講義の順序や内容を変更することがある。そのため必ずしもシラバス通りには進まない。
この授業では受講生の積極的な参加が不可欠となります。新しいことに能動的に取り組む気のない人には向きません。

【教科書・参考書など】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

授業内の課題で評価する。

科目名	ミュージカル論			担当者	鴨志田 加奈	
英文名	Introduction to Musical					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE304		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

本授業では１９世紀後半に誕生したブロードウェイミュージカルの代表的作品の映像鑑賞や資料を通して、ミュージカルの歴史を理解し、時代背景と共に変化してきたミュージカルの「年代による特徴」「芸術性」「エンターテイメント性」「社会性」について知見を深める。ミュージカルにおけるダンスについては、代表的振付家の作風や振付・演出方法に関する知識を修得し、自身のダンス観や創作観の幅を広げる。またミュージカルならではの表現手法である「ドラマ・ソング・ダンスの統合や調和」について自身の考察を示すことができる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ミュージカルの歴史について	歴史について時代背景の影響を含め理解し自らまとめて説明できる。	年代による作品の特徴を資料などを参照しながら説明できる。	歴史について理解が不十分で説明できない。
代表的振付家の作風や振付・演出方法に関する事項	自身のダンス観や創作観とすり合わせた考察を示すことができる。	作風や振付・演出方法に関して資料を参考にしながら説明できる。	作風や振付・演出方法に関して理解不十分で説明できない。
表現手法の「統合・調和」について	統合・調和について自らの考察を示すことができる。	統合・調和について資料などを参照しながら説明できる。	統合・調和について理解不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ミュージカルとは何か
【　到達目標　】
⑴ミュージカルとは何かについて概要を理解する。
⑵先行芸能（オペラ、オペレッタ）からブロードウェイミュージカル誕生までの概要を理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第２回　ブロードウェイミュージカルの誕生
【　到達目標　】
⑴ミンストレル、ヴォードヴィル、バーレスク、レヴューなどについて理解する。
⑵「ショー・ボート」の功績とブックミュージカルの特徴について理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第３回　ブロードウェイミュージカルの繁栄①　表現手法の進化「統合・調和」
【　到達目標　】
(1)「オクラホマ！」の功績であるミュージカル表現手法「統合・調和」について理解する。
(2)ジョージ・バランシンとアグネス・デ・ミルの振付について学ぶ。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第４回　ブロードウェイミュージカルの繁栄②　ミュージカルコメディー
【　到達目標　】
ミュージカルコメディーについて代表的作品から理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第５回　ブロードウェイミュージカル繁栄③　名作の時代
【　到達目標　】
(1)「ウエスト・サイド・ストーリー」などの作品からレナード・バーンスタイン（作曲）とジェローム・ロビンス（振付）について学ぶ。
(2)「マイフェアレディ」「サウンドオブミュージック」などの作品の特徴を理解する。
【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第６回　ブロードウェイミュージカルの繁栄④　多様な作風とコンセプトミュージカル
【　到達目標　】
代表的作品からコンセプトミュージカルの特徴について理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第７回 ブロードウェイミュージカルの繁栄⑤　ボブ・フォッシー、マイケル・ベネットの功績
【　到達目標　】
ダンサー・振付家・演出家としてミュージカル界に偉大な功績を残したボブ・フォッシーとマイケル・ベネットについて振付・演出の特徴を学ぶ。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第８回　１９８０年代　ロンドンミュージカルの台頭
【　到達目標　】
(1)アンドリュー・ロイドウェバーの作品からロンドンミュージカルの特徴を理解する。
(2)キャメロン・マッキントッシュによるメガ・ミュージカルの興行について理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第９回　１９９０年代　ブロードウェイへのディズニーの参入
【　到達目標　】
⑴ディズニーがブロードウェイに与えた影響について理解する。
⑵作曲家 アラン・メンケンとスティーヴン・シュワルツについて代表曲や作品からその特徴を理解する。
【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第10回　ブロードウェイミュージカルの復活①　コメディの復活
【　到達目標　】
21世紀初頭の代表的作品からブロードウェイミュージカルの新たな作風の特徴を理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第11回　ブロードウェイミュージカルの復活②　ジュークボックスミュージカルと映画
【　到達目標　】
⑴ジュークボックスミュージカルの特徴を理解する。
⑵21世紀におけるミュージカルと映画の関係性について理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第12回　ブロードウェイミュージカルの復活③　近年の作品について
【　到達目標　】
オフブロードウェイ発の意欲作を始め、近年のブロードウェイミュージカル傾向を理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第13回　日本のミュージカルの歴史と現状
【　到達目標　】
日本の劇団やプロダクションによる興行、レプリカプロダクション
（海外からクリエイティブチームによる興行）など、日本特有の歴史や進化、現状を理解する。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第14回　演者から見るミュージカル（ダンサーとミュージカル）
【　到達目標　】
ダンサー（アンサンブルキャスト）のミュージカルにおける活躍や役割について、現場の声から学ぶ。

【授業時間外学修】
資料を見て概要を復習しておく。(4.0hr)

第15回　ミュージカル用語や人物から整理する
【　到達目標　】
全15回の講義を振り返り、復習と確認をする。
ミュージカルの芸術性・エンターテインメント性・社会性について改めて考察を深める。

【授業時間外学修】
全15回の講義の中で印象に残った事について考察しレポートを提出する。(4.0hr)

【学修上の留意点】
授業では映像と資料を使ってミュージカルについて理解を深めていきます。映像鑑賞の際は、教員の説明や資料と照らし合わせながら主体的に考察を深めましょう。「ミュージカルは華やかで楽しい」だけで終わらない「専門的に踏み込んだ知見」（歴史的背景と作品の関係、演出・振付・音楽の特徴の体系的理解）を得ることで、自身のダンス観や創作観の幅を広げましょう。筆記用具、資料保存用のクリアファイルなどを各自準備して下さい。

【教科書・参考書など】
教科書は特になし。適宜、テキスト、参考資料を配布。

【成績評価方法】
毎授業の発言や質問・省察シートの内容30%、理解度テスト50%（授業内）、レポート20%として評価する。

科 目 名	学校保健			担当者	横嶋　剛	
英 文 名	School Health					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE305		卒業認定方針との関連	④⑨

【到達目標】

教職を志す者にとって、学校における児童生徒の健康や安全をどのように守り、また健康や安全にかかわる資質・能力をどのように育てていくかについて考え、理解することは極めて重要である。本講義では、学校における子供たちの健康や安全を保障するためのシステムや活動等について解説し、グループワークやディスカッションを通して、学校保健の領域および内容について理解し、学校に通う子供たちの健康や安全を保持増進していくためにはどうすればよいかについて考えを深めることを目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
学校保健に関する基礎的な知識	学校保健に関するシステムや活動等について理解し、説明することができる。	学校保健のシステムや活動等について、資料等を参照しながら説明することができる。	理解が不十分で説明することができない。
児童生徒の健康の保持増進を目指した教員の役割	児童生徒の健康の保持増進のために、教員としての役割について理解し、説明することができる。	児童生徒の健康の保持増進のために、教員としての役割について資料等を参照しながら説明することができる。	教員の役割について理解が不十分で説明することができない。
学校保健に関する研究知見の活用	学校保健に関する知見について調べ、理解し、自分の意見を示すことができる。	学校保健に関する知見を調べることができ、それらを参考にしながら、自分の意見を述べることができる。	学校保健に関する知見を調べることができず、意見を述べることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　学校保健の意義と目的
【　到達目標　】
学校保健の意義と目的について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第２回　学校保健の領域構成と関連法規
【　到達目標　】
学校保健の領域構成および学校保健安全法について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第３回　健康の概念と児童生徒の健康の現状
【　到達目標　】
健康の概念および児童生徒の健康の現状と課題について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第４回　小児保健と学校感染症
【　到達目標　】
小児期に起こりやすい疾病障害および学校感染症について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第５回　学校における健康観察および健康診断
【　到達目標　】
健康観察および健康診断の意義と方法、校内連携及び専門職や保護者との連携方法について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第６回　学校保健管理の領域と内容
【　到達目標　】
学校保健管理の領域と内容について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第７回　学校保健教育の領域と内容
【　到達目標　】
学校保健教育の領域と内容について理解し、考えを深める。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第８回　性に関する指導・エイズ教育
【　到達目標　】
性に関する指導およびエイズ教育について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第９回　学校給食と食物アレルギー対応
【　到達目標　】
学校給食の意義や食物アレルギーの対応について理解し、食育に対する考えを深める。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第10回　学校安全の意義と管理
【　到達目標　】
学校安全の意義、学校における安全管理・安全教育について、理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第11回 児童生徒のメンタルヘルス
【　到達目標　】
児童生徒のメンタルヘルスおよびそのケアについて理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第12回　不登校児童生徒の健康課題と支援
【　到達目標　】
不登校児童生徒の心身の健康課題について理解し、支援について考えを深める。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第13回　障害のある児童生徒とその指導
【　到達目標　】
特別に配慮が必要な障害のある児童生徒への指導について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第14回　いじめの防止と対策
【　到達目標　】
学校におけるいじめの防止と対策について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

第15回　教職員の健康
【　到達目標　】
教職員の健康を守るために行われている方策について理解する。
【授業時間外学修】
授業で取り上げたキーワードについて調べ、学びを深める。（4.0hr）

【学修上の留意点】

パワーポイント等を用いて学校保健の内容について講義形式で解説し、必要に応じて映像資料も提示する。教師になったつもりで、児童生徒や教職員の健康や安全について学び、調べ学習やグループワークのなかで考えを深めていくこと大切である。そのため授業への出席は大前提であり、やむを得ない遅刻以外の遅刻や無断欠席はすることのないようにお願いしたい。ほぼ毎時間レスポンスカードの記入を求める。

【教科書・参考書など】

参考書は授業時に適宜紹介する。その他、資料を適宜配布する。

【成績評価方法】

各回のレスポンスカードの内容（30%）、試験（70%）で総合的に評価する。

科目名	精神保健			担当者	角田　和也	
英文名	Mental Health of Adolescence					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE306		卒業認定方針との関連	⑦⑨

【到達目標】

昨今、「メンタルヘルス」「心の健康」という言葉を、日常生活の中でよく耳にするようになった。社会全体が個々の精神面の健康状態を以前よりも大切にしていこうとする風潮にあるとともに、不登校やうつによる自殺の増加といった現実的な問題に直面していることも背景にあると考えられる。こうした状況の中で、今日私たちが直面している自身および子どもたちの心の健康の問題について、その実態を学ぶとともに対処方法を検討していく。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
学校における精神保健の基本的事項・特別な配慮を要するケースについて	基本的事項・特別な配慮を要するケースについて自らの意見を示すことができる	基本的事項・特別な配慮を要するケースについて理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
ライフサイクルと精神保健について	ライフサイクルと精神保健について日常的に活用できる	ライフサイクルと精神保健について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
生活環境と精神保健について	生活環境と精神保健について工夫しながら日常的に活用できる	生活環境と精神保健について理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション／「精神保健」とは
【　到達目標　】
(1)「精神保健」の意義を理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　「精神的健康」と現代社会
【　到達目標　】
(1)社会問題にもなっている「心の健康」にかかわる事象について、その実態を理解するとともにその要因について理解する。
【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　ライフサイクルと精神保健①　出生前期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである出生前期の心の健康について理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　ライフサイクルと精神保健②　乳児期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである乳児期の心の健康について理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回　ライフサイクルと精神保健③　幼児期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである幼児期の心の健康について理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　ライフサイクルと精神保健④　学童期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである学童期の心の健康について理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　ライフサイクルと精神保健⑤　思春期に受ける影響
【　到達目標　】
(1)ライフサイクルの視点から、要因の１つである思春期の心の健康について理解する。
【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　生活環境と精神保健①　家族から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである「家族」の質的変化について理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　生活環境と精神保健②　食生活から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである食生活の影響について理解するとともに、望ましい食生活についても理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　生活環境と精神保健③　住環境から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである住居の影響について理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　生活環境と精神保健④　空気環境から受ける影響
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである空気環境について理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　生活環境と精神保健⑤　睡眠から受ける影響①
【　到達目標　】
(1)生活環境の視点から、要因の１つである睡眠の影響について理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回　生活環境と精神保健⑥　睡眠から受ける影響②
【　到達目標　】
(1)引き続き、睡眠の影響について理解するとともに、望ましい睡眠のあり方についても理解する。
【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　発達障がい①　発達障がいの基本的事項／主な発達障がいの特徴①
【　到達目標　】
(1)発達障がいの種類やその特徴を理解する。
【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　発達障がい②　主な発達障がいの特徴②／心の健康を保持するために必要な支援・援助の考え方
【　到達目標　】
(1)引き続き、発達障がいの特徴を理解する。
(2)発達障がい児（者）の心の健康を保持するために必要な支援・援助のあり方について理解する。
【授業時間外学修】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学修上の留意点】

①基本的にPowerPoint画像や動画を使用し、プロジェクターもしくはモニターに投影して授業を進める。使用する穴埋め方式の本授業用のオリジナルテキストに即して説明するが、口頭で補足および詳細な説明も併せて行うので、集中してメモを取り、日常生活や教育現場での実践で活用できるオリジナルテキストの作成を目指す必要がある。
②授業内容の理解を深めることを目的とした実践的な課題レポートの作成を、単元毎に授業時間外学習で求める。この課題は後日インターネット上の指定されたURLから提出してもらい、評価に反映させる（下欄「成績評価方法」の「提出物の総合評価」に該当）。また、提出された課題は、提出翌週以降の授業内で口頭での補足や追加の説明などを加えながらフィードバックするので、他の受講者の意見を共有し自身のものの見方・考え方を広げ、さらに実践力を高めるよう努めることが求められる（当然メモは必須）。
③期末試験は、授業時に説明した基本的な事項や知識の定着の確認、および授業時間外学習で取り組んだ課題とその後のフィードバックで学習した実践的な力の定着の確認を目的として実施する。したがって、ルーブリックの「標準的な到達レベル」から「理想的な到達レベル」で出題されることになるので、授業時間外での日常的な自主学習・復習および実践的な研鑽を積み重ねることが単位取得のためには必要である。
④出席を確認するため、授業は座席指定で行う。前方での受講を希望する場合は、その旨を申告することで座席の配置を配慮する。

【教科書・参考書など】

教科書：本授業用に作成したテキストを使用する。テキストは１回目の授業開始時に販売するので、受講する学生は必ず購入すること。
参考書：テキスト内に授業回ごとの参考文献を示してあるので、そちらを参照のこと。

【成績評価方法】

・提出物の総合評価（50%）と期末試験の結果（50%）を合算して総合成績（100%）を算出する。合格基準は60%である。
・試験は試験期間中に別途実施する。

科 目 名	保健科教育法Ⅰ			担当者	助友　裕子	
英 文 名	Teaching Methods in Health Education Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE306		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

保健科教育について、その特質を理解するとともに、保健体育科教員としての資質を身につけることが目的である。本科目では、学習指導要領の位置づけや内容、指導上の留意点、学習評価の考え方についての基礎的な知識を身につけることをねらいとする。

学習指導案の作成と授業研究を通じて、授業改善の視点を身に付け、授業設計の向上に取り組むことのできる技術の習得をめざす。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保健科教育法の基礎的事項への理解（知識）	保健科教育法の基礎的事項を十分説明している。	保健科教育法の基礎的事項を説明している。	保健科教育法の基礎的事項を説明できない。
保健科教育法の知識の活用（思考力・判断力・表現力）	保健科教育法の知識を活用して思考・判断したことを良く表現している。	保健科教育法の知識を活用して思考・判断したことを表現している。	保健科教育法の知識を活用して思考・判断したことを表現できない。
保健科教育法を学ぶ主体性（態度）	保健科教育法の学修に積極的に取り組もうとしている。	保健科教育法の学修に取り組もうとしている。	保健科教育法の学修に取り組もうとしていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　保健科教育とは（概論）
【　到達目標　】
保健科教育、健康教育の意義と方向性について理解を深める。
【授業時間外学修】
保健体育科（保健分野）ならびに科目保健を教える上で不安な点を整理しておく。(4.0hr)

第２回　現代社会における健康問題および他教科等との関連
【　到達目標　】
現代の健康問題の動向と保健科教育におけるそれらの位置について考察し、発展的な学習内容について探求する。
【授業時間外学修】
中央教育審議会答申を読んでおく。(4.0hr)

第３回　保健の目標と内容
【　到達目標　】
小学校、中学校、高等学校学習指導要領における保健の目標や内容の違いを理解し、全体構造を把握する。
【授業時間外学修】
中・高の学習指導要領解説の保健体育科（保健分野）と科目保健の項を読んでおく。(4.0hr)

第４回　保健の指導計画
【　到達目標　】
指導計画作成の意義、種類、作成上の基本および指導上の留意点について理解するとともに、学習指導案の構成を理解する。
【授業時間外学修】
学習指導案で取り上げる単元の選定、教材研究を行う。(4.0hr)

第５回　保健科教育の実際Ⅰ：習得型
【　到達目標　】
知識を活用する学習活動を通じて、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第６回　保健科教育の実際Ⅱ：活用型
【　到達目標　】
ブレインストーミングなど具体的な指導方法を習得し、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、保健科教育の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解する。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第７回　保健の授業評価
【　到達目標　】
評価の意義、局面、観点、規準などについて理解する。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第８回　教材研究Ⅰ（ICTの活用を含む）：概論
【　到達目標　】
保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、教材研究の目的、過程、方法について理解する。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、副教材の作成を進める。(4.0hr)

第９回　教材研究Ⅱ（ICTの活用を含む）：ワークシートの作成
【　到達目標　】
保健科教育と背景となる学問領域との関係性を踏まえた上で、保健の指導計画に応じた教材研究の工夫について理解を深めた上で、ワークシートを作成する。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、副教材の作成を進める。(4.0hr)

第10回　保健科教育のための研究方法
【　到達目標　】
保健科教育における実践研究の動向や発展的な学習内容の事例を知り、現場ニーズに応じた保健科教育の工夫について理解を深める。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第11回　保健の系統性と小学校の保健の授業
【　到達目標　】
中学校と高等学校の保健の基礎となる小学校の内容および指導上の留意点について理解する。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第12回　中学校と高等学校の保健の授業
【　到達目標　】
個人生活と社会生活における健康・安全に関する内容および指導上の留意点について説明できる。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第13回　学習指導案の作成Ⅰ：単元計画の整理
【　到達目標　】
単元計画の整理を通じて、１時間の学習指導案を作成できるようにする。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第14回　学習指導案の作成Ⅱ：本時案の整理
【　到達目標　】
本時案の整理を通じて、１時間の学習指導案を作成できるようにする。
【授業時間外学修】
学習指導案の作成、副教材の作成、教材研究を進める。(4.0hr)

第15回　保健の授業研究
【　到達目標　】
模擬授業の様子を観察し、授業技術のポイントを理解するとともに、発展的な学習内容を探求したり授業設計の向上に取り組むことができる。
【授業時間外学修】
授業で記入した「保健の授業研究」を復習し、模擬授業のイメージ形成を図る。(4.0hr)

【学修上の留意点】

おもにパワーポイントや配布資料で要点を示し、詳細は口頭にて説明する。高い意識を持ち、毎回の授業に積極的に参加することで、将来自らが授業づくりの担い手になることへの強い認識が求められる。このことから、授業への出席が大前提となる。遅刻や無断欠席、授業中の私語は慎むことが必須である。

【実務経験のある教員による授業科目】

行政や公的機関等における公衆衛生学・健康教育に関する講義・講演等の活動経験のある教員が、保健科教育の具体的な指導方法、授業づくり、評価などについて、学習指導要領に基づき基礎的な知識について講義を行う。

【教科書・参考書など】

「中学校・高等学校 保健科教育法（改訂第2版）」森良一編著（東洋館出版社）2024年、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」（最新版）文部科学省
「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（最新版）文部科学省、中学校と高等学校で使用した保健の教科書を各自準備する。このほかに適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

原則として、定期試験の結果に授業中の課題達成度（1.0～0.0）を乗じた結果を評価点とする。合格基準は60％である。

科 目 名	保健科教育法Ⅱ			担当者	横嶋　剛	
英 文 名	Teaching Methods in Health Education Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE307		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

小学校、中学校、高等学校での系統性のある保健科教育の内容について理解し、学習指導要領の内容に即した授業計画および指導案の作成、さらに児童生徒の実態に即した授業運営をすることが重要である。本科目は、保健科教育法Ⅰと既修の健康科学論、衛生学・公衆衛生学、学校保健などによる知識を応用し、ICTや教材研究への効果的な活用、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れ模擬授業をとおして、教材づくり、授業計画、教授行為の向上にかかわる資質・能力の修得を目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
保健科教育の内容構成や系統性について	内容を理解し、説明できる	資料等を参考にしながら説明できる	理解が不十分で説明できない
発達段階を踏まえた教授行為、教材づくりについて	要点を理解し、説明できる	資料等を参考にしながら説明できる	理解が不十分で説明できない
授業の構成、授業の遂行について	授業の構成について理解できており、授業ができる	授業構成について資料を参考にしながら説明でき、授業ができる	授業構成への理解が不十分で、授業運営ができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（授業への心構え、グループ決め）
【　到達目標　】
保健科教育法Ⅱの目的を理解し、模擬授業準備への見通しを立てる。
よい保健授業とは何かについて考えを深める。

【授業時間外学修】
自分自身がこれまで受けてきた保健の授業について振り返り、まとめる。(4.0hr)

第２回　学習指導案の作成方法
【　到達目標　】
学習指導案の作成方法について確認し、作成に向けた準備をする。

【授業時間外学修】
保健体育科教育法Ⅰの復習をし、学習指導案を作成する。(4.0hr)

第３回　評価観点を踏まえた指導方法の工夫
【　到達目標　】
指導方法について理解し、授業づくりに活用する。

【授業時間外学修】
これまでの保健科教育の変遷についてまとめ、どのように保健で身に付ける資質・能力を高めていくかについて考える。(4.0hr)

第４回　学習指導要領解説（小学校保健領域と中学校保健分野）と授業づくり
【　到達目標　】
小学校の保健領域および中学校保健分野の編成について確認し、授業づくりの要点を理解する。

【授業時間外学修】
学習指導要領解説を熟読し、不明な点は明らかにした上で内容を把握する。(4.0hr)

第５回　中学校保健分野の模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学修】
模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)

第６回　中学校保健分野の模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学修】
模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)

第７回　中学校保健分野の模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学修】
模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)

第８回　中学校保健分野の模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学修】
模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)

第９回　学習指導要領解説（高等学校科目保健）と授業づくり
【　到達目標　】
高等学校科目保健の編成を確認し、授業・教材づくりの方法を理解する。

【授業時間外学修】
学習指導要領解説を熟読し、不明な点は明らかにした上で内容を把握する。(4.0hr)

第10回　高等学校科目保健の模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学修】
模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)

第11回　高等学校科目保健の模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学修】
模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)

第12回　高等学校科目保健の模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学修】
模擬授業の準備及び期限内に学習指導案および受講者用レポートを提出する。(4.0hr)

第13回　高等学校科目保健の模擬授業（マイクロティーチング）
【　到達目標　】
教師役と生徒役それぞれの立場で分析・評価し、授業技術・授業改善の視点を身につける。

【授業時間外学修】
作成した学習指導案・副教材を見直し、修正を行う。(4.0hr)

第14回　模擬授業後の指導案の評価と再検討
【　到達目標　】
他者（仲間）が作成した学習指導案・副教材をもとに、授業改善の視点から分析・評価する。

【授業時間外学修】
作成した学習指導案・副教材を見直し、修正を行う。(4.0hr)

第15回　保健科教育の実践研究
【　到達目標　】
これまでの実践研究の動向を理解し、保健科教育の課題を見つける。

【授業時間外学修】
保健科教育に関する研究を行うと仮定し、どのような研究をするか考える。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイント等を用いて保健科教育の内容について講義形式で解説し、必要に応じて映像資料も提示する。実践的な資質・能力を養うために、学習指導案の作成や教材研究などの作業を取り入れ模擬授業を実践する。模擬授業実施後には、振り返りのディスカッションを行う。したがって授業への出席は大前提であり、やむを得ない遅刻以外の遅刻や無断欠席はすることのないようにお願いしたい。ほぼ毎時間レスポンスカードの記入を求める。

【教科書・参考書など】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（最新版）
＊H29・H30年告示の学習指導要領にもとづいた教科用図書を各自準備することが望ましい。その他、適宜資料を配布する。

【成績評価方法】

各回のレスポンスカード40%、学習指導案及び副教材を40%、レポート20%で総合的に評価する。

科目名	体育科教育法Ⅰ			担当者	高橋　修一	
英文名	Teaching Methods in Physical Education Ⅰ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE308		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な省察方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
体育科教育法の基礎的事項の理解とその活用（知識及び技能）	体育科教育法の基礎的事項を深く理解するとともに、習得した知識及び技能を模擬授業等で十分活用している。	体育科教育法の基礎的事項を理解するとともに、習得した知識及び技能を模擬授業等で活用している。	体育科教育法の基礎的事項の理解が乏しく、模擬授業等で活用できない。
体育科教育法で習得した知識や技能を活用して諸課題を解決する力（思考力、判断力、表現力）	習得した知識及び技能を活用して思考・判断し、場面に応じて汎用的に課題を解決している。	習得した知識及び技能を活用して思考・判断し、課題を解決している。	習得した知識及び技能を活用できず、場当たり的に行動している。
体育科教育法の学修に主体的に取り組む態度（学びに向かう力）	学修に主体的に取り組み、他者と十分にコミュニケーションを図りながら実践に生かそうとしている。	学修に積極的に取り組み、他者とコミュニケーションを図りながら取り組もうとしている。	学修に進んで取り組むことなく、他者とコミュニケーションを図りながら学ぼうとしていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　本講義の目的、学校体育の現状、被教育体験期の体育授業イメージとの照合
【　到達目標　】
(1)本講義の目的を理解し、学習の見通しを立てることができる。
(2)被教育体験の体育授業イメージを想起することができる。
【授業時間外学修】
体育教育法Ⅰにおける1年間の授業時間外学習の計画を立てる。(4.0hr)

第２回　保健体育科の目標論
【　到達目標　】
(1)体育目標の歴史的変遷、目標構造を理解する。
【授業時間外学修】
体育目標の歴史的変遷、目標構造について予習・復習する。(4.0hr)

第３回　保健体育科の教育課程論(1)：中学校学習指導要領の内容
【　到達目標　】
(1)学習指導要領の性格を理解する。
(2)学習指導要領における運動部活動と体育授業の関連性や位置付けについて理解する。
(3)新学習指導要領の要点を理解する。
【授業時間外学修】
学習指導要領の性格について予習・復習する。(4.0hr)

第４回　保健体育科の教育課程論(2)：高等学校学習指導要領の内容
【　到達目標　】
(1)中学校学習指導要領の内容を理解する。
【授業時間外学修】
中学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。(4.0hr)

第５回　保健体育科の教育課程論(3)：学習指導要領の内容(3)
【　到達目標　】
(1)高等学校学習指導要領の内容を理解する。
【授業時間外学修】
高等学校学習指導要領の内容構成について予習・復習する。(4.0hr)

第６回　体育授業の教材・教具論の理解（ICTの活用を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における教材・教具の果たす役割を理解できる。
(2)体育授業におけるICTの活用の役割について具体的に理解できる。
【授業時間外学修】
素材－目標－学習内容－教材―教具の関係性及び、ICTの役割について予習・復習する。(4.0hr)

第７回　体育授業の教材・教具論の活用（ICTの活用を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における効果的な教材や教具について具体例を用いて説明できる。
(2)体育授業におけるICTの活用について、具体例を挙げながら説明できる。
【授業時間外学修】
効果的な教材・教具及び、ICT活用の具体例を考え、例示する。(4.0hr)

第８回　体育授業の学習指導方法論の理解（アクティブラーニングの視点を含む）
【　到達目標　】
(1)体育教師の4大教師行動について理解できる。
(2)アクティブラーニングの利点と学習指導方法への応用の仕方について理解できる。
(3)特別な支援を必要とする生徒に配慮した学習指導方法について理解できる。
【授業時間外学修】
体育教師の4大教師行動、アクティブラーニングについて予習・復習する。(4.0hr)

第９回　体育授業の学習指導方法論の活用（アクティブラーニングの視点を含む）
【　到達目標　】
(1)体育授業における学習指導のポイントを理解し、具体的に説明できる。
(2)アクティブラーニングを取り入れた体育授業の学習指導方法について具体的に説明できる。
(3)特別の支援を必要とする生徒に配慮した学習指導方法の具体例を挙げることができる。
【授業時間外学修】
学習指導のポイント及び、アクティブラーニングを理解し、具体例を挙げておく。(4.0hr)

第10回　体育授業の観察、分析、評価
【　到達目標　】
(1)机間記録、相互作用行動を記録する意義や方法を理解する。
(2)テスト映像で適切に記録することができる。
【授業時間外学修】
体育授業を観察・分析することの意義や視点について予習・復習する。(4.0hr)

第11回　マイクロティーチング（1）体つくり運動・器械運動
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握して活動することができる。
【授業時間外学修】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第12回　マイクロティーチング（2）陸上競技・球技
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握して活動することができる。
【授業時間外学修】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第13回　マイクロティーチング（3）球技・武道
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握して活動することができる。
【授業時間外学修】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第14回　マイクロティーチング（4）球技・ダンス
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握して活動することができる。
【授業時間外学修】
マイクロティーチングの計画、反省を行う。(4.0hr)

第15回　マイクロティーチングの省察
【　到達目標　】
(1)効果的な指導、教材・教具について効果的に反省できる。
(2)自己の指導と他者の指導を比較し、よりよい教授方法を省察できる。
【授業時間外学修】
マイクロティーチングの経験を踏まえ、改めて良い体育授業の特徴について考察する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業においては、パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。教育実習において、学校現場の生徒に影響を与えることを十分に自覚し、教職免許状を取得するにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連していることから、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要となる。グループでの指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも主体的に取り組むことが大切である。

授業で活用する資料は、授業のスケジュールに従い同一曜日に本学ポータルサイトのGoogle Drive上にアップするので、予習・復習に活用すること。

また、メールや研究室での質問を随時受け付けます。

【教科書・参考書など】

岡出美則他編著『体育科教育学入門 三訂版』（2021年）大修館書店
文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房
国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校保健体育』（2020年）東洋館出版社
国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　高等学校保健体育』（2021年）東洋館出版社

【成績評価方法】

模擬授業の省察や指導案作成等の課題達成度と提出物40%、テスト60%として評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。
合格基準は60%である。

科目名	体育科教育法Ⅱ			担当者	須甲　理生	
英文名	Teaching Methods in Physical Education Ⅱ					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DTE309		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

本講義では、保健体育科における、中学校体育分野、高等学校科目体育に関する目標・内容・方法を総合的に学んでいく。具体的には、講義、体育授業のVTR視聴、模擬授業、指導案作成等を通して、学校体育が置かれている現状をはじめとして、生徒にとって意味のある「良い体育授業」を計画、実践するための基礎的知識と技術を習得することがねらいとなる。また、模擬授業の反省会等を通して、授業改善や教師としての実践的力量を高めるための体育授業の効果的な反省方法も習得していく。これらの学習を通して、「授業で勝負することのできる保健体育教師」、「学び続けることのできる保健体育教師」という教師観の確立を目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
学習指導要領に関する事項	学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容について具体的に説明できる。	学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容について説明できる。	学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容について説明できない。
指導方法と授業設計に関する事項	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計と指導方法を身に付けることができる。	授業場面を想定した授業設計と指導方法を身に付けることができる。	授業場面を想定した授業設計と指導方法を身に付けることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　体育の授業づくり論(1)：単元計画、指導案の作成手順(1)
【　到達目標　】
(1)単元計画及び指導案作成の原理、原則を理解する。
【授業時間外学修】
学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)

第２回　体育の授業づくり論(2)：単元計画、指導案の作成手順(2)
【　到達目標　】
(1)単元計画及び指導案作成の手続きを理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
学習指導案作成の意義や方法について予習・復習する。(4.0hr)

第３回　体育の授業づくり論(3)：教材づくりの視点
【　到達目標　】
(1)教材づくりの視点を理解し、具体的に説明できる。
【授業時間外学修】
学習指導案における授業の明確な目標を設定し、その目標達成のための教材を計画する。(4.0hr)

第４回　体育の授業づくり論(4)：指導と評価の一体化
【　到達目標　】
(1)指導計画への評価の組み込み方を理解する。
【授業時間外学修】
具体的な指導と評価の計画を立てる。(4.0hr)

第５回　体育の授業づくり論(5)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(1)
【　到達目標　】
(1)適切な計画を立てるためにグループ内で積極的に討論できる。
【授業時間外学修】
グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)

第６回　体育の授業づくり論(6)：単元計画、指導案、教材・教具の作成(2)
【　到達目標　】
(1)グループ内で適切な計画を立てることができる。
【授業時間外学修】
グループ内で議論しながら学習指導案を作成する。(4.0hr)

第７回　模擬授業の反省会 (1)
【　到達目標　】
(1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。
【授業時間外学修】
e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第８回　模擬授業の反省会(2)
【　到達目標　】
(1)模擬授業の観察データから授業の改善点を説明できる。
【授業時間外学修】
e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第９回　模擬授業の反省会(3)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。
【授業時間外学修】
e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第10回　模擬授業の反省会(4)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。
【授業時間外学修】
e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第11回　模擬授業の反省会(5)
【　到達目標　】
(1)模擬授業で実践された教材、教具の良い点、改善点について説明できる。
(2)模擬授業中の教師役の学習指導方法について、良い点、改善点を説明できる。
【授業時間外学修】
e-ラーニングを通して、模擬授業映像、観察データを視聴し、振り返りシートを記述する。(4.0hr)

第12回　優れた実践に学ぶ(1)：体育授業VTRの視聴と解説(1)
【　到達目標　】
(1)優れた体育授業のVTRから、効果的な指導のポイントをあげることができる。
【授業時間外学修】
模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)

第13回　優れた実践に学ぶ(2)：体育授業VTRの視聴と解説(2)
【　到達目標　】
(1)優れた体育授業のVTRから、効果的な教材・教具について説明できる。
【授業時間外学修】
模擬授業と優れた授業実践を比較し、自身の課題について考察する。(4.0hr)

第14回　体育授業の存在意義
【　到達目標　】
(1)体育授業の存在意義について説明できる。
【授業時間外学修】
体育授業の存在意義について考察する。(4.0hr)

第15回　スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ立国戦略からみた体育授業
【　到達目標　】
(1)我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。
【授業時間外学修】
我が国のスポーツ政策における体育授業の位置付けを理解する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

教育実習において、学校現場の生徒に少なからぬ影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要になる。指導案作成、模擬授業、テスト、レポートにも積極的に取り組むことが大切である。

【教科書・参考書など】

岡出美則 他 編著『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店（2020年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』（2018年）東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領解説－保健体育編／体育編－』（2019年）東山書房

【成績評価方法】

模擬授業や指導案作成等のグループによる活動の課題達成度と提出物20%、テスト80%として評価する。

科 目 名	舞踊音楽演習（パーカッション）			担当者	櫻田　素子	
英 文 名	Seminar in Dance Music (Percussion)					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE207		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊と共にある音楽について、さまざまなパーカッション（打楽器）の演奏を通じて学ぶ。各種のリズムやリズム・アンサンブルを学ぶことによって、リズム表現の技術を磨き、各音楽ジャンルに固有の感覚を養うとともに、リズムの構成法、各楽器の持つ特徴、その音楽の成り立ち、リズムをアンサンブルで演奏する際に必要なコミュニケーション力について知識と理解を深め、自身の舞踊作品に反映できるようになることを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
パーカッション演奏の基礎的技術・知見に関する事項	基礎技術を習得し、知見を自らまとめながら説明できる。	基礎技術を理解し、資料等を参照しながら説明できる。	基礎技術の習得と理解が不十分で、説明できない。
ダンス音楽におけるリズムの知見に関する事項	リズムの知見を自らまとめながら説明できる。	リズムの知見を資料を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
パーカッションの演奏表現の応用と実践に関する事項	演奏表現を習得し自身の作品への応用と実践ができる。	表現表現を理解し自身の作品への応用のアイディアを示すことができる。	表現に関する理解が不十分で実践できず意見も述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　イントロダクション:様々なパーカッション、リズムの基本
【　到達目標　】
「パーカッション」と呼ばれている楽器群の種類と特性、発音構造、奏法について理解し、リズム、拍子、テンポなどについての基本概念を学ぶ。
【授業時間外学修】
リズム、拍子、テンポなどについての基本を復習する。(4.0hr)

第２回　リズム・アンサンブル演奏の基本
【　到達目標　】
パーカッションを演奏するために必要な基礎練習を行なう。リズムやフレーズを捉える感覚を、西アフリカのアンサンブル（シェイカー、ベル、太鼓など）を題材に口頭伝承によって習得し、学ぶ。
【授業時間外学修】
実習したリズム・アンサンブルの課題曲を、手や身体を用いて奏しながら復習する。(4.0hr)

第３回　西洋音楽のリズム感:拍子、アクセント、シンコペーションと応用
【　到達目標　】
リズムの基本形、特に拍のまとまりと分割の感覚、アクセントとシンコペーションについての概念と、それがどのようにリズムを構築しているかについて理解する。リズム譜・表記について、また、スネアドラム、タム、シンバルなどの基本的な奏法を学ぶ。□
【授業時間外学修】
実習した課題のリズムについて、分析しながら復習する。(4.0hr)

第４回 リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(1)
【　到達目標　】
中南米の打楽器アンサンブルについてリズムを学ぶ。クラベス、マラカス、ボンゴ、コンガ、□マリンバなどの基本的な奏法を学ぶ。
【授業時間外学修】
学んだリズムと課題曲について復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。(4.0hr)□

第５回 リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(2)
【　到達目標　】
中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムのバリエーションを学ぶ。
【授業時間外学修】
実習したリズムと課題曲について､楽器を奏しているイメージを持ちながら復習する。(4.0hr)

第６回　リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(3)
【　到達目標　】
中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムの復習。グループごとに実技テストを行ない、また、他グループを鑑賞することによって、演奏表現と集団コミュニケーション力、グルーヴ感についての理解を深める。
【授業時間外学修】
実習したリズムと課題曲について、暗譜で演奏できるように復習する。(4.0hr)

第７回　リズム・アンサンブルを学ぶ～中南米の打楽器アンサンブル(4)
【　到達目標　】
中南米の打楽器アンサンブルについて、リズムの復習。グループごとに実技テストを行ない、また、他グループを鑑賞することによって、演奏表現と集団コミュニケーション力、グルーヴ感についての理解を深める。
【授業時間外学修】
課題のリズムと課題曲について予習し､授業後は関連する音楽を各自調べ､聴いてみる。(4.0hr)

第８回　リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(1)
【　到達目標　】
コンテンポラリー・ミュージック（現代音楽）の一例として、ミニマル・ミュージックを取り上げスティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」と、その作曲においてヒントとなっているインドネシア・バリ島のケチャのリズムを学び、習得する。
【授業時間外学修】
実習した課題のリズムと課題曲を、リズムの仕組みを確認しながら復習する。(4.0hr)□

第９回　リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(2)
【　到達目標　】
スティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、グループに分かれ実習し、習得する。リズム譜の読み方とそれぞれのパートのリズムを理解し、また、アンサンブル音楽としての特徴を理解する。
【授業時間外学修】
実習した課題のリズムと課題曲を、リズムの仕組みを確認しながら復習する。(4.0hr)

第10回　リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(3)
【　到達目標　】
スティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、グループごとに実技テストを行ない、また、他グループを鑑賞することによって、リズムやテンポの正確な表現についての理解を深める。
【授業時間外学修】課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自調べ、リズム分析をしながら聴いてみる。(4.0hr)

第11回　リズム・アンサンブルを学ぶ～ミニマル・ミュージック(4)
【　到達目標　】
スティーヴ・ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」について、グループごとに実技テストを行ない、また、他グループを鑑賞することによって、リズムやテンポの正確な表現についての理解を深める。
【授業時間外学修】
課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を各自で調べ聴いてみる。(4.0hr)

第12回　リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(1)
【　到達目標　】
ブラジルのリズム・アンサンブル「サンバ」のリズムと、そのバリエーションを学ぶ。
サンバの基本楽器の奏法を学ぶ。
【授業時間外学修】
実習したリズムと課題曲について､楽器を奏しているイメージを持ちながら復習する。(4.0hr)

第13回　リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(2)
【　到達目標　】
サンバのリズムのバリエーションと、その展開方法を学ぶ。
サンバの基本楽器の奏法を学ぶ。
【授業時間外学修】
実習したリズムと課題曲について復習し、関連する音楽を各自調べて聴いてみる。(4.0hr)

第14回　リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(3)
【　到達目標　】
サンバのリズムに変化をつけ、展開する方法を学ぶ。
アンサンブル演奏に必要なスキルを身につけ、グループ内でや楽曲進行をコントロールできるようになる。
【授業時間外学修】実習したリズムと課題曲について、暗譜し、自分でコントロールしながら演奏できるように復習する。(4.0hr)

第15回　リズム・アンサンブルを学ぶ～サンバ(4)
【　到達目標　】
サンバのリズムの総復習。グループごとに実技テストを行ない、集団でのリズム演奏と表現についての理解を深める。
【授業時間外学修】課題のリズムと課題曲について予習し、授業後は関連する音楽を、各自調べて聴いてみる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

実技課題による授業を11回、パーカッション楽器とリズム、課題となる音楽の知識に関する授業を4回実施する。実技課題については、各自、あるいは各グループ毎に、授業内および授業外で練習を積み重ね、演奏に必要な能力を高めるために研鑽すること。楽器を演奏する際にはつけ爪や長い爪は邪魔になり、ケガをすることもあるので、爪の手入れをしておくこと。知識に関する授業については、パワーポイントを用いた要点の説明や視聴覚資料の提示により理解を深める。各授業回毎にレスポンスカードを用いて達成度・理解度の確認を行なう。各課題毎に授業内実技テストを行ない、また、テスト後に講評を行なう。

【教科書・参考書など】

授業内にプリントを配布。

【成績評価方法】

授業における課題達成度(50%)、実技テスト(授業内実施、50%)で評価する。

科目名	表現運動学演習（演技）			担当者	巣山　賢太郎	
英文名	Seminar in Expressive Movements (Acting)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE307		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【到達目標】

20世紀フランス演劇界の巨匠:エティエンヌ・ドゥクルーが構築した舞台芸術「コーポリアルマイム」の 実技と座学を通じて、身体という媒体を用いた演劇的表現に対する理解を深める。実技では、テクニック、レパートリー作品演習、インプロバイゼーション、創作プロセスを体験する中で、演技のボキャブラリーを増やし、実演能力の向上に努める。また、座学を通じてテクニックの成り立ち、歴史的背景とその思想的観点から考察することで、学術的側面からも「演技」に向き合い、アーティストとしてのあり方を追求する上でのヒントを獲得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
劇場表現における身体運用の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らの研究領域で実践できる	理論を理解し実践できる	理解が不十分で実践できない
劇場表現における身体運用の研究知見について	理論を理解し要点をまとめ説明でき、自身の研究領域に関連づけられる	理論を資料等を参照しながら説明できる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　カウンターウェイト
【　到達目標　】
重力に対する身体の動かし方。重さの表現と劇的表現とのつながりを理解する。

【授業時間外学修】
様々な動作における重心の動きと身体的労力の大きさについて復習する。

第２回　アーティキュレーション1
【　到達目標　】
身体の分節化。演技を構成する姿勢や動作が身体の各部分の組み合わせから成ることを理解する。

【授業時間外学修】
身体の各部分の様々な組み合わせ方について復習する。

第３回　アーティキュレーション2
【　到達目標　】
動作の分節化。一連の動作は複数の分節から構成されることを理解する。

【授業時間外学修】
動きの動線を意識しながら動作の分節化について復習する。

第４回　アーティキュレーション3
【　到達目標　】
空間の分節化。演技スペースにおける身体の向き、高さ、位置を幾何学的な指針から理解する。

【授業時間外学修】
空間と表現の関係性について復習する。

第５回　ダイナモリズム
【　到達目標　】
動きの質感、力感、速度。動作に劇性を与える動きのリズムについて理解する。

【授業時間外学修】
動作のリズムとそこに表現されるドラマ性について復習する。

第６回　ディスプレイスメント
【　到達目標　】
歩行・ステップ。空間上を移動する種々の方法とそれらが描写するものについて理解する。

【授業時間外学修】
様々な歩行・ステップの仕方について復習する。

第７回　インプロバイゼーション
【　到達目標　】
想像力を働かせ、テーマに沿った明確な表現を発展させる過程を即興を通じて体験する。

【授業時間外学修】
明確な目的を伴った動作を作り出す即興のプロセスについて復習する。

第８回　コンポジション
【　到達目標　】
創作プロセス。ソロ、グループワークを通じて、理想的な表現を構築する過程を体験する。

【授業時間外学修】
創作プロセスの各ステージについて復習する。

第９回　レパートリー
【　到達目標　】
レパートリー作品の演習。既存の作品の演習を通じて実演能力の向上に努める。

【授業時間外学修】
レパートリー作品を復習する。

第10回　表現の様式化
【　到達目標　】
表現の純粋化及び拡大化。演技に様式を与える方法とその意義を理解する。

【授業時間外学修】
写実的な表現から様式化及び抽象化された表現を導く過程について復習する。

第11回　演技のカテゴリー
【　到達目標　】
異なる演技のスタイル。描写する対象によって、異なる演技のスタイルを用いることを理解する。

【授業時間外学修】
異なる状況下における身体のあり方について復習する。

第12回　思考する身体
【　到達目標　】
内的活動の可視化。思考や感情といった内的な運動を身体で具体化することを理解する。

【授業時間外学修】
内的活動を描写することとドラマの関係性について復習する。

第13回　動きのコヴリティ
【　到達目標　】
演技を構成する様々な因果律について理解を深める。

【授業時間外学修】
表現のあらゆる構成要素間の「つながり」について復習する。

第14回　ドラマの力学と骨組み
【　到達目標　】
座学:テクニックの構成。劇的な身体表現についての理解を深める。

【授業時間外学修】
テクニックの必要性について考察する。

第15回　コーポリアルマイムの歴史的背景とその思想
【　到達目標　】
座学:コーポリアルマイムの成り立ち
芸術様式が生まれた背景を参照し、アーティストとしてのあり方について考える。

【授業時間外学修】
芸術様式の誕生した背景と自らが表現活動に携わることについて考察する。

【学修上の留意点】
講義には動きやすい服装(できるだけ身体の線が見やすいもの)で参加してください。筆記用具は必携です。

【教科書・参考書など】
教科書　特に無し。
参考書　授業内で指示する（参考資料や課題は適宜配布する）。

【成績評価方法】
実技、提出レポートで評価し、その比率を70%、30%とする。

科 目 名	舞踊音楽演習（ヴォイス・トレーニング）	担当者	辛島　安妃子
英 文 名	Seminar in Dance Music (Voice Training)		

単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DBE308		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【到達目標】

呼吸法や正しい姿勢、体のしくみを理解しながら発声法を学び、舞台で通る歌声を習得していくことを目的とする。基礎となる声楽教本を用い、併せてオペラ、ミュージカルや世界各国の名曲を取り上げ、応用として観客に伝えるための表現法を学ぶ。授業内で発表することにより実践力も身につける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞台発声においての基礎知識の修得	基礎知識を理解し実践に活かすことができる。	基礎知識を理解し実践をの際に活かそうと試みることができる。	基礎知識を十分理解できず実践に活かすことができない。
舞台発声における実技、実演に関する事項	身体の使い方を理解し舞台で通じる十分な声量と表現力で発声することができる。	身体の使い理解し舞台で通じる発声を試みることができる。	身体の使い方が修得できず声量もく少なく舞台で通じる発声をすることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　声と体のしくみについて
【　到達目標　】
歌は全身運動である。声と体のしくみを理解する。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。(4.0hr)

第２回　発声法と発声練習について
【　到達目標　】
腹式呼吸や声を響かせる方法を学ぶ。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第３回　コールユーブンゲン・コンコーネを歌う
【　到達目標　】
声楽教本でリズムや音程、フレーズ感について学ぶ。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第４回　合唱・重唱（日本の名曲）
【　到達目標　】
合唱または重唱で日本歌曲を歌う。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第５回　合唱・重唱（世界の名曲）
【　到達目標　】
合唱または重唱で世界各国の歌曲を歌う。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第６回　独唱（日本・世界の名曲）
【　到達目標　】
発声法を踏まえ名曲の独唱を試みる。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第７回　イタリア歌曲を歌う
【　到達目標　】
イタリア語の読みや歌詞の意味を理解し、表現法を学ぶ。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第８回　映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う①
【　到達目標　】
こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。
また、オペラとミュージカルの違いについて学ぶ。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第９回　映画音楽、オペラなどいろいろなジャンルの名曲を歌う②
【　到達目標　】
こどもの歌から映画音楽、シャンソンなどあらゆる世代に長く愛されている名曲を歌う。
また、オペラとミュージカルの違いについて学ぶ。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第10回　ミュージカルの名曲を歌う①
【　到達目標　】
ミュージカルの名曲を日本語、英語で歌う。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第11回　ミュージカルの名曲を歌う②
【　到達目標　】
動きながら歌う方法について学ぶ。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習、練習をすること。(4.0hr)

第12回　発表会（本番）に向けてのプランニングについて
【　到達目標　】
グループごとに発表会の立案、計画、準備をする。

【授業時間外学修】
発表会に向けて歌と台詞読みの練習をすること。(4.0hr)

第13回　グループごとの演目準備①
【　到達目標　】
グループごとに発声を確認しながら練習する。

【授業時間外学修】
発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。(4.0hr)

第14回　グループごとの演目準備②
【　到達目標　】
グループごとに作品の内容を理解し、表現工夫をする。

【授業時間外学修】
発表会に向けて歌と台詞読み、演技の練習をすること。(4.0hr)

第15回　発表会
【　到達目標　】
観客の前で演じることで実践力を養う。

【授業時間外学修】
事後学習として、講義で扱った内容の復習をすること。(4.0hr)

【学修上の留意点】

歌うこともダンスと同じでなるべく毎日練習し発声することで筋肉の動きを習得することができる。

【教科書・参考書など】

その都度、楽譜を配布する。配られた楽譜は毎回持参すること。

【成績評価方法】

授業内での実技および授業内発表における演奏60%、授業における課題達成度40%で評価する。

科目名	新体操			担当者	橋爪　みすず	
英文名	Rhythmic Gymnastics					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR111		卒業認定方針との関連	⑦⑨

【到達目標】

新体操は手具（フープ、ボール、クラブ、リボン、ロープ）の操作をしながら、徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）を組み合わせることが必須とされている。本授業では、手具（フープ、ボール、リボン）と徒手要素の基礎について学び、身体の動きと手具操作を調和ｄえきるよう音楽と一緒に実践する。また、音楽のリズムを感じ、流動的な動きの中に豊かな表現力や手具技術の習得を目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
新体操の身体、手具の基礎的技術内容理解	基礎的技術内容を理解し自ら実践できる。	基礎的技術内容を理解し模倣することができる。	基礎的技術内容を理解できるが実践できない。
新体操の身体、手具の基礎的技術習得方法の理解	基礎的技術内容を理解し成功までの過程を説明できる。	基礎的技術内容を習得する過程の説明を受け実践できる。	基礎的技術内容の成功までの方法を理解できず，技術が定着しない。
新体操の身体、手具の基礎的技術の発展的応用の理解	基礎的技術を生かして新体操の演技を実施できる。	基礎的技筒を用いて新体操の演技の一部を実施できる。	基礎的技術内容の習得に不足があり、新体操の演技に発展できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
授業展開とねらい、評価方法・学習上の留意点について理解する。
新体操の概要を理解する。

【授業時間外学修】
新体操に関する書籍を読み、理解を深める。(1.0hr)

第２回　新体操の特性
【　到達目標　】
新体操に必要な柔軟性・バランス・調整力・筋力などを高める。

【授業時間外学修】
新体操の体力トレーニングについて調べておく。(1.0hr)

第３回　新体操の基礎運動①
【　到達目標　】
正しい基本姿勢および柔軟な動き・バランスを実践し、基礎技術を身につける。

【授業時間外学修】
新体操の基礎的要素（柔軟・バランス）について理解を深める。(1.0hr)

第４回　新体操の基礎運動②
【　到達目標　】
正しい基本姿勢およびジャンプ・ローテーションを実践し、基礎技術を身につける。

【授業時間外学修】
新体操の基礎的要素（ジャンプ・ローテーション）について理解を深める。(1.0hr)

第５回　手具の基礎①フープとリボン：基本操作の実践
【　到達目標　】
フープは回す、くぐる、転がす、投げるなどの基本操作からフープの特性を理解する。
リボンは、らせんやだ形を中心にリボンの特性を理解する。

【授業時間外学修】
フープとリボンの特性を調べておく。(1.0hr)

第６回　手具の基礎②フープとリボン：徒手要素と手具操作
【　到達目標　】
身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とフープとリボンの手具操作を組み合わせて実践できる。

【授業時間外学修】
フープとリボンの基礎技術要素を調べておく。(1.0hr)

第７回　手具の基礎③フープ：音楽との調和
【　到達目標　】
徒手要素とフープとリボンの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。

【授業時間外学修】
メディア等を活用し、フープとリボンの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第８回　手具の基礎④ボール：基本操作の実践
【　到達目標　】
突く、転がす、投げるなどの手具の基本操作から、ボールの特性を理解する。

【授業時間外学修】
ボールの特性を調べておく。(1.0hr)

第９回　手具の基礎⑤ボール：徒手要素と手具操作
【　到達目標　】
身につけた徒手要素（ジャンプ・バランス・ローテーション）とボールの手具操作を組み合わせて実践できる。

【授業時間外学修】
ボールの基礎技術要素を調べておく。(1.0hr)

第10回　手具の基礎⑥ボール：音楽との調和
【　到達目標　】
徒手要素とボールの手具操作との組み合わせをフレーズにし、音楽のリズムに合わせて実践できる。

【授業時間外学修】
メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第11回　手具の基礎⑦ボール：フレーズの組み立て
【　到達目標　】
曲調に合ったステップや動きを取り入れながら、フレーズを実践できる。

【授業時間外学修】
メディア等を活用し、ボールの基礎技術について理解を深める。(1.0hr)

第12回　手具と身体の応用①ボール：実技課題の実践①
【　到達目標　】
身につけたフレーズを音楽に合わせ、作品を実践できる。

【授業時間外学修】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第13回　手具と身体の応用②ボール：実技課題の実践②　学習方法の理解
【　到達目標　】
手具操作と身体の動きが明確になり、技術を習得できる。

【授業時間外学修】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第14回　手具と身体の応用③ボール：実技課題の実践③
【　到達目標　】
音楽と体のリズムに合わせたタイミングの良い手具操作を身につけながら、動きのつなぎがスムーズになるよう、更に実践を重ねる。

【授業時間外学修】
実技課題の評価と反省を行い、問題点を抽出する。(1.0hr)

第15回　手具と身体の応用④ボール：作品の発表
【　到達目標　】
作品の発表を行う。

【授業時間外学修】
実技課題の評価と反省を行い、修正すべき点を検討する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

服装・身だしなみは実習にふさわしいものとし、身体のフォームの見えにくい服装は避けるようにする。（パーカー・スウェットは着用しない）
各授業回のねらいを理解できるようパワーポイントや映像を用いて具体的説明を加える。1種目の実技試験を行う。毎時間の内容は一回一回の積み重ねとり、実技試験だけではなく、各授業の取り組みが重要であるため欠席しないよう努力する。

【教科書・参考書など】

教科書の指定はなし。
必要に応じて、プリント教材を配布する。

【成績評価方法】

実技試験70%、出席と授業への取り組み30%とし、あわせて100%として評価する。

科 目 名	フォークダンス			担当者	山梨　雅枝	
英 文 名	Folk Dance					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR112		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

本科目では、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きを通じて仲間と踊る楽しさを体得しながら、指導法も習得する。グループに分かれて新しいフォークダンスを創作し、発表する。生涯ダンスや舞踊教育の指導に役立てる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
フォークダンスの基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	参考資料を参照しながら理論を説明できる。	理解が不十分で説明ができない。
フォークダンスの基本ステップについて	ステップの指導法も含めて自ら説明できる。	資料等を参照しながら説明できる。	技術への理解が不十分で説明ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（授業展開・ねらい・評価方法・調査）
【　到達目標　】
授業展開、ねらい、評価方法の説明、フォークダンスの経験調査を行う。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第２回　フォークダンスの基本、学習指導要領の位置づけ
【　到達目標　】
フォークダンスの基本や学習指導要領の位置づけについて学ぶ。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第３回　基本的なステップの習得
【　到達目標　】
フォークダンスの基本的なステップを学び習得する。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第４回　各国のフォークダンスの習得①
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第５回　各国のフォークダンスの習得②
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第６回　各国のフォークダンスの習得③
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第７回　各国のフォークダンスの習得④
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第８回　各国のフォークダンスの習得⑤
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを習得する。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第９回　各国のフォークダンスの習得⑥
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第10回　各国のフォークダンスの習得⑦
【　到達目標　】
各国のフォークダンスのステップや動きを学ぶ。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第11回　フォークダンス①～⑦の復習
【　到達目標　】
これまで学んだフォークダンスを復習し、知識や技術を身につける。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第12回　グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作①
【　到達目標　】
グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第13回　グループに分かれて、新しいフォークダンスの創作②
【　到達目標　】
グループに分かれて、自分たちのフォークダンスをつくる。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第14回　作品発表、みんなで踊るⅠ
【　到達目標　】
作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

第15回　作品発表、みんなで踊るⅡ
【　到達目標　】
作品を発表し、発表者自身が動きを指導してみんなで踊る。
【授業時間外学修】
グループで踊り方の復習及び、各自のノートに踊り方をまとめる。(1.0hr)

【学修上の留意点】

既存のフォークダンスやレクリエーションダンスは、ステップや音の取り方に注意して正確に踊れるようにする。創作フォークダンスでは、男女を意識したステップで、各グループで対象年齢を設定して創作する。

【教科書・参考書など】

『学校フォークダンス指導の手引き』日本フォークダンス連盟編　大修館（1990年）

【成績評価方法】

既存のフォークダンスを覚えて踊る実技試験を50%とし、ねらいに応じた創作フォークダンスの実技と授業内容記録紙を50%とする。

科目名	ソフトボール			担当者	相馬　満利	
英文名	Softball					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR113		卒業認定方針との関連	⑥⑧⑨

【到達目標】

【授業科目の概要】
ベースボール型球技である「ソフトボール」は、投・打・走・捕の運動が含まれるスポーツ種目である。本授業では、「ソフトボール」の技術・戦術・体力に関する知識や構造を講義と実技を通して理解する。多くの受講者が「戦術」にかかわることにより生じる運動の楽しさを体験し、生涯スポーツへの導入を目指すとともに、授業のあり方を指導実践などを通して理解し、受講学生がお互いの交流を深める。また、生徒への指導を視野に入れ、指導方法や練習方法、安全上の留意点についても身につける。
【到達目標】
1．ソフトボールの特性を踏まえ、競技の基本的な要素（技術・戦術・体力）を身に付け、運動のスキルアップをはかり指導方法を獲得する。
2．種目の特性を理解しながら、基本的技術の習得とルールの理解を通じて、ゲームを実践できる能力と個人やチームの技能に応じて基本的な動作の学習や指導方法を学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ソフトボールの基礎的な個人技能習得	基本技能を理解、習得し高いレベルで実施できる	基本技能を理解、習得し実施できる	基本技能の習得ができていない
ルールの理解並びに守備連携の理解	ゲーム運営を理解し、進行できる	多少理解不足はあるが、ゲームを一人で進行できる	ルール理解できず、ゲーム進行ができない
基本技能の指導方法の理解	基本技能の指導法を理解し、十分に指導できる	基本技能の指導法をおおよそ理解し指導できる	基本技能の指導法を理解できず、指導できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス：到達目標、授業の実施方法、受講にあたっての諸注意
【　到達目標　】
1．本授業の目的や評価の方法、具体的な内容、天候による実施内容の変更など授業に関わる留意点を理解する。
2．ソフトボール競技の現状、世界との違いを理解する。
【授業時間外学修】
1．ソフトボールや野球のルールについて、本や動画などで予習する。(1.0hr)

第２回　ソフトボールの特性を学ぶ：歴史、ルール、野球とソフトボールの違い
【　到達目標　】
1．ソフトボールの歴史、ルール、野球とソフトボールの違いについて理解する。
2．中学・高等学校における「ベースボール型」授業のあり方を理解する。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で取り扱うキャッチボールについて、本や動画などで予習する。(1.0hr)

第３回　ソフトボールの基本的動作を学ぶ＜1＞：守備①（身体の使い方やキャッチボール）
【　到達目標　】
1．ソフトボールの基本的な投げ方と安全な捕球の仕方を理解し、習得する。
2．ポジションによる投動作の違いも理解する。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で取り扱う守備の戦術について、本や動画などで予習する。(1.0hr)

第４回　ソフトボールの基本的動作を学ぶ＜２＞：守備②（ポジション別特性への理解）
【　到達目標　】
1．ゴロやフライの捕球の仕方について理解し、習得する。
2．キャッチボールを行いながら、ゴロやフライの状況を作り出し、グラブの使い方を習得する。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で実施するキャッチボールのスキルチェックに向けて予習する。(1.0hr)

第５回 守備の目標達成へのアプローチ＜１＞：キャッチボールスキルチェック
【　到達目標　】
1．ここまでの授業を通して理解、習得したキャッチボールについて表現することができる。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で実施する捕球動作・送球動作のスキルチェックに向けて予習する。(1.0hr)

第６回　守備の目標達成へのアプローチ＜２＞：ゴロ、フライ捕球・送球スキルチェック
【　到達目標　】
1．ここまでの授業を通して理解、習得したゴロ、フライ捕球・送球動作について表現することができる。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で取り扱うウィンドミル投法について、本や動画などで予習する。(1.0hr)

第７回　ソフトボールの基本的動作を学ぶ＜３＞：守備③（ウィンドミル投法基本編）
【　到達目標　】
1．ウィンドミル投法について理解し、習得する。
2．野球との違いを理解する。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で取り扱うウィンドミル投法について、本や動画などで予習する。(1.0hr)

第８回　ソフトボールの基本的動作を学ぶ＜４＞：守備④（ウィンドミル投法応用編）
【　到達目標　】
1．ゲームで投げられるようになるために、セットポジションからの動きを習得する。
2．ブラッシングの重要性を理解する。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で取り扱うバッティング動作について、本や動画などで予習する。(1.0hr)

第９回　ソフトボールの基本的動作を学ぶ＜５＞：攻撃①（バッティングフォーム、ベッパー、バント）
【　到達目標　】
1．バットの握り方、スイングの仕方について理解し、習得する。
2．ティーバッティングなどの基本的なドリルを行い、ボールをバットの芯に当てることを習得する。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で取り扱うバッティング動作について、本や動画などで予習する。(1.0hr)

第10回　ソフトボールの基本的動作を学ぶ＜６＞：攻撃②（ティー打撃、ロングテー打撃、ベースランニング）
【　到達目標　】
1．遠くに打球を飛ばすための体の使い方を覚える。
2．ベースを早く走るためのスキルを身に付ける。
【授業時間外学修】
1．次回の授業で実施するティーバッティングのスキルチェックに向けて予習する。(1.0hr)

第11回　攻撃の目標達成へのアプローチ＜１＞：ティーバッティングスキルチェック
【　到達目標　】
1．ここまでの授業を通して理解、習得したバッティング動作について表現することができる。
【授業時間外学修】
1．次回からゲームのため、チーム戦術を考え、ゲームを展開できるように目標を決めておく。(1.0hr)

第12回　ゲーム実践＜１＞：ミニゲーム①（初心者への導入方法の紹介）
【　到達目標　】
1．攻撃における打順の意味を理解し、場面に応じた打撃の狙いや走塁について実践を通して理解し、習得する。
2．ゲームを通して、攻守の作戦の立案やより良いゲームを行うための課題を理解する。
【授業時間外学修】
1．ゲームにおけるポジションごとの役割について事前に学修しておく。(1.0hr)

第13回　ゲーム実践＜２＞：ミニゲーム②（初心者への導入方法の紹介）
【　到達目標　】
1．前回の試合で出た課題について、個人やチームで練習を行い、試合に向けた準備ができるようにする。
2．ゲーム経験を踏まえて、個人やチームの課題を検討、抽出することができるようにする。
【授業時間外学修】
1．個人やチームの課題に対する練習方法について検討しておく。(1.0hr)

第14回 ゲーム実践＜３＞：オフィシャルゲーム（オフィシャルルールでの実施）
【　到達目標　】
1．カバーリングやベースカバーなど、守備におけるボールを持たない人の動きを理解し、実践できるようにする。
2．課題を克服する練習方法について考えることができる。
【授業時間外学修】
1．これまで学んできた技術や戦術、ルールを復習し、ノートにまとめる。(1.0hr)

第15回　まとめ
【　到達目標　】
1．授業全体を通して取り組んできた内容について振り返りを行う。
【授業時間外学修】
1．授業の内容を振り返り、新しく学んだことや気づいたことをノートにまとめる。(1.0hr)

【学修上の留意点】
1．体調不良等の理由でやむを得ない場合は見学となるが、その際も運動着に必ず着替えること。
2．天候等、場合によっては、教室を利用し理論や歴史、ルール、野球との違いなどを学修する。
装飾品（ピアスやネックレス等）は外し、長髪の場合は髪をまとめ、運動に適した服装で受講すること。運動の得意・不得意、技術レベルに関係なく、受講生全員が心から楽しめる授業にするため、積極的・主体的な発言や行動をおこなうこと、また、仲間とともに身体を動かすことを楽しめるマインドをもつことを期待する。授業中は、受講学生同士の積極的な交流を期待する。また、ベースボール型は、小学校高学年、中学等で必修科目となっており、各都道府県の採用試験等でもベースボール型に関する試験内容が出題されている。ベースボール型に携わる機会も増え、その競技特性をよく理解し、基本的な動作ができるように一緒に楽しみましょう。

【教科書・参考書など】
特になし。

【成績評価方法】
【評価方法】各技能の習熟度、実技テスト、積極性・協調性などの総合評価とする。
【割合】各技能の習熟度40%、実技テスト40%、レポート課題20%とし、総合的に評価する。
【基準】60%以上を合格とする。授業内で行うゲームの勝敗等については、マイナスの評価はしない。合格点に満たなかった場合は、追加課題を課す。実施日・場所・実施内容の詳細は、事前に周知する。

科 目 名	柔道			担当者	佐藤　雄哉・瀧本　誠		
英 文 名	Judo						
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科		健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門基礎・選択			
授業形態	実技	科目ナンバー	DBR114			卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】
スポーツ種目の一つである柔道の基礎技能（受身の仕方、投げ技、固め技など）を習得する。併せて柔道の歴史的発展についての知識も学習する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
基礎知識に関する事項	柔道の成り立ちや性質を説明できる	柔道の成り立ちや性質を理解している	柔道の成り立ちや性質を理解していない
前回り受け身に関する事項	人の前回り受け身を見て不十分な点を指摘出来る	身を護るレベルの前回り受け身が取れる	危険な前回り受け身である
投げ技、固め技に関する事項	基礎技能を有機的に使用し、試合を楽しめる	基礎技能を身に着け、安全に試合が行える	試合を行う際に危険な状況が散見される

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（授業展開について）
【　到達目標　】
授業の全体像を把握する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第２回　柔道の基本動作、受身（後受身）、固め技（袈裟固、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第３回　受身（横受身・前回受身）、固め技（袈裟固の逃れ方、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第４回　受身（前回受身）、固め技（崩れ袈裟固め、横四方固、乱取）
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第５回　投げ技の基本動作（姿勢、組み方、進退動作、崩しー作りー掛け）、投げ技（膝車）
【　到達目標　】
基本動作を理解し、正確な動作を習得する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第６回　投げ技（膝車、小内刈）、固め技（上四方固、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第７回　投げ技（大外刈り、背負投）、固め技（縦四方固、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第８回　投げ技（釣込腰、払腰）、固め技（各種抑え技の逃れ方、乱取）
【　到達目標　】
投げ技の理論を理解し、正確な動作を習得する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第９回　受身試験
【　到達目標　】
正確な動作を習得し、安全確保について理解する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第10回　投げ技（大腰）、固め技（関節技、乱取）
【　到達目標　】
投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第11回　投げ技（払い腰、約束練習）、固め技（絞め技、乱取）
【　到達目標　】
投げ技・固め技の理論を理解し、正確な動作を習得する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第12回　投げ技（体落とし、約束練習）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅰ
【　到達目標　】
基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第13回　投げ技（連絡技、乱取）、固め技（様々な姿勢での攻防、乱取）Ⅱ
【　到達目標　】
基本動作を用いて相手の動きに応じた攻防ができる。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第14回　試験（投げ技、固め技）
【　到達目標　】
正確な動作を身につけ、柔道に関して理解する。

【授業時間外学修】
参考書を用いて技術の理解を深める。(1.0hr)

第15回　簡易な試合
【　到達目標　】
柔道全般を理解する。

【授業時間外学修】
参考書と学習指導要領を用いて指導法の理解を深める。(1.0hr)

【学修上の留意点】
安全面に留意する。授業の際は、集中して取り組むこと。また、「何故？」という課題、疑問を持って授業に参加すること。
状況に応じて映像教材や資料を提示し、論理的な技術体系の解説を施しながら柔道に対する理解を深めていく。本講義を理解するためには、感覚的な技術の習得と併せて、論理的な技術体系の理解が重要である。レポートや理解度確認テストを通して明らかとなった課題を解説、フィードバックし、課題の解決に取り組むことが求められる。

【教科書・参考書など】
授業に必要な資料は、その都度配布することとする。

【成績評価方法】
調整中

科 目 名	スポーツ社会学			担当者	溝口　紀子	
英 文 名	Introduction to Sociology of Sport					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門基礎・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE309		卒業認定方針との関連	⑦⑧⑨

【到達目標】

スポーツの歴史や文化史を通して、スポーツの社会的役割、文化的意義について考察する。グローバル社会の多様な側面や文化的特徴についてスポーツという切り口から理解を深める。「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」の視点からスポーツがどのように社会や人と関わりを持っているのかを社会学の視点から考察する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
スポーツ社会学における基礎的知識	知識を理解し自らまとめて説明できる。	知識を教科書等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
スポーツ社会学の研究知見に関する事項	研究知見の要点を自らまとめて説明できる。	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明できない。
スポーツ社会学の研究知見の活用に関する事項	知見の活用について意見を示すことができる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス（授業の進め方　スポーツ権）
【　到達目標　】
スポーツ社会学におけるスポーツのとらえ方、考え方及び社会学の学問的性格について理解する。

【授業時間外学修】
書き出してみる。(4.0hr)

第２回　遊びとスポーツ　－「ホモ・ルーデンス」・「遊びと人間」を読み解く－
【　到達目標　】
スポーツの定義、遊び、eスポーツについて理解する。

【授業時間外学修】
eスポーツについて調べる。(4.0hr)

第３回　スポーツの近代化と武道の誕生
【　到達目標　】
スポーツの誕生から近代スポーツの誕生、そして現在のグローバル化社会におけるスポーツの急速な変容について理解する（小レポートを実施）。

【授業時間外学修】武士道、武道の違いについて、文献やインターネット等で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第４回　スポーツとナショナリズム
【　到達目標　】
スポーツと政治の親和性について考えていく。ナショナリズムや国家的なスポーツ政策について、メディアとの関係性も踏まえて理解する。

【授業時間外学修】スポーツと政治の関係性に関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第５回　プロパガンダとオリンピック（美の祭典・民族の祭典）
【　到達目標　】
プロパガンダの作用について学習する。
民族の祭典、美の祭典の映画鑑賞、スポーツ文化について取り上げる。

【授業時間外学修】
プロパガンダの意味を調べる。プロパガンダの具体的な例を調べる。(4.0hr)

第６回　五輪とボイコット（冷戦下のスポーツ）
【　到達目標　】
スポーツが政治とどのように結びつくのか、冷戦時代を例にボイコットについて取り上げる。

【授業時間外学修】
五輪ボイコットに関して文献で調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第７回　子どもの健康・経済格差
【　到達目標　】
子どもの経済格差について、スポーツの環境視点から検証する。

【授業時間外学修】「子どもの経済格差」について調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第８回　スポーツとジェンダー
【　到達目標　】
女性アスリートのメディア・イメージやパターナリズムの理解から、スポーツにおけるジェンダーの課題と展望について論じることができる（小レポート実施）。
人見絹枝が残したスポーツの功績を考える。
【授業時間外学修】スポーツに限定せず、自分が経験した、または社会に存在するジェンダーバイアスに関して整理する。(4.0hr)

第９回　女性と身体
【　到達目標　】
女性の身体を社会学の視点から考察する。
セクシュアリティ、ダイバーシティといった視点から身体を読み解く。

【授業時間外学修】
セクシュアリティ、DSDについて調べ、授業時にコメント等に反映できるようにする。(4.0hr)

第10回　武道の国際化－文化変容とは何か－
【　到達目標　】
武道を例に、文化相対主義、文化変容について理解する。

【授業時間外学修】
海外のスポーツの流入、武道の流出に関して調べる。(4.0hr)

第11回　障がいスポーツ
【　到達目標　】
障がいスポーツの基礎知識、課題について理解する。

【授業時間外学修】
障がいスポーツ種目、パラアスリートについて調べる。(4.0hr)

第12回　スポーツと危機管理（安全配慮義務）
【　到達目標　】
スポーツと事故、安全配慮について、社会学的観点から議論できるようになる。スポーツと体育の関係性、課外活動における諸問題等も社会学的観点から理解する(小レポートを実施)。

【授業時間外学修】
自分のスポーツ経験・体験におけるスポーツ事故をまとめる。(4.0hr)

第13回　スポーツと倫理（ドーピングの問題性とスポーツの本質）
【　到達目標　】
ドーピング問題とは何かについて理解し、スポーツにおけるドーピング問題を社会秩序の観点から論じることができるようにする。

【授業時間外学修】
パラドーピング、日本選手のドーピング事件を調べる。(4.0hr)

第14回　スポーツと体罰
【　到達目標　】
スポーツを身体、規律、訓練の視点から考察する。
指導者と生徒の関係性、課外活動におけるハラスメント題等も社会学的観点から理解する。

【授業時間外学修】
自分のスポーツ経験・体験について、教師や指導者との関係性に関してまとめてみる。(4.0hr)

第15回　1964東京五輪と東京2020
【　到達目標　】
1964年東京五輪の当時の時代背景、スポーツ政策はいかに進められたかを理解する。
2020東京のレガシーについて考察する。

【授業時間外学修】
1964年,2020年のそれぞれの東京五輪の問題点について調べる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

1.テキストの難しい言葉については、あらかじめ読み方と意味を調べておく。
2.現代スポーツの動きや問題について関心を持つようにする。
3.感染予防、静かな授業環境を維持するためのルール、マナー、エチケットに各自が留意する。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しないが、必要に応じて、資料等を配布する。
参考図書：「現代スポーツのパースペクティブ」菊幸一他編著（大修館書店）2006 、「性と柔ー女子柔道史から問うー」溝口紀子著（河出書房新社）2013、「よくわかるスポーツ文化論」 井上俊・菊幸一編著（ミネルヴァ書房）2012、「日本の柔道　フランスのJUDO」溝口紀子著（高文研）2015

【成績評価方法】

試験：60%（試験は試験期間中に別途実施。持込不可）、授業中の小レポート（3回）及びリアクションペーパーへの記述内容：40%、良好な出席状況は当然の前提である。

科目名	表現運動学			担当者	宮本　乙女	
英文名	Dance Movement Studies					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR101		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊表現における主要な技能である「踊る」「創る」「観る」のそれぞれの特徴や構造、また相互の有機的連関について認識を深める。また、舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性についても理解を深め、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊表現における主要な技能「踊る」「創る」「見る」の特徴や構造の理解	主要な技能について特徴と構造を理解し、相互の有機的関連について説明できる。	主要な技能について特徴を理解し、資料を参照しながら説明できる。	主要な技能について、理解が不十分で、特徴や構造を説明できない。
舞踊における身体やダイナミックイメージとしての舞踊運動の特性の理解	舞踊運動の特性を身体やダイナミックイメージに触れつつ自分の知見として説明できる。	舞踊運動の特性を理解して資料を参照しながら説明できる。	舞踊運動の特性について理解が不十分で、説明できない。
考えたこと、理解したことを文章に表したり仲間と話しあったりして思考判断表現する	自分の考えをオリジナリティーを持って記述したり、述べたりして思考を深められる。	自分の考えを記述したり、仲間と話しあうことができる。	自分の考えを記述したり、仲間に伝えたりできない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション、ダンスとは何か
【　到達目標　】
ダンスとはどのように定義されているのか、先行文献から学ぶと共に自分にとってダンスとは何なのかを考察する。

【授業時間外学修】
ダンスの定義について検索してみる。(4.0hr)

第２回　ダンスの歴史、種類、舞踊における動きとは
【　到達目標　】
ダンスの発生の歴史や種類について理解する。
ダンスの動きの構造を、時間、空間、力の面から把握する。

【授業時間外学修】
自分のこれまで体験したダンスを時間、空間、力の面から見直す。(4.0hr)

第３回　「人間発達と表現運動」その1　幼児～小学生
【　到達目標　】
幼児期から小学校期の舞踊運動とイメージについて理解する。
学習指導との関連も理解する。

【授業時間外学修】
人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr)

第４回　「人間発達と表現運動」その2　中学生～大学生
【　到達目標　】
中学、高校、大学期の舞踊運動とイメージについて理解する。
学習指導との関連も理解する。

【授業時間外学修】
人間の発達と表現運動について、自分の舞踊歴、学習歴と比較して考察する。(4.0hr)

第５回　表現運動と男性・女性
【　到達目標　】
様々な舞踊作品の中で、男女がどのように表現されているかを学ぶ。

【授業時間外学修】
授業で視聴したダンス作品以外で男性、女性がどのように表現されているか考察する。(4.0hr)

第６回　ダンス教育とジェンダー
【　到達目標　】
人間の性のとらえ方、ダンス教育におけるジェンダーについて考察する。

【授業時間外学修】
自分の体験した学校教育の中でジェンダーの視点から課題となる事柄を考察する。(4.0hr)

第７回　「ダンスの構造」その1　運動の変化と連続
【　到達目標　】
「対極の動きの連続」という視点で、ダンスの動きを考える。
自身の体験した舞踊作品をその視点から考察する。

【授業時間外学修】
授業で扱った以外の作品について対極の動きの連続を考察する。(4.0hr)

第８回　「ダンスの構造」その2　運動の質と表現性
【　到達目標　】
舞踊の動きの質と、そこから引き起こされる感情価、情調について考察する。

【授業時間外学修】
ダンス作品の感想や批評文などを収集し、どんな言葉で書かれているかを検討する。(4.0hr)

第９回　「ダンスの構造」その3　「群」の表現性
【　到達目標　】
「群」という視点で、ダンスの動きを考える。
舞踊作品をその視点から考察する。

【授業時間外学修】
ダンス以外の表現についても群の効果という視点から検討する。(4.0hr)

第10回　「踊る・創る・観る」その1　創る…仮定期
【　到達目標　】
舞踊の「踊る」「創る」「観る」の3つの技能特性を理解する。
創る活動の、仮定期の特徴を理解する。

【授業時間外学修】
仮定期のブレインストーミングを参考に、自分の作舞体験を当てはめてみる。(4.0hr)

第11回　「踊る・創る・観る」その2　創る…仮定期から探索期へ
【　到達目標　】
創る活動の、探索期の特徴を理解する。探索期にどの様な指導の手立てが必要かを考察する。

【授業時間外学修】
教育現場を想定して、探索期の指導を検討する。(4.0hr)

第12回　「踊る・創る・観る」その3　創る…探索期から達成期へ
【　到達目標　】
創る活動の、達成期の特徴を理解する。

【授業時間外学修】
達成期としてのリハーサルや、仕上げ、場当たりの意味を考察する。(4.0hr)

第13回　「踊る・創る・観る」その4　踊る…リズムを考える
【　到達目標　】
人間の体とリズム、間のリズムなど、リズムを切り口に文献を読み解きながら、理解する。

【授業時間外学修】
配付された文献の残りの部分を読んで考察を深める。(4.0hr)

第14回　「踊る・創る・観る」その5　観る…鑑賞と評価
【　到達目標　】
舞踊を鑑賞することと、評価することについて理解する。

【授業時間外学修】
どんな動きがダンスの良い動きなのかを自分なりに説明できるようにする。(4.0hr)

第15回　舞踊表現の特性
【　到達目標　】
授業全体を振り返り、舞踊表現の特性を確認する。
踊り手としての心構えを論じた古典に触れる。

【授業時間外学修】
15回の授業プリントをもう一度整理して内容の理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業では、文献や、映像資料なども使用しながら進めていく。各自の舞踊活動と結びつけ、毎回の授業で展開される内容を積み重ねて舞踊の動きや身体についての理解を深めるようにする。クラス内討論や、グループ討論を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、より理解を深めていくので課題や討論などに積極的に取り組んでほしい。学習カードにより毎時間の小課題に取り組むが、次の時間に解説をしてフィードバックする。

【実務経験のある教員による授業科目】

中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、舞踊表現の基礎である踊る・創る・観る、それぞれの特徴の理解と、発達段階の特性と舞踊などについて、舞踊活動を豊かに展開するための基礎認識を形成することを目的に講義を行う。

【教科書・参考書など】

毎時間、レジュメと資料を配付して授業を行う。

【成績評価方法】

毎回の授業の課題達成度（授業内ミニレポート）及び授業内討論での発言内容、活動内容30%、期末試験70%として評価する。試験は、試験期間中に別途実施する。合格基準は60%である。

科 目 名	舞踊学原論			担当者	安達 詩穂	
英 文 名	The Principles of Dance Study					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR102		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

「舞踊・ダンス」は歴史的・地域的に多様な展開を示す営みであるため、全体像を捉えるためにはこれらを系統的に理解することが必要である。本講義では「舞踊・ダンス」の社会的機能、教育や芸術などにおける位置づけ、演劇や音楽などの近接領域との関係を解説する。本講義の到達目標は、解説された事項を履修者が理解し説明できると共に、ダンス学科での自らの学修、さらには今後の「舞踊・ダンス」の姿に関する展望を持つことに学んだ内容を具体的に役立てられることである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊の歴史的展開についての基礎的事項・理論	舞踊の歴史的展開に関する理論を理解し、自らまとめて説明できる。	舞踊の歴史的展開について、授業資料を参照しながら説明できる。	舞踊の歴史的展開について理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。
舞踊の社会的機能や隣接領域との関係についての基礎的事項・理論	舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係に関する理論を理解し、自らまとめて説明できる。	舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係について、授業資料を参照しながら説明できる。	舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係について、理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。
知見と自己の専門的学修との関連づけ	舞踊学の理論を自らの学修と関連づけて考え、卒業までの学修計画を展望することができる。	学科のカリキュラムを理解しており、資料を見ながら説明できる。	学科のカリキュラムについての理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　舞踊学とは
【　到達目標　】
舞踊学の位置付けや学問としてのダンスについて理解を深める。
【授業時間外学修】
ダンスの定義を考え、短文で記してみる。(4.0hr)

第２回　舞踊の分類（１）運動の特徴を中心に
【　到達目標　】
舞踊の起源をたどりながら、舞踊の基本的運動の特徴を整理して具体例とともに理解する。
【授業時間外学修】
10個の身体語彙に含まれる心理や背景・状況を理解する。(4.0hr)

第３回　舞踊の分類（２）社会的機能を中心に
【　到達目標　】
多様に展開する舞踊を、社会的機能から、祭儀性の舞踊、遊戯性の舞踊、審美性の舞踊などに分類し、具体例とともに特徴を理解する。
【授業時間外学修】
これまでのダンス経験を振り返り、社会的機能の観点から分類する。(4.0hr)

第４回　日本の中世文化・伝統芸能の成熟
【　到達目標　】
中世に庶民の間で踊られていた舞踊の特徴と、社会状況との関連を理解する。
伝統芸能の代表といえる「猿楽」「歌舞伎」の特徴を理解する。
【授業時間外学修】
能と歌舞伎それぞれの代表的作品の内容を調べ、作品解説を書く。(4.0hr)

第５回　ヨーロッパ中世文化の舞踊・バレエの誕生
【　到達目標　】
バレエが発祥し、フランスを中心に支配層の保護のもとに次第に発展していく過程を理解する。
【授業時間外学修】
ヨーロッパ・ルネサンス期の舞踊以外の芸術について取り上げ、その特徴をまとめる。(4.0hr)

第６回　日本における西洋舞踊の受容
【　到達目標　】
明治維新とともに欧米文化を導入しようとした日本の状況と、そこでの舞踊の受け止められ方や実践状況を理解する。
【授業時間外学修】
日本の「お稽古場」文化は独特だと言われる。近代日本人が欧米のダンスと出会った頃のダンスの例から、現況との違いについて考える。(4.0hr)

第７回　バレエの革新
【　到達目標　】
ロシアでのクラシックバレエの確立と、バレエ内部から起こった革新を理解する。
【授業時間外学修】
ニジンスキーが振り付けた作品をひとつ選び、作品解説を書く。(4.0hr)

第８回　近代舞踊革命とモダンダンス
【　到達目標　】
19世紀末にバレエを否定して起こった新しい舞踊の考え方と作品、その影響を理解する。
イサドラ・ダンカン、ロイ・フラー、ルース・セント・デニスなどの活動を知る。
【授業時間外学修】
授業中に取り上げた人物を一人選び、その人の作品解説および舞踊観を書く。(4.0hr)

第９回　ドイツ表現主義舞踊
【　到達目標　】
ドイツを中心とする表現主義舞踊の展開を理解する。
ルドルフ・ラバン、ダルクローズ、デルサルト、マリー・ウィグマン、グレト・パルッカらの活動とその影響を知る。
【授業時間外学修】
授業中に取り上げた人物を一人選び、その人の作品解説および舞踊観を書く。(4.0hr)

第10回　アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開
【　到達目標　】
アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開を理解する。
グラハム、ホートン、リモンなどの提起した表現技術の考え方を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に取り上げた人物を一人選び、その人の作品解説および舞踊観を書く。(4.0hr)

第11回　人間や社会の理解の変化とポスト・モダンダンスの出現
【　到達目標　】
1960年代からアメリカで起こったダンスの主張とその波及状況を理解する。
【授業時間外学修】
ポストモダンダンス作品を視聴し、作品解説、鑑賞レポートを作成する。(4.0hr)

第12回　日本のポスト・モダンダンス「暗黒舞踏」
【　到達目標　】
社会に対して思想を発信する仕掛けとしてのダンスの可能性を知る。
舞踊における自文化・異文化の交流とグローバル化について理解する。
【授業時間外学修】
暗黒舞踏の作品を視聴し、作品解説、鑑賞レポートを作成する。(4.0hr)

第13回　「いま　ここ」を生きる人のコンテンポラリーダンス
【　到達目標　】
ボーダレスとなってきた舞踊と周辺領域の関係を見ながら、現代社会における舞踊の価値について理解する。
【授業時間外学修】
これからのコンテンポラリーダンスの行末を想像して「未来のダンス」と題して800字程度の小論文を作成する。(4.0hr)

第14回　パフォーミングアーツとの融合
【　到達目標　】
過去を否定して発展するダンスと、既存の融合で発展するダンスについて、その具体例を知るとともに、相違点を理解する。
【授業時間外学修】
今後自分が創作、出演、鑑賞するにあたって実現してほしい融合芸術を考案する。(4.0hr)

第15回　舞踊教育と教育舞踊
【　到達目標　】
舞踊教育と教育舞踊の比較を通じ、舞踊教育の社会的な立場や今後推進されるべき内容について考えを深める。
【授業時間外学修】
15回の学習を経て形成された各自の「ダンスの定義」を記述する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業では毎回パワーポイントや映像資料を用いて解説を行う。授業終了時～当日中にGoogleFormsで「学習状況確認」を実施する。指定した回には、指定された方法で授業時間外学習の成果を提出する。適宜グループワークも実施するため、主体的な参加を求める。

【教科書・参考書など】

適宜、資料を配布する。

【成績評価方法】

「学習状況確認」の成果(25%)と授業時間外学習の成果(25%)、試験期間中に実施する試験の得点（50%）を併せて成績評価する。

科 目 名	シアターダンステクニック			担当者	坂本　秀子	
英 文 名	Theater Dance Technique					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	実技	科目ナンバー	DMR103		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

劇場は、照明などで演技がくっきりと浮き出て見えるように設計されていて、日常の空間とは異なった様相を帯びている。従って、稽古場や体育館で踊る場合とは異なり、プロフェッショナルの常識のようなものが存在する。それを学ぶのが、この講座である。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
劇場に相応しいダンス表現の実施について	劇場に相応しい表現として実施できる。	やや不十分な箇所が見られるが実施できる。	劇場に相応しい表現としては未完成である。
劇場に適したダンス作品について	劇場の特徴を把握した上で実施ができる。	劇場の把握がやや不十分だが実施はできる。	劇場の特徴が理解できないが実施はできる。
劇場における芸術の知識・理論について	劇場の知識や理論について自ら説明できる。	劇場の知識や理論について不十分である。	劇場の知識や理論が理解できていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　作品の説明とビデオ鑑賞（作品Ａ）
【　到達目標　】
作品のおおまかなイメージをつかむ。

【授業時間外学修】
全体のイメージトレーニングを行う。(1.0hr)

第２回　振りを学ぶ①
【　到達目標　】
基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。

【授業時間外学修】
振りの順番を確認する。(1.0hr)

第３回　振りを学ぶ②
【　到達目標　】
細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。

【授業時間外学修】
特に注意された箇所を思い出しておく。(1.0hr)

第４回　振りを学ぶ③
【　到達目標　】
全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して、通し練習する。

【授業時間外学修】
全体のイメージトレーニングを行う。(1.0hr)

第５回　踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しあう①
【　到達目標　】
少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。

【授業時間外学修】
新たな課題を確認し、イメージを膨らませる。(1.0hr)

第６回　作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品Ｂ）
【　到達目標　】
作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。

【授業時間外学修】
全体のイメージトレーニングを行う。(1.0hr)

第７回　振りを学ぶ④
【　到達目標　】
細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。

【授業時間外学修】
振付の復習。(1.0hr)

第８回　振りを学ぶ⑤
【　到達目標　】
全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。

【授業時間外学修】
全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。(1.0hr)

第９回　踊って批評を受ける、互いに問題点を発見しあう②
【　到達目標　】
少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。

【授業時間外学修】
新たな課題を発見し、イメージを膨らませる。(1.0hr)

第10回　作品の説明とビデオ鑑賞、振りを学ぶ（作品Ｃ）
【　到達目標　】
作品のおおまかなイメージをつかむ。基本テクニックに留意しながら、明確に覚える。

【授業時間外学修】
全体のイメージトレーニングを行う。(1.0hr)

第11回　振りを学ぶ⑥
【　到達目標　】
細かい部分のチェックもしながら、振りを覚える。

【授業時間外学修】
振付の復習。(1.0hr)

第12回　振りを学ぶ⑦
【　到達目標　】
全体を通して踊ることで、気持ちの流れやエネルギーの配分についても、研究する。舞台の使い方を意識して通し練習する。

【授業時間外学修】
全体の流れを感じ、イメージを膨らませる。(1.0hr)

第13回　踊り込み、吟味
【　到達目標　】
何回も通して練習し、動きの集中力を強化していく。客席からの見え方と演者の意識の相違について考える。

【授業時間外学修】
音楽を聴きながら、舞台上の自分をイメージする。(1.0hr)

第14回　踊って批評を受ける、感想を述べあう
【　到達目標　】
少人数ずつ踊り、アドバイスを受ける。仲間の踊りを鑑賞することで、新たな課題を発見する。

【授業時間外学修】
新しい課題を心にとどめる。(1.0hr)

第15回　今後の課題を設定し、実現のための構想を練る
【　到達目標　】
今後の課題を発見し、実現するための構想を練る。

【授業時間外学修】
課題を意識した練習方法を考える。(1.0hr)

【学修上の留意点】

【対面授業の場合】
基礎的なテクニックを獲得し、作品を魅力的に踊り通すことができるようにしたい。そのための精神的な強さ、集中力も鍛え、自分で工夫したり練習する習慣も身につけていく。これからの４年間の基盤となる授業なので、真剣に受講して欲しい。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

【対面授業の場合】
平常授業での課題40%、到達時の確認課題60%。試験は別途実施する。

科 目 名	舞踊創作・振付法			担当者	坂本　秀子	
英 文 名	Theory of Dance Composition and Choreography					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR201		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【到達目標】

舞踊作品という概念、作品成立のための諸条件等、基本的な理論を学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
作品創作・振付に関する知識や理論について	授業で学んだ知識や理論を自ら説明できる。	授業で学んだ内容がほぼ理解できている。	授業で学んだ知識や理論が理解できていない。
芸術作品の構成要素について	構成要素について自ら説明ができる。	構成要素についてほぼ理解できている。	構成要素について理解できていない。
基礎知識の応用力について	基礎知識を理解し応用することができる。	基礎知識に留まり、応用することが難しい。	基礎知識の理解ができていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　作品創作の動機について
【　到達目標　】
あらゆる例題を取り上げながら、作品創作の動機を探る。作品や作者のバックグラウンドについても、考察する。

【授業時間外学修】
作品創作の動機について考え、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第２回　テーマ、抽象・具象について
【　到達目標　】
テーマの決定のしかた、抽象作品、具象作品などの特性を理解する。

【授業時間外学修】
他の芸術分野について、テーマ、抽象、具象について調べる。(4.0hr)

第３回　題名について
【　到達目標　】
題名の考え方、決め方について理解を深める。

【授業時間外学修】
他の芸術分野について、題名の考え方や決め方について調べる。(4.0hr)

第４回　作品の大まかなイメージ（動き、構成）
【　到達目標　】
動きと構成の関係について理解する。作品の動きにふさわしい構成とは、どんなものかを考える。

【授業時間外学修】
作品の動きにふさわしい構成について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第５回　作品の大まかなイメージ（衣裳、照明、音響）
【　到達目標　】
舞台で上演する作品は、総合芸術であることを理解し、音響、衣裳、照明のあり方について学ぶ。

【授業時間外学修】
興味のある作品を取り上げ、衣裳、音響、照明について考察する。(4.0hr)

第６回　モチーフ、フレーズについて
【　到達目標　】
作品の主張の最小単位と言えるモチーフ、フレーズのとらえ方について理解する。

【授業時間外学修】
興味のある作品を取り上げ、モチーフ、フレーズについて考察する。(4.0hr)

第７回　教材ＶＴＲ「作品のモチーフ」を見る
【　到達目標　】
教材ＶＴＲによる研究・分析を行う。

【授業時間外学修】
作品のモチーフを一つ考えてみる。(4.0hr)

第８回　動きの変化・発展
【　到達目標　】
動きの変化・発展のしかたについて学び、実演しながら理解する。

【授業時間外学修】
変化、発展のしかたについて復習する。(4.0hr)

第９回　隊形の種類、移動、変化
【　到達目標　】
隊形の種類を把握し、作品の中での効果的な移動のしかた、変化の方法について学ぶ。

【授業時間外学修】
隊形の種類、移動、変化のしかたについて、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第10回　組み合わせ、比例、均等
【　到達目標　】
隊形の組み合わせについて考える。

【授業時間外学修】
隊形の組み合わせについて復習する。(4.0hr)

第11回　時間構成について
【　到達目標　】
作品の時間構成について学ぶ。全体から見た理想的な時間配分について考える。

【授業時間外学修】
作品の時間構成について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第12回　教材ＶＴＲ「作品の出来上がるまで」を見る
【　到達目標　】
例題となる教材ＶＴＲから、作品の出来るまでを理解する。

【授業時間外学修】
作品の完成するまでの流れをイメージしてみる。(4.0hr)

第13回　反復、伏線、クライマックスについて
【　到達目標　】
作品におけるクライマックスとは何か、また、その効果的なつくり方などについて考える。

【授業時間外学修】
他の芸術分野では、クライマックスをどのように捉えているかを考察する。(4.0hr)

第14回　コントラスト、リズム、調和について
【　到達目標　】
作品のコントラスト、リズム、調和について考える。

【授業時間外学修】
コントラスト、リズム、調和について、身近な作品を例に考察する。(4.0hr)

第15回　今後の課題の設定
【　到達目標　】
最も興味深いテーマを取り上げ、更に研究を深める。

【授業時間外学修】
自分で課題を見つけ、解決のための方法を考案する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

【対面授業の場合】
授業ノートを工夫して作成し、今後の舞踊活動のための資料保存版となるようにしたい。各自が自習や調査などを行い、オリジナルノートを作成することを目標とし、理解度の確認を行う。

【教科書・参考書など】

適宜、プリント等配布。

【成績評価方法】

【対面授業の場合】
ノート提出60%、授業内レポート40%。

科目名	舞踊方法学			担当者	髙野　美和子	
英文名	Dance Methodology					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR202		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

すぐれたダンサーや振付家、指導者になるための基礎として、様々な舞踊の運動特性と表現形式についての正確な理解や、身体のメカニズムに対する深い認識が必要である。この授業では、様々な舞踊作品、振付家や指導者、ダンサーに関する資料、文献などを通じて、舞踊の「運動」の種類とその特性、表現体としての身体のメカニズムとそのトレーニング方法、指導法、舞踊表現を成立させる関連事項について理論的に学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
様々な舞踊運動や表現の特性	様々な舞踊の運動や表現の特性を理解できる。	様々な舞踊の運動や表現の特性に気づくことができる。	様々な舞踊の運動や表現の特性がわからない。
舞踊運動の性質の説明	舞踊運動の性質を言葉で表現し伝えることができる。	舞踊運動の性質を言葉で表現できる。	舞踊運動の性質を言葉で表現できない。
対象者に応じた舞踊指導の要点	対象者に応じた舞踊指導の要点を十分理解している	対象者に応じた舞踊指導の要点を理解している。	対象者に応じた舞踊指導の要点を理解できていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞踊方法学で取り扱う領域と研究内容を理解する。
【授業時間外学修】
授業内容の関連資料を探し、目を通す。(4.0hr)

第２回　舞踊の種類と運動の特性
【　到達目標　】
様々な舞踊運動の特性を理解する。
【授業時間外学修】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第３回　表現体としての身体とそのメカニズム
【　到達目標　】
表現体としての踊るからだのメカニズムについて理解する。
【授業時間外学修】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第４回　ボディ・コンディショニング
【　到達目標　】
踊るからだのメンテナンス、コンディショニングについて理解する。
【授業時間外学修】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第５回　舞踊の振りの習得課程「振り覚え」の仕組み
【　到達目標　】
舞踊の振りの習得課程「振り覚え」の仕組みについて理解する。
【授業時間外学修】
授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第６回　ラバン・システム
【　到達目標　】
ラバン（Laban）の動作分析、舞踊記譜法について理解する。
【授業時間外学修】
ラバンに関する資料を基に、授業内容の要点を整理し、理解を深める。(4.0hr)

第７回　インプロヴィゼーション
【　到達目標　】
舞踊における即興について理解し、その応用の可能性を探る。
【授業時間外学修】
授業内容の要点を整理し、授業中に触れた即興に関する文献に目を通す。(4.0hr)

第８回　舞踊創作のプロセス
【　到達目標　】
様々な舞踊創作の手法を理解する。
【授業時間外学修】
様々な舞踊創作の手法について資料を収集する。

第９回　コンテンポラリーダンス
【　到達目標　】
コンテンポラリーダンスの性質を理解し、様々な現場における応用の可能性を検討する。
【授業時間外学修】
コンテンポラリーダンスに関する資料を収集し、理解を深める。(4.0hr)

第10回　プロダンサーの仕事
【　到達目標　】
プロフェッショナルに活動するダンサーの仕事について理解する。
【授業時間外学修】
授業内容の要点を整理し、映像資料に登場する用語や舞踊家について調べる。(4.0hr)

第11回　「遊び」の理論からのアプローチ
【　到達目標　】
舞踊の中にある「遊び」の要素を確認し、様々な現場での応用の可能性を理解する。
【授業時間外学修】
カイヨワの「遊びと人間」を参考に、授業内容の要点を整理する。(4.0hr)

第12回　様々なダンス指導の現場
【　到達目標　】
様々なダンス指導現場での検討事項を理解する。
【授業時間外学修】
様々なダンス指導現場でのニーズを収集する。(4.0hr)

第13回　対象者に応じた指導方法①
【　到達目標　】
学齢期におけるダンス指導について学び、その指導法のポイントを理解する。
【授業時間外学修】
学校現場での指導法の要点を整理する。(4.0hr)

第14回　対象者に応じた指導方法②
【　到達目標　】
コミュニティ・ダンス、インクルーシブなダンス指導の方法を理解する。
【授業時間外学修】
コミュニティダンス、インクルーシブなダンスの現状について調べる。(4.0hr)

第15回　授業内容の振り返り
【　到達目標　】
本講義にてとりあげた内容について振り返り、レポート作成の準備をする。
授業の理解度を確認する。
【授業時間外学修】
授業全体を振り返り、レポートを作成する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

毎回の授業中、その回の講義、資料、映像を踏まえた小レポートの提出が求められるため、集中して授業に取り組む姿勢が必要である。小レポートから授業の理解度を確認し、次の授業にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

教科書は特に指定しない。

【成績評価方法】

毎回の授業の活動内容および授業中に提出する小レポートを60%、授業内小テストと期末に提出するレポートを40%の割合として評価する。

科 目 名	舞台芸術論			担当者	渡沼　玲史	
英 文 名	Performing Art Theory					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR203		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊には様々なスタイルが存在するが、確立したスタイルをもつ舞踊には独自の美意識が存在する。バレエ、モダンダンスの誕生とその展開から生まれた様々なスタイルの歴史的変遷を学び、現代を批判的に見ることができるようにすることを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞台芸術舞踊のスタイルと美意識	完全に理解し説明できる	理解している	理解していない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ガイダンス
【　到達目標　】
舞台芸術としての舞踊を学ぶことの意義を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　バレエの誕生
【　到達目標　】
バレエが誕生した歴史的背景と政治的背景とそれを支えた美意識を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　クラシック・バレエ
【　到達目標　】
クラシック・バレエが成立した歴史的背景を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　バレエ・リュス
【　到達目標　】
バレエ・リュスの活動とその後のバレエの世界伝播への影響を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　アメリカのダンスの歴史
【　到達目標　】
モダンダンス以前のアメリカのダンスの状況を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　モダンダンスの誕生
【　到達目標　】
モダンダンスの創始者たちの活動を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　　モダンダンスの確立
【　到達目標　】
モダンダンスが確立していく過程を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　　ドイツ表現主義舞踊
【　到達目標　】
ドイツ表現主義舞踊の成立と政治とのかかわりについて理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　ダンスと抽象
【　到達目標　】
抽象的なダンスの成立過程とその意義を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回 ポスト・モダンダンス
【　到達目標　】
ポスト・モダンダンスの成立過程とその意義を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　舞踏の誕生と発展
【　到達目標　】
舞踏の成立過程をその展開・影響を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　ピナ・バウシュ
【　到達目標　】
ピナ・バウシュの作品とその意義を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　ウィリアム・フォーサイス
【　到達目標　】
ウィリアム・フォーサイスの作品と創作法を理解しその意義を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　現代の振付家たち
【　到達目標　】
21世紀以後に活躍している振付家とその作品の意義を理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　舞台芸術論
【　到達目標　】
舞台芸術としての舞踊史の概観し、それぞれの舞踊の特徴とその意義をそれらの関係を含めて理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学修上の留意点】

授業計画は目安であり、受講者の理解度や関心におうじて講義の順序や内容を変更することがある。そのため必ずしもシラバス通りには進まない。

【教科書・参考書など】

授業中に指示するが、参考書として、『ダンスは国家と踊る』（アニエス・イズリーヌ著）慶應義塾大学出版会と、『20世紀ダンス史』（ナンシー・レイノルズ他著）慶應義塾大学出版会をあげる。

【成績評価方法】

試験は試験期間中に別途実施。その試験の採点が100%評価となる。

科 目 名	舞踊音楽論			担当者	森　立子	
英 文 名	Music for Dance					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別		専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR204		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【到達目標】

この授業では、西洋音楽の基礎的諸概念を理解し、舞踊における音楽の役割、効果について考える方法を身につけることを目標とする。授業においては、毎回、特定のトピックをとりあげ、これに関連する楽曲を紹介した上で、それが舞踊作品の中でどのように機能しているかを考察する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
西洋音楽の基礎的概念について	授業で扱った概念をすべて自分の言葉で説明できる	それぞれの概念の意味するところを事典などを参考にしながら理解することができる	それぞれの概念の意味が理解できない
舞踊における音楽の役割の分析	自分独自の方法論で分析ができる	授業で説明された分析が理解できる	授業で説明された分析が理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　拍と拍子（１）
【　到達目標　】
西洋芸術音楽における「拍」と「拍子」の概念、および拍子の種類について理解する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第２回　拍と拍子（２）
【　到達目標　】
「変拍子」の定義と、変拍子を用いた主要な作品について理解する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第３回　和声
【　到達目標　】
和声の基礎知識、および時代による和声法の変化について理解する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第４回　変奏
【　到達目標　】
「変奏」の概念とその技法について、楽曲を鑑賞しながら理解する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第５回　編曲
【　到達目標　】
「編曲」の概念と、さまざまな編曲の手法について理解する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第６回　楽器とイメージ
【　到達目標　】
西洋においてそれぞれの楽器に伝統的に付加されてきた「イメージ」について理解し、楽曲の中でそれがどのように活用されているのかを分析する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第７回　楽音と非楽音（１）
【　到達目標　】
「楽音」と「非楽音」の概念について学び、「非楽音」を意図的に活用した西洋音楽の楽曲例について考察する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第８回 楽音と非楽音（２）
【　到達目標　】
「非楽音」に基づく音楽作品の例として、ジョン・ケージの創作理念と実際の作品について考察する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第９回　ミニマル・ミュージック
【　到達目標　】
「ミニマル・ミュージック」の概念と、これを使用した舞踊作品について理解する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第10回　物語と音楽（１）
【　到達目標　】
「標題音楽」、音楽における「引用」について学ぶ。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第11回 物語と音楽（２）
【　到達目標　】
「ライトモティーフ」の概念について学び、いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第12回　リトミック
【　到達目標　】
エミール・ジャック＝ダルクローズにおける「リトミック」観とその実践について、またダルクローズに影響を受けたダンサー、振付家について学ぶ。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第13回　行進曲
【　到達目標　】
行進曲の基本的な構造について理解し､いくつかの楽曲を鑑賞しながらその実際の例にあたる。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第14回　即興
【　到達目標　】
西洋芸術音楽における様々な「即興」について、実例を鑑賞しながら理解する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

第15回　音楽の視覚化
【　到達目標　】
音楽を視覚化する試みについて、舞踊を中心とした複数の例を考察する。
【授業時間外学修】
授業時に指定した映像・音楽の視聴。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて要点を示しながら、詳細を口頭で説明する形で講義を進める。音楽という科目の性格上、視聴覚教材を多用した授業展開になるため、欠席をしないことが大前提となる。なお、各授業時にコメントの提出を求める。このコメントの内容も成績評価の対象とする。また提出されたコメントの内容を踏まえて、次回の授業内で解説によるフィードバックを行う。受講に際して音楽の知識の有無は問わないが、自らの知識や経験にも照らしながら課題に真摯に向き合っていくことが求められる。

【教科書・参考書など】

授業の際に随時紹介する。また、各授業の後に、視聴すべき参考動画のリンクを提示する。

【成績評価方法】

各授業回で課すコメントの内容60%、学期末レポート40%の割合で評価する

科 目 名	創作Ⅰ			担当者	中村　恩恵	
英 文 名	Choreography Ⅰ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	演習	科目ナンバー	DMR205		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

舞踊の創作は多様化してきた。テーマのあるもの、趣向を見せるもの、抽象的なもの、音楽的なもの、コラボレーション、マルチメディアを使った創作など、これらの振付を学び、振付の様式を学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンス創作の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
ダンス創作の研究知見に関する事項	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	研究知見を資料等を左暗誦しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明ができない。
ダンス創作の研究知見の活用に関する事項	知見の活用に関する理解はできており、高度な作品を創作できる。	知見の活用に関する理解はできており、標準的な作品を創作できる。	知見の活用に関する理解が不十分で作品を創作できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
授業進行について理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第２回　与えられた条件で振り付ける
【　到達目標　】
与えられた条件で、自由に即興できるようになる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第３回　与えられた言葉を基に、グループで作品をつくってみる
【　到達目標　】
言葉を基に、自由に発想を広げられるようになる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第４回　創作に必要な過程を学ぶ（テーマ選び、モチーフ作りetc）
【　到達目標　】
テーマ選び、モチーフ作りについて理解し習得する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第５回　創作に必要な過程を学ぶ（構成、音楽etc）
【　到達目標　】
構成方法、選曲等について理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第６回　創作に必要な過程を学ぶ（まとめ）
【　到達目標　】
創作に必要な過程を理解し、習得する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第７回　ソロの作品の創作に着手
【　到達目標　】
作品構成を決め、主題に沿った動きのシークエンスを作る。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第８回　ソロの作品の創作の展開
【　到達目標　】
構成に沿って振り付けを固める。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第９回　ソロ作品の創作仕上げ
【　到達目標　】
作品を仕上げる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第10回　ソロ作品の総仕上げと踊り込み
【　到達目標　】
自分の作品について分析的な解釈を行い最終仕上げを行う。振付を踊り込み自分のものとする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第11回　作品の発表と合評　グループ１
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。

【授業時間外学修】
発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)

第12回　作品の発表と合評グループ２
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。

【授業時間外学修】
発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)

第13回　作品の発表と合評グループ３
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。

【授業時間外学修】
発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)

第14回　作品の発表と合評グループ４
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。

【授業時間外学修】
発表された作品について、自分なりの評価をしてみる。(4.0hr)

第15回　作品の発表と合評グループ５
【　到達目標　】
作品を発表し、お互いに合評しあう事によって、創作法についてより深く理解する。

【授業時間外学修】発表された作品について、自分なりの評価をするとともに、自分の作品に関しても再度分析する。(4.0hr)

【学修上の留意点】
固定観念にとらわれず、自由な発想で授業に臨んで下さい。

【教科書・参考書など】
特にありません。

【成績評価方法】
時間毎のレポート４０%、創作実習６０%の割合で総合的に評価する。

科 目 名	野外上演法			担当者	渡辺　碧	
英 文 名	Outdoor Performance					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・必修		
授業形態	演習	科目ナンバー	DMR206		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊におけるマスゲームとしての作品づくりを通して、舞台芸術としての舞踊の表現との違いを学ぶ。
マスゲームの集団美、表現美を追求するとともに集団の中で個人としての責任と協調性を養う。また、将来自分が指導者となった際に、集団の指揮が取れ、指導ができるようになることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
集団美への理解	野外上演と舞台上演の違いを理解し、集団演技に適した効果的な振付・指導が出来る。	野外上演と舞台上演の違いを理解して、集団演技に適した振付・指導が理解が出来る。	野外上演と舞台上演の違いへの理解が不十分である。
大集団の中での個人の役割への理解	大集団の中での個人の役割について理解でき、自ら動くことが出来る。	大集団の中での個人の役割について理解できる。	大集団の中での個人の役割について理解が不十分である。
大集団の中での指導者としての役割への理解	大集団の中での指導者の役割について理解でき、効果的な発言や行動が出来る。	大集団の中での指導者の役割について理解できる。	大集団の中での指導者の役割について理解が不十分である。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（グループ構成、スケジュール、マスゲーム概要など）
【　到達目標　】
15時間の流れを理解する。マスゲームの概要、この授業の目的、ねらいを理解する。
各グループに分かれて、お互いを理解し、今後のスケジュールについて理解する。

【授業時間外学修】
グループでテーマについて、文献を用いて下調べをする。必要な音源情報を集める。(4.0hr)

第２回　選曲とテーマ設定
【　到達目標　】
①テーマに基づき選曲をする。
②各グループで作品テーマ、作品展開（3部構成）を考え、発表できる。

【授業時間外学修】
選曲した曲を編集する。今までのマスゲーム作品を研究する。(4.0hr)

第３回　作品テーマと動きのモチーフづくり
【　到達目標　】
各グループで作品テーマ、展開にもとづいたモチーフづくりを行い、それぞれグループ内で発表出来る。

【授業時間外学修】
今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)

第４回　グループで作品づくり①　（振付の検討）
【　到達目標　】
各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。

【授業時間外学修】
今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)

第５回　グループで作品づくり②　（構成の検討）
【　到達目標　】
各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。グループ作品発表に向けて、作品の構成を検討する。

【授業時間外学修】
今日の発表での課題について再検討し、改善点を洗い出す。(4.0hr)

第６回　グループで作品づくり③　（踊りこみ）
【　到達目標　】
各グループで出来上がったモチーフを元に作品づくりを行い、それぞれのグループ内で発表出来る。次回のグループ作品発表に向けて、作品を完成させ、踊りこみを行い、クオリティを高める。
【授業時間外学修】
次回のグループ発表に向けて練習する。(4.0hr)

第７回　グループ作品発表、鑑賞、評価
【　到達目標　】
①各グループの作品を発表する。②テーマに合っている作品を選出する。③選出されたグループの作品を理解し、自分がその作品の一部分となって、作品に参加することを理解する。

【授業時間外学修】選出されたグループは、次回からの振りうつしのスケジュールと具体的な構成プランを立て、それに伴う振付を考える。(4.0hr)

第８回　1部の振りうつしと指導法
【　到達目標　】
3部構成のうちの1部の振付グループは、他のグループに振りをうつし、指導を行う。指導する側は作業をスムーズに行う。指導を受ける側は、与えられた振付を正しく踊ることが出来る。

【授業時間外学修】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第９回　1部、2部の振りうつしと指導法
【　到達目標　】
3部構成のうちの1部、2部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。
【授業時間外学修】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第10回　2部の振りうつしと指導法
【　到達目標　】
3部構成のうちの2部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。
【授業時間外学修】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第11回　3部の振りうつしと指導法
【　到達目標　】
3部構成のうちの3部の振付グループは、他のグループに振付をうつし、指導を行うことが出来る。指導する側は作業をスムーズに行うことが出来、指導を受ける側は与えられた振付を正しく踊ることが出来る。
【授業時間外学修】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第12回　3部の振りうつし及び全体構成の見直し・調整①
【　到達目標　】
1、2、3部の振りうつしがほぼ完成となり、各部のつなぎ部分を考案する。また、そのつなぎの部分を指導することが出来、踊りを習得することが出来る。

【授業時間外学修】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。(4.0hr)

第13回　全体構成の見直し・調整②、通し練習①
【　到達目標　】
1、2、3部間の調整を行い、すべての振付を正しく踊ることが出来る。

【授業時間外学修】振付を復習し、振りうつし上、支障が出た所は、改善策を洗い出し、次回の授業に活かす。調整された作品全体を見直す。(4.0hr)

第14回　通し練習②　（作品総仕上げ）
【　到達目標　】
野外で上演することを念頭におき、出はけを含め、通して踊ることが出来る。

【授業時間外学修】野外で上演することをイメージして、全体を見直す。さらにクオリティを高めるための手段を実践する。(4.0hr)

第15回　野外で上演
【　到達目標　】
実際、グラウンドにおいて、観客の中で上演することが出来る。

【授業時間外学修】
上演に関してと、これまでの授業に対する反省と感想をまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

必修科目のため100名近くが一同に受講する。決して人任せにせず、全員が作品づくりに積極的に参加すること。また舞台上演法とは異なり、野外で上演することを常に意識し、理解する（上演場所の大きさ・出演人数・観客層・演出・振付内容・作品構成など）。第7回の「グループ作品発表」、第15回「野外で上演」では、口頭で作品およびこれまでの創作過程についてのフィードバックを行う。作品が固まる時期には、衣裳・メイク考案も同時進行で行う。多くの受講者は野外での上演が初の試みとなるため、その状況をよく把握して発表に挑むこと。

【教科書・参考書など】

必要に応じて適宜配付します。

【成績評価方法】

授業における課題達成度30%、学習意欲・関心・積極性・作品への貢献度40%、レポート30%を総合的に評価する。

科目名	タップダンス			担当者	安達　雄基	
英文名	Tap Dance					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME101		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

音楽の歴史と共に進化し続けるタップダンス。
特殊技能という点に留まらず、広く様々な種類の音楽の一部として奏でられるリズムの世界。
実技を中心にダンスのmovementと楽器としてのアンサンブル、個性豊かに踊れるタップダンスを通して、将来への感性を磨き学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
振付	タップの音をしっかりとならし、尚且つ体全体で音楽を奏でている。	タップの音はまだ綺麗になってはいないが体のシルエットや音楽への理解はしている。	音楽としてのタップを理解しておらず音もシルエットも合っていない。
コンビネーション	綺麗な音を鳴らし尚且つリズムが均一して合っている。	コンビネーションは理解しているが音が均一して奏でなれていない。	コンビネーションを理解しておらず音も出ていない。
タップダンスの歴史	タップの歴史に興味を示し積極的に理解をしようとする。尚且つ自分の好きなジャンルのダンスや時代背景も考えて様々な歴史を理解する。	タップの歴史を興味を示し理解をしようとする。	タップの歴史に興味を持たずただ単に授業を受けている。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　タップダンス　Entry
【　到達目標　】
タップダンスの歴史の背景、また、ダンスという観点だけでなく、楽器としての音楽的見地を理解する。

【授業時間外学修】
タップダンスへの興味。ダンスとしてとらえる。タップダンスに注目する。(1.0hr)

第２回　タップダンス　Basic 1
【　到達目標　】
基礎的ステップの習得をはじめ、基本的な身体の使い方、体重移動、バランス体幹を鍛える。

【授業時間外学修】
基礎ステップの復習。(1.0hr)

第３回　タップダンス　Basic 2
【　到達目標　】
更なる基礎ステップと共に具体的に足､腰､膝､身体の引き上げについて動きをマスターする。

【授業時間外学修】
タップにおける体の使い方の復習。(1.0hr)

第４回　タップダンス　Basic 3
【　到達目標　】
基本ステップを繋げ、応用ステップへのアプローチ。リズムを変形させていくなど、swingリズムとevenリズムを習得する。

【授業時間外学修】
応用ステップの復習、リズムへの理解を深める。(1.0hr)

第５回　タップダンス　Basic 4
【　到達目標　】
更なる応用ステップを習得する。またコンビネーションの基となるビート感に、触れていく。

【授業時間外学修】
応用ステップの復習。(1.0hr)

第６回　タップダンス　Basic 5
【　到達目標　】
リズムアンサンブルのバリエーションを習得する。基本ステップいくつかパターン毎に組み合わせ、ひとつのリズム体を作成する。

【授業時間外学修】
基礎ステップの復習をしてリズムへアンサンブルへ繋げる。(1.0hr)

第７回　タップダンス　Biginner 1
【　到達目標　】
ダンスとしての動き方、上半身を含めたmovement について習得する。

【授業時間外学修】
ステップとアームスの連動の復習。(1.0hr)

第８回　タップダンス　Biginner 2
【　到達目標　】
応用ステップを組み合わせ、movementと共にgroove感を理解する。

【授業時間外学修】
grooveへの理解を深める。(1.0hr)

第９回　タップダンス　Intermediate 1
【　到達目標　】
ステップを組み合わせコンビネーションを作り、リズム全体の流れや打楽器として聴かせる音色について、聴覚として理解できる。

【授業時間外学修】
コンビネーションの復習。(1.0hr)

第10回　タップダンス　Intermediate 2
【　到達目標　】
テクニックに触れインテンポ、また速さにも慣れていく。実際に曲に合わせて習得する。

【授業時間外学修】
ステップを音楽に合わせる復習、テンポについての理解を深める。(1.0hr)

第11回　タップダンス　Advance　1
【　到達目標　】
更なるテクニックを駆使して、曲に合わせコンビネーションを習得する。

【授業時間外学修】
音楽に合わせたコンビネーションの復習。(1.0hr)

第12回　タップダンス　Advance 2
【　到達目標　】
コンビネーションを具体的振り付けとして、流れを理解し音色やスタイルを通じてタップダンスを全体的観点から感じる。

【授業時間外学修】
上半身、下半身、全身での表現の復習。(1.0hr)

第13回　タップダンス　Advance 3
【　到達目標　】
歴史あるタップダンスの大きな２つの流れ、シアタータップとリズムタップを組み合わせ踊ってみる。現代的なタップダンスへの変化に触れる。

【授業時間外学修】
スタイル別のタップダンスの復習。(1.0hr)

第14回　エンターティンメントにおけるタップダンスの世界
【　到達目標　】
メロディアスにとるリズム、パーカッション的にとるリズム、歴史上の映画や具体的映像を題材に応用化されたエンターティンメントの世界を感じる。

【授業時間外学修】
ミュージカル映画等を通して、鑑賞レポートにより、タップダンスの理解を深める。(1.0hr)

第15回　個性として生み出されるタップダンスの世界
【　到達目標　】
最終的に個性として踊れる様own　style 、自身としての音色作りの作成方法、またリズムの流れにおいて起承転結が作れるようになる。今までの様々なリズムを個人で組み合わせ、発表する。
【授業時間外学修】鑑賞レポート「タップダンスと私」を提出し、自己表現の一つとしてのタップダンスを理解していく。(1.0hr)

【学修上の留意点】

タップダンスの基礎を用語とともにしっかり身につける。タップシューズで実技を学ぶことでタップダンスに必要な体の使い方を習得し、しっかり音が出てくる事を体感、実感できる。

【教科書・参考書など】

DVD、ミュージカル映画・舞台ビデオ、等を習得資料としていく。

【成績評価方法】

授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。

科 目 名	コンタクト・ワーク			担当者	岩淵　多喜子	
英 文 名	Contact Work					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME102		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【到達目標】

重力の法則など、様々な物理的な法則と身体の仕組みとの関係性を理解、応用し、パートナーとコンタクト(接する）ことにより生み出すことが出来る新しい動きの感覚を体験、またその技術を習得することにより、新たな身体感覚、表現やコミュニケーションの可能性、既成の舞踊概念にとらわれない創造性を身につける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
コンタクトの基礎的な法則を理解する	ローリング、スライド、ピボット等の基礎的技術を理解し、自由に応用できる	ローリング、スライド、ピボット等、コンタクトワークに必要な基礎的技術を理解し、体現できる	コンタクトワークに必要な技術についての理解が不足し、体現することが難しい
コンタクトインプロの理解	コンタクトワークの基礎的な知識を習得し、その法則から即興として自由に発展することができる	コンタクトワークの基礎的な知識を習得し、即興への発展の方法を理解できている。	コンタクトインプロに対しての理解が不足し、即興として発展することが難しい
パートナーワークの理解	コンタクトワークに必要な技術を習得し、振付フレーズを滑らかに行うことが出来る	コンタクトワークに必要な技術を習得し、標準的な振付フレーズを行うことができる	コンタクトワークに必要な技術の習得が難しく、標準的なフレーズを行うことが困難である

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　コンタクト・ワークの歴史的背景、基本動作について
【　到達目標　】
コンタクト・インプロの歴史、コンタクト・ワークの法則の基礎について理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第２回　ローリング①
【　到達目標　】
コンタクト・ワークの基礎（ローリング・スライド・ピボット・プッシュ）を身に付ける。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第３回　ローリング ②
【　到達目標　】
コンタクト・ワークの基礎（ローリング・スライド・ピボット・プッシュ）を身に付ける。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第４回　プッシュ①
【　到達目標　】
コンタクト・ワークの基礎（ローリング・スライド・ピボット・プッシュ）を身に付ける。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第５回　プッシュ②
【　到達目標　】
コンタクト・ワークの基礎（ローリング・スライド・ピボット・プッシュ）を身に付ける。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第６回　スライド①
【　到達目標　】
コンタクト・ワークの基礎（ローリング・スライド・ピボット・プッシュ）を身に付ける。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第７回　スライド②
【　到達目標　】
コンタクト・ワークの基礎（ローリング・スライド・ピボット・プッシュ）を身に付ける。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第８回　ピボット①
【　到達目標　】
ローリング・スライド・ピボット・プッシュを使って様々な高さのレベルの動きを習得する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第９回　様々な高さの動きを習得する①
【　到達目標　】
床レベルの高さから立ちの高さの動きまで基礎技術を使って動きを発展していく。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第10回　様々な高さの動きを習得する②
【　到達目標　】
床レベルの高さから立ちの高さの動きまで基礎技術を使って動きを発展していく。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第11回　応用①
【　到達目標　】
習った技術を組み合わせた一連のフレーズを習得する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第12回　応用②
【　到達目標　】
習った技術を組み合わせた一連のフレーズを習得する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第13回　応用③
【　到達目標　】
コンタクトの基礎技術、物理的法則を使って動きを作り出すことができる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第14回　応用④
【　到達目標　】
コンタクトの基礎技術、物理的法則を使って動きを作り出すことができる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第15回　コンタクト・インプロヴィゼーション
【　到達目標　】
コンタクトの基礎技術、物理的法則を使って即興的に動きを繋ぐことができる。

【授業時間外学修】
全体の復習とまとめをし、コンタクト・ワークについて理解する。(1.0hr)

【学修上の留意点】
人、あるいは物と接触（コンタクト）しながら動いたり、動きを創り出していくので、自分がコンタクトしているものに対して、細心の注意を払い案全管理をしながら行動するようにして下さい。人と接する内容となるため、安全管理上、本授業ではアクセサリーや付け爪等の装飾品を身に付けることは不可とします。

【教科書・参考書など】
「コンタクト・インプロヴィゼーション―交感する身体」シンシア・J. ノヴァック　フイルムアート社

【成績評価方法】
演習作品８０％、レポート２０パーセントの割合で総合的に評価する。

科目名	ボディ・コンディショニング			担当者	今田　康二朗	
英文名	Body Conditioning					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME201		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

身体に対する、外側(＝形)からのアプローチをではなく、身体内側からのコーディネーション、分析、そして動きを研究、習得する。同時にそのメインテナンスと能力向上方法を体験し、その重要性と実践方法を考える。また呼吸がいかに身体、身体運動、さらにはダンスに対しての影響を認識するのか、その重要性と活用法を考察、実践する。そして、全身の関節を活性化すること、つまりは普段あまりアクティブではない関節を動かしてあげることにより、身体ムーブメントのボキャブラリーを広げ、かつ、動かしてやることによって筋力と、全身コーディネーションを構築する。以上の点を踏まえ、これらの知識をいかにダンスに反映させるかという点について重点を置く。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
解剖学の理解と反映について	ダンスに必要な解剖学と身体運動のシステムを理解体得し、ダンスに高度に反映できる。	ダンスに必要な解剖学と身体運動のシステムを理解し、それをダンスに反映しようとする意思や意識を持つ。	解剖学と運動システムの理解が不足し、ダンスに反映できない。
身体メインテナンスの必要性の理解と実践について	身体メインテナンスの方法と必要性を理解体得し、かつケガ防止のための理解と知識を持ち、かつ実践できる。	身体メインテナンスの方法と必要性を理解した上で、ケガ防止のための実践に対して今後反映させていこうとする意思や意識を持つ。	身体メインテナンスの理解と必要性を理解せず、ケガ防止のための意思と意識に欠ける。
解剖学と芸術性の両立について	解剖学的理解からムーブメントを作り出し、かつ自身がすでに体得しているダンス知識やテクニック等と癒合させ、身体表現としての芸術的反映ができる。	解剖学的理解からムーブメントを作り出すことができ、それを今後自身のダンス活動に反映させ、発展させていくための知識と意識を持つ。	解剖学的理解と知識が十分に習得しておらず、ムーブメントに反映することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回 身体を内側から観察し、問題意識を高める。
【　到達目標　】
様々な呼吸パターンを含むエクササイズを実際に体験し、そのコーディネーションを体験する。
その後、ワークグループに分かれ、それらがどのような影響を身体にもたらしたかを研究する。

【授業時間外学修】
授業前後に自己の身体を観察し、その身体の変化を書き出す。(1.0hr)

第２回　ダンスムーブメントにおける筋肉、骨の役割と運動
【　到達目標　】
ダンスにおいて、最低限知っておくべき解剖学に触れ、自身の内側からの身体認識を高める。

【授業時間外学修】実際のダンスレッスンにおいて、特に大腰筋に注目し、腰椎、骨盤と股関節、大腿骨との関係を考える。(1.0hr)

第３回　脊椎の基本運動
【　到達目標　】
脊椎の基本運動について学び、積極的にそれらを実践する。
普段慣れているムーブメントを脊椎の基本運動という点から分析、観察する。

【授業時間外学修】
日常生活における脊椎の運動を脊椎の基本運動からの視点で観察する。(1.0hr)

第４回　肩帯、脊椎、骨盤の関係性
【　到達目標　】
肩帯と骨盤の関係性を脊椎を通して分析、認識する。さらには、それぞれに連なる四肢の運動との関連性について観察、研究する。

【授業時間外学修】
日常生活における腰椎の運動を肩帯及び骨盤の関係から観察する。(1.0hr)

第５回　肩帯の構造とその運動
【　到達目標　】
肩帯について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらをいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。
【授業時間外学修】
授業内容を踏まえた上で、肩帯にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。(1.0hr)

第６回　骨盤の構造とその運動
【　到達目標　】
骨盤について学び、それに対するエクササイズを習い、実践する。その上で、それらをいかにダンスに反映させ、最大限の運動領域を、身体に負担をかけることなく実践していくことについて、ワークグループに分かれて研究する。
【授業時間外学修】
授業内容を踏まえた上で、骨盤にフォーカスを当て、ダンスクラスを実践する。(1.0hr)

第７回　　呼吸の重要性と呼吸法の種類
【　到達目標　】
人間活動の原点である呼吸について学び、いろいろな種類の呼吸法をワークグループごとに研究、体験する。

【授業時間外学修】日常生活のなかで、どのような状況の時にどのような呼吸をしているのか観察、認識する。呼吸という普段無意識におこなう運動に対して、発見をする。(1.0hr)

第８回　運動と呼吸の関連性および循環器系について
【　到達目標　】
異なる呼吸法がいかに異なる影響を身体に及ぼすかについてワークグループごとに体験し、観察をする。

【授業時間外学修】前回の授業時間外学習を踏まえ、普段の生活における様々な状況を２０個書き出し、それぞれの際にどのような呼吸をしているのか一覧にする。(1.0hr)

第９回　呼吸と身体運動のシンクロナイゼーション
【　到達目標　】
前回の内容を踏まえ、いかに呼吸と運動を関連づけるかについてワークグループごとに研究、実践する。

【授業時間外学修】
実際のダンスレッスンを通して、呼吸法という観点からムーブメントを最適化する。(1.0hr)

第10回　アクティブ・ストレッチングの概念と重要性
【　到達目標　】
アクティブ・ストレッチングとパッシブ・ストレッチングの概念を理解し、なぜ、前者がダンサーやスポーツ選手にとって必要なのかを理解し、実践する。

【授業時間外学修】普段各自が行っているストレッチを１０種類程度あげ、アクティブ・ストレッチングかパッシブ・ストレッチングの二つに分類する。(1.0hr)

第11回　リニア（２Ｄ）なムーブメントと三次元的（３Ｄ）ムーブメント
【　到達目標　】
リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントを比較し、その概念がどのように全身のムーブメントに影響を与えるかについて理解する。

【授業時間外学修】リニア・ムーブメントと三次元的ムーブメントをそれぞれ１０種類以上あげ、一覧にする。映像でも可。(1.0hr)

第12回　ムーブメントにおける全身コーディネーションの重要性について
【　到達目標　】
全身コーディネーションについて十分に理解し、それがどのようにムーブメントに影響し、結果的には身体の強さやコントロールを導くことができるか理解する。

【授業時間外学修】全身コーディネーションによるムーブメントとアイソレーションによるムーブメントをそれぞれ３０秒程度で実際に作ってみる。(1.0hr)

第13回　ダンサーに多くみられる身体的故障とその対策
【　到達目標　】
ダンサーのけがには理解不足からくるものも多い。それを理解し、さらにどのようにしてそういったものを避けていくのかについて理解する。

【授業時間外学修】過去に経験したけがを再発させないためには、どのような取り組みをすればいいのか考察する。(1.0hr)

第14回　ダンスにおけるインテリジェント・ムーブメント
【　到達目標　】
これまでの内容を振り返り、それらをダンスに反映させるためのエクササイズを体験かつ、実践し、理解をする。その後、ワークグループごとにそのダンスにおける活用法について研究、議論する。
【授業時間外学修】それぞれがすでに踊った経験のある振り付けから、30秒程度を抜き出し、それを評価、そして、身体に負担になる部分をいかに改善できるか考察する。(1.0hr)

第15回　実践とフィードバック
【　到達目標　】
5-6人程度のグループに分かれる。授業外時間外学習で用いた振り付けをそれぞれが発表し、それについて改善点や、問題点をグループディスカッション、フィードバックする。

【授業時間外学修】
毎日の授業、レッスン、リハーサルにこれまでの知識を反映させる。(1.0hr)

【学修上の留意点】

自分や他者の身体に触れること（他者が自分の体に触れること＝ハンズオン）もある。配慮が必要な場合には、授業開始前に申し出ること。上記のようにワークグループに分かれてのディスカッションや実践研究を多く含む。積極的に自身の意見や観点を伝えること、かつ他の学生の主張を尊重し、それを踏まえた上で実践研究することが求められる。レポートは各授業ごとの記録、考察、発見等を記した上、総括としてこの科目で学習した内容をいかに今後活用していくかという実践目標を加えた形とする。これは授業内容確認という側面よりむしろ、セルフフィードバックとしての役割に重きを置く。また、実践課題としての短いビデオの提出が必要。

GYROTONIC® 及び GYROKINESIS® 方法論に基本を置く。GYROTONIC® and GYROKINESIS® are registered trademarks of Gyrotonic Sales Corp. and are used with their permission.

【教科書・参考書など】

各自ヨガマットと、大型のバスタオル、そしてヨガベルト、柔道・空手等の帯、ダンスベルトなど帯状な物を持参のこと。日常的に使用するベルトよりも、きつく締められる状態であることが必要条件。

【成績評価方法】

上記のレポート課題を40%、ビデオ課題による実技試験60%として評価する。なお、課題が未提出、不完全な場合は評価は無しとする。

科 目 名	舞台制作Ⅰ			担当者	青木タクヘイ・宇野敦子	
英 文 名	Dance Production Ⅰ Lighting and Sound, stage management for Dance					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME204		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】
この授業では作品を実際に公演するための制作的に大きな枠組み作りをし、それにともなう実践的な技術（照明・舞台装置などの舞台技術のノウハウ）の習得を目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
作品上演に必要な照明・音響・舞台機構などの基礎知識	照明・音響・舞台機構などの基礎知識について理解し、自らまとめて説明できる。	照明・音響・舞台機構などの基礎知識について理解し、資料を参照しながら説明できる。	照明・音響・舞台機構などの基礎知識について理解が不十分で、資料に基づき説明できない。
照明・音響・舞台機構などの操作方法	自ら音響・照明機材を操作して、演出上の適切な効果を得ることができる。	指示された通りに音響・照明機材を操作して、演出上の効果を得ることができる。	指示された通りに音響・照明機材を操作することができない。
公演を前提とした準備計画と運営実践について	自ら作品に応じた音響・照明設置と操作の計画・準備、本番の運営ができる。	指定された音響・照明設置と操作の計画・準備、本番の運営ができる。	指定された音響・照明設置と操作の計画・準備、本番の運営ができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　舞踊舞台上演の現場体験①
【　到達目標　】
舞踊の舞台上演（公演）のリハーサル現場を体験し、音響・照明・舞台スタッフの活動を把握することができる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第２回　舞踊舞台上演の現場体験②
【　到達目標　】
舞踊の舞台上演（公演）の舞台づくりの現場を体験し、音響・照明・舞台スタッフの活動を把握することができる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第３回　音響機材の取り扱い方の習得①
【　到達目標　】
音響機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第４回　音響機材の取り扱い方の習得②
【　到達目標　】
照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第５回　照明機材の取り扱い方の習得①
【　到達目標　】
照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第６回　照明機材の取り扱い方の習得②
【　到達目標　】
照明機材の仕様を確認して、それを学生自らが具体的に設置して使用できるようにする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第７回　音響効果の確認①
【　到達目標　】
具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第８回　音響効果の確認②
【　到達目標　】
具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第９回　音響効果の確認③
【　到達目標　】
具体的に音響機材を操作して、音がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第10回　照明効果の確認①
【　到達目標　】
具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第11回　照明効果の確認②
【　到達目標　】
具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第12回　照明効果の確認③
【　到達目標　】
具体的に照明機材を操作して、光がどのように出てきて、舞台演出のためにはどう効果を出したらいいかを学び、習得できる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第13回　グループ分けをして、各グループで作品を発表するための音響・照明プランを立てる①
【　到達目標　】
具体的に作品を仕上げるために、音響・照明をどう操作し使用するかの計画を立てて準備ができる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第14回　グループ分けをして、各グループで作品を発表するための音響・照明プランを立てる②
【　到達目標　】
具体的に作品を仕上げるために、音響・照明をどう操作し使用するかの計画を立てて準備ができる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第15回　作品発表と反省
【　到達目標　】
いよいよ作品の発表である。そのためにリハーサルをして本番に臨むことにする。そして上演後に各人が反省点を自覚して公表できる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

【学修上の留意点】
集中講義で行う。グループワークとなるので、ある一定の学生だけが動くのではなく、学生全員が動くように注意する。他のグループの発表の際には、しっかりとメモを取り、記入する。

【実務経験のある教員による授業科目】
舞踊舞台の演出における音響および照明に関する実務経験のある教員が、実際に舞踊公演を実施するために必要な舞台技術について指導する。

【教科書・参考書など】
授業中に指示する。

【成績評価方法】
授業内の実践課題と計画発表及び発表作品の成果を合わせて総合的に評価する。合格基準は60%である。

科目名	舞踊分析法演習			担当者	渡沼　玲史	
英文名	Seminar in Analytic Methods of Dance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME202		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

「舞踊分析法」で学んだことを活かしながら実際に舞踊を分析することを目標にする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊の分析法	対象となる舞踊に応じて適切に分析可能	舞踊を分析できる	舞踊を分析できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
本科目の目標と方法を理解するとともに「舞踊分析法」の理解の定着を目標とする。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　作品分析の実例
【　到達目標　】
実際の舞踊をどのように分析できるのかを理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回 作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回 作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　作品分析の実践
【　到達目標　】
さまざまな方法で作品を分析できるようになる。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　分析法の復習
【　到達目標　】
様々な分析法を体系化して理解する。

【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学修上の留意点】

学生によるプレゼンテーションとディスカッションが中心に進める。授業計画は目安であり、受講者の理解度や関心に応じて講義の順序や内容を変更することがある。

【教科書・参考書など】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

プレゼンテーションと100%。講義回数の都合でプレゼンテーションを行わなかったものは定期試験100%。

科 目 名	舞踊音楽制作			担当者	浅野　淳	
英 文 名	Accompaniment and Composition					
単 位 数	2	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別		専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME203		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊と音は、音楽だけに留まらず効果音や実際の音、無音も含めて切り離せない関係を持つといえるだろう。バレエ、モダンからコンテンポラリーまで、加えて映画を含めた映像作品を参照しながら作品と音楽の構成や構造、背景にも着目し、実作品を例として採り上げながら、その表現における多様性や可能性を探ってゆくことで、舞踊と音/音楽の関係性についての知識と理解を深めるとともに、PCで音楽ソフトを使用して音＋音楽素材を基に編集や構成を実際に体験することによって、舞踊創作及び音楽の創作における発想力と表現力を養うことを目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンスと音楽の関係性について	要点を理解し、自ら解説できる。	資料を参照して解説ができる。	理解が不十分で説明できない。
音楽ソフトの基礎的使用について	基礎的な使用法を理解し、ソフトを活用できる。	資料を参照してソフトの基本的な活用ができる。	理解が不十分でソフトが活用できない。
音楽ソフトの習熟について	使用法を理解し、自身で工夫を凝らしてソフトを活用できる。	資料を参照して、工夫を凝らしてソフトを活用できる。	理解が不十分でソフトで工夫を凝らすことができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　音楽とダンスについて：無音と音楽
【　到達目標　】
音楽ソフトの紹介。無音、静寂、音の始まりと終わり、曲間等について。音の与える影響について理解を深める。
【授業時間外学修】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第２回　ダンスと音楽編曲、編集、効果について
【　到達目標　】
作品や実例を通しての理解。
【授業時間外学修】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第３回　ダンスと音楽の多様性１（効果、エフェクト）
【　到達目標　】
音素材に効果＝エフェクトをかけた実例を通して、その与える影響を学ぶ。
【授業時間外学修】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第４回　ダンスと音楽の多様性２（ミニマル・ミュージック他）
【　到達目標　】
ダンスで比較的頻繁に使用される、ミニマル・ミュージックと呼ばれる音楽の構造や理念、実際の使用例を通して理解を深める。
【授業時間外学修】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第５回　ダンスと音楽の多様性３（ミニマル・ミュージック以降）
【　到達目標　】
前回からの続き、より多様な表現を探る。
【授業時間外学修】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第６回　ダンスと音楽の多様性４（ノイズ、インダストリアル他）
【　到達目標　】
雑音や効果音を音として使用した作品をみてゆく。
【授業時間外学修】講義は主に板書と口頭で行うので、興味を持った事柄等は、ノートやメモを取って積極的に各自知識を深めて欲しい。(4.0hr)

第７回　実習１：音楽ソフトの使用法、実践
【　到達目標　】
実際にPCで音楽ソフトを使用して操作法を学ぶ。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第８回　実習２：音楽編集の実践１
【　到達目標　】
用意された音楽素材を利用しての編集の実習。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第９回　実習３：音楽編集の実践２
【　到達目標　】
前回の続き。エフェクト等の使用法も含めた実習。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第10回　実習４：音楽編集の仕上げとファイルの提出
【　到達目標　】
編集した音源ファイルの仕上げと提出。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第11回　実習５：音楽構成の実践１
【　到達目標　】
用意された短い音（断片や効果音）を使用して、ダンスのための音楽として構成する。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第12回　実習６：音楽構成の実践２
【　到達目標　】
前回の続き。様々な手法にのっとっての模索、試行錯誤をしてもらい、音楽としての仕上げを目指す。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第13回　実習７：音楽構成の実践３
【　到達目標　】
前回の続き。音楽をどのように構成して仕上げるか、方針を固める。場合によっては別の音源での構成も目指す。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第14回　実習８：音楽構成の仕上げとファイルの提出
【　到達目標　】
構成した音源ファイルの仕上げと提出を目指す。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

第15回　実習９：提出ファイルの検証
【　到達目標　】
提出された２種のファイルの中から具体的な音源をいくつか聴いて、どのように出来上がったのかを検証し、全体のまとめとする。
【授業時間外学修】最初の実習時に配布されたプリントは、毎回持参して参照すること。
また、２回目以降は各自、目を通しておくことが望ましい。(4.0hr)

【学修上の留意点】

本実習は学内のPCで音楽ソフト＝Audacityを使用して行うので、最低限PCのマウスを使用して左/右クリック及び、文字（全角＋半角）を打てるように慣れておくことが望ましい。また、前半の講義で実習のための効果等についての説明も随時加えるので、積極的にノートやメモを取ることが望ましい。毎回、講義の最後に講義内容に関するレスポンス・シートを提出してもらい理解度を確認、次回補足解説を行う。また、後半の実習において情報処理室で使用するPCの台数に限りがあるため、受講希望者多数の場合、前期学期末にレポートを提出してもらい受講者数の調整を行うこととするので予めポータル等の通知を見逃さないように留意しておいてほしい。

講義及び実習の際、配布する用語集や音楽ソフトの使用法についてのプリント
（講義や実習時に適宜参照してもらうので毎回忘れずに持ってくること。）

【成績評価方法】

実習で制作する音楽ファイルと画像ファイル（編集及び構成の音声ファイル＋画像ファイルの計４種）：70%、講義時に提出するレスポンス・シート：30%

科目名	モダンダンスⅡ			担当者	中村　恩恵	
英文名	Modern Dance Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME205		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

今日の舞踊表現には多様なテクニックが複合的に含まれている。先人たちが作り上げてきた舞踊メソッドを幅広く学ぶことで、今日的な舞踊をより包括的に理解することが可能となるといえる。本講義では、リモン・テクニックをベースとし、モダンダンスの基本的なスキルを段階的に学習する。各講義はボディーワークの実施、モダンダンスの基礎の学習、発展的なコンビネーションの実演の３要素で構成される。各自が自分自身の身体的特性を把握し適切なボディーワークを実施できる力、また基礎を正しく理解し、基礎とコンビネーションとの関連性について観察力をもってアナライズできる力を身につけることを目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンスの身体技能の修得について	身体技能が十分修得できている。	身体技能が修得できている。	身体技能が不十分で実施できない。
ダンス表現の実現について	動きが優れたダンス表現として成立している。	動きがダンス表現として成立している。	ダンス表現としては不十分な点がある。
ダンスに関する知識と理論について	知識や理論を自ら説明できる。	知識や理論を資料を見ながら説明できる。	知識や理論が理解できていない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業進行についてのオリエンテーションとボディーワーク
【　到達目標　】
授業の進め方およびボディーワークの必要性と実施の方法について理解する

【授業時間外学修】
ボディーワークの実施(1.0hr)

第２回　ボディーワーク実施の後、モダンダンスの基本的要素を学ぶ
【　到達目標　】
モダンダンスの基礎を学び、ボディーワークとダンスの関連性を理解する

【授業時間外学修】
ボディーワークの実施(1.0hr)

第３回　ボディーワーク実施の後、モダンダンスの基本的ムーブメントを学ぶ
【　到達目標　】
モダンダンスの基礎を正しく理解し、基本ムーブメントを実施することができる

【授業時間外学修】
ボディーワークの実施(1.0hr)

第４回　ボディーワーク実施の後、モダンダンスのより発展的なムーブメントを学ぶ
【　到達目標　】
発展的なムーブメントを実施する際、ボディーワークの効果を自ら検証することができる

【授業時間外学修】
ボディーワークの実施と見直し(1.0hr)

第５回　ボディーワークを再検証し新しいメニューを導入。ターンやフロアーワーク等の高度な技を学ぶ
【　到達目標　】
高度な技を実施するために、必要となるボディーワークを自らデザインする

【授業時間外学修】
ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)

第６回　主体的にボディーワークを実施する。空間全体を使うダイナミックな技を学ぶ。
【　到達目標　】
ランやジャンプなどダイナミックなムーブメントを力強く実施することができる。

【授業時間外学修】
ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)

第７回　主体的にボディーワークを実施する。これまで学んだモダンダンスの基礎を振り返り理解を深める。
【　到達目標　】
それぞれのムーブメントや技を正しく理解し、高い質で実施することができる。

【授業時間外学修】
ボディーワークの実施(1.0hr)

第８回　基本的な技を複合的に組み合わせたコンビネーションに着手
【　到達目標　】
複雑な技を正確に理解し再現することができる。

【授業時間外学修】
ボディーワークの実施(1.0hr)

第９回　主体的にボディーワークを実施。その後、コンビネーションの続きを学ぶ
【　到達目標　】
複雑な技を正確に理解し噛み砕いて練習できる。

【授業時間外学修】
ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)

第10回　主体的にボディーワークを実施。その後、コンビネーションを終わりまで学ぶ
【　到達目標　】
質の高いダンスを実現するための探求を主体的に行うことができる

【授業時間外学修】
ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)

第11回　ボディーワークの再検証
【　到達目標　】
パフォーマンスを高めるために必要となる身体トレーニングを最適化できる

【授業時間外学修】
ボディーワークの見直しと実施(1.0hr)

第12回　基礎とコンビネーションの関連性についてアナライズする
【　到達目標　】
複雑な技を自らアナライズし、噛み砕いて練習できる。

【授業時間外学修】
ボディーワークと、コンビネーションの研究(1.0hr)

第13回 主体的にボディーワークを実施。コンビネーションのポリッシングを行う
【　到達目標　】
コンビネーションの細部を詰め、質を高めることができる

【授業時間外学修】
ボディーワークと、コンビネーションの研究(1.0hr)

第14回 主体的にボディーワークを実施。その後、コンビネーションの総仕上げを行う
【　到達目標　】
コンビネーションを完全に理解し、質の高いパフォーマンスを行うことができる

【授業時間外学修】
ボディーワークと、コンビネーションの研究(1.0hr)

第15回 主体的にボディーワークを実施。その後、少人数でコンビネーションを実演する。
【　到達目標　】
自らフィードバックを行い、自分の課題と向き合うことができる

【授業時間外学修】
全体の復習とまとめをし、モダンダンスについてさらに理解を深める。(1.0hr)

【学修上の留意点】

ボディーワークに関しては、各々が自らの心身を最適化するためのクリアなビジョンと観察力をもって取り組む必要があります。最終回では各自のトレーニングプログラムを提出して頂きます。
モダンテクニックの基礎とコンビネーションに関しては、授業内で受講生の理解度に合わせたフィードバックを適時、出させて頂きます。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

提出課題25%、実技試験75%の割合で総合的に評価する。

科 目 名	モダンダンスⅢ			担当者	坂本　秀子	
英 文 名	Modern Dance Ⅲ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME206		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

「モダンダンスⅢ」を更に進めたテクニックを学ぶ。専門家の作品を踊ることで高度なテクニックを習得し、作品全体に流れる精神を掌握することで、表現力を高めていく。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
作品のテーマの理解度について	テーマを理解して高度な表現が実施できる。	希薄になる箇所があり、一貫性には欠ける。	テーマが理解できず、浅い表現になる。
タイプの異なる作品表現の実施について	タイプの異なる作品表現に十分対応できる。	タイプの異なる作品表現はやや不安定である。	タイプの異なる作品表現には対応できない。
高度な身体テクニックの到達レベルについて	高度な身体テクニックが実施できる。	未完成ではあるが、ほぼ実施できる。	かなり未完成ではあるが実施できる。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　作品の説明とビデオ鑑賞（教材Ａ）
【　到達目標　】
創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。

【授業時間外学修】
作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)

第２回　振りを学ぶ①
【　到達目標　】
振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。

【授業時間外学修】
振りの復習をする。(1.0hr)

第３回　振りを学ぶ②
【　到達目標　】
次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。

【授業時間外学修】
振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)

第４回　振りを学ぶ③
【　到達目標　】
踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。

【授業時間外学修】
全体を通してのイメージトレーニングを行う。(1.0hr)

第５回　踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう①
【　到達目標　】
踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。

【授業時間外学修】
課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)

第６回　作品の説明とビデオ鑑賞（教材Ｂ）、振りを学ぶ④
【　到達目標　】
創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。

【授業時間外学修】
作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)

第７回　振りを学ぶ⑤
【　到達目標　】
振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。

【授業時間外学修】
振りの復習をする。(1.0hr)

第８回　振りを学ぶ⑥
【　到達目標　】
次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。

【授業時間外学修】
振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)

第９回　振りを学ぶ⑦
【　到達目標　】
踊り込みをして、作品の精神が貫通できるようにする。

【授業時間外学修】
全体を通してのイメージトレーニングを行う。(1.0hr)

第10回　踊って批評を受ける、互いに今後の課題を発見しあう②
【　到達目標　】
踊って批評を受ける。今後の課題を自主的に見いだしていく。

【授業時間外学修】
課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)

第11回　作品の説明とビデオ鑑賞（教材Ｃ）、振りを学ぶ⑧
【　到達目標　】
創作意図を理解し、作品のイメージをつかむ。

【授業時間外学修】
作品の世界を想像し、イメージを固める。(1.0hr)

第12回　振りを学ぶ⑨
【　到達目標　】
振りを短時間で、正確に覚えられるように集中する。

【授業時間外学修】
振りの復習をする。(1.0hr)

第13回　振りを学ぶ⑩
【　到達目標　】
次第に細かい部分の工夫もしながら、全体を通して踊れるようにしていく。

【授業時間外学修】
振りの復習、細かい注意の思い出しなどをする。(1.0hr)

第14回　フィーリングやアクセントなど踊り方の吟味
【　到達目標　】
作品を踊り込んでいく過程で、重要な事柄について学ぶ。

【授業時間外学修】
自分らしさを加えて、作品の完成度を高められるように考える。(1.0hr)

第15回　踊って批評を受ける、今後の課題の発見
【　到達目標　】
踊って批評を受ける。学んだ事柄をもとに新たに課題を発見する。

【授業時間外学修】
課題の確認と習得するための練習方法の考案。(1.0hr)

【学修上の留意点】

タイプの異なる３つの作品を教材として取り上げ、細やかに進めていく。振りを覚えることに加えて、各自が作品のイメージをとらえて、より深みのある個性的な世界を構築して欲しい。そのための練習方法やポイントなどについても探っていく。そして、踊ることだけにとどまらず、書物や絵画、詩集などで、作品のイメージを増幅し、どんなことにも興味を持って取り組んで欲しい。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

平常授業での課題40%、到達時の確認課題60%。試験は別途行う。

科目名	クラシックバレエⅡ			担当者	渡辺　碧 ・ 曺　旼永	
英文名	Classical Ballet Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME207		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

1年生で身に付けた基礎基盤のバレエよりも、さらに高度なテクニックに挑み、技術力と表現力の両方を高めていくことを目的とする。改めて正しい身体配置・身体使いについて学ぶことにより、怪我の少ない身体のつくり方を体得する。また、ポアント技法についても理解し、特に足の骨の身体配置についても体得する。最終的には、ポアントを履いた状態での正しい身体の使い方を体得すること、または理解することを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
基礎技法の再認識と継続性	基礎技法の重要性を再認識・再確認し、いかなる動作においても継続して実施できる。	基礎技法の重要性を再認識・再確認し、継続して実施できる。	基礎技法の重要性についての理解が不十分である。
高度なテクニックの実施	高度なテクニックにおいても、基礎技法を正しく理解し、継続して実施することが出来る。	高度なテクニックにおいても、基礎技法を理解し、実施することが出来る。	高度なテクニックにおける基礎技法への理解が不十分で、高度なテクニックが実施できない。
ポワント技法について	ポワント技法の解剖学的仕組み、足先の正しい身体配置について正しく理解でき、説明できる。	ポワント技法の仕組み、足先の正しい身体配置について理解できる。	ポワント技法の仕組み、足先の正しい身体配置についての理解が不十分である。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（目標設定）
【　到達目標　】
昨年度、1年間を振り返り、自分の受講するレベルを決定できる。この授業における目標設定が出来る。

【授業時間外学修】
クラシックバレエⅠで学んだこと（バレエ用語の意味を含む）を復習する。(1.0hr)

第２回　エクササイズ(基礎)①　(骨盤への理解と復習)
【　到達目標　】
1年生の復習を兼ねて、改めて正しい身体配置を確認する。特に骨盤の正しい配置を意識して踊ることが出来る。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第３回　エクササイズ(基礎)②　(アン・ドゥオール、骨盤周辺の筋肉への理解と復習)
【　到達目標　】
1年生の復習を兼ねて改めてアン・ドゥオール（ターン・アウト）を確認する。特に骨盤の正しい配置と、骨盤周辺の筋肉の使い方を意識して踊ることが出来る。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第４回　エクササイズ(基礎)③　(背骨、コア、バレエの基本3原則への理解と復習)
【　到達目標　】
1年生の復習を兼ねてアプロン、エレベーションについて確認する。背骨、コア（インナーマッスル）の正しい使い方を意識して踊ることが出来る。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第５回　ポアント技法の説明、ポアントのエクササイズ(基礎)①　(足の構造への理解)
【　到達目標　】
ポアントの選び方、履き方を理解し、ポアント技法の特徴を理解できる。足の骨の構造、筋肉の仕組みについて理解できる。これまでの学習を踏まえ、ポアントの基礎として、アテール、ドゥミ・ポアント、ポアントが理解できる。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第６回　ポアントのエクササイズ(基礎)②　(ポワント技法への理解)
【　到達目標　】
ポアントの基礎としてアテール、ドゥミ・ポアント、ポアントの区別がつき実践できる。
正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第７回　ポアントのエクササイズ(基礎)③　(ポワント技法と脚の構造、膝関節への理解)
【　到達目標　】
ポアントの基礎としてプリエ、アテール、ドゥミ・ポアント、ルルベ､ジャンプの区別がつき、実践できる。正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。特に膝関節の構造を理解する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第８回　ポアントのエクササイズ(基礎)④　(ポワント技法と脚の構造、股関節への理解)
【　到達目標　】
ポアントの基礎としてピケ・ポアントとタンルベ・ルルベの区別がつき、実践できる。
正しい身体配置を崩さずに、踊ることを体得する。特に股関節の構造を理解する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第９回　ポアントのエクササイズ(応用)①　(音楽と正しい身体配置)
【　到達目標　】
簡単なコンビネーションが実践できる。正しい身体配置を崩さずに踊ることを体得する。
音の取り方とコンビネーションを理解できる。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第10回　ポアントのエクササイズ(応用)②　(ポワントでのコーディネーション)
【　到達目標　】
前回に引き続き、さらに内容を発展させて実践できる。正しい身体配置を崩さずに
踊ることを体得する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第11回　練習課題と反復練習①　(実技試験練習　振り渡し)
【　到達目標　】
半期のまとめである練習課題を習い、覚える。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第12回　練習課題と反復練習②　(実技試験練習)
【　到達目標　】
練習課題を深く理解し、正しく踊ることが出来る。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第13回　練習課題と反復練習③　(実技試験練習)
【　到達目標　】
練習課題を正しく踊ることが出来、自分の改善点を見つけることが出来る。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第14回　練習課題と反復練習④　(実技試験練習)
【　到達目標　】
練習課題を正しく踊ることが出来､さらに踊りを良くするために必要な技術や表現を体得する。

【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第15回　課題発表、自己評価、フィードバック
【　到達目標　】
練習課題を発表し、第1回目の授業に設定した目標をどれだけ達成しているかが理解できる。
教員からのフィードバックに対して、今後の目標を設定することが出来る。

【授業時間外学修】
教員からのフィードバックに対する具体的な対策を練り、実践する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみを着用して、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。ポアントシューズは受講者全員装着することを強制しないが、ポアント技術によるバレエ表現への理解と足先の正しい使い方・プレイスメントについての知識を深めるようにする。

受講クラスは、中上級・初中級のいずれかを、受講者自らの目標に沿って選択する。2つのクラスの受講者比率が明らかに悪い場合のみ、教員による調整を行う。1年次よりも一クラスあたりの受講人数が増えるため、ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。第15回の「課題の発表、自己評価、フィードバック」では、フィードバックを求める学生一人一人に対して口頭でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

ポアントシューズについてのプリントなどを適宜配付。

【成績評価方法】

実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート（課題提出）40%を総合的に評価する。

科目名	クラシックバレエⅢ			担当者	渡辺　碧 ・ 曺　旼永	
英文名	Classical Ballet Ⅲ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME208		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

クラシックバレエⅡを更に発展させるために、テクニック、表現のそれぞれの質を上げ、既存の古典ヴァリエーションに挑戦する。この授業を受講することにより、これまでのクラシックバレエの基礎を復習・確認するとともに、それが実践できるようになることを目的とする。特に上半身と下半身の動きのコーディネーション力を高めることに焦点を当て、正しい身体配置でヴァリエーションの役柄を理解した表現力豊かな踊りが実践出来るようになることを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
テクニック、表現力の向上	基礎技法を踏まえ、より難度の高いテクニックを実施出来、表現力豊かに踊ることが出来る。	難度の高いテクニックに挑戦出来、表現力豊かに踊る努力が出来る。	難度の高いテクニックに挑戦出来ない。または、表現する意思が見られない。
コーディネーション力の向上	正しいコーディネーションを理解し、美しく踊ることが出来る。	コーディネーションを理解し、踊ることが出来る。	コーディネーションへの理解が不十分で、上手く踊ることが出来ない。
古典作品への理解	バレエにおける古典作品を理解し、役になりきって、作品を踊ることが出来る。	バレエにおける古典作品を理解でき、役になりきって、作品を踊る努力が出来る。	バレエにおける古典作品への理解が不十分で、役になりきって、作品を踊ることが出来ない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（目標設定）
【　到達目標　】
最後のクラシックバレエ実技科目となるため、自身の「これまで」、そして「これから」のバレエとの向き合い方を検討すると共に、それぞれの目標を確認し、この授業での目標設定が出来る。自分に合った受講クラスを決定できる。
【授業時間外学修】
クラシックバレエⅠ～Ⅱで学んだことを復習する。(1.0hr)

第２回　エクササイズ(基礎)①　（骨盤、背骨の構造とその周辺の筋肉について）
【　到達目標　】
クラシックバレエⅠ～Ⅱの復習を兼ねて身体配置を確認する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第３回　エクササイズ(基礎)②　（脚の構造とバレエの基本3原則【アン・ドゥオール】の確認）
【　到達目標　】
クラシックバレエⅠ～Ⅱの復習を兼ねて、アン・ドゥオール（ターン・アウト）を中心に確認する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第４回　エクササイズ(基礎)③　（バレエの基本3原則【アプロン】の確認）
【　到達目標　】
クラシックバレエⅠ～Ⅱの復習を兼ねて、アプロンを中心に確認する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第５回　エクササイズ(基礎)④　（バレエの基本3原則【エレベーション】の確認）
【　到達目標　】
クラシックバレエⅠ～Ⅱの復習を兼ねて、エレベーションを中心に確認する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第６回　エクササイズ(応用)①　（正しい身体配置と使い方の確認）
【　到達目標　】
あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。
特に正しい上半身使いを意識して踊ることが出来る。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第７回　エクササイズ(応用)②　（コーディネーションの確認）
【　到達目標　】
あらゆるコンビネーションをすぐに覚える事が出来、正しい身体配置で踊ることが出来る。
特に上半身と下半身のコーディネーションを意識して踊ることが出来る。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第８回　ヴァリエーション　（振り渡し）
【　到達目標　】
古典ヴァリエーションの振付を覚えることができる。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第９回　ヴァリエーションの反復練習①　（空間使い）
【　到達目標　】
ヴァリエーションの空間使いを覚えることができる。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第10回　ヴァリエーションの反復練習②　（音楽性）
【　到達目標　】
ヴァリエーションの音楽を正確に捉えることができる。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第11回　ヴァリエーションの反復練習③　（空間使いと音楽）
【　到達目標　】
ヴァリエーションの振付を正確に踊ることができる。特に音楽性と空間使いを意識して踊ることができる。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第12回　ヴァリエーションの反復練習④　（表現力の探究）
【　到達目標　】
ヴァリエーションの役柄をしっかりと理解し、求める表現性をしっかりと踊りの中に取り込むことができる。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第13回　ヴァリエーションの発表にむけた模擬練習
【　到達目標　】
少人数で、ヴァリエーションを踊ることが出来る。1人でも踊ることが出来るよう、自分が苦手とする部分を理解できる。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う。(1.0hr)

第14回　ヴァリエーションの発表
【　到達目標　】
これまでの授業を踏まえ、ヴァリエーションを一人で踊ることが出来る。
ヴァリエーションに対しての教員からのフィードバックを理解し、今後の課題を検討する。
【授業時間外学修】
本日の復習をする。特に苦手な部分については、さらに練習を行う(1.0hr)

第15回　これまでの理解度の確認と今後の検討
【　到達目標　】
オリエンテーション時に立てた目標に対して、自分がこの授業においてどれだけ達成できたかを検討する。これまでに得た知識を再度確認し、整理することができる。これまで学んできた知識を確認するため、「身体の使い方チェックシート」を間違いなく回答できる。
【授業時間外学修】
これまでの授業を振り返り、自分とバレエとの今後の関わり方を検討する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

授業を受講する際、基本レオタードとタイツのみの着用として、自身の身体のラインをしっかりと認識する。髪の毛などの身だしなみを整える。シューズなどの忘れ物をした場合は減点対象とする。「クラシックバレエⅡ」と同様、ポアントシューズは受講者全員装着することを強制しないが、ポアント技術によるバレエ表現への理解と足先の正しい使い方・プレイスメントについての知識を深めるようにする。

受講クラスは「クラシックバレエⅡ」と同様、中上級・初中級のいずれかを、受講者自らの目標に沿って選択する。2つのクラスの受講者比率が明らかに悪い場合のみ、教員による調整を行う。ただ受け身で授業を受講するのではなく、一人一人が明確な目標設定を行い、受講するよう求める。 第14回「ヴァリエーションの発表」、第15回「これまでの理解度の確認と今後の検討」では、フィードバックを求める受講者一人一人に口頭でフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

適宜、授業内で示します。

【成績評価方法】

実技テスト60%、授業における課題達成度・理解度、関心・意欲・積極性・レポート（課題提出）40%を総合的に評価する。

科目名	ジャズダンスⅡ			担当者	湊　ゆりか	
英文名	Jazz Dance Ⅱ					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME209		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

ジャズダンス、ヒップホップダンスのダウンビートのリズム感を身につけ、ジャズダンスに必要な基礎技法を習得する。身体表現の意識を高め、表現者としての感性を養い、可能性を広げていく。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
パラレルターンテクニックの習得	正しいポジションキープしたままダブルターン出来る	正しいポジションキープしたままシングルターン出来る	正しいポジションを理解出来ていない
ウォーミングアップの習得	踊りに必要な筋肉の使い方を理解し、踊りながら使い分けることが出来る	踊りに必要な筋肉の使い方を理解し、踊りながら意識することが出来る	踊りに必要な筋肉の使い方を理解出来ていない
振付の習得	確実なテクニックと豊かな表現力でダイナミックに踊ることができる	振付の意図を理解し、覚えることが出来る	振付の意図を理解出来ず、覚えられない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
さまざまなジャンルの中のジャズダンスとは。
今の時代に求められている表現法などを理解する。

【授業時間外学修】
各自、授業で得た知識を再度確認をする。(1.0hr)

第２回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)リズム重視
【　到達目標　】
パラレルポジションをキープしたパラレルターンを理解し、シングルターンが出来るようになる。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第３回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)リズム重視
【　到達目標　】
パラレルターンをシングルからダブルへ。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第４回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)リズム重視、到達度の確認
【　到達目標　】
振付したコンビネーションを、さまざまなリズムを使い分けて踊ることが出来る。リズム重視の到達度の確認。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第５回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(2×8)ライン重視
【　到達目標　】
パラレルターン(シングル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第６回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(3×8)ライン重視
【　到達目標　】
パラレルターン(ダブル)からシェネへ、続けて繰り返し回ることが出来る。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第７回　ウォーミングアップ/ターンコンビネーション/振付(4×8)ライン重視、到達度の確認
【　到達目標　】
振付したコンビネーションを、音の中で正しいラインへ確実に入り、表現することが出来る。ライン重視の到達度の確認。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第８回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(2×8)スローテンポ
【　到達目標　】
クロスフロアーのバリエーション(1)
短い振付の中でダブルターンが確実に出来る。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第９回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(3×8)スローテンポ
【　到達目標　】
クロスフロアーのバリエーション(2)
短い振付の中でダブルターン＋シェネが確実に出来る。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第10回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(4×8)スローテンポ、到達度の確認
【　到達目標　】
振付したコンビネーションを、確実なテクニックと、豊かな表現力で踊ることが出来る。
スローテンポの到達度の確認。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第11回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(2×8)ミディアムスロー
【　到達目標　】
インサイドターンを理解し、繰り返し回ることが出来る。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第12回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(3×8)ミディアムスロー
【　到達目標　】
短い振付とインサイドターンの組み合わせを、ぶれない軸で踊ることが出来る。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第13回　ウォーミングアップ/クロスフロアー/振付(4×8)ミディアムスロー、到達度の確認
【　到達目標　】
振付したコンビネーションを、ダイナミックにぶれない軸で踊ることが出来る。ミディアムスローの到達度の確認。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第14回　振付(ロングコンビネーション)１
【　到達目標　】
振付の中で、曲を理解し、自分なりの表現法を見付けることが出来る。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

第15回　振付(ロングコンビネーション)２
【　到達目標　】
リズム、ライン、スローテンポ、ミディアムスローの確実なテクニックはもちろん、コンビネーションの表現法として個性を出しながら、 豊かに魅せ、伝えることが出来る。

【授業時間外学修】各自、授業で得た知識や振りを、次の授業までに再度確認をし、練習する必要がある。(1.0hr)

【学修上の留意点】

週１回の授業ではクセも取れず、頭では理解していても、実践出来るレベルになるのは難しい。ジャンルによって、体の使い方に違いがあることを繰り返し説明し、必ず「見る」という方法の重要性を伝えていき、自分を客観視出来るレベルまで上げていく必要がある。

【教科書・参考書など】

特に指定しない。

【成績評価方法】

授業内での実践40%、到達度の確認テストの結果60%として評価する。

科 目 名	シアタージャズダンス			担当者	畔柳　小枝子	
英 文 名	Theater Jazz Dance					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2	／選択の区別		専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME210		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

欧米で一般的に実施しているレッスン方法を採用。各自のスキルアップが目標である。
この授業では、ダンスの基礎トレーニング、ジャズダンスに大切なリズム感を養いパフォーマーとして洗練された動きを身につける。
心身ともにコントロールし、踊る事を通して感受性豊かな表現力を磨く。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
基本的基礎の事項	ダンス全般における基本が身につき動きや踊りに活かされている。	基礎的な知識はあり、一応できるが動きに活かされている部分が少なくもの足りない。	基礎知識がなく動きが雑でスムーズではない。
技術的事項	ステップ．ジャンプ．ターン．ポーズ．表現．音楽に対しての技術レベルが高い。	要求されたステップ．ジャンプ．ターン．ポーズが一応でき、リズム感がある。	ステップ．ジャンプ．ターン．ポーズの要求されたことができず、音にのれていない。
振付・表現者の基本的な事項	決められた中での表現で音．振付に合った表現ができる。	決められた中で自分なりの表現ができる。	決められたことしかできない、又はできない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　エクササイズ・アイソレーション重視。コンビネーション①
【　到達目標　】
ストレッチエクササイズを正しく行うことができる。コンビネーションの練習。

【授業時間外学修】
ストレッチエクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。(1.0hr)

第２回　エクササイズ・アイソレーション重視。コンビネーション①
【　到達目標　】
正しい身体の使い方を意識してストレッチエクササイズを行うことができる。

【授業時間外学修】
エクササイズ・コンビネーション①の復習・練習。(1.0hr)

第３回　基礎トレーニング・ステップ、ターン、ジャンプの練習。コンビネーション①
【　到達目標　】
基礎トレーニング。リズムやアクセントを意識して踊ることができる。

【授業時間外学修】
授業中の注意を確認し、トレーニングを行う。コンビネーション①の復習。(1.0hr)

第４回　基礎トレーニング・ステップ、ターン、ジャンプの練習。コンビネーション①
【　到達目標　】
自分自身の筋力・柔軟性を知り、やり方や使い方を見直し、更にトレーニングを行うことができる。

【授業時間外学修】
コンビネーション①の復習及び特訓。(1.0hr)

第５回　コンビネーション①重視
【　到達目標　】
コンビネーション①の音に合わせ細かく分析し、表現方法を考え見せることができる。

【授業時間外学修】
コンビネーション①の各自の注意点を確認し、反省点を認識する。(1.0hr)

第６回　トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション②
【　到達目標　】
クロスフロアーの際、身体の使い方に注意し行うことができる。コンビネーション②の練習。

【授業時間外学修】
クロスフロアーの練習。コンビネーション②の復習。(1.0hr)

第７回　基礎トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション②
【　到達目標　】
ステップ・ターン・ジャンプをスムーズに繋ぐ事ができる。コンビネーションの練習。

【授業時間外学修】
クロスフロアーの練習。コンビネーション②の復習。(1.0hr)

第８回　トレーニング・リズムとアクセント　コンビネーション②
【　到達目標　】
アクセント・リズムを意識して踊ることができる。コンビネーションの練習。

【授業時間外学修】
アクセントに注意し表現方法を考え、コンビネーション②の復習。(1.0hr)

第９回　トレーニング。コンビネーション②
【　到達目標　】
立ち姿・脚さばき・手の表情に気を配る事ができる。

【授業時間外学修】
脚さばき、アームスの使い方を意識し、美しいポーズに注意してコンビネーション②の復習。(1.0hr)

第10回　コンビネーション②重視
【　到達目標　】
コンビネーション②を各自の訓練・研究成果も出し、踊ることができる。

【授業時間外学修】
表現方法を考えながら、コンビネーション②の練習。(1.0hr)

第11回　トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション③
【　到達目標　】
できる限り全身を使って表現する。動きと表現方法のコントロールについて考えながら行うことができる。

【授業時間外学修】
全身の動く幅を広げ、柔軟性・筋トレを行う。コンビネーション③の練習。(1.0hr)

第12回　トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション③
【　到達目標　】
パフォーマーとして必要な技術を考え、各自の課題を見つけることができる。

【授業時間外学修】
クロスフロアー・コンビネーション③の復習・練習。(1.0hr)

第13回　トレーニング・クロスフロアー・コンビネーション③重視
【　到達目標　】
変拍子のとり方が実践できる。コンビネーション③の練習。

【授業時間外学修】
クロスフロアー・コンビネーション③の復習。トレーニングを行う。(1.0hr)

第14回　音に合わせて表現。コンビネーション③重視
【　到達目標　】
音色に合わせて踊り、表現する事ができる。コンビネーション③の練習。

【授業時間外学修】
クロスフロアー・コンビネーション③の復習。トレーニングを行う。(1.0hr)

第15回　コンビネーション④重視
【　到達目標　】
振付を正確に覚え、自分の表現も生かし踊ることができる。

【授業時間外学修】
各自の不得手な点に注意しトレーニングを行う。(1.0hr)

【学修上の留意点】

＊稽古着を着用。
＊テクニック・表現方法のレベル向上、上達の目標もあるので各自練習、振付の復習を必要とする。
＊授業以外でも基礎トレーニング・柔軟・筋力トレーニングを行うこと。
⋆課題に対するフィードバックは授業の前後、小テスト後に行う。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

実技試験で評価６０％　・　授業内での実践・技能での評価４０％

科 目 名	コンテンポラリーダンスⅡ			担当者	岩淵　多喜子	
英 文 名	Contemporary Dance Ⅱ					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME211		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

コンテンポラリーダンスⅠ、Ⅱで養った技術、知識を基礎として、更に発展させたテクニックについての理解と習得を行う。特にリリーステクニック、フロアーテクニックを基礎とし、体のアライメントへの意識、呼吸と動きの関連、重心と空間認識などについての応用的な理解を深め、多様なコンテンポラリーダンスの領域に対応するための知識、技術の習得を目的とする。また作品鑑賞レポートを通してコンテンポラリーダンスの多様性への理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
フロアーテクニックの応用	フロアーテクニックのシステムについて充分に理解し、応用的な動きにも自由に対応できる	フロアーテクニックについてのシステムについて充分理解し、標準的な動きを行うことができる	フロアーテクニックの理解、習得が充分でなく、標準的な動きが出来ない。
身体のアライメントの応用	身体のアライメントの構造や性質を充分理解し、それを用いて発展的な動きに自由に対応できる	身体のアライメントの構造や性質を理解し、標準的な動きにおいて身体を制御できる	身体のアライメントの構造や性質への理解が十分でなく、標準的なレベルの動きが体現出来ない。
リリーステクニックの応用	リリーステクニックを充分理解し、フレーズの中でそれを生かし、自由に応用することができる。	リリーステクニックを理解し、標準的なフレーズに対応できる。	リリーステクニックの理解が不十分で、標準的なフレーズを動きを行うことが困難。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
コンテンポラリーダンスの概念を理解し、今後の授業の内容と進行について理解する。
【授業時間外学修】
授業内容を復習する。(1.0hr)

第２回　基本エクササイズの復習
【　到達目標　】
基本エクササイズの流れを習得する。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習する。(1.0hr)

第３回　基本エクササイズの復習
【　到達目標　】
エクササイズの流れを習得する。
具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメントについて理解を深める。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第５回　フォール＆リカバー、フロアーテクニックの習得
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
具体的なエクササイズを通し、フロアーテクニックと体のアライメント、フォールとリカバーについて理解を深める。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第５回　フォール＆リカバー、フロアーテクニックの習得②
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し、意識するポイントについて明確に行えるようにする。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第６回　フォール＆リカバー、フロアーテクニックの習得③
【　到達目標　】
使う部位を意識してエクササイズを行えるようにする。
フロアーエクササイズ、アライメントを使った体の動かし方について、動きの分析を行いながら実践し、意識するポイントについて明確に行えるようにする。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第７回　フォール＆リカバー、フロアーテクニックの習得③
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第８回　フォール＆リカバー、フロアーテクニックの習得④
【　到達目標　】
エクササイズをより細分化し、意識して動きを行えるようにする。
前回までの内容に加え、より応用的な動きに対応するためのメカニズムを分析、理解、習得する。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第９回　フォール＆リカバー、フロアーテクニックの習得⑤
【　到達目標　】
フロアーへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカバーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。
様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第10回　動きの流れ、ダイナミクス①
【　到達目標　】
フロアーへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカバーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。
様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第11回　動きの流れ、ダイナミクス②
【　到達目標　】
フロアーへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカバーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。
様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第12回　動きの流れ、ダイナミクス③
【　到達目標　】
フロアーへのアプローチ、体のアライメントの意識、呼吸との関連、フォールとリカバーなどを自分で意識的にコントロールできるようにテクニックへの理解を深める。
様々な動きに対応するための正しい技術を定着させる。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第13回　動きの応用①
【　到達目標　】
様々な要素の入った一連の振付フレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第14回　動きの応用②
【　到達目標　】
様々な要素の入った一連の振付フレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。
【授業時間外学修】
エクササイズの流れを復習し、技術を定着させる。(1.0hr)

第15回　動きの応用③
【　到達目標　】
様々な要素の入った一連のフレーズを個々の動きの要素を意識しながらスムーズに行えるようにする。またこれまでの授業内容で扱ったテクニックや知識を総括し、今後の個々の課題を明確にする。
【授業時間外学修】
授業で扱った技術、知識を復習し、レポートにまとめる。(1.0hr)

【学修上の留意点】

実践を通しての知識、技術の習得となるため、万全の状態で授業に臨めるように常に体のケア、怪我への留意を行うこと。また、授業は前回までの内容を土台にして進行していくため、個々で知識、技術の整理、復習を行うこと。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。

科 目 名	インプロヴィゼーション			担当者	髙野　美和子	
英 文 名	Improvisation					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME212		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

ダンサーとして自己の動きの発展、拡大を図るのみならず、創作・振付のために重視されている即興をまなび、体得する。自分自身の動きの特徴や癖などを認識し、さらに、新しい動きの探求・拡大を図ることを目的とする。また、創作や振付の上でも重要となる、空間、時間、力性などに関する感覚を養い、新しい創作の糧となる材料を追求することを目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
動きのボキャブラリーの拡大	あらゆる状況で新たな動きの探究ができる	新たな動きの探究にチャレンジしている	自分の動きのボキャブラリーに留まっている
その場の状況や相手を感じて踊ること	毎回その場の状況を感じて踊ることができる	その場の状況や相手を感じて踊ろうとしている	周りを感じずに毎回同じように踊っている
創作につながる即興の手法	創作につながる即興の手法を理解し、利用できる	創作につながる即興の手法を理解している	創作につながる即興の手法を理解できていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション　インプロヴィゼーションとは
【　到達目標　】
舞踊における即興の特徴、概念を理解し、自分自身の即興の解釈を説明できる。

【授業時間外学修】
授業で学習した内容をまとめ、関連資料等を収集する。(1.0hr)

第２回　時間の知覚、把握
【　到達目標　】
即興時の時間の感覚、間のとり方、意識とからだのあり方を体得する。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第３回　空間の知覚、把握
【　到達目標　】
即興時の空間の感覚、方向や軌跡の認識、意識とからだのあり方を体得する。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第４回　キネスフィアの理解
【　到達目標　】
キネスフィア（kinesphere）を理解し即興を通じて体得する。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第５回　動きの質感①
【　到達目標　】
動きの質感を明確にしながら、ソロ、デュオで即興的に対話しながら踊る。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第６回　動きの質感②
【　到達目標　】
いくつかの質感の異なる動きを取り入れながら、即興の可能性を追究する。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第７回　コンタクト・インプロヴィゼーション①
【　到達目標　】
床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、いくつかのコンタクトの方法を体感する。

【授業時間外学修】
コンタクト・インプロヴィゼーションに関する参考文献を読む。(1.0hr)

第８回　コンタクト・インプロヴィゼーション②
【　到達目標　】
床、人と自分のからだの接点、重さ、重心を感じながら、即興的にコンタクトを導入して踊ることを体得する。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第９回　チャンス・オペレーション
【　到達目標　】
チャンス・オペレーションの特徴を理解し、実践できる。

【授業時間外学修】
チャンス・オペレーションの概念を文献等で理解しておく。(1.0hr)

第10回　イメージとのかかわり
【　到達目標　】
視覚、言葉などのイメージと動き・ダンスがどうかかわれるのか、可能性を探求し、実践できる。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第11回　音とのかかわり
【　到達目標　】
音や曲と動き・ダンスが即興的にどう関われるのか、可能性を探求し、実践できる。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第12回　物、装置とのかかわり
【　到達目標　】
物、装置と動き・ダンスがどう関われるのか、可能性を探求し、実践できる。

【授業時間外学修】
授業の活動内容や理解したことをまとめる。(1.0hr)

第13回　構成、枠組みのなかでの即興①
【　到達目標　】
グループ毎に即興の設定（構成、枠組み）を企て、実践できる。

【授業時間外学修】
グループでおこなう即興の設定を考え、記述しておく。(1.0hr)

第14回　構成、枠組みのなかでの即興②
【　到達目標　】
グループ毎に即興の設定（構成、枠組み）を企て、実践、改良しまとめ、説明することができる。

【授業時間外学修】
授業で実践した即興の設定を記述し、レポートの準備を始める。(1.0hr)

第15回　授業内容の振り返り
【　到達目標　】
各回の実践、体得したことを振り返り、理解したことを言語化（レポート作成）することができる。

【授業時間外学修】
全授業で取り組んだ内容を振り返り、レポートを作成する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

全授業対面で行う。インプロヴィゼーションは個々の主体的な姿勢が重要であるとともに、自身のからだと他者のからだ、その場で起こっている現象を注意深く観察する姿勢が大切である。個々の集中力が授業全体の集中力につながるので、毎時間、気力と体力を万全にして臨むこと。各時間の中でからだが感じた様々な感覚を振り返りつつ、ノートにまとめるなど言語化する作業を行うことが望ましい。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次回の授業にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

参考書：「インプロヴィゼーション」, Bailey, Derek著, 竹田賢一訳 (1981) 工作舎
“The Moment of Movement ”, Lynne Anne Blom and L.Tarin Chaplin (1988)University of Pittsburg Press
「コンタクト・インプロヴィゼージョン」, Novack,Synthia J 著, 立木燁子・菊池淳子訳(2000) フィルムアート社

【成績評価方法】

毎回の授業課題の取組と理解、達成度を80%、レポート課題を20%として総合的に評価する。

科目名	舞台演出論			担当者	渡沼　玲史	
英文名	Theory of Stage Directing					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DME301		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

「演出」という言葉はあらかじめ脚本がある演劇の場合と違って舞踊の場合は曖昧である。コンセプトを実現するための手段が演出であると考えるのであれば、振り付けも演出の一部分と考えることもできるし、振り付けという言葉に演出を含むこともできるだろう。この講義ではコンセプト、効果を実現するための手段としての演出がどのように成立していて、実際のどのような効果を発揮しているかを理解できるようになることを目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊の演出法	多彩な方法を用いて適切な演出ができる	舞踊作品の演出ができる	舞踊作品の演出ができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
ここで展開する授業内容の紹介。演出するとはどういうことかを理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第２回　様々な演出（１）
【　到達目標　】
同一の素材が演出によってどのように異なるかを理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第３回　様々な演出（２）
【　到達目標　】
同一の素材が演出によってどのように異なるかを理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第４回　様々な演出の美学（１）
【　到達目標　】
演出の違いの根底にある美学を理解する
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第５回 様々な演出の美学（２）
【　到達目標　】
演出の違いの根底にある美学を理解する
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第６回　映像と舞台
【　到達目標　】
映像を使った様々な演出法とその意義を理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第７回 演出の分類
【　到達目標　】
演出を分類すると同時に演出を構成する要素にどのようなものがあったかを理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第８回 文学作品の探索
【　到達目標　】
文学作品を選んでそれを用いてどういう演出をするかのプランを立てる。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第９回　文学作品の分析
【　到達目標　】
文学作品の分析方法の基本とその分析に基づいた演出（関係の空間化＝舞台化）を理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第10回　世界観の構築
【　到達目標　】
世界観をどう演出するかを理解する。象徴的な舞台作品の演出とその背景にある原理を理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第11回 対象のリサーチの方法と実践
【　到達目標　】
作品を演出する上でのリサーチの方法を理解し実践できるようになる。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第12回　リサーチ結果の発表
【　到達目標　】
受講者による発表とディスカッションを通じてリサーチの方法を理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第13回　リサーチ結果の発表
【　到達目標　】
受講者による発表とディスカッションの方法を理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第14回　リサーチ結果の発表
【　到達目標　】
受講者による発表とディスカッションの方法を理解する。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

第15回　総括
【　到達目標　】
様々な演出法やそのための実践を振り返り演出方への理解を深める。
【授業時間外学修】
講義中に指示した文献資料を調査する。(4.0hr)

※上記内容を理解することを本科目の到達目標とする。

【学修上の留意点】

講義と学生による発表とディスカッションによって進める。　授業計画は目安であり、受講者の理解度や関心、受講者数に応じて講義の順序や内容を変更することがある。そのため必ずしもシラバス通りには進まない。

【教科書・参考書など】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

発表60%と授業中の参加度やリアクションペーパー40%で評価する。

科目名	現代の舞踊論			担当者	上村　杏菜・古泉　佳代・小海　隆樹 沢井　史穂・永野　康治・星川　佳広 牧　琢弥・渡沼　玲史		
英文名	Dance Theory of Today						
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科		健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DME302			卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

本講座はダンスを科学的に分析することを目的とする「ダンス･サイエンス」である。本学ではダンス学科が体育学部の中にあるので、ダンス学科の学生も1学年時に必修で専門基礎教育科目として、スポーツ運動学、スポーツ生理学、機能解剖学などを履修する。したがってこの領域の基礎は学んでいるが、それをダンス領域に特化して学ぶ内容としたい。さらに下記の講義も加えて、ダンスを美的判断の対象にした芸術学や、教育目標にそって展開する教育学などとも違う、ダンスの営為を物象化しデータ化して、科学的な分析を加えて考察する講義内容としたい。それを受講学生が日頃のダンシングする実践に活かしてほしいのは当然だが、この学問領域への関心を持ってさらに探求しようとする学生が輩出することを願うものである。本学が体育大学なので、その領域の教師がダンシングすることを様々な科学的視点から切り込めるのは本学ならではあり、日本では他にない取り組みである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンス・サイエンスの趣旨、意義の理解	ダンス・サイエンスの趣旨、意義を十分に理解している	ダンス・サイエンスの趣旨、意義を理解している	ダンス・サイエンスの趣旨、意義を理解していない
ダンス実践における科学的視点の探求	ダンスの実践における科学的視点を積極的に探究している	ダンスの実践における科学的視点を探究している	ダンスの実践における科学的視点を探究していない
科学的なデータのダンス実践への活用	科学的なデータからダンス実践の在り方を積極的に検討できる	科学的なデータからダンス実践の在り方を検討できる	科学的なデータからダンス実践の在り方を検討できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ダンス･サイエンス序説（渡沼）
【　到達目標　】
ダンス・サイエンスを開講する趣旨と意義について確認する。ダンスをサイエンスするとは何か？ダンスを価値判断によるの美学芸術学からではなく、事実学としての科学から分析することの意味を論じる。
【授業時間外学修】
明確にされた問題について、関連する資料を調べるなどして考察を深めておく。(4.0hr)

第２回　ダンスと運動学（小海）
【　到達目標　】
現代の現象学を基にしたスポーツ運動学の知見から、ダンスの動きかたの上達現象について改めて考える契機とする。環境世界で対峙しながら自ら動こうとする主体は、パトス的世界で苦悩する。これらは、ダンスにもスポーツにも通底することを理解する。
【授業時間外学修】
ダンスの上達そのものに直接関係する「感覚」のあり方について再確認する(4.0hr)

第３回　ダンスと重力（牧）
【　到達目標　】
ダンスとくにバレエにおいて重力に抗するように見せるテクニックを力学的に利用して、ダンス・テクニックを高める指針としたい。映像を見てダンスする身体の動きを物理学的に説明するので、自分の重心や角速度などをコントロールする術を確認してほしい。
【授業時間外学修】
授業内容を、実際に自ら動いて確認する。(4.0hr)

第４回　ダンスと技能評価（小海）
【　到達目標　】
採点競技系種目では、審判員の観察による採点が行われる。観察による評価基準となるのは何か。その評価基準は、果たしてダンスに適用できるのか。できないなら、それは何故なのか。評価基準の本質的違いを探る。
【授業時間外学修】
運動技能の評価と芸術的判断との違いは何かを復習しておくこと。(4.0hr)

第５回　ダンスの体力トレーニングとコンディショニングⅠ（星川）
【　到達目標　】
トレーニングの原理やダンスの運動特性を理解したうえで、レジスタンストレーニング、有酸素性トレーニングを実施することができる。各種トレーニングの意味を理解し、ダンスのパフォーマンス向上につなげることができる。
【授業時間外学修】
自身が行っている体力トレーニングについて省察する。（4.0hr）

第６回　ダンスの体力トレーニングとコンディショニングⅡ（星川）
【　到達目標　】
トレーニング計画や疲労からの回復、コンディショニング法について理解する。形態や体力の発育発達とトレーナビリティについて理解し、より長期的な視点からダンスのパフォーマンス向上につなげることができる。
【授業時間外学修】
自身がこれまでに受けてきた練習、トレーニングについて省察する。（4.0hr）

第７回　ダンスの生理学Ⅰ（沢井）
【　到達目標　】
動きが複雑で変化に富んでいるダンス運動の強度や難易度、筋活動量などを運動生理学的に評価する方法とその意義について理解する。
【授業時間外学修】
提起された課題について、関連する文献や資料を調べて考察を深めておく。(4.0hr)

第８回　ダンスの生理学Ⅱ（沢井）
【　到達目標　】
動きが複雑で変化に富んでいるダンス運動の強度や難易度、筋活動量などを運動生理学的に評価したデータに基づいて、対象者特性に合わせた運動プログラムを構成する具体的な方法について実践的に学ぶ。
【授業時間外学修】
学習成果を生かして、自身で運動プログラムを構成してみる。(4.0hr)

第９回　ダンスの栄養学Ⅰ（古泉）
【　到達目標　】
ダンサーとして動ける身体を維持できる体重管理について、3大栄養素の代謝を理解する。
1食のエネルギー及び栄養素の摂取方法を、栄養素レベル及び食事レベルで説明できる。
【授業時間外学修】
自らの食事を量と質の考え方で評価し、改善点を考え実践する。(4.0hr)

第10回　ダンスの栄養学Ⅱ（古泉）
【　到達目標　】
練習や発表といったダンサーとしての身体活動と食事のタイミングが、パフォーマンスや身体に与える影響を理解し、パフォーマンスを最大限に発揮したり、体重管理の面から、1日や1年間のスケジュールに適した食事とその食事の摂取タイミングを考えることができる。
【授業時間外学修】
自らのスケジュールと食事内容、摂取タイミングをまとめる。(4.0hr)

第11回　ダンスの外傷・障害とリハビリテーションⅠ（永野）
【　到達目標　】
ダンスに好発する外傷・障害について解説する。外傷・障害のメカニズムや原因とそうなりうる動作について理解し、説明できることを到達目標とする。
【授業時間外学修】
ダンス活動に伴う外傷・障害をまとめ、原因を考察する。(4.0hr)

第12回　ダンスの外傷・障害とリハビリテーションⅡ（永野）
【　到達目標　】
ダンスに好発する外傷・障害のリハビリテーション法について解説する。使用されるリハビリテーションの手法およびその注意点について理解し、説明できることを目指す。
【授業時間外学修】
リハビリテーションメニューを整理し実践を行う。(4.0hr)

第13回　ダンスと解剖学Ⅰ：下腿・足関節（上村）
【　到達目標　】
バレエにおける身体機能について、機能解剖学の視点から実践的に学ぶ。
下腿・足関節に関して、バレエやダンスに役立つ機能評価方法や解剖学的知識、動作分析を、実技と座学を通して学習し、最小限の障害を防ぐためのダンスやバレエとの効果的な関わり方を習得する。
【授業時間外学修】
授業で習得したことを自身の分野で実践し、変化を考察する。（4.0hr）

第14回　ダンスと解剖学Ⅱ：股関節・膝関節（上村）
【　到達目標　】
バレエにおける身体機能について、機能解剖学の視点から実践的に学ぶ。
股関節・膝関節に関して、バレエやダンスに役立つ機能評価方法や解剖学的知識、動作分析を、実技と座学を通して学習し、最小限の障害を防ぐためのダンスやバレエとの効果的な関わり方を習得する。
【授業時間外学修】
授業で習得したことを自身の分野で実践し、変化を考察する。（4.0hr）

第15回　ダンスと解剖学Ⅲ：体幹・頸部（上村）
【　到達目標　】
バレエにおける身体機能について、機能解剖学の視点から実践的に学ぶ。
体幹・頸部に関して、バレエやダンスに役立つ機能評価方法や解剖学的知識、動作分析を、実技と座学を通して学習し、最小限の障害を防ぐためのダンスやバレエとの効果的な関わり方を習得する。
【授業時間外学修】
授業で習得したことを自身の分野で実践し、変化を考察する。（4.0hr）

【学修上の留意点】

基本講義形式だが、講義によっては、体を動かすこともあるので、動ける軽装がのぞましい。

【教科書・参考書など】

各講義の教員が指示する。

【成績評価方法】

関心・意欲（80%）、提出するレポートによる評価（20%）。

科目名	ダンスセラピー演習			担当者	平　舘　ゆ　う	
英文名	Dance/Movement Therapy Workshops					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME303		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

心理療法の一手法としてのダンス・セラピー（ダンス／ムーブメント・セラピー）を成立させている、ダンスや身体活動と心理の関係を理解する。ダンス・セラピーの手法として用いられるダンスや身体活動、音楽との関わりの中で、心身の経験を批判的・分析的にとらえ、自分自身や対人関係への感じ方の変容のプロセスを体験的に理解する。また、適切な言語化によるフィードバックを可能にするための要点を理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンス・セラピーを支えるダンスや身体活動と心理の関係についての理論	ダンスや身体活動と心理の関係を理解し、自らまとめて説明できる。	ダンスや身体活動と心理の関係を理解し、授業資料を参照しながら説明できる。	ダンスや身体活動と心理の関係についての理解が不十分で、資料に基づき説明できない。
ダンス・セラピーの中で頻繁に用いられるダンスや身体活動、言語化の手法	ダンス・セラピーで用いられる手法の特徴を理解し、自らの心身の変化と関連づけて説明できる。	ダンス・セラピーで用いられる手法の特徴を理解し、資料に基づき説明することができる。	ダンス・セラピーで用いられる手法の特徴についての理解が不十分で、資料に基づき説明できない。
ダンス・セラピーの観点からの課題に対応したダンス・身体活動の活用	ダンス・セラピーの観点から課題を見つけ、適切なダンス・身体活動の提案をすることができる。	ダンス・セラピーの観点から提示された課題に対して、具体的なダンス・身体活動の例を資料の中に見つけることができる。	ダンス・セラピーの観点から提示された課題に対して、具体的なダンス・身体活動の例を資料の中に見つけることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　ダンス・セラピーの理論的背景：ダンスセラピーの成立史
【　到達目標　】
「ダンス・セラピー」の考え方が生まれた経緯を、社会的背景とともに学び、ダンス・セラピーの定義について理解する。

【授業時間外学修】
19世紀末～20世紀初頭の欧米文化の発展とモダンダンスの出現の経緯について概観する。(4.0hr)

第２回　模倣の働き
【　到達目標　】
模倣が交流をもたらす可能性を持つことを理解し、模倣を超えて共通の体験が生み出される瞬間を体得する。

【授業時間外学修】
社会脳あるいはミラーニューロンについて調べ、その働きについて理解する。(4.0hr)

第３回　空間と距離の働き
【　到達目標　】
私たちが基本的に持っている空間の感覚が集団や社会のなかでどのような働きをするかを学び、「距離感」の働きを理解する。

【授業時間外学修】
エドワード T. ホールによる「プロクセミクス」について調べ、理論を理解する。(4.0hr)

第４回　運動の質を捉える
【　到達目標　】
動きの外観と内観について比較し、多様な運動質を反映できるようにする。
またこれ等の運動と特定のイメージや言葉（オノマトペ）との結びつきを理解する。

【授業時間外学修】
ラバンの運動理論「エフォートシステム」を復習し、その構造を理解する。(4.0hr)

第５回　身体（の動き）の象徴性
【　到達目標　】
身体各部の持つ機能や動きの特性、またそうした身体各部や部位同士の関係に対して育まれてきた一般的なイメージについて学び、身体表現の多義性を理解する。

【授業時間外学修】
人体の構造（解剖学）を復習し、主要各部の機能を理解する。(4.0hr)

第６回　心と対話する身体
【　到達目標　】
動きを通じて得られる心理的効果について先行研究を概観する。また増田明が考案したボディートークや、野口体操などの体験を通して、心と対話する身体作りを理解する。

【授業時間外学修】
体と向き合う各種ボディーワークについて調べ、その役割について理解する。(4.0hr)

第７回　グループセッションにおける共感的要素
【　到達目標　】
グループセッションの中に生まれる「自発的な動き」と「調整された動き」が融合する過程を体験を通して理解する。またセラピストとクライエントの立場をそれぞれ体験し、セラピストの適切な関わりについて学ぶ。
【授業時間外学修】
導入として使用してみたい音楽を準備する。(4.0hr)

第８回　小道具をもちいたセッション
【　到達目標　】
ダンスセラピーにおける小道具の役割について理解し、セッションの広がりを体験的に学ぶ。
また、小道具を用いない場合の効果についても逆説的に理解する。

【授業時間外学修】
セッションを支える小道具にどんなものがあるか考え、持参する。(4.0hr)

第９回　生涯教育領域におけるダンスセラピー
【　到達目標　】
我々が人と人との関係性の中で生きることを踏まえ、コミュニケーションを中心としたワークを通し、自己と他者を受け入れるダンスセラピーのあり方について学ぶ。

【授業時間外学修】
非言語コミュニケーションについて調べ、考え方を整理する。(4.0hr)

第10回　音楽と身体表現の歴史的背景
【　到達目標　】
舞踊史上の音楽との関わりのみならず、音楽によって身体的な意味づけがどのようになされてきたのか学び、文化人類学的な視点にたって音楽と身体表現の関係を理解する。

【授業時間外学修】
音楽史の中で身体が関わる事例を調べ、その特徴を理解する。(4.0hr)

第11回　音楽とダンスセラピー①：音楽のもつ基本的性格への理解
【　到達目標　】
音楽の三要素であるリズム、メロディ、ハーモニーについて、その特性が身体に与える影響を学ぶ。楽曲を用いて実際にその違いを体験しながら理解を深める。

【授業時間外学修】
任意の音楽について、音楽の三要素の特徴を把握する。(4.0hr)

第12回　音楽とダンスセラピー②：現象学的視点からみた音楽の活用法
【　到達目標　】
音楽を現象学的な視点から分析し、音及び音楽のもつ「方向性」について、理解する。
また音によって身体表現がどのように変化するのか、授業での体験を通し理解を深める。

【授業時間外学修】
ロングトーンを含んだ音楽を調べ、その音の持つ方向性ににについて考える。(4.0hr)

第13回　イメージを用いたセラピー
【　到達目標　】
イメージがもたらす効果について、ファンタジーセラピーやドラマセラピーの視点をを知る。今いる現実から離れ、新たな視点で現実に立ち戻る過程を体験し理解する。

【授業時間外学修】
できるだけ自分からかけ離れたキャラクターを考える。(4.0hr)

第14回　テクノロジーの発展とセラピーとの関わり
【　到達目標　】
テクノロジーの進化とセラピーがどのように共存していくのか、またそこに現存する身体をどのように扱うのか、体験と議論を通して理解を深める。

【授業時間外学修】
テクノロジーの進化に伴う身体感の変化について各自の体験を整理する。(4.0hr)

第15回　ダンス・セラピーの可能性と限界
【　到達目標　】
授業全体を振り返り、ダンス・セラピーが効果を発揮するのはどのような場合か、また避けるとするならどのような場合かを説明できる。
授業で学んだDTの考え方や技術が、実際の場面でどのように機能するか体験的に理解する。
【授業時間外学修】
15回の授業全体を振り返り、各自の理解の程度と学習内容に関する疑問点を整理する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業の趣旨はダンス・セラピーの理論的背景と方法を理解することであって「セラピー」そのものの実践ではない。しかし、演習の中では自分や他の参加者の内面に触れる場面もあるので、その時々の思いや体験を互いに大切にできるよう、誠意を持って取り組んでほしい。ミニ講義と体験学習を併せて行なうので、動きやすい服装で臨むこと。毎時、リアクション・ペーパーの提出を求め、必要に応じて内容にコメントする。ダンス学科事業スケジュールとの関係で、授業内容が前後することがある。

【教科書・参考書など】

適宜、印刷資料を配布する。

【成績評価方法】

授業内容を理解し体験を深めることができたかという活動課題達成度（70%）と、第15回授業時間外学習で課する個人レポートの得点（30%）を併せて成績評価する。

科目名	マルチメディア・パフォーマンス			担当者	髙野　美和子	
英文名	Multimedia Performance					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME304		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

マルチメディア・パフォーマンスは、音や映像など様々なメディアとともに上演されている。この授業では、様々なメディア（主に映像や音）の特徴や効果およびPCによる編集、加工処理方法を学び、どのようにそれらをダンスのなかに取り込むことができるのか、その可能性を探りつつ、マルチメディア・パフォーマンスが成立していく過程を、実践を通じて学んでいく。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
映像編集の技術	表現したい映像を創る技術が十分ある	表現したい映像を創る技術がある	表現したい映像を創る技術が不十分
映像、音響、照明、ダンスを融合させた創作	映像・照明・ダンスを融合させた創作が十分できる	映像・照明・ダンスを融合させた創作ができる	映像・照明・ダンスを融合させた創作が不十分
マルチメディア・パフォーマンスの上演	計画的にマルチメディア・パフォーマンスの準備・上演ができる	計画的にマルチメディア・パフォーマンスの準備・上演にチャレンジしている	計画的にマルチメディア・パフォーマンスの準備・上演ができていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション（マルチメディア・パフォーマンスとは）
【　到達目標　】
過去の作品を観ながら、マルチメディア・パフォーマンスの概要と背景、授業でとりあげる内容について理解する。
【授業時間外学修】
授業の要点をまとめ、第5回に提出する映像作品のアウトラインを考える。(4.0hr)

第２回　映像撮影、編集の方法
【　到達目標　】
映像作品制作のための映像撮影およびPCによる映像編集の方法を理解する。
【授業時間外学修】
授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を考える。(4.0hr)

第３回　映像撮影、編集の方法と実践
【　到達目標　】
2回目に引き続き映像撮影編集の方法を実践を通じて理解する。
【授業時間外学修】
授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の構成を練る。(4.0hr)

第４回　映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作）
【　到達目標　】
映像編集と並行して、録音、音編集の方法を学び、短い映像作品を制作する。
【授業時間外学修】
授業の復習を行うと共に、提出用映像作品の手直しを行う。(4.0hr)

第５回　映像編集、録音、音編集の方法と実践（映像作品制作、提出）
【　到達目標　】
映像、音編集の実践を通じて制作した映像作品を提出する。
【授業時間外学修】
第6回のグループ制作の構想を考える。(4.0hr)

第６回　グループ別によるコンセプト、テーマの話し合い
【　到達目標　】
グループ毎にマルチメディア・パフォーマンス作品のコンセプトやテーマについて話し合い、グループ作品の方向性を理解、説明できる。
【授業時間外学修】
グループ制作に必要な材料を準備する。(4.0hr)

第７回　グループ別による映像、音、振付制作活動①
【　到達目標　】
グループ作品のコンセプトに沿って、映像、音、照明、振付等のプランを立て、役割分担しながら、計画的に制作を進める。
【授業時間外学修】
グループ制作で担当する作業の準備を進める。(4.0hr)

第８回　グループ別による映像、音、振付制作活動②
【　到達目標　】
7回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。
【授業時間外学修】
グループ制作を行う。(4.0hr)

第９回　グループ別による映像、音、振付制作活動③
【　到達目標　】
8回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。
【授業時間外学修】
グループ制作を行う。(4.0hr)

第10回　グループ別による映像、音、振付制作活動④
【　到達目標　】
9回目同様、グループ制作活動を計画的に進め実践できる。
【授業時間外学修】
グループ制作を行う。(4.0hr)

第11回　グループ別による映像、音、振付制作活動⑤
【　到達目標　】
作品の中の各メディアのバランスを調整しながら、作品全体をまとめ上げることができる。
【授業時間外学修】
発表に向けた照明、音響、映像、振付等の調整を行う。(4.0hr)

第12回　発表スペースでのグループ作品制作①
【　到達目標　】
発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。
【授業時間外学修】
発表用の各メディアの準備を進める。(4.0hr)

第13回　発表スペースでのグループ作品制作②
【　到達目標　】
発表スペースにて使用機材の準備・片づけも含め、グループ作品制作を計画的に進めることができる。
【授業時間外学修】
発表作品の練習を行う。(4.0hr)

第14回　発表スペースでのグループ作品制作・準備
【　到達目標　】
次週のグループ作品発表に向けて、機材・片づけも含め、協力しながら作品リハーサルを実践できる。
【授業時間外学修】
発表作品の練習を行う。(4.0hr)

第15回　グループ作品発表、感想、講評
【　到達目標　】
グループ作品を発表するとともに、各グループの発表を鑑賞し、作品について振り返り、合評しあうことができる。
【授業時間外学修】
グループ発表の振り返りと他グループの感想をまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

全授業を対面で行う。短い時間の中で多くの機材を使用しながら授業をしていくため、機材の取り扱いをきちんとしながら、計画的に毎時間の課題を進めていくことが求められる。毎時間、授業に対する振り返りを個人記録ノートに記入、提出し、次回の授業にてフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

毎時間の取組、個々の映像作品およびグループ作品の達成度を80%、各メディア機材の使用方法理解度を20%の割合として評価する。

科 目 名	レパートリー研究			担当者	石川　浩子	
英 文 名	Repertory Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME305		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

ジャズダンスは年々、海外アーティストやメディア等が生む流行の影響などもあり、従来のバレエのテクニックを取り入れた、俗にシアター系と言われるオーソドックスなスタイルだけでなく、ヒップホップ等のストリート系を取り入れたものや、ミュージカル風のものなど、多様なスタイルが生まれ、形にとらわれずに個性豊かに表現できるダンスとして進化し続けている。学生には、自身が研究したいジャズダンスのスタイルを選び、研究し、ジャズダンスへの理解をより深めることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ジャズダンス歴史	理解し、自ら説明できる	理解しているが説明できない	理解できていない
作品創作	選択したスタイルで100%作品創作ができている	選択したスタイルを50%以下しか表現できていない	選択したスタイルから外れて創作する
作品研究	選択したスタイルの作品について自ら説明できる	選択したスタイルの作品について資料をみながら説明できる	選択したスタイルの理解が不十分で、説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
授業の進め方を理解する。

【授業時間外学修】
自分が知っている限りのジャズダンスの種類を調べてくる。(4.0hr)

第２回　多様化したジャズダンスの研究
【　到達目標　】
現在のジャズダンスの種類を話し合い、自分が研究したジャズダンスのスタイル考える。

【授業時間外学修】
次回研究することを決めてくる。(4.0hr)

第３回　研究グループ（ジャズダンスのスタイル）の決定
【　到達目標　】
研究するグループを決め、また、各グループで研究したいジャズダンスのスタイルを決めて話し合う。

【授業時間外学修】
研究対象にしたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)

第４回　研究①
【　到達目標　】
自分達の選んだジャズダンスのスタイルについて、各グループで話し合い、レポートにまとめる。

【授業時間外学修】
研究対象としたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)

第５回　研究②
【　到達目標　】
前回に続き､自分達の選んだジャズダンスのスタイルについて各グループで話し合い、レポートにまとめる。

【授業時間外学修】
研究対象としたジャズダンスのスタイルについて調べる。(4.0hr)

第６回　創作①
【　到達目標　】
各グループで、作品創作のため、イメージや方向性、曲などについて話し合う。

【授業時間外学修】
使用したい曲を探してくる。(4.0hr)

第７回　創作②
【　到達目標　】
各グループで、作品創作のため、イメージや方向性、曲などを決定する。

【授業時間外学修】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第８回　創作③
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学修】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第９回　創作④
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学修】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第10回　創作⑤
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学修】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第11回　作品中間発表
【　到達目標　】
各グループの作品を発表、全員で合評する。

【授業時間外学修】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第12回　作品創作⑥
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学修】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第13回　作品創作⑦
【　到達目標　】
各グループごとに、作品を創作する。

【授業時間外学修】
創作する作品について研究する。(4.0hr)

第14回　作品創作発表（評価対象とする）
【　到達目標　】
最終練習後、発表し、全員で合評する。

【授業時間外学修】
創作した作品のレポート提出のための資料をそろえる。(4.0hr)

第15回　最終確認　レポート作成
【　到達目標　】
選んだジャズダンスのスタイルと作品創作について、各グループで話し合い、最後にレポートにまとめる。

【授業時間外学修】
創作した作品のレポートをまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

【対面授業】
時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

授業への取り組み方40%、レポート20%、作品発表40%の割合で総合的に評価する。

科 目 名	レパートリー研究			担当者	岩淵　多喜子	
英 文 名	Repertory Studies					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME305		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊の歴史の中で優れた評価を受けた作品を取り上げ、そこで踊られるダンスのテクニックや振付法を実際に振り起しをし、踊ることにより実践的に学ぶ。また文献や動画鑑賞によって作品や技術の研究、分析を行い、コンテンポラリーダンス作品に対する技術、振付、歴史的背景などについて総合的に理解を深める。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
選択作品の理解とプレゼンテーション	選択した作品、振付家について、その背景について充分理解し、自分の解釈を加えて説明できる	選択した作品、振付家について、その背景について充分理解し、説明できる	選択作品についての学習、理解が不足し、説明できない
選択作品の実技でのプレゼンテーション	選択作品、振付家について理解し、技術や表現の特性を完全にプレゼンテーションできる。	選択作品、振付家について理解し、技術や表現の特性を概ねプレゼンテーションできる。	選択作品、振付家について理解が不足し、技術や表現の特性を実技として示すことが難しい。
レパートリーを上演すること関しての理解	著作権等の作品創作や上演に必要な事象について理解を深め、自分にあてはめて考えられる。	著作権や版権等、作品創作や上演に必要な様々な事象があることを認識、理解できる	著作権や版権等、作品創作や上演に必要な様々な事象があることを認識、理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
レパートリー作品という概念及び授業の進行について理解する。

【授業時間外学修】
観察する力を養う。(4.0hr)

第２回　コンテンポラリーダンスのはじまり、歴史的背景を学ぶ 1-①
【　到達目標　】
モダンダンス、ポストモダンダンス、ドイツ表現主義等、ヨーロッパでコンテンポラリーダンスがはじまるまでの歴史的背景を学ぶ。

【授業時間外学修】過去の著名な作品の映像を鑑賞し、作品のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第３回　コンテンポラリーダンスのはじまり、歴史的背景を学ぶ 1-②
【　到達目標　】
モダンダンス、ポストモダンダンス、ドイツ表現主義等、ヨーロッパでコンテンポラリーダンスがはじまるまでの歴史的背景を学ぶ。

【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第４回　ヨーロッパのコンテンポラリーダンス 2-①
【　到達目標　】
文献や動画を元に、ヨーロッパのコンテンポラリーダンスについて学ぶ。

【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第５回　ヨーロッパのコンテンポラリーダンス 2-②
【　到達目標　】
文献や動画を元に、ヨーロッパのコンテンポラリーダンスについて学ぶ。

【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第６回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-①
【　到達目標　】
学びたい作品を選択する。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第７回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-②
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第８回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-③
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第９回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-④
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第10回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑤
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を学ぶ。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行う。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第11回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑥
【　到達目標　】選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。
ピナ・バウシュ、ウイリアム・フォーサイス、ローザス等の著名な振付家のレパートリー作品から1つを選び、グループや個に分かれて作品の振り起こしと分析を行い、オリジナル作品に近い形で再現できるようにする。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第12回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑦
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。
選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第13回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑧
【　到達目標　】
選択した作品の振りや構成の特徴を身体的に表現できるようにする。
選択した作品について、作品のコンセプト、背景、特徴についての口頭発表、実演発表、振りや作品の特徴をワークショップ形式で他のグループの人に伝える。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第14回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑨
【　到達目標　】
作品の分析の精度を高め、選択した作品を再現できるようにする。
前回の発表から得たフィードバックをもとに、作品の振り起こし、分析の精度を高める。

【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う。(4.0hr)

第15回　著名な振付家のレパートリー作品を学ぶ 3-⑩
【　到達目標　】
選択した作品の特徴を身体的、論理的に理解し、表現できるようにする。
グループごとに、選択した作品の口頭発表、実演発表を行い、各レパートリー作品の特徴について分析し、理解を深める。
【授業時間外学修】著名な作品の映像の鑑賞、文献を調べる等、各振付家のコンセプト、動きの特徴などを観察する力を養う(4.0hr)

【学修上の留意点】
国内外の著名な振付家のレパートリー作品を学ぶことを通して、振りを覚えるだけではなく、その背景となっている作家の思想等にも目をむけて、より深くレパートリーを研究する。本授業は作品分析、振り起し等、授業時間外での個々の復習や研究作業が必要である。

【教科書・参考書など】
「コンテンポラリーダンス徹底ガイド」乗越たかお著（作品社）
「ダンス・バイブル」乗越たかお著（河出書房出版社）
「ダンスは冒険である」石井達朗著（論創社）など

【成績評価方法】
評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。

科目名	レパートリー研究			担当者	渡辺　碧	
英文名	Repertory Studies					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME305		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

チャイコフスキー三大バレエの一つであり、クラシックバレエの代表作品でもある、『白鳥の湖』を取り上げる。本授業では、世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の中から、マリウス・プティパ版、ウラジミール・プルメイステル版、ユーリ・グリゴローヴィチ版を扱う。各版のメソッドや振付・演出などを、文献と映像を元に分析し比較することで、それぞれの作品の真髄を追求することを目的とする。グループワークで研究を行うことにより、共同研究の方法・在り方を学び、コミュニケーション能力を高める。また口頭発表およびプレゼンテーション（以下、プレゼンとする）の能力をつけることをねらいとする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
リサーチおよびプレゼン能力	文献などによる事前リサーチを行い、パワーポイントなどを用いて効果的にプレゼンが出来る。	文献などによる事前リサーチを行い、プレゼンが出来る。	文献などによる事前リサーチを行うが、プレゼンが上手く出来ない。
グループワーク	仲間と協力して、計画性をもって、計画通りにグループワークを遂行出来る。	仲間と協力して、グループワークを遂行出来る。	仲間と協力することが出来ず、グループワークが出来ない。
作品分析	事前のリサーチを踏まえ、バレエの作品を自らの力で分析でき、自らの考えを発表出来る。	事前のリサーチを踏まえ、バレエの作品を自らの力で分析できる。	事前のリサーチを踏まえ、バレエの作品を自らの力で分析することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
この授業の目的を理解する。各版を理解し、グループ分けをする。今後の予定の確認し、計画を立てる。

【授業時間外学修】
世界各地の様々な振付家・演出家による『白鳥の湖』の種類を調べる。(4.0hr)

第２回　『白鳥の湖』の歴史
【　到達目標　】
バレエの歴史において、『白鳥の湖』の位置づけを理解出来る。どのようにして『白鳥の湖』が生まれたのかを理解する。

【授業時間外学修】
バレエの歴史を再度学び、復習する。第3回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第３回　マリウス・プティパについて
【　到達目標　】
振付家マリウス・プティパについて理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学修】マリウス・プティパが活躍した当時のバレエ史を復習する。
第4回の準備をする。(4.0hr)

第４回　ウラジミール・プルメイステルについて
【　到達目標　】
振付家ウラジミール・プルメイステルについて理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学修】ウラジミール・プルメイステルが活躍した当時のバレエ史を復習する。
第5回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第５回　ユーリ・グリゴローヴィチについて
【　到達目標　】
振付家ユーリ・グリゴローヴィチについて理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学修】ユーリ・グリゴローヴィチが活躍した当時のバレエ史を復習する。
第6回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第６回　マリウス・プティパ版のストーリーと演出
【　到達目標　】
マリウス・プティパ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学修】
第7回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第７回　ウラジミール・プルメイステル版のストーリーと演出
【　到達目標　】
ウラジミール・プルメイステル版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学修】
第8回のプレゼンの準備をする。(4.0hr)

第８回　ユーリ・グリゴローヴィチ版のストーリーと演出
【　到達目標　】
ユーリ・グリゴローヴィチ版のストーリーと演出を理解し、プレゼン出来る。

【授業時間外学修】
第9回の発表の準備をする。(4.0hr)

第９回　マリウス・プティパ版第2幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
マリウス・プティパ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。また振付を模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学修】
第10回の発表の準備をする。(4.0hr)

第10回　ウラジミール・プルメイステル版第2幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
ウラジミール・プルメイステル版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。
また振付を模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学修】
第11回の発表の準備をする。(4.0hr)

第11回　ユーリ・グリゴローヴィチ版第2幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
ユーリ・グリゴローヴィチ版『白鳥の湖』第2幕の隊形分析をする。
また振付を模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学修】
第12回の発表の準備をする。(4.0hr)

第12回　マリウス・プティパ版第4幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
マリウス・プティパ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。
また振付を模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学修】
第13回の発表の準備をする。(4.0hr)

第13回　ウラジミール・プルメイステル版第4幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
ウラジミール・プルメイステル版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。
また振付を模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学修】
第14回の発表の準備をする。(4.0hr)

第14回　ユーリ・グリゴローヴィチ版第4幕、隊形分析と発表
【　到達目標　】
ユーリ・グリゴローヴィチ版『白鳥の湖』第4幕の隊形分析をする。
また振付を模倣し、踊りを発表出来る。

【授業時間外学修】
これまでの各版の『白鳥の湖』を振り返り、まとめる。(4.0hr)

第15回　他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞・考察
【　到達目標　】
各版の『白鳥の湖』の特徴を考察、比較し説明することが出来る。
また他の創意工夫された『白鳥の湖』を鑑賞し、作品の奥深さを理解する。

【授業時間外学修】
15回の授業を振り返り、授業の反省・感想をまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

この演習はグループワークが主であり、資料作成・プレゼンの準備などを受講者が積極的に協力して、全員で行えるようにする事。プレゼンの際には、資料作成、映像上映、パワーポイントの使用、板書などを駆使し、受講者の理解度を高められるよう努める。毎回の資料や、プレゼンの内容が事前に準備されていないと授業が進行しないという事を受講者全員が理解し、与えられた課題に責任を持って取り組むこと。作品模倣は、DVDに登場する出演人数よりも縮小版に作り替えて発表するため、事前準備を徹底して行い、発表当日は衣装を着て行ってもよい。身だしなみはきちんとすること。毎回、リアクションペーパーを記入し、各版との比較を行う。プレゼン内容、リアクションペーパーについては、適宜、解説ならびにフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

適宜、参考資料を配付する。
「永遠の白鳥の湖」（森田　稔／新書館）　「踊る世紀」（鈴木　晶／新書館）

【成績評価方法】

授業における課題達成度、リアクションペーパー、学習意欲・関心・積極性など60%、レポート40%を総合的に評価します。

科 目 名	舞踊指導演習（舞踊家・一般成人指導法）			担当者	中村　恩恵	
英 文 名	Seminar in Dance Teaching Method (Teaching Method for Instructors and Adults)					
単 位 数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME213		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

舞踊指導の意義と目的を理解する。指導において必要とされるスキルを学び、指導体験をすることで実践的に指導方法を習得する。さらに舞踊家と一般成人の指導時の違いや留意点を理解することで、対象者に合った指導方法を考察する。履修者は舞踊指導者として求めらるスキルを理解すると共に、模擬レッスンを通じて具体的に舞踊指導を演習し、実践に役立てることができる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊指導の基礎的知見について	基礎的事項を理解し、自ら指導実践ができる。	基礎的事項を資料を参照しながら指導実践ができる。	理解が不十分で実践できない。
舞踊家と一般成人の指導の違いに関する事項	舞踊家と一般成人の指導の違いを理解し、自ら指導実践ができる。	舞踊家と一般成人の指導の違いを資料を参照しながら指導実践ができる。	違いの理解が不十分で実践できない。
舞踊指導の実践	自ら指導内容を考え実践することができる。	提示された指導内容を実践することができる。	指導実践をすることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　指導者として求められるスキル
【　到達目標　】
舞踊指導者として求められるスキルを理解し、本授業における目的を明確にする。

【授業時間外学修】
自分自身が舞踊指導をされた経験を振り返り、舞踊とは何を教えるものかを考察する(4.0hr)

第２回　ウォーミングアップとクールダウン
【　到達目標　】
ウォーミングアップとクールダウンの必要性を学ぶ。
レッスンに取り入れる効果的な方法を理解し、指導実践する。

【授業時間外学修】
ウォーミングアップとクールダウンの効果を調べる。(4.0hr)

第3回 基礎的な動きの指導(一般成人)
【　到達目標　】
一般成人を対象としたモダンダンスの基礎的な動きの指導方法を学ぶ。
一般成人を対象とした場合の注意や留意点を把握し、指導実践する。

【授業時間外学修】
一般成人を対象としたモダンダンスの基礎的な動きについて研究する。(4.0hr)

第4回　基礎的な動きの指導(舞踊家)
【　到達目標　】
舞踊家を対象としたモダンダンスの基礎的な動きの指導方法を学ぶ。
舞踊家を対象とした場合の注意や留意点を把握し、指導実践する。

【授業時間外学修】
舞踊家を対象としたモダンダンスの基礎的な動きについて研究する。(4.0hr)

第5回　テクニックの指導（一般成人）
【　到達目標　】
舞踊テクニックに必要な身体の動きを的確に指導する方法を学ぶ。
一般成人を対象とした場合の注意や留意点を把握し、指導実践する。

【授業時間外学修】
一般成人のための舞踊のテクニックを研究する。(4.0hr)

第6回　テクニックの指導（舞踊家）
【　到達目標　】
舞踊テクニックに必要な身体の動きを的確に指導する方法を学ぶ。
舞踊家を対象とした場合の注意や留意点を把握し、指導実践する。

【授業時間外学修】
舞踊家のための舞踊のテクニックを研究する。(4.0hr)

第7回　コンビネーションの指導（一般成人）
【　到達目標　】
コンビネーションを創作し、一般成人を対象にした際の振付の伝え方や指導方法を学ぶ。
一般成人を対象としたコンビネーションを自ら考え、指導実践する。

【授業時間外学修】
一般成人のためのコンビーネーションを研究する。(4.0hr)

第8回　コンビネーションの指導（舞踊家）
【　到達目標　】
コンビネーションを創作し、舞踊家を対象にした際の振付の伝え方や指導方法を学ぶ。
舞踊家を対象としたコンビネーションを自ら考え、指導実践する。

【授業時間外学修】
舞踊家のためのコンビーネーションを研究する。(4.0hr)

第9回　舞踊創作、インプロヴィゼーションの指導（一般成人）
【　到達目標　】
舞踊指導における創作活動及びインプロヴィゼーションの導入方法を学ぶ。
一般成人を対象としたインプロヴイゼーションの指導内容を自ら考え、指導実践する。

【授業時間外学修】
一般成人を対象とした創作活動及びインプロビゼーションのヴァリエーション研究する。(4.0hr)

第10回　舞踊創作、インプロヴィゼーションの指導（舞踊家）
【　到達目標　】
舞踊指導における創作活動及びインプロヴィゼーションの導入方法を学ぶ。
舞踊家を対象としたインプロヴイゼーションの指導内容を自ら考え、指導実践する。

【授業時間外学修】
舞踊家を対象とした創作活動及びインプロビゼーションのヴァリエーション研究する。(4.0hr)

第11回　グループ演習とディスカッション
【　到達目標　】
4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、
指導グループと受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学修】
グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)

第12回　グループ演習とディスカッション
【　到達目標　】
4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、
指導グループと受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学修】
グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)

第13回　グループ演習とディスカッション
【　到達目標　】
4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、
指導グループと受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学修】
グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)

第14回　グループ演習とディスカッション
【　到達目標　】
4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、
指導グループと受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学修】
グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)

第15回　グループ演習とディスカッション
【　到達目標　】
4～6人のグループを作り、各グループで疑似クラスを行う。指導内容について、
指導グループと受講者とで、ディスカッションをする。

【授業時間外学修】
グループ毎に構成を考察し、発表の準備をする。(4.0hr)

【学修上の留意点】

各授業においてテーマに即した指導方法を例示した後、グループに分かれて演習を行う。実践を通じて舞踊方法を習得していく為、積極的な授業参加を望む。テーマごとに、指導法における気づきや実践を通じて学んだことを小レポートにて提出することで、理解度を確認する。

【教科書・参考書など】

特に使用しない。必要に応じて資料は配布する。

【成績評価方法】

各授業の演習での指導実技の評価60%、レポート40%。

科 目 名	創作Ⅱ			担当者	岩淵　多喜子	
英 文 名	Choreography Ⅱ					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME306		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

舞踊作品の創作に必要な様々な手法についての知識を得るとともに、オリジナリティのある固有のダンス語彙を生み出していく方法について、ソロ、デュオ、グループ作品について実践的に学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
創作に必要な手法の理解(運動的アプローチ)	ネガティブスペース、トランスフォーメーション等の運動的な手法を理解し、自由に利用できる	ネガティブスペース、トランスフォーメーション等の運動的な手法を理解し、利用できる	ネガティブスペース、トランスフォーメーション等の運動的な手法の理解が不足し、利用できない
創作に必要な手法の理解(テーマ、音楽から)	テーマや音の構造の理解が不足し、場面創造や動きの発見が困難	テーマや音の構造を理解し、場面創造や動きの発見をし、作品創作ができる	テーマに沿った場面創造や動きの発見、掘り下げが困難
自由創作（総合的な創作力）	ダンスの創作に必要な要素を総合的に理解し、設定に応じた独創性のある創作ができる	ダンスの創作に必要な要素を総合的に理解し、創作することができる	ダンスの創作に必要な要素の総合的な理解が不足し、創作が困難

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　授業進行についてのオリエンテーション
【　到達目標　】
舞踊作品の創作についての概念を学び、今後の授業の進行について理解する。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第２回 リーディングポイントの理解
【　到達目標　】
リーディングポイントの基本概念について理解する。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第３回　リーディングポイントの応用
【　到達目標　】
リーディングポイントの応用方法について習得する。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第４回　トランスフォーメーションの理解
【　到達目標　】
トランスフォーメーションの基本概念について理解する。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第５回　トランスフォーメーションの応用
【　到達目標　】
トランスフォーメーションの考え方を理解する。
短いフレーズをもとに、体軸、空間、体の部位を変化させることによりフレーズの応用の可能性を探る。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第６回　ネガティブスペース
【　到達目標　】
ネガティブスペースの基本概念について理解する。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第７回　ネガティブスペースの応用
【　到達目標　】
ネガティブスペースの概念について理解し、その考え方を元にしたフレーズを創作し展開できる。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第８回　テーマからの創作法　－音楽からのアプローチー①
【　到達目標　】
音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。
課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める(4.0hr)

第９回　テーマからの創作法　－音楽からのアプローチー②
【　到達目標　】
音楽をもとに、そのダンス化の手法について学ぶ。
課題曲をもとに、その音楽がもつ音楽的構造、テーマ等を理解し、動きの語彙や場面創造の可能性について学ぶ。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第10回　テーマからの創作法　－詩からのアプローチー①
【　到達目標　】
詩をもとに、言葉と動きの関係性、ダンス化の手法について学ぶ。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第11回　テーマからの創作法　－詩からのアプローチー②
【　到達目標　】
詩をもとに、言葉と動きの関係性、ダンス化の手法について学ぶ。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第12回　テーマからの創作法　－詩からのアプローチー③
【　到達目標　】
インスタントコンポジションのシステムについて理解し、詩からのイメージでインスタントコンポジションを使ってグループで場面創造をすることができる。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第13回　自由創作①
【　到達目標　】
テーマの設定と具体的なアプローチの決定を行う。
これまで授業で扱ってきた様々な手法をもとに、テーマを設定し、作品への具対的なアプローチの仕方を決める。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第14回　自由創作②　－推敲と踊りこみー
【　到達目標　】
作品を推敲し、完成度をあげていく。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

第15回　自由創作③　－発表と総括－
【　到達目標　】
作品を発表レベルにまで高める。
グループごとに作品の実演発表を行い、作品の立ち上げ→創作（作品化）→発表を経験し、舞踊作品の創作について総合的に理解を深める。
【授業時間外学修】
創作法についての理解を文献等で深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業の内容は個やグループによる創作活動が主になるため、自己の体調、スケジュール管理をしっかり行い、主体的に取り組む姿勢が求められる。

【教科書・参考書など】

授業中に参考資料を配布。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。

科目名	テクニック＆レパートリー			担当者	中村　恩恵	
英文名	Technique & Repertory					
単位数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME307		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

現在、最も注目されている内外のアーティストの振付作品を実際に学ぶ。単に踊るだけでなく、振付が行われる過程、作品のコンセプト、意図などについて、振付家本人から直接学び、また、踊る側のダンサーとして、これらをさらに掘り下げる作業を通して、よりプロフェッショナルな世界に触れることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
作品理解を深める	作品を深く理解し、高い質で再現できる。	作品を理解し、正しく再現することができる。	作品理解に至らず、作品を正しく再現することができない。
作品を実演するための技術を身につける	作品を実演するための高い技術を身につけている	作品を実演するための技術を身につけている	技術不足で、作品を実演することができない
作品にふさわしい表現について理解を深める	作品にふさわしい表現を理解し、実演できる	作品にふさわしい表現を理解しているが実演に至らない	作品にふさわしい表現を理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
授業の進め方を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第２回　作品の概要を理解する
【　到達目標　】
課題作品の概要を理解し、作家の創作法の特徴を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第３回　課題作品の振り移し（冒頭部）
【　到達目標　】
実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第４回　課題作品の振り移し（中間部）
【　到達目標　】
実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第５回　課題作品の振り移し（後半部）
【　到達目標　】
実技実習を通して、作家の創作法の特徴を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第６回　技術習得実技導入
【　到達目標　】
実技実習を通して、作家の舞踊技法の特徴を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第７回　技術習得実技発展
【　到達目標　】
実技実習を通して作家の舞踊技法を習得する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第８回　作品理解の深化
【　到達目標　】
作品の背景について理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第９回　作品理解と表現の深化
【　到達目標　】
作品の背景について理解し表現に繋げる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第10回　作品理解と表現の確立
【　到達目標　】
作品の背景について理解し、表現を確立さる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第11回　踊り込みとクリーニング
【　到達目標　】
作品を自分のものとして表現を深める。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第12回　仕上げ
【　到達目標　】
作品の細部を理解し表現を極める。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第13回　課題作品の実演　グループ１
【　到達目標　】
学んできたことを総合的に理解し課題作品の実演に繋げる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第14回　課題作品の実演　グループ２
【　到達目標　】
学んできたことを総合的に理解し課題作品の実演に繋げる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

第15回　課題作品の実演　グループ3
【　到達目標　】
学んできたことを総合的に理解し課題作品の実演に繋げる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(1.0hr)

【学修上の留意点】

作品に触れることを通じ、各々の創造性を高めていってください。

【教科書・参考書など】

その都度指示します。

【成績評価方法】

作品の理解度50%、実技の技術面を50%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。

科 目 名	スペイン舞踊			担当者	山本　由紀	
英 文 名	Spanish Dance					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME103		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

本科目では、スペイン舞踊のひとつである“フラメンコ”を取り上げる。
フラメンコのコンパス（リズム）とバイレ（舞踊）の基本技能を習得し、カンテ（歌）、ギターとバイレが三位一体となる表現を目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
フラメンコのコンパス（リズム）の習得	コンパスのアセント（アクセント）やノリも十分に捉えて踊ることができる	コンパスに合わせて踊ることができる（コンパスをつなげられる）	コンパスに合わせて踊ることができない（コンパスが途切れてしまう）
バイレ（舞踊）の基本技能の習得	基本技能を十分に習得している	基本技能を習得している	基本技能を習得できていない
カンテ（歌）、ギターと一体となる表現力	カンテ（歌）、ギターと振付の関係性を理解し、表現することができる	カンテ（歌）、ギターを聴きながら振付の特徴を捉えて表現することができる	振付を理解できていないため表現に至っていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　フラメンコの歴史／コンパス（リズム）について
【　到達目標　】
フラメンコの成り立ちを知り、理解を深める。
フラメンコのコンパス（リズム）、パルマ（手拍子）、サパテアード（靴音でリズムを打ち出す技）の種類を学び、パルマとサパテアードでコンパスを作り出す。
【授業時間外学修】
授業内容を振り返る。フラメンコ音楽を聴き、コンパスを捉える。(1.0hr)

第２回　コンパス（リズム）とバイレ（舞踊）の基本技能の習得①
【　到達目標　】
パルマ(手拍子)、サパテアード（靴音でリズムを打ち出す技）の基礎を習得する。
ブラソ（腕）、マノ（手）の動きの基礎を習得する。
その他の基本的な身体の使い方を習得する。
【授業時間外学修】
授業内容を振り返る。フラメンコ音楽を聴き、コンパスを捉える。(1.0hr)

第３回　コンパス（リズム）とバイレ（舞踊）の基本技能の習得②
【　到達目標　】
サパテアード（靴音でリズムを打ち出す技）の基礎力を強化するとともに、
サパテアードにブラソ（腕）、マノ（手）の動きを併せる。
マルカール（リズムに合わせてステップを踏む）の動きと重心移動を習得する。
【授業時間外学修】
授業内容を振り返る。フラメンコ音楽を聴き、コンパスを捉える。(1.0hr)

第４回　コンパス（リズム）とバイレ（舞踊）の基本技能の習得③
【　到達目標　】
サパテアード（靴音でリズムを打ち出す技）の様々な組み合わせを習得する。
ブラソ（腕）、マノ（手）の多様な動きを習得し、マルカール（リズムに合わせてステップを踏む）の動きに取り入れて発展させる。
【授業時間外学修】
授業内容を振り返る。フラメンコ音楽を聴き、コンパスを捉える。(1.0hr)

第５回　コンパス（リズム）とバイレ（舞踊）の基本技能の習得④
【　到達目標　】
サパテアード（靴音でリズムを打ち出す技）の様々な組み合わせに、ブラソ（腕）、マノ（手）の多様な動きを併せる。
マルカール（リズムに合わせてステップを踏む）の様々な動きを習得する。
【授業時間外学修】
授業内容を振り返る。フラメンコ音楽を聴き、コンパスを捉える。(1.0hr)

第６回　コンパス（リズム）とバイレ（舞踊）の基本技能の習得⑤
【　到達目標　】
サパテアード（靴音でリズムを打ち出す技）について、速度変化に対応できるようにする。
マルカール（リズムに合わせてステップを踏む）とサパテアードを組み合わせ、
短いコンパス（リズム）をつなげて踊る。
【授業時間外学修】
授業内容を振り返る。フラメンコ音楽を聴き、コンパスを捉える。(1.0hr)

第７回　課題曲の振付①
【　到達目標　】
これまでに習得した基本技能をもとに振付を習得する。
その際、コンパス（リズム）を明確に捉える。

【授業時間外学修】
振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）を捉える(1.0hr)

第８回　課題曲の振付②
【　到達目標　】
これまでに習得した基本技能をもとに振付を習得する。
その際、パルマ（手拍子）、ハレオ（掛声）に合わせて、コンパス（リズム）の
アセント（アクセント）やノリも捉え、より深くコンパス（リズム）を感じる。
【授業時間外学修】
振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）のアセント（アクセント）ノリを捉える(1.0hr)

第９回　課題曲の振付③
【　到達目標　】
これまでに習得した基本技能をもとに振付を習得する。
更に、振付のパソ（ステップ）の特徴を捉えながら踊る。

【授業時間外学修】
振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）のアセント（アクセント）ノリを捉える(1.0hr)

第10回　課題曲の振付④
【　到達目標　】
これまでに習得した基本技能をもとに振付を習得する。
カンテ（歌）、ギターのコンパス（リズム）の流れとノリを捉えて踊る。

振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）の流れとノリを捉える(1.0hr)

第11回　課題曲の振付⑤
【　到達目標　】
これまでに習得した基本技能をもとに振付を習得する。
カンテ（歌）、ギターのコンパス（リズム）の流れとノリを捉えて踊り、
更に、振付のパソ（ステップ）の特徴との関係性を理解する。
【授業時間外学修】
振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）の流れとノリを捉える(1.0hr)

第12回　課題曲の振付⑥
【　到達目標　】
これまでに習得した基本技能をもとに振付を習得する。
カンテ（歌）、ギターと振付の関係性の理解を深める。

【授業時間外学修】
振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）の流れとノリを捉える(1.0hr)

第13回　課題曲を深める
【　到達目標　】
カンテ（歌）、ギターと振付の関係性の理解をより深めるとともに、
各自の課題を見つける。

【授業時間外学修】
振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）の流れとノリを捉える(1.0hr)

第14回　課題曲を深める
【　到達目標　】
各自の課題を解消し、表現へとつなげる。

【授業時間外学修】
振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）の流れとノリを捉える(1.0hr)

第15回　課題曲の完成
【　到達目標　】
カンテ（歌）、ギターと一体となる表現を目指す。

【授業時間外学修】
振付の振り返り。課題曲を聴き、コンパス（リズム）の流れとノリを捉える(1.0hr)

【学修上の留意点】

シューズについて、フラメンコシューズを履くことが望ましいが、太いヒール（約5cm程度）の踵が脱げないぴったりとしたサイズの靴でも可（つま先は覆われていること）。
また、ファルダ（丈の長い裾幅のあるスカート、フラメンコ用でなくて可）を着用する。※ダンスウェアの上から着用で可。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

毎回の授業内での理解度、習得度を60%、実技試験を40%とする。

科 目 名	日本舞踊			担当者	西川　扇左衛門	
英 文 名	Nihonbuyo (Japanese Classical Dance)					
単 位 数	1	科目区分・必修	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3	／選択の区別		専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME104		卒業認定方針との関連	⑥

【到達目標】

まず最初に着物（浴衣でも可）の正しい着方、お辞儀の他、和装の時の正しい立ち居振る舞いを身につけたい。その後、日本舞踊の歩き方、扇の扱い方などの基本動作を習得した上で、女踊り「潮来出島」「藤娘」の踊り地、男踊り「雨の五郎」の踊り地、「玉や」の踊り地を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
振付技能の修得	振付をしっかり身に付け、日本舞踊独特な腰を入れた動きになっていること	振付をしっかり身に付けていること	振付を身に付けていない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　日本舞踊の基本動作、立ち居振る舞いの説明と実践
【　到達目標　】
日本舞踊の基本動作と立ち居振る舞いについて理解し、習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第２回　女踊り「潮来出島」の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「潮来出島」の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第３回　女踊り「潮来出島」の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「潮来出島」の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第４回　「潮来出島」の習熟度チェックのための実技発表
【　到達目標　】
「潮来出島」の実技発表を通して習熟度を確認し、「潮来出島」の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第５回　男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第６回　男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
男踊り「雨の五郎」の踊り地の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第７回　「雨の五郎」の習熟度チェックのための実技発表
【　到達目標　】
「雨の五郎」の実技発表を通して習熟度を確認し、「雨の五郎」の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第８回　女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第９回　女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第10回　女踊り「藤娘」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
女踊り「藤娘」の踊り地の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第11回　「藤娘」の習熟度チェックのための実技発表
【　到達目標　】
「藤娘」の実技発表を通して習熟度を確認し、「藤娘」の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第12回　男踊り「玉や」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
男踊り「玉や」の踊り地の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第13回　男踊り「玉や」の踊り地の振りの習得
【　到達目標　】
男踊り「玉や」の踊り地の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第14回　「玉や」のび習熟度チェックのための実技発表
【　到達目標　】
「玉や」の実技発表を通して習熟度を確認し、「玉や」の振りを習得する。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

第15回　日本舞踊と洋舞の比較を討議
【　到達目標　】
授業で学んだ日本舞踊について理解することができる。

【授業時間外学修】
授業で行った技能について振り返り、次回の授業の準備を進める。(1.0hr)

【学修上の留意点】
・受講の際は必ず着物（浴衣でも可）を着ること。時計、指輪、ネックレスなどの貴金属の着用は不可。
・授業に出席することが大前提である。

【教科書・参考書など】
特になし。

【成績評価方法】
授業における課題達成度（50%）、個々の習熟度（50%）で評価する。

科 目 名	学校教育ダンス			担当者	宮本　乙女	
英 文 名	Dance Teaching Method in School					
単 位 数	1	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME214		卒業認定方針との関連	⑦⑧

【到達目標】

学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点をあて、学齢期生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価法について学習する。また、ダンス指導に必要な指導言語、伴奏楽器の使い方、音楽の選択、板書の工夫などについても学習する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
学校体育におけるダンスの内容についての理解	理論を理解し、自らまとめて説明できる。	学習指導要領や参考書に基づいて説明できる。	理解が不十分で説明できない。
学校体育におけるダンスの指導計画	学習した知見を生かし、自分自身の特性を生かしたダンスの指導計画を作成できる。	学習指導要領や参考書に基づいて指導計画を立てられる。	計画を立てることができない。
学校体育におけるダンス指導技能	確かな指導言語を用い、十分な示範ができ、生徒の動きを最大限に引き出す指導ができる。	適切な指導言語を用い、示範を行い、生徒の動きを引き出す指導ができる。	指導言語や、示範が不十分で、生徒の動きを引き出すことができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション、フォークダンスパティケークポルカなど
【　到達目標　】
授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。
取り組みやすい外国のフォークダンスの踊り方と指導法を学ぶ。

【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第２回　リズムのダンスによる導入・題材①8421ダンスなど　リズムのダンスの示範
【　到達目標　】
授業の概要、ダンス教育の意義について理解する。
導入の単元より、現代的なリズムのダンスを学ぶ。

【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第３回　創作ダンス・題材②「しんぶんし」など　ひと流れをつかませる指導
【　到達目標　】
ダンスとの出逢いの授業。ものを使ってひと流れの動きの指導法を学ぶ。
ひと流れの動きを引き出す実習を体験する。

【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第４回　創作ダンス・題材③「走る－止まる」など　極限を引き出す指導
【　到達目標　】
対極の動きの連続を手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。
極限を引き出す示範方法を実習する。

【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第５回　創作ダンス・題材④「集まる－とびちる」など　リズム太鼓の使い方実習
【　到達目標　】
群の動きを手がかりにした基本的な題材から指導法を学ぶ。
リズム太鼓の使い方を始め、伴奏楽器の使用法について実習する。

【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第６回　創作ダンス・題材⑤「スポーツ」など　授業内発表会の持ち方
【　到達目標　】
身近な生活や日常動作を手がかりにした基本的な題材の指導法と、簡単な授業内発表会の指導法を学ぶ。

【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第７回　作品の鑑賞と現代的なリズムのダンス・題材⑥「じゃんけんダンス」
【　到達目標　】
リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、簡単な踊り合いの指導法を学ぶ。
作品の鑑賞と評価法について学ぶ。
【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第８回　現代的なリズムのダンス・題材⑦「ロックのリズム」など　発表会のバリエーション
【　到達目標　】
リズムを手がかりにして自由に自分のダンスを踊る題材の指導法と、授業内での簡単な踊り合い、見せ合いの指導法を学ぶ。

【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第９回　創作ダンス・題材⑧「序破急」など作品の運びを学ぶ題材
【　到達目標　】
作品を作るための、運び方を学ぶ。
イメージと動きを引き出す効果的な太鼓のたたき方を実践的につかむ。

【授業時間外学修】
配付された資料、教科書により学習した内容を理論的に復習しておく。(1.0hr)

第10回　学んだ題材の復習を活かした作品作りと指導のポイント
【　到達目標　】
学んで来た題材の復習を行い、改めて指導のポイントをつかむ。
それらを連続させて作品にする体験をする。
指導法実習に向け、学習指導案の書き方について学ぶ。
【授業時間外学修】
指導法実習で行う課題を教科書により検討する。(1.0hr)

第11回　グループ作品作りに対する指導方法を学ぶ。指導法実習の準備活動
【　到達目標　】
簡単なデッサンからグループ創作をするときの教師の指導法を学ぶ。
自分で選んだ題材の指導について、太鼓のたたき方や声のかけ方を検討する。
指導法実習のシミュレーションを行う。
【授業時間外学修】
指導法実習で行う課題について、自分の指導のシナリオを完成させる。(4.0hr)

第12回　創作ダンスのクラス作品作り・題材⑨「グルニカ」など
【　到達目標　】
絵画のイメージをきっかけとした作品作りを体験する。
グループ創作をクラス作品に構成する方法を学ぶ。
指導法実習で取り組むべき内容について学ぶ。
【授業時間外学修】
指導法実習の指導案を練習し、掲示物を作成する。(1.0hr)

第13回　指導法実習①
【　到達目標　】
教師役は、作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。生徒役は授業を評価する。

【授業時間外学修】
教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr)

第14回　指導法実習②
【　到達目標　】
教師役は、作成した指導案に基づいた指導法の実習を行う。生徒役は授業を評価する。

【授業時間外学修】
教科書を復習し、指導法実習を振り返っておく。(1.0hr)

第15回　指導法実習③、ダンス学習の評価のポイント
【　到達目標　】
指導法の実習のあと、これまでの学習を振り返り、ダンス授業の指導方法と評価のポイントを理解する。

【授業時間外学修】
これまでのノート、資料を整理し、教科書も用いて全体を復習しておく。(1.0hr)

【学修上の留意点】

中学校でのダンス指導法を学びつつ、高等学校や小学校などでの指導や、社会体育、レクリエーションなどさまざまな場面での指導において、応用できるような力をつけてほしい。マイクロティーチング方式によるグループ学習を行い、相互評価によるフィードバックを行いながら、指導法を実践的に身につける。ダンス学科学生として、自分自身の実技力をどのように活かして現場での初心者指導を行うのか、実技、理論共に身につけていくことを望んでいる。授業の際は、各自、Ａ４版の授業ノートを用意すること。服装は指導者としてふさわしい服装で臨むこと。表現運動学において学んだ、「発達段階とダンス」、「ダンスの創作過程」を復習しておくと良い。

【実務経験のある教員による授業科目】

中学校教諭（保健体育）としての実務経験を活かし、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導法、評価方法等について、実技を中心に指導を行う。

【教科書・参考書など】

教科書として「改訂版　明日からトライ！ダンスの授業」全国ダンス・表現運動授業研究会編（大修館書店）を使う。毎時間、授業内で使用する。

【成績評価方法】

授業中の発言内容・活動内容10% 、課題達成度(指導法実習)70%、知識理解(学習ｶｰﾄﾞ・授業ﾉｰﾄ・指導法実習指導案)20%の割合で評価する。

科 目 名	舞台制作Ⅱ			担当者		
英 文 名	Dance Production Ⅱ Choreography and Management for Dance					
単 位 数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3			専門・選択		
授業形態	実技	科目ナンバー	DME308		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

この授業では、舞台上演を念頭に置いた舞踊作品の振付指導方法および創作から上演までのプロセスを振付者の立場から習得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊作品の創作	作品のテーマに沿って創作活動を積極的に行うことができる。	作品のテーマに沿って創作活動を行うことができる。	作品のテーマに沿って創作活動を行うことができない。
舞踊作品の振付技術	振付者として舞踊作品をダンサーに十分に振付指導できる。	振付者として舞踊作品をダンサーに振付指導できる。	振付者として舞踊作品をダンサーに振付指導できない。
舞踊作品の上演の仕組み	舞踊作品の上演の仕組みを十分に理解できる。	舞踊作品の上演の仕組みを理解できる。	舞踊作品の上演の仕組みを理解できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回
【　到達目標　】
舞台制作Ⅱの授業の目標と進め方について理解する。

【授業時間外学習】
授業の進め方について確認し、自身のスケジュールを立て、舞台制作関連の文献・資料等から情報を収集する。(1.0hr)

第２回
【　到達目標　】
作品意図・テーマをダンサーに説明できる。

【授業時間外学習】
作品意図・テーマ説明の資料準備をする。(1.0hr)

第３回
【　到達目標　】
作品意図・方向性についてダンサーに説明し、理解を促すことができる。

【授業時間外学習】
作品のテーマに関連する資料の収集とテーマに沿った動きの創作を行う。(1.0hr)

第４回
【　到達目標　】
テーマに沿ったダンス表現、動きを生みだし、ダンサーに振り付けることができる。

【授業時間外学習】
授業時間に撮影したダンス動画を確認し、動きの修正、新たな動きの創作を進める。(1.0hr)

第５回
【　到達目標　】
テーマに沿ったダンス表現、動きを生みだし、ダンサーに振り付けることができる。

【授業時間外学習】
授業時間に撮影したダンス動画を確認し、動きの修正、新たな動きの創作を進める。(1.0hr)

第６回
【　到達目標　】
テーマに沿ったダンス表現、動きを生みだし、ダンサーに振り付けることができる。

【授業時間外学習】
授業時間に撮影したダンス動画を確認し、動きの修正、新たな動きの創作を進める。(1.0hr)

第７回
【　到達目標　】
作品全体の流れを創り、ダンサーに照明・衣装・舞台装置を含めた全体像を掴ませることができる。

【授業時間外学習】
動き・表現の確認、照明案・衣装・小道具等の準備を始める。(1.0hr)

第８回
【　到達目標　】
ダンサーが作品全体を通しで踊ることができるように指導することができる。

【授業時間外学習】
振付、衣装、照明、音響、小道具のバランスを調整する。(1.0hr)

第９回
【　到達目標　】
作品全体がテーマに沿った表現、踊りになるようにダンサーへ指導することができる。

【授業時間外学習】
授業時間に撮影した動画を通じて修正点や改善点を確認する。(1.0hr)

第10回
【　到達目標　】
ダンサーが表現方法に注意を払いながら、作品全体を通しで踊りきることができるように指導することができる。

【授業時間外学習】
授業時間に撮影した動画を通じて修正点や改善点を確認する。(1.0hr)

第11回
【　到達目標　】
作品全体の踊り込みを進め、発表までのダンサーの課題を提示できる。

【授業時間外学習】
発表までの練習計画を立てる。(1.0hr)

第12回
【　到達目標　】
作品全体の踊り込みを進め、発表前日・当日のスケジュールを把握する。

【授業時間外学習】
発表本番までの準備（照明・衣装・小道具等）の確認を行う。(1.0hr)

第13回
【　到達目標　】
作品全体の踊り込みを進め、発表前日・当日のスケジュールを確認する。

【授業時間外学習】
発表前日・当日の段取り等、最終確認を行う。(1.0hr)

第14回
【　到達目標　】
実際の舞台上演の成果を振付者、ダンサー同士で共有し、振り返ることができる。

【授業時間外学習】
舞台上演で得られた成果（上演映像、感想アンケート等）を共有、確認する。(1.0hr)

第15回
【　到達目標　】
授業を通じて得られた課題をまとめ、次の実践へ活かす計画を立てることができる。

【授業時間外学習】
授業を通じて得られた課題に関連する資料を収集する。(1.0hr)

【学修上の留意点】

この授業では、舞台上演を念頭に置いた群舞の舞踊作品における振付者としての働きを学んでいきます。そのため、振付者同士やダンサーとのコミュニケーションを十分に取りながら作品を仕上げていく姿勢が求められます。また、この授業は、1年生の「舞台制作基礎」（作品を踊る基礎技術を学ぶ授業）、2年生の「舞台制作Ⅰ」（舞台上演運営技術を学ぶ授業）と連動して展開されます。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題（個人カード含む）30%とし、総合的に評価する。

科目名	舞踊史学			担当者	森　立子	
英文名	Dance History					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DME309		卒業認定方針との関連	⑥⑦

【到達目標】

舞踊史研究の様々な方法論と資料の扱い方について、基本的な事項を理解する。その上で、16世紀末から20世紀初頭にかけての西洋舞踊史の展開について学ぶ。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞踊史研究の方法論について	研究対象と研究の方法論との関係について、自分の言葉で説明できる	授業で説明された方法論の概要が理解できる	授業で説明された方法論の概要が理解できない
16世紀末～20世紀初頭の西洋舞踊史について	西洋舞踊史の展開を把握し、自分なりの歴史観を表現することができる	西洋舞踊史の概要が理解できる	西洋舞踊史の概要が理解できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　舞踊史学の方法論（１）
【　到達目標　】
舞踊史を論じる際に、私たちはどのような視点を採りうるか。具体例をもとに、舞踊史学の様々な方法論について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。(4.0hr)

第２回　舞踊史学の方法論（２）
【　到達目標　】
舞踊史の研究において使用しうる史料・資料にはどのようなものがあるのか。具体例をもとに検討する。

【授業時間外学修】
授業の復習、および次回の授業のテキストの予習をする。(4.0hr)

第３回　舞踊史学の方法論（３）
【　到達目標　】
過去の舞踊書・舞踊教則本の中には、踊り方をテキストのみで記したものも存在する。こういったテキストを読む際の注意点を、実際の読解を通じて理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。(4.0hr)

第４回　宮廷バレエ
【　到達目標　】
宮廷バレエというジャンルの特徴と、その歴史的展開について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。(4.0hr)

第５回　バロック・ダンス
【　到達目標　】
今日「バロック・ダンス」と呼ばれている舞踊の様式について、また、ボーシャン＝フイエ・ノーテーションとはどのような記譜法なのかについて理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。(4.0hr)

第６回 コメディ＝バレエ、トラジェディ・リリーク、オペラ＝バレエ
【　到達目標　】
17世紀から18世紀にかけてフランスで誕生した「コメディ＝バレエ」、「トラジェディ・リリーク」、「オペラ＝バレエ」各ジャンルの成立経緯と特徴について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。(4.0hr)

第７回　18世紀のバレエ改革とノヴェール
【　到達目標　】
18世紀中葉のバレエ改革理論について、ノヴェールの舞踊論を中心に検討し理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。次回のグループ発表担当者は、プレゼンテーションの用意をする。(4.0hr)

第８回　ロマンティック・バレエ（１）
【　到達目標　】
ロマンティック・バレエの美学と、代表的な作品について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。次回のグループ発表担当者は、プレゼンテーションの用意をする。(4.0hr)

第９回　ロマンティック・バレエ（２）
【　到達目標　】
ロマンティック・バレエにおける「物語」の重要性について、作品分析を通じて理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。次回のグループ発表担当者は、プレゼンテーションの用意をする。(4.0hr)

第10回　プルノンヴィル
【　到達目標　】
オーギュスト・プルノンヴィルの諸作品について、また彼の舞踊史上の功績について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。次回のグループ発表担当者は、プレゼンテーションの用意をする。(4.0hr)

第11回　プティパとロシア・バレエ
【　到達目標　】
マリウス・プティパの諸作品について、また彼の舞踊史上の功績について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。次回のグループ発表担当者は、プレゼンテーションの用意をする。(4.0hr)

第12回　モダン・ダンス（１）
【　到達目標　】
アメリカにおけるモダン・ダンスの展開について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。次回のグループ発表担当者は、プレゼンテーションの用意をする。(4.0hr)

第13回　モダン・ダンス（２）
【　到達目標　】
ドイツ表現主義舞踊の展開について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。次回のグループ発表担当者は、プレゼンテーションの用意をする。(4.0hr)

第14回　バレエ・リュス（１）
【　到達目標　】
バレエ・リュス成立の経緯と、20年間の活動の概要について理解する。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。次回のグループ発表担当者は、プレゼンテーションの用意をする。(4.0hr)

第15回　バレエ・リュス（２）
【　到達目標　】
バレエ・リュスの代表的作品について、グループ・プレゼンテーションを行う。

【授業時間外学修】
授業の復習をする。学期末レポートの執筆。(4.0hr)

【学修上の留意点】
英語の論文・文献を読むことを前提としたプレゼンテーション（グループ発表）の課題を課す予定。したがって、英語の基本的な読解能力が求められる。

【教科書・参考書など】
授業の際に随時紹介する。グループ・プレゼンテーションの資料もその都度配布する。

【成績評価方法】
各授業回で課すコメントの内容40%、グループ・プレゼンテーションの内容20%、学期末レポート40%の割合で評価する。

科 目 名	ダンス制作論			担当者	中村　恩恵	
英 文 名	Theory of Dance Production					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	講義	科目ナンバー	DME310		卒業認定方針との関連	⑧

【到達目標】

ダンス制作は、踊ったり振付をしたりする作業とは違うが、実はcreativeな仕事である。演目、振付家の選定、スタッフの確定などproduceをすることや、助成金の申請、劇場予約、出演交渉、宣伝・切符の配布から当日パンフレットの作成まで、作品上演に関わる広範囲な業務を含む。この授業では、自分たちで実際に公演を打つことをシミュレートして実体験できるようにもする。しかし今のダンスに問題意識を持つこと。これが最も重要である。制作を学ぶことによって、実際に舞台に立つにあたって、実は大勢のスタッフに支えられている公演であることを自覚できれば、それだけでも充分に意味があると言えるだろうが、受講者の中から実際に制作の道に出てくる者がいれば、それこそは望外の幸せである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンス制作の基礎的事項・理論について	理論を理解し自らまとめて説明できる。	理論を資料等を参照しながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
ダンス制作の研究知見に関する事項	研究知見を資料等を参照しながら説明できる。	研究知見を資料等を左暗誦しながら説明できる。	知見の理解が不十分で説明ができない。
ダンス制作の研究知見の活用に関する事項	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解はできており、資料等を参考にしながら説明できる。	知見の活用に関する理解が不十分で意見が述べられない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　プロデュースとは何か
【　到達目標　】
制作と記すプロデュースとは何か。制作は作家、演者、そして観客という黄金の三角形を内から支える重要な役割を担っていると理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第２回　現代のダンス状況の調査と展望を踏まえた制作
【　到達目標　】
プロデュースとはどのような公演を打ち、それがダンス界、そして社会においてどのような意味と影響を持つか、その方向性を見定めるcreativeな営為であるという事を理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第３回　振付家、ダンサーの選出・交渉　作品の方向性の確認
【　到達目標　】
誰にどのようにどこでどうやって、などの具体的な戦略をたてなければならない。これが制作の一番重要な問題である。制作とは事務レベルの仕事だけではないという事を理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第４回　会場の選定
【　到達目標　】
会場設定が重要なことは、その公演のイメージや売りという意味だけでなく、切実に会計に響いてくる問題だからである。客入りを見越してプランをたてなければならないという事を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第５回　スタッフの確定
【　到達目標　】
スタッフとは舞台の進行を全体的にチェックする舞台監督、照明を担当する照明係、音を担当する音響係、という舞台を運営して行く者たちを言う。したがってこのスタッフ選びが作品に影響を及ぼすという事を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第６回　契約を締結する
【　到達目標　】
契約の基本的な内容を理解し、契約の重要性を理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第７回　予算の設定
【　到達目標　】
すべての根幹はやはり予算にある。チケット収入だけで公演が成立しないなら、どこから助成金を引き出すのか、ノルマ制にするのか。支出は何か。具体的な内容について理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第８回　メセナと助成団体
【　到達目標　】
助成とは何か。そういう助成をするメセナはどういう仕事であり、そのためにはどういう倫理や規範を持ってのぞむのか。助成基金を出す団体組織について理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第９回　助成金の申請方法
【　到達目標　】
具体的に助成金の申請をシミュレートしてみる。申請書に書かれている項目はかえって自分たちの公演の意味や位置づけを反省させてくれる。今後の実践にも役立てる。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第10回　宣伝戦略
【　到達目標　】
結局、観客動員が予算においても、評価においても、公演を決定づける要因である。それはパフォーマーの志気にも影響する。そのためにはどうやって観客を動員するのかの宣伝方法を確認する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第11回　当日パンフレットの作成
【　到達目標　】
公演の顔に当たるものがチラシであり当日パンフレットである。しかもこれら紙媒体は記録としても残るので、その意味は思いの外に大きい。当日パンフレットの作成には細心の注意が必要であるという事を理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第12回　切符の管理と販売、当日業務の確認
【　到達目標　】
当日業務の中心はやはりチケットの処理にある。狭いロビーだとその混み具合によって開演時間にも影響する。しかし他にもスタッフへのケイタリング、会場との連絡など、やることは一杯ある。このことについて理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第13回　舞踊批評の批評
【　到達目標　】
批評とは何か。そして舞踊の批評とは何か。作家やパフォーマーは作品を正しくわかっているのだろうか。そもそも正しい理解や解釈とは何か。観る側の論理があっていい。それを確認する。実際に批評を書いてみる。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第14回　上演後の事後処理
【　到達目標　】
各所への支払い、挨拶、報告などを確実に行うことの重要性を理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第15回　卒業公演について
【　到達目標　】
実際に創作し鑑賞したわれわれの卒業公演を、創作に対する批評だけでなく、制作の視点からも反省してみたい。観客の立場から見てみることも、制作にとっては必要な視点だということを理解する。
【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】
毎時間ごとに、架空の公演を想定したレポートを作成してもらいます。そのレポートを通じて制作についてさらに理解を深めて下さい。

【教科書・参考書など】
授業中に指示する。

【成績評価方法】
授業ごとのレポート４０％、ダンス制作に関する総合的なレポート６０％の割合で総合的に評価する。

科目名	舞台上演法			担当者	石川　浩子	
英文名	Performance and Theater Workshop					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。
この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞台制作	舞台を制作する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる	舞台を制作する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる	理解が不十分で説明できない
作品創作	作品を創作する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる	作品を創作する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる	理解が不十分で説明できない
舞台上演	舞台を上演する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる	舞台を上演する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
制作の仕事について理解する。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第３回　照明シートの書き方
【　到達目標　】
照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第４回　作品づくり１
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第５回　作品づくり２
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第６回　作品づくり３
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第７回　作品づくり４
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第９回　作品づくり５
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第10回　作品づくり６
【　到達目標　】
実際に作品を作ることによって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫することをマスターする。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を発表しあうことによって、舞台で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるということを理解する。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第12回　作品づくり７
【　到達目標　】
実際の舞台で上演する作品として仕上げていく方法を、作品づくりを通してマスターする。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第13回　公演準備１
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第14回　公演準備２
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習し、次の授業に臨む。(4.0hr)

第15回　公演準備３
【　到達目標　】
舞台上演上必要なことを、あらゆる方向から理解する。

【授業時間外学修】
舞台をつくる上で必要なことを復習する。(4.0hr)

【学修上の留意点】

【対面授業】
時間割通りの曜日・時刻に実施、出席の確認は各授業の冒頭に行う。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

レポート20%、授業への取り組み方50%、発表作品30%の割合で総合的に評価する。

科 目 名	舞台上演法			担当者	岩淵　多喜子	
英 文 名	Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

この授業では作品創作の実践を通して、テクニカル的な要素（照明、音響、舞台美術等）、制作的な作業を含めた総合芸術としての舞踊作品を成立させるために必要なプロセス、要素を検証し、作品上演に必要な職業的知見を獲得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
作品創作	テーマ、ジャンルの特性を生かした独創性、また完成度の高い作品を創作することができる	テーマ、ジャンルの特性を生かした作品創作ができる	テーマ、ジャンルの特性の理解が不足し、作品創作が困難
上演にまつわる技術的なことに対する理解	舞踊作品の上演について必要な要素について理解し、総合的かつ独自性を生かした創作ができる。	舞踊作品の上演について必要な要素について理解し、総合的な視点から組み立てられる	舞踊作品の上演について必要な要素についての理解が不足し、総合的な視点からの創作が困難
ダンサーとしての上演技術	作品を理解し、身体を通して完成度高いプレゼンテーションができる	作品を理解し、身体を通してプレゼンテーションできる	作品を理解し、身体を通してプレゼンテーションすることが困難

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
授業の目的について理解する。
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学修】
通して理解を深める。(4.0hr)

第２回　テクニカルシートの書き方(照明、音響プラン)
【　到達目標　】
テクニカルシートの書き方を理解する。
テクニカルシートの書き方（照明、音響プラン）について理解、習得する。

【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第３回　制作について
【　到達目標　】
制作の役割について理解する。
舞台を上演するための制作的な仕事、マネージメント、プロデュース、広報、現場での役割等について理解、習得する。
【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第４回　作品づくり１
【　到達目標　】
作品の核となるテーマや手法について定める。
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。
【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第５回　作品づくり２
【　到達目標　】
作品の核となるテーマや手法について定める。
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。
【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第６回　作品づくり３
【　到達目標　】
作品の核となるテーマや手法について定める。
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。
【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第７回　中間発表１
【　到達目標　】
作品の創作過程を人に見せることにより客観的に把握する。
途中経過を実演し、作品の核となるアイデア、モチーフ、構成の基礎が成りたっているかどうか検証する。
【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
様々な作品を見ることで、作品を鑑賞し、評価する力を養う。
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。

【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第９回　作品づくり４
【　到達目標　】
作品をよりよく推敲するための今後の課題とアプローチについて検証する。
前回の検証をもとに、作品を修正、推敲し、舞台での上演に必要な要素を適宜取り込みながら、仕上げていく方法をマスターする。
【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第10回　作品づくり５
【　到達目標　】
作品を推敲し、完成度を高める。
作品を修正、推敲し、舞台での上演に必要な要素を適宜取り込みながら、仕上げていく方法をマスターする。
【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第11回　中間発表２
【　到達目標　】
作品を推敲し、完成度を高める。
作品の途中経過を発表し、より完成度を高めるための修正点を明らかにする。

【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第12回　作品づくり６
【　到達目標　】
作品を推敲し、完成度を高める。
作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。

【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第13回　公演準備１
【　到達目標　】
衣装や美術などを含め、公演に向けて総合的な作品の完成度を高める。
作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。

【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第14回　公演準備２
【　到達目標　】
衣装や美術などを含め、公演に向けて総合的な作品の完成度を高める。
作品を推敲し、完成度を高め、公演に必要な準備を確認し理解する。

【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

第15回　公演準備３
【　到達目標　】
最終的な推敲、踊りこみを行い完成度の高い作品に仕上げる。
舞台上演において必要な事を、あらゆる方向から理解、実践する。

【授業時間外学修】総合芸術としての舞踊作品を成立させる様々な要素について文献､実践を通して理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

４年間の学習の総まとめとしてグループでの作品創作を行い、実際の舞台で上演する事を目的とする。計画的なリハーサルスケジュールの管理、体調管理、また衣装、音楽、舞台装置、照明などを総合的に具現化していくためのコミュニケーションの力、様々な調整力が必要となる。グループ活動を円滑に進めるために、個々の責任ある行動及び活動に自発性を求める。また、毎回の授業の参加が必須である。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

評価基準は、実技課題70%、レポート課題30%とし、総合的に評価する。

科 目 名	舞台上演法			担当者	坂本　秀子	
英 文 名	Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
群舞作品の創作手順の理解度について	手順を理解し合理的に実践に導ける。	およそ手順通りに実践ができる。	作品創作の手順が理解できていない。
仲間とのコミュニケーション能力について	仲間の意見を取り入れながら進行できる。	およそ仲間の意見も聞きながら進行できる。	仲間との意見交換が行われていない。
装置、衣装、照明などの演出について	作品に最も適した演出を考案できる。	作品に適した演出になんとか到達できる。	作品に最も適した演出に到達できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学修】
授業の進め方をイメージし、身体と心の準備をして、自分なりの覚悟を持つ。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
制作の仕事について理解する。

【授業時間外学修】
制作の仕事について、大切な事柄を復習する。(4.0hr)

第３回　照明シートの書き方
【　到達目標　】
照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。

【授業時間外学修】
照明プランの立て方、照明シートの書き方について、大切な事柄を復習する。(4.0hr)

第４回　作品づくり１
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。

【授業時間外学修】
作品創作の復習。(4.0hr)

第５回　作品づくり２
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。

【授業時間外学修】
作品創作の復習。(4.0hr)

第６回　作品づくり３
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。

【授業時間外学修】
作品創作の復習。(4.0hr)

第７回　作品づくり４
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。

【授業時間外学修】
作品創作の復習。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員が参加し、上演作品を客観的に見ることの大切さを会得する。

【授業時間外学修】
作品鑑賞を通して、自己の作品を振り返る。(4.0hr)

第９回　作品づくり５
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。

【授業時間外学修】
作品創作の復習。(4.0hr)

第10回　作品づくり６
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。

【授業時間外学修】
作品創作の復習。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を互いに発表し、それぞれが全公演の中の1作品であるという意識を高め、衣裳や内容に重複や不足がないかをチェックする。

【授業時間外学修】
総合芸術であることの認識を持ち、全体を振り返り課題を見つける。(4.0hr)

第12回　作品づくり７
【　到達目標　】
実際に作品創作しながら、舞台上演に必要な事柄を学ぶ。創作のエッセンスや技法のアレンジのしかたについても学ぶ。

【授業時間外学修】
作品創作の復習。(4.0hr)

第13回　公演準備１
【　到達目標　】
公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。

【授業時間外学修】
制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。(4.0hr)

第14回　公演準備２
【　到達目標　】
公演に必要な事柄を確認し、準備を行う。

【授業時間外学修】
制作面、上演面の両方を振り返り、最終チェックを行う。(4.0hr)

第15回　発表、評価を得る。他のグループ作品の鑑賞
【　到達目標　】
互いに発表し、評価を得る。また、他のグループ作品も鑑賞する。

【授業時間外学修】
総合学習、まとめ。(4.0hr)

【学修上の留意点】

４年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

レポート20%、授業における課題達成度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。

科 目 名	舞台上演法			担当者	髙野 美和子	
英 文 名	Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

この授業では、4年間の総まとめとして、大舞台でのダンス公演を目的とした舞踊作品創作とその練習、舞台制作について学び、舞台上演までの様々な知識について実践的に体得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
主題に沿った構成・動きの探究	積極的に主題に沿った構成・動きの探究ができる	主題に沿った構成・動きの探究ができる	主題に沿った構成・動きの探究が不十分
作品を踊る技術	作品を踊る技術を習得し表現できている	作品を踊る技術を習得できている	作品を踊る技術が習得できていない
メンバーとの共同創作	積極的にメンバーと協力して創作活動ができる	メンバーと協力して創作活動ができる	メンバーと協力して創作活動ができない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学修】
作品発表までの見通しを立て、計画する。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
制作の仕事について理解する。

【授業時間外学修】
公演に必要な制作の仕事を具体的に検討する。(4.0hr)

第３回　照明シートの書き方
【　到達目標　】
照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。

【授業時間外学修】
作品に必要な照明案を具体的に検討する。(4.0hr)

第４回　作品づくり①
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
作品制作を行う。(4.0hr)

第５回　作品づくり②
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
作品制作を行う。(4.0hr)

第６回　作品づくり③
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
作品制作を行う。(4.0hr)

第７回　作品づくり④
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
作品制作を行う。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。

【授業時間外学修】
指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)

第９回　作品づくり⑤
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)

第10回　作品づくり⑥
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を発表しあう事によって、舞台で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。

【授業時間外学修】
指導者からのフィードバックを基に作品を改良する。(4.0hr)

第12回　作品づくり⑦
【　到達目標　】
実際の舞台で上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。

【授業時間外学修】
ランスルーを重ねる。(4.0hr)

第13回　公演準備①
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学修】
ランスルーを重ね、公演当日の場当たりのシミュレーションを行う。(4.0hr)

第14回　公演準備②
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学修】
公演当日のスケジュールを立てる。(4.0hr)

第15回　まとめ
【　到達目標　】
舞台上演上必要な事を、あらゆる方向から理解する。

【授業時間外学修】
公演を振り返り、反省点をまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

全授業を対面で行う。毎時間必ず出席し、公演までのグループ・ワークに積極的に参加することが条件である。毎回、授業最後に個人カード（授業の振り返り）の記入を行い、次回までに教員がチェックを行う。

【教科書・参考書など】

特になし。

【成績評価方法】

レポート20%、授業内容の習得度60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。

科 目 名	舞台上演法			担当者	中村　恩恵	
英 文 名	Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

舞踊公演は長い歴史を持ち、民族・地域により多様性がある。しかしどのような舞踊であろうと観客を得た場合の上演ではそのための準備が必要である。この授業ではダンスの舞台上演までの作業を明らかにし、職業的知見を獲得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
舞台制作	舞台を制作する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる。	舞台を制作する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
作品創作	作品を創作する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる。	作品を創作する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
舞台上演	舞台を上演する上で必要な事を100%マスターし、自ら説明できる。	舞台を上演する上で必要な事を理解し、資料をみながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
制作の仕事について理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第３回　照明シートの書き方
【　到達目標　】
照明プランの立て方、照明シートの書き方を理解し習得する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第４回　作品づくり１
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第５回　作品づくり２
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第６回　作品づくり３
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第７回　作品づくり４
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第９回　作品づくり５
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第10回　作品づくり６
【　到達目標　】
実際に作品を作る事によって、舞台での上演に必要な要素をその都度理解し、工夫する事をマスターする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第11回　中間発表
【　到達目標　】
作品を発表しあう事によって、舞台で上演する作品として足りない所を発見し、更に修正していく必要があるという事を理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第12回　作品づくり７
【　到達目標　】
実際の舞台で上演する作品として、仕上げていく方法を作品づくりを通してマスターする。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第13回　公演準備１
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第14回　公演準備２
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。

【授業時間外学修】
授業中に行った事について復習をし、理解を深める。(4.0hr)

第15回　舞台上演に関する必要事項の確認
【　到達目標　】
舞台上演上必要な事を、あらゆる方向から理解する。

【授業時間外学修】
全体の復習とまとめをし、舞台で作品を上演する方法について理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

４年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的としています。毎時間参加が条件です。

【教科書・参考書など】

特にありません。

【成績評価方法】

レポート20%、授業内での活動成果60%、発表作品20%の割合で総合的に評価する。

科 目 名	舞台上演法			担当者	渡辺　碧	
英 文 名	Performance and Theater Workshop					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME401		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【到達目標】

この授業では、大学生活の4年間の集大成として、大きな劇場で公演を開催することを念頭に、舞踊作品の振付・創作とそれに伴うリハーサル、そして舞台制作など、舞踊作品上演に関する様々な技術と知識について実践的に学び、これらを体得することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
大劇場で上演する作品の振付・演出	大劇場で上演する作品をトータル・コーディネートして創る、踊る、指導することが出来る。	大劇場で上演する作品に必要な振付・演出について、理解し、指導出来る。	大劇場で上演する作品に必要な振付・演出についての理解が不十分である。
作品づくり	作品を上演するために、共に踊るメンバーと協力し、積極的にグループのために貢献できる。	作品を上演するために、共に踊るメンバーと協力できる。	作品を上演するために、共に踊るメンバーと協力することができない。
作品づくりに伴うマネジメント	舞台上演するために必要な作業（振付・リハーサル、書類作業等）のマネジメント管理が出来る。	舞台で上演するために必要な作業（振付・リハーサル、書類作業等）が出来る。	舞台で上演するために必要な作業（振付・リハーサル、書類作業等）が出来ない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション
【　到達目標　】
舞台上演法の授業の進め方について理解する。

【授業時間外学修】
授業の進め方に基づいて、今後の大まかなスケジュールを立てる。(4.0hr)

第２回　制作について
【　到達目標　】
舞台を上演する上で必要な制作の仕事を理解する。

【授業時間外学修】
舞台制作に関わる文献を参考に、制作に関する情報を集める。(4.0hr)

第３回　ブレインストーミング　（作品づくり１）
【　到達目標　】
自分たちが創りたいと思う作品のテーマなどについて話し合いを行う。

【授業時間外学修】
様々な文献、映像などから情報を収集する。(4.0hr)

第４回　作品づくり２（テーマの検討）
【　到達目標　】
テーマについてさらに検討し、テーマを表現するための手法（全体的なイメージ）について話し合う。

【授業時間外学修】
様々な文献、映像などから情報を収集する。(4.0hr)

第５回　作品づくり３　（グランドデザインの検討）
【　到達目標　】
作品テーマを決定し、衣装、装置、音楽などのグランドデザインを検討する。

【授業時間外学修】
作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。(4.0hr)

第６回　作品づくり４　（音楽の検討）
【　到達目標　】
舞台で上演することを念頭に、表現したいテーマに沿って創作・振付を行う。使用する音楽を決定する。音楽著作権・著作隣接権について理解する。

【授業時間外学修】
作品テーマに関わる情報を、文献や映像などから収集する。(4.0hr)

第７回　作品づくり５　（1次発表）
【　到達目標　】
創作・振付をグループごとに行い、互いにこれを見せ合うことが出来る。実際に創作・振付を複数グループで行うことにより、自分たちが表現したいことが形となっているかを確認する。

【授業時間外学修】
成果発表に対する反省をし、今後の課題を明らかにする。(4.0hr)

第８回　有志作品選考
【　到達目標　】
有志作品の選考に全員で立ち会うことにより舞台上演の際の作品選択の方法を理解する。
作品を鑑賞することにより、作品を評価する力を体得する。

【授業時間外学修】
フィードバックを踏まえて、さらに作品に改良を加える。(4.0hr)

第９回　作品づくり６（衣装の検討）
【　到達目標　】
作品を創り上げ、より良くするための今後の課題を検討する。衣装の製作に取りかかる。
舞台装置および小道具の製作に取り掛かる。

【授業時間外学修】明らかとなった今後の課題の対策を検討し、実践する。衣装や舞台装置などを準備する。(4.0hr)

第10回　作品づくり７（照明プランの検討）
【　到達目標　】
作品の完成度を高める。舞台で上演することを念頭に置きながら、作品を仕上げていく手法を体得する。照明プランを考える。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。

【授業時間外学修】
さらに完成度を高めるための手法について検討する。(4.0hr)

第11回　中間発表　（2次発表）
【　到達目標　】
作品を発表しあう事によって、舞台で上演する作品としての課題を明らかにする。

【授業時間外学修】
フィードバックを踏まえて、さらに作品の質を高めるための工夫を検討する。(4.0hr)

第12回　作品づくり８　（作品総仕上げ）
【　到達目標　】
実際の舞台で上演する作品として、作品を仕上げる。本番の舞台を想定した場取りで、作品練習を行う。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。

【授業時間外学修】
舞台の実寸を調べ、練習においても舞台のサイズで出来るように工夫する。(4.0hr)

第13回　公演準備１（作品構成表の作成、照明プランの作成）
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。
本番当日に行う場当たりのシュミレーションを行い、その練習をする。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。
【授業時間外学修】
互いに作品を見合い、また第三者にも作品を見てもらい、さらに作品の質を高める。(4.0hr)

第14回　公演準備２　（通し稽古、舞台稽古）
【　到達目標　】
公演に必要な準備を確認し、理解する。作品の質をさらに高めるため、踊りこみを行う。
本番当日の流れを確認する。公演全体の通し稽古を行う。舞台上演に関わる作品以外の諸準備を進める。
【授業時間外学修】
不測の事態に備え、不足なものがないか検討する。(4.0hr)

第15回　舞台上演について
【　到達目標　】
実際の舞台上演をふりかえり、反省点・検討事項についてディスカッションを行う。

【授業時間外学修】
反省点・検討事項を次回の公演に活かす。(4.0hr)

【学修上の留意点】

4年間の学習の総まとめとして、実際の舞台で公演する事を目的とするため、毎時間参加を必須条件とする。第8回「有志作品選考」、第11回「中間発表」、第15回「舞台上演について」、その他、作品についてフィードバックが必要な場面では、口頭によるフィードバックを行う。

【教科書・参考書など】

適宜配付します。

【成績評価方法】

授業における課題達成度30%、学習意欲・関心・積極性・作品へ貢献度50%、発表作品の完成度20%の割合で総合的に評価する。

科目名	舞踊指導演習（高齢者・障害者指導法）			担当者	安達 詩穂	
英文名	Seminar in Dance Teaching Method (Teaching Method for the Elderly and People with Disabilities)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME311		卒業認定方針との関連	⑦

【到達目標】

高齢者や障がいのある人にとって、楽しみながら、身体や動きの能力と自己認識を高め、社会性や情緒表現、コミュニケーションを促進することができる機会を提供するためのダンス活動に必要な基礎知識を解説する。また、高齢者や障がい者の特性を理解する手立てや、対象者に応じたダンスプログラムの組み立て方、基礎的な指導やファシリテーション技術を習得する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
高齢者や障がい者の生活について	高齢者や障がい者の生活について理解し、自らまとめて説明できる。	高齢者や障がい者の生活について理解し、授業資料を参照しながら説明できる。	高齢者や障がい者の生活についての理解が不十分で、資料に基づき説明できない。
多様な機会を提供するためのダンス活動の特性と活用方法について	機会を提供するためのダンス活動の特性を理解し、いくつかの主題で仲間と共にファシリテートすることができる。	機会を提供するためのダンス活動の特性を理解し、指定された主題で部分的にファシリテートすることができる。	機会を提供するためのダンス活動についての理解が不十分で、指定された主題でファシリテートすることができない。
当事者の課題に対応したダンス活動活用の実際	当事者のニーズを見つけ、これに対して適切なダンス活動の提案をすることができる。	提示された課題に対して、適切なダンス活動の提案をすることができる。	提示された課題に対して、具体的なダンス活動の例を資料の中に見つけることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　高齢者とダンス
【　到達目標　】
高齢者の状況について知り、これに対してダンス活動が持つ可能性を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
私の町の高齢者への優しさとバリアについて観察し、具体的な特徴を記録する。(4.0hr)

第２回　障がい者とダンス
【　到達目標　】
障害者の状況について知り、これに対してダンス活動が持つ可能性を説明できるようになる。

【授業時間外学修】
私の町の障がい者への優しさとバリアについて観察し、具体的な特徴を記録する。(4.0hr)

第３回　型のあるダンスと型のないダンス
【　到達目標　】
定型的なダンスと非定型的なダンスについて理解し､説明できるようになる。
柔軟な指導の流れづくりについて学び、必要に応じて素材を組み合わせる方法を理解する。
【授業時間外学修】
第１・2回の授業時間外学習を通じて作成した記録をもとに「私の町の優しさとバリア」に関するレポートを作成する。(4.0hr)

第４回　視覚障がいをもつこととダンス①
【　到達目標　】
アイマスクを装着して行う簡単なワークや学内散歩を通して、視覚障がいの特性とニーズを想像し、多様な感覚世界への理解の基礎を築く。

【授業時間外学修】
視覚障がいの原因や種別・区分、独特のレクリエーション活動などについて調べる。(4.0hr)

第５回　視覚障がいをもつこととダンス②
【　到達目標　】
アイマスクを装着して行う型のあるダンスを通して、視覚障がいを持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。

【授業時間外学修】
視覚障がい者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)

第６回　聴覚障がいをもつこととダンス①
【　到達目標　】
模擬体験から聴覚障がいの特性とニーズを理解し、聴覚障がいを持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。

【授業時間外学修】
聴覚障がいの原因や種別・区分、独特のレクリエーション活動などについて調べる。(4.0hr)

第７回　聴覚障がいをもつこととダンス②
【　到達目標　】
模擬体験から聴覚障がいの特性とニーズを理解し、聴覚障がいを持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。

【授業時間外学修】
聴覚障がい者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)

第８回　車椅子使用者とダンス①
【　到達目標　】
車椅子使用者の特性とニーズ、一般的な車椅子の仕組みを理解し、車椅子使用者が楽しむことができる基本的な動きを行うこと、またこうした動きを考案することができる。

【授業時間外学修】
身体障がいの原因や種別・区分を調べる。(4.0hr)

第９回　車椅子使用者とダンス②
【　到達目標　】
車椅子使用者に多いと考えられる肢体に障がいをもつ人を対象として、多様な表現を引き出すための指導方法の基礎を理解する。
【授業時間外学修】
日本では、身体障がい者への支援がどのように整備されるべきと考えられているか調べる。(4.0hr)

第10回　療育としてのダンス
【　到達目標　】
療育としてのダンスプログラムの特徴を理解し、指導の基礎を理解する。

【授業時間外学修】
療育の定義と、療育を提供している団体を調べ、
現状と今後社会に求められる点について考察する。(4.0hr)

第11回　高齢者の健康ダンス
【　到達目標　】
高齢者の特性とニーズを理解し、その特性に応じたダンス活動指導方法の基礎を理解する。

【授業時間外学修】
認知症の特性と支援方法の基礎について調べる。(4.0hr)

第12回　振り返りとテーマ別グループ演習の計画作り
【　到達目標　】
グループごとに選定した対象に応じた適切なプログラムを考案し、実施計画を立てる。

【授業時間外学修】
選定した対象の特徴を調べ、適する身体表現活動の種類について検討したことを記述する。(4.0hr)

第13回　テーマ別グループ演習①
【　到達目標　】
模擬実践案を授業参加者を対象に実施する。実践者としての気づき、参加者としての気づきを言語化して共有し、討論、相互評価を通じて、現場実践への理解を深める。

【授業時間外学修】
プログラム案を事前に試行して、検討点を確認する。(4.0hr)

第14回　テーマ別グループ演習②
【　到達目標　】
模擬実践案を授業参加者を対象に実施する。実践者としての気づき、参加者としての気づきを言語化して共有し、討論、相互評価を通じて、現場実践への理解を深める。

【授業時間外学修】
プログラム案を事前に試行して、検討点を確認する。(4.0hr)

第15回　テーマ別グループ演習③
【　到達目標　】
模擬実践案を授業参加者を対象に実施する。実践者としての気づき、参加者としての気づきを言語化して共有し、討論、相互評価を通じて、現場実践への理解を深める。

【授業時間外学修】
参加者役からのフィードバックも参考に、実施計画と成果を報告書にまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

第１回～第２回では基本的な知識を習得し、第13～15回目で行うグループ演習の進め方についてアナウンスをするため、見通しを持って参加すること。第３回目以降では、学習イメージをより明確にするために、アイマスク・車椅子など障がい疑似体験の用具を使用する回がある。履修者同士の意見交換から課題の理解が深まることが多いので、活動を積極的に創り出してゆく姿勢で臨んでほしい。用具や教場等の都合により、内容が前後することがある。

【教科書・参考書など】

必要に応じて印刷資料を配布する。

【成績評価方法】

授業内容を理解し体験を深めることができたかという活動課題達成度（60%）と、第３回、第15回授業時間外学習レポート課題の達成度（40%）を併せて成績評価する。

科 目 名	スポーツ・舞踊活動特別実習			担当者	髙野美和子	
英 文 名	Specially Sport Methods in Club Activities					
単 位 数	3	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1～3			専門・選択		
授業形態	実習	科目ナンバー	DME312		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

各自のダンス専門キャリア形成を念頭に、授業のみならず、舞踊に関する部活動や自主活動を計画し、これらを通じて各種コンクール、発表会、イベント等に参加して優れた実績を残す。また各自の活動実践を客観的に捉えて評価し、次の期の実践に役立てることができる。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンスキャリアと関わる課外活動並びに自主活動の積極的推進	部活動を積極的に推進し、キャリア形成に役立つそれ以外のトレーニング等も自ら計画して十分に実践することができる。	部活動や自主トレーニング等を継続的に実践することができる。	部活動や自主トレーニング等を継続的に実践することができない。
ダンスキャリアと関わる技能の向上	部活動や自主トレーニングを通じて、各種コンクール、発表会、イベント等で優良な成果を残すことができる。	部活動や自主トレーニングを通じて、各種コンクール、発表会、イベントで成果を残すことができる。	部活動や自主トレーニングを通じて、各種コンクール、発表会、イベントに参加することができない。
ダンスキャリアと関わる部活動の評価と目標設定	自ら部活動並びに自主トレーニングなどの活動状況や成果を整理した上で評価し、次の期の活動計画に反映させることができる。	部活動並びに自主トレーニングなどの活動状況や成果を客観的に整理して報告できる。	部活動並びに自主トレーニングなどの活動状況や成果を整理して報告することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

1）１年次４月にガイダンスを受ける事によってスポーツ・舞踊活動特別実習の内容を理解する。

2）１年次における「部活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。

3）２年次における「部活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。

4）３年次における「部活動実績」としてコンクールや発表会などの結果を整理し、それに対する感想、反省、自己評価などをまとめる。「活動内容」として、該当年次における普段からの部活動としての練習状況をまとめる。また、それ以外の自主的な練習ならびにトレーニングなどについて、実際に行った内容を中心にまとめる。「４年次に向けての目標および計画」として、これまで３年間の舞踊部活動を踏まえて、またその目標を達成するための計画についてまとめる。

【到達目標】

〈１年次〉１年次における「部活動内容（部活動等における練習状況）」並びに「活動実績（コンクールや発表会などの客観的な成果）」を整理して報告し、これらに基づいた自己評価、今後の課題と次年度の目標などを順序だてて記述できる。

〈２年次〉２年次における「部活動内容（部活動等における練習状況）」並びに「活動実績（コンクールや発表会などの客観的な成果）」を整理して報告し、これらに基づいた自己評価、今後の課題と次年度の目標などを順序だてて記述できる。

〈３年次①〉「部活動内容おける練習状況」並びに「活動実績（コンクールや発表会などの客観的な成果）」を整理して報告し、これらに基づいた自己評価、今後の課題などを順序だてて記述できる。

〈３年次②〉これまで３年間の舞踊活動を踏まえて、ダンス学科での4年間の学修目標を再確認した上で、卒業時に達成していたい目標を把握し、これを順序だてて記述する事ができる。

【授業時間外学修】

部活動内容や実績を効果的に記録する方法を工夫し、より明確な活動目標をたてることに役立てる。

【授業時間外学修】

大学で部活動を実施する学生が、さらにその舞踊活動を継続させて実施する場合に受講できる。受講を希望する学生は、舞踊活動に関する書類を事前に提出し、受講可否の審査を受ける。受講学生は実施した舞踊活動の内容について１年ごとに報告書を作成し、提出する。

【教科書・参考書など】

特に使用しない。

【成績評価方法】

３年間を通した実績に関するレポート５０％、活動報告書５０％の割合で総合的に評価を行う。

科目名	卒業研究			担当者		
英文名	Graduation Thesis					
単位数	6	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3～4			専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME402		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧

【目的とねらい】

＜論文作成＞
　ダンス学科で展開されるカリキュラムの中から、舞踊学、体育・スポーツに関わる領域や分野を選び、問題を整理してテーマを設定し、文献からの参照・フィールドワーク・実験研究など具体的な研究手法の実践を通して論理的な物の見方・考え方を身につける。この成果を論文の形式にまとめて提出および発表することを通じて、舞踊学、体育・スポーツについて研究する専門的な能力を高める。
＜作品制作＞
　舞踊作品の創作、演出、上演という一連の「制作」過程の発展的学びを実践し、これらの過程での問題点と成果について、観点を決めて客観的な考察を加えることにより総合芸術としての舞踊について理解を深め、またこれを他者に説明する力を身につける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

＜論文作成＞　学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
ダンス学（舞踊学）の基礎的理論と現在の研究動向に関する事項	先行研究を十分に渉猟し、ダンス学(舞踊学)理論の理解に基づいた研究上の問いについて整理して述べることができる。	資料等を参照しながらダンス学（舞踊学）の理論を説明できる。	ダンス学（舞踊学）の理論について、理解が不十分で説明や実践ができない。
主題の設定や研究方法に関する事項	研究方法論を理解し、主題に適した研究方法を選択して自ら実践できる。	主題と関連して提示された方法を用いて研究を実施し、結果を導き出すことができる。	研究の方法についての理解が不十分で、主題に適した方法を実施することができない。
論文の作成に関する事項	学術論文の形式を理解し、過不足なく作成することができる。	学術論文の形式を理解し、資料を参照しながら作成することができる。	理解が不十分で、論文の体裁を整えることができない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】	**理想的な到達レベル**	**標準的な到達レベル**	**未到達レベル**
舞踊作品制作の土台となる振付、音楽、空間、演出効果等に関する基礎理論	舞踊作品制作の基礎理論を理解し自らまとめて説明や実践ができる。	舞踊作品制作の基礎理論を資料等を参照しながら説明や実践ができる。	舞踊作品制作の基礎理論の理解が不十分で説明や実践ができない。
作品制作と上演に関する事項	大群舞作品、小群舞作品、ソロ作品をそれぞれ制作して、効果的な上演を実施することができる。	大群舞作品、小群舞作品、ソロ作品の中から制作・上演を実施することができる。	舞踊作品の制作・上演ができない。
制作過程での問題点と成果の分析的検討に関する事項	自ら設定した観点によって制作過程を振り返ることができ、成果と課題の客観的分析と考察、これらをまとめた報告書の作成ができる。	決められた観点で制作過程を振り返ることができ、成果と課題の分析とそれらをまとめた報告書の作成ができる。	制作の成果と課題の分析・報告ができない。

【授業内容】

＜論文作成＞Ⅰ-① 舞踊の基礎理論
-② 舞踊の研究・研究方法について
-③ 研究内容・計画の検討
-④ 調査
-⑤ 資料の処理
Ⅱ 論文作成
Ⅲ 論文完成
Ⅳ 論文発表

＜作品制作＞Ⅰ-① 舞踊作品が成立するための基礎理論
-② 作品創作法研究
-③ 主題・構成・展開の検討
-④ 演出の研究
Ⅱ-① ソロ作品創作
-② アンサンブル創作（小群舞）
-③ アンサンブル創作（大群舞）
Ⅲ 制作発表と制作レポート提出

【授業時間外学修】

＜論文作成＞
Ⅰ-① 論文の土台となる基礎理論について学び、正しく理解し、大まかな方向性をたてることができる。
-② ①の方向性に基づき、舞踊に関する文献をリサーチし、テーマを絞る。
-③ テーマに基づき、今後の大まかな計画を作成する。
-④ 文献、フィールドワーク、アンケート調査などの調査方法を正しく理解し、実践することができる。
-⑤ それまでに収集した数々のデータを分析し、執筆のための準備をする。
Ⅱ データに基づき、概念化したものを考察し、論理的な整理をしたうえで執筆をする。
Ⅲ 執筆したものを再検討し、内容的・文章的に論文としてふさわしいものへと推敲する。
Ⅳ 抄録原稿を作成し、口頭発表をする。
＜作品制作＞
Ⅰ-① 舞踊作品制作の土台となる基礎理論を正しく理解することができる。
-② 過去の作品の振付・様式・演出を研究し、そこから制作テーマを決定する。また、それに基づき文献、映像、ムーブメントなどの調査を行う。
-③ 作品構築のために、主題・構成・展開といったことから全体像を定め、それに基づき方向性を明確にすることができる。
-④ 形式にとらわれずにさまざまな演出方法の可能性をリサーチし、分析、考察する。
Ⅱ-① これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、ソロの作品を制作する。
② これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、小群舞作品を制作する。
③ これまでの結果を踏まえ、振付、音楽、空間、演出効果等を総合的に分析、考察し、大群舞作品を制作する。
Ⅲ Ⅱの①②③で制作をした作品を発表、それに基づくレポートを提出する。

【授業時間外学修】

自身の卒業研究のテーマに沿ってたてられる工程を理解し、工程毎に指定される資料の収集や実験（的思考）・調査の計画と実施などを積み重ね、研究を続けていく。

【学修上の留意点】

＜論文作成＞
　論文を書くことは学問的手続きをきちんと踏めるかにかかっている。したがって、①問いのたて方とその追求方法に破綻はないか、②参考文献表は正確に書かれているか、③提出資料は適切に作成されているか、④ひとりよがりの自由作文ではないか、といったことに留意し、取り組む。

＜作品制作＞
　制作にあたり積極的に、日々の生活の中においても感受性を高めて題材を見極め、その題材を芸術作品に昇華していくために創造力を豊かにすることが必要である。また感覚的な思考だけに頼らず、舞踊作品を構成する要素についての多角的な視点を持って、一貫した作品を完成させることが求められる。

【教科書・参考書など】

適宜配付。

【成績評価方法】

2年間にわたる、論文作成・作品制作の成果および過程全体を総合的に評価する。学習過程の総合評価を60%、成果物ならびに成果発表の評価を40%とし、あわせて100%として評価する。合格基準は60%である。

科目名	教職論			担当者	前島　光	
英文名	Study of Teaching Profession					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE101・DTE101・HTE101		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

教職論は、教職課程履修者がその仕事・職業の特質について理解し、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容について理解を深める。その上で、履修学生一人ひとりが、教職への意欲を高め、適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。また、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性の意義と養成および採用制度について理解を深める。教職に関わる近年の改革動向と課題を理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
学校教育や教職の社会的意義や教員に求められている役割や資質能力を理解する。	教職の存在意義や役割を理解し自らまとめて説明できる。	教職の存在意義や役割を理解し教科書等を参照しながら説明できる。	教職の存在意義や役割の理解が不十分で説明できない。
教員の職務内容や教員に課せられる服務上の・身分上の義務を理解する。	教員の職務内容や教員に課せられる服務上の・身分上の義務を自らまとめて説明できる。	教員の職務内容や教員に課せられる服務上の・身分上の義務をを資料等を参照しながら説明できる。	教員の職務内容や教員に課せられる服務上の・身分上の義務の理解が不十分で説明できない。
学校の役割の多様化と学校が内外の専門家と連携・分担して対応する必要性について理解する。	学校の役割と対応の必要性について自らまとめて説明できる。	学校の役割と対応の必要性について、資料などを参考にしながら説明できる。	学校の役割と対応の必要性についての理解が不十分で、説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　教師を目指す
【　到達目標　】
(1)「教員」「教師」「教諭」という語句の意味の違いを理解する。
(2)正規雇用と非正規雇用について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第２回　教職の役割と仕事
【　到達目標　】
(1)教職の仕事の特徴を理解する。
(2)仕事内容の重要性と職務の意義について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第３回　日本の教職の特徴
【　到達目標　】
(1)他の職業との違いを通して日本の教職員の特徴を理解する。
(2)国際比較を通して日本の教職の特徴を理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第４回　教職像の史的展開
【　到達目標　】
(1)求められている教職観が時代によって変化してきたことを理解する。
(2)これからの教職に求められている役割を理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第５回　教員採用選考試験
【　到達目標　】
(1)教員採用選考試験の実態について理解する。
(2)教員採用において求められる力について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第６回　学び続ける教員
【　到達目標　】
(1)「学び続ける教員」が求められている社会背景について理解する。
(2)教員の養成・採用・研修の意義について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第７回　校務分掌と校内組織
【　到達目標　】
(1)学校経営の組織について理解する。
(2)学校に求められている組織的対応について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第８回　学校を組織する様々な専門職
【　到達目標　】
(1)「チームとしての学校」のねらいと参画する専門スタッフについて理解する。
(2)「チームとしての学校」を効果的に実施するために高めたい力について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第９回　教員の職場環境
【　到達目標　】
(1)教員の勤務実態について理解する。
(2)教員のメンタルヘルスについて理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第10回　教員の任用と服務
【　到達目標　】
(1)教員の身分と任用について理解する。
(2)教員に求められる服務規定について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第11回　学級経営
【　到達目標　】
(1)学級経営の意義について理解する。
(2)学級経営の果たす役割について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第12回　児童生徒への対応(1)
【　到達目標　】
(1)教科指導を介した関わりについて理解する。
(2)授業づくりの方法について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第13回　児童生徒への対応(1)
【　到達目標　】
(1)生徒指導について理解する。
(2)特別支援教育について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第14回　保護者への対応
【　到達目標　】
(1)保護者とのかかわり方と信頼関係の構築について理解する。
(2)「児童虐待」「子どもの貧困」について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第15回　現代の教職をめぐる課題
【　到達目標　】
(1)いじめと不登校についての現状と課題について理解する。
(2)現代における学校・教師の課題について理解する。

【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

本科目を履修することは、学生諸君が「教わる側」から「教える側」へと、立場を移す作業を始めることを意味する。その意味の重さを自覚し、単に出席するにとどまらず、積極的な授業参加を心がけること。また、この授業をきっかけにして、新聞やテレビなどから、教育に関する情報を手に入れる習慣を身につけてほしい。

【実務経験のある教員による授業科目】

中学校教員および校長職の実務経験を活かし、学校の仕組みや運営体制、教職の専門性等について講義を行う。

【教科書・参考書など】

教科書：資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。
参考書：「学習指導要領解説　総則編（小学校・中学校・高等学校）」（文部科学省　最新版）
「生徒指導提要」（文部科学省）　「教職論」（ミネルヴァ書房）

【成績評価方法】

授業時のレポート、授業出席２／３を満たした学生に対し試験を実施し、レポート(40%)と試験(60%)で評価する。

科 目 名	教育原論(教育課程を含む)			担当者	瀬川　大	
英 文 名	Theory of Education (Theory of Curriculum)					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE201・DTE201・HTE201		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

教育の基本的概念や理念、教育に関する歴史や思想、教育課程の意義や編成原理、カリキュラムマネジメント等を学ぶ科目である。教育の歴史や思想の中で、教育の概念や理念がどのように変化、発展してきたのかを考察し、現代の教育課題を理解する。また、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に即してカリキュラム・マネジメントを行うことの意義も理解できるようにする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
教育の基本的概念や教育の歴史・思想について	教育の基本概念や教育の歴史・思想について十分に理解し、その内容や現代的意義を説明することができる。	教育の基本概念や教育の歴史・思想について理解し、その内容を説明することができる。	教育の基本概念や教育の歴史・思想について理解し、その内容を説明することができない。
現代社会における教育の課題について	社会の変化に伴う教育のあり方の歴史的変遷について、学習指導要領の変遷を押さえながら理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉えることができる。	社会の変化に伴う教育のあり方の歴史的変遷について理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉えることができる。	社会の変化に伴う教育のあり方の歴史的変遷について理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉えることができない。
教科横断的なカリキュラム編成について	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示し、その意義を説明することができる。	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　教育の基本的概念
【　到達目標　】
教育の基本的概念や理念、教育の目的などについて理解する。
【授業時間外学修】
教育の基本的概念に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回　教育と子育ての歴史
【　到達目標　】
教育と子育ての歴史について、古代から現代までの構造的な理解を進める。
【授業時間外学修】
教育と子育ての歴史に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第３回　教育の思想―ヨーロッパ
【　到達目標　】
ヨーロッパの代表的な教育思想を学び、教育の思想と実際の教育や学校とのかかわりについて理解する。
【授業時間外学修】
ヨーロッパの代表的な教育思想家の著作を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第４回　教育の思想―日本古代から近世
【　到達目標　】
日本の古代から近世までの教育思想について学ぶ。日本の教育の独自の歴史、思想文化的な背景を理解する。
【授業時間外学修】
近世までの日本の教育思想に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第５回　近代学校の成立
【　到達目標　】
近代学校および教育制度について、日本と諸外国の違いに留意して理解する。
【授業時間外学修】
近代学校および教育制度に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第６回　近代教育制度の展開
【　到達目標　】
現代にいたる教育と学校の変遷について、日本の学校を中心に理解する。
【授業時間外学修】
現代にいたる教育と学校の変遷に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第７回　地域社会と学校
【　到達目標　】
地域社会と学校、家族と学校とのかかわりについて、歴史的経緯を踏まえて理解する。
【授業時間外学修】
地域社会や家族と学校とのかかわりに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第８回　現代社会における教育の課題
【　到達目標　】
社会の変化に伴う教育のあり方の歴史的変遷について理解するとともに、現代社会における教育の新たな課題を捉える。
【授業時間外学修】
現代社会における教育の課題について、新聞等を読み多角的に理解する。(4.0hr)

第９回　教育課程の編成原理
【　到達目標　】
教育課程の編成原理にはいくつかある。ここでは、それらのうち代表的なものとして、「経験中心主義」と「学問中心主義」について理解する。
【授業時間外学修】
「経験中心主義」と「学問中心主義」についての文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第10回　教育課程編成と学習指導要領
【　到達目標　】
学校教育の教育課程における学習指導要領の役割を理解し、その構造を説明できる。
【授業時間外学修】学校教育の教育課程における学習指導要領の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第11回　学習指導要領の変遷
【　到達目標　】
学習指導要領の改訂の変遷および改訂内容並びにその社会的背景を理解する。
【授業時間外学修】
学習指導要領の改訂の変遷に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第12回　学力問題
【　到達目標　】
近年の教育課程改革をもたらした「学力問題」について、その概要と本質を理解し、説明できる。
【授業時間外学修】
「学力問題」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第13回　教科横断的なカリキュラム編成
【　到達目標　】
教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
【授業時間外学修】
教科横断的なカリキュラム編成に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第14回　新学習指導要領と「主体的・対話的で深い学び」
【　到達目標　】
今回行われた学習指導要領の改訂の中で、とりわけ重要視されている「主体的・対話的で深い学び」について、その内容と長期的な指導計画に組み入れる必要性について、理解する。
【授業時間外学修】
アクティブ・ラーニングに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第15回　カリキュラムをどう評価するか
【　到達目標　】
教育課程を実践するに際しては評価が伴うこと、およびそのレベルや方法に様々な種類があることを理解し、説明できる。カリキュラム・マネジメントについても理解する。
【授業時間外学修】
教育評価、カリキュラム・マネジメントに関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

本科目によって、教育に関する基本原理や学校教育における教育課程の全体像を把握することが、教員として教育実践に携わるためには不可欠である。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。授業内容は講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。レポート等の提出物については、後の授業回でフィードバックを行う。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。

【教科書・参考書など】

・教科書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説　総則編』
・参考書：田嶋一他『やさしい教育原理　第3版』有斐閣

【成績評価方法】

グループ討論、発表、小レポートなど（30%）、試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科 目 名	教育心理学			担当者	三好　昭子	
英 文 名	Educational Psychology					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE202・DTE202・HTE202		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

本講義は、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）に関する心理学を学習することを目的とする。教育の現場では、授業を行うだけでなく、子どもたちが示す様々な問題に対処していくことが求められる。しっかりとした体系をもつ理論を学ぶことで、それらの問題の背景を正しく理解し、心理学に基づいた適切な対処法を考え実践することができるようになる。そのための基盤作りが本講義のねらいである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する心理学について	自分の言葉で説明できる。	ノートや参考書を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
学習の際に児童・生徒が示す問題への対処法について	自ら考え対処法を提案できる。	ノートや参考書を参考にすれば自分で対処法を考え提案できる。	問題に対する理解が不十分で対処法を検討・提案できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　教育とは何か
【　到達目標　】
(1)教育心理学の考え方を理解し説明することができる。
(2)発達段階，発達課題について説明することができる。

【授業時間外学修】
教育心理学や発達という概念に関する課題を行う。(4.0hr)

第２回　認知発達
【　到達目標　】
(1)認知発達について理解し説明することができる。
(2)ピアジェの発達理論を理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
認知発達に関する課題を行う。(4.0hr)

第３回　対人関係の発達
【　到達目標　】
(1)対人関係の基礎・愛着形成について理解し説明することができる。
(2)友人関係の特徴や変化について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
対人関係・友人関係に関する課題を行う。(4.0hr)

第４回　青年期におけるアイデンティティ発達
【　到達目標　】
(1)エリクソンの発達理論について理解し説明することができる。
(2)青年期におけるアイデンティティ発達について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
青年期におけるアイデンティティ発達に関する課題を行う。(4.0hr)

第５回　学習のメカニズム
【　到達目標　】
(1)古典的条件づけについて理解し説明することができる。
(2)オペラント条件づけ・観察学習について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
学習理論に関する課題を行う。(4.0hr)

第６回　内発的動機・外発的動機
【　到達目標　】
(1)基本的な動機について理解し説明することができる。
(2)内発的動機・外発的動機について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
動機に関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　動機づけの理論
【　到達目標　】
(1)内発的動機づけを活用した学習法について具体的に提案することができる。
(2)動機づけの理論について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
動機づけの理論に関する課題を行う。(4.0hr)

第８回　学習動機
【　到達目標　】
(1)学習動機について理解し説明することができる。
(2)意欲を高める方法について具体的に提案することができる。

【授業時間外学修】
学習動機に関する課題を行う。(4.0hr)

第９回　記憶の仕組み
【　到達目標　】
(1)記憶のメカニズムについて理解し説明することができる。
(2)系列位置効果を説明することができる。

【授業時間外学修】
記憶の仕組みに関する課題を行う。(4.0hr)

第10回　知識・スキルを獲得する
【　到達目標　】
(1)記憶や知識の種類やその性質について理解し説明することができる。
(2)問題解決力を高める方法を理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
知識・スキルの獲得に関する課題を行う。(4.0hr)

第11回　個に応じた教育
【　到達目標　】
(1)個人差に応じた教授法について理解し説明することができる。
(2)教育における期待の効果を理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
個に応じた教育に関する課題を行う。(4.0hr)

第12回　授業
【　到達目標　】
(1)授業のあり方の変化について理解し説明することができる。
(2)教えて考えさせる授業について理解しそれを立案することができる。

【授業時間外学修】
授業のあり方に関する課題を行う。(4.0hr)

第13回　教育評価
【　到達目標　】
(1)評価の目的・基準について理解し説明することができる。
(2)学力・知能・性格の測定について理解し測定する立場で実際に測定を立案することができる。

【授業時間外学修】
教育評価に関する課題を行う。(4.0hr)

第14回　発達障害
【　到達目標　】
(1)発達障害の分類について理解し説明することができる。
(2)障害特性の理解と支援について理解し対処法を提案できる。

【授業時間外学修】
発達障害の理解に関する課題を行う。(4.0hr)

第15回　適応支援
【　到達目標　】
(1)適応支援について理解し説明することができる。
(2)“自己肯定感を育む”ための基本的な対応を説明することができる。

【授業時間外学修】
適応支援に関する課題を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなったり、グループワークをおこなう。教員として専門の授業を運営するだけでなく、担任として、部活動の指導者として、教育心理学の知識をどのように活用していくかを常に考えながら受講することが求められる。資料は毎回、Phollyの参考資料にアップロードする。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。資料は毎回、Phollyの参考資料にアップロードする。
参考書：市川 伸一　2011 『学習と教育の心理学 増補版（現代心理学入門３）』岩波書店
　　高坂康雅・池田幸恭・三好昭子 2017 『レクチャー 青年心理学-学んでほしい・教えてほしい青年心理学の15のテーマ』風間書房

【成績評価方法】

時間外学習としてのPholly「アンケート課題」20%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。合格基準は60%である。

科目名	道徳教育の理論と方法			担当者	瀬川　大	
英文名	Moral Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE301・DTE301・HTE301		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。
道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることをねらいとする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
学校教育活動全体を通じた道徳教育の必要性	学校教育活動全体を通じた道徳教育の必要性について、思春期の特徴を踏まえながら説明することができる。	学校教育活動全体を通じた道徳教育の必要性について、説明することができる。	学校教育活動全体を通じた道徳教育の必要性について、説明することができない。
「特別の教科　道徳」の特徴	「特別の教科　道徳」の特徴について、「道徳の時間」と比較しながら説明することができる。	「特別の教科　道徳」の特徴について、説明することができる。	「特別の教科　道徳」の特徴について、説明することができない。
学習指導案の作成	授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。	道徳科の学習指導案を作成することができる。	道徳科の学習指導案を作成することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　はじめに―道徳とは何か
【　到達目標　】
道徳ということばが持つ意味や、他の類似概念との違いなどを、自分なりに理解し、説明することができる。

【授業時間外学修】
「道徳」や類似概念に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第２回　自らの道徳教育経験を振り返る
【　到達目標　】
学校教育における道徳教育の役割、目的、カリキュラム、教育の実践例を理解する。
それらをもとに、自分自身が受けてきた道徳教育を意味づけることができる。

【授業時間外学修】
学校教育における道徳教育の役割に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第３回　思春期①―その発達課題
【　到達目標　】
中学校、高等学校の生徒は思春期を生きていることを理解し、特有の発達課題を考えることができる。

【授業時間外学修】
思春期における発達課題に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第４回　思春期②―仲間集団
【　到達目標　】
思春期における成長には仲間集団の存在が必要であることを理解する。また集団の特徴をとらえることができる。

【授業時間外学修】
思春期における仲間集団に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第５回　学校教育活動全体を通じた道徳教育
【　到達目標　】
学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。特に本学は体育大学であることから、保健体育科や部活動における道徳教育について自分なりに説明できる。
【授業時間外学修】学校における教育活動全体を通じた道徳教育に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第６回　道徳教育の歴史
【　到達目標　】
道徳教育の目的と内容の歴史的な変化をたどり、現代の道徳教育の目的と課題を総合的に理解する。

【授業時間外学修】
道徳教育の歴史に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第７回　「特別の教科　道徳」の誕生
【　到達目標　】
小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から登場した「特別の教科　道徳」について、その特徴と、従来の「道徳の時間」との相違点について説明できる。

【授業時間外学修】
「特別の教科　道徳」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第８回　道徳教育の領域①―主として自分自身に関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を、4つの視点から理解する。本時では「A.主として自分自身に関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について説明できる。

【授業時間外学修】「A.主として自分自身に関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第９回　道徳教育の領域②―主として人との関わりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「B.主として人との関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学修】「B.主として人との関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第10回　道徳教育の領域③―主として集団や社会とのかかわりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「C.主として集団や社会との関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学修】「C.主として集団や社会との関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第11回　道徳教育の領域④―主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
【　到達目標　】
道徳科の内容項目を「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の視点から理解し、この視点に関わる現代的な道徳教育の課題について、説明できる。

【授業時間外学修】「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第12回　学習指導案の作成
【　到達目標　】
授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。
高等学校教育をより深く学ぶ学生は、高等学校における道徳教育を構想することができる。

【授業時間外学修】
道徳科の学習指導案作成に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第13回　模擬授業と振り返り―読み物教材を用いた授業
【　到達目標　】
読み物教材を用いた模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。

【授業時間外学修】
読み物教材を用いた道徳科の授業実践に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第14回　多様な教材と指導方法
【　到達目標　】
道徳科には多様な教材や指導方法があることを理解し、それらの特徴を踏まえた授業設計を行うことができる。特に、「考え、議論する道徳」を意識して授業を設計することができる。

【授業時間外学修】
道徳科の教材や指導方法に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

第15回　道徳科の学習評価
【　到達目標　】
道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。

【授業時間外学修】道徳科の学習評価に関連する文献を図書館等で探して読む。教育実習における道徳指導に関連する文献を図書館等で探して読む。(4.0hr)

【学修上の留意点】

各回のテーマに沿いながら学習を深め、同時に講義全体で学校における道徳教育のあり方を理解することを目標とする。授業においては、できるだけわかりやすい説明を心がけるつもりである。授業内容は講義に加え、グループワーク、ディスカッション、授業内における小レポートなどの方法を用いる予定である。レポート等の提出物については、後の授業回でフィードバックを行う。学生諸君には、授業への積極的な参加を求めたい。

【教科書・参考書など】

文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』（最新版）

【成績評価方法】

グループ討論、発表、小レポートなど（30%）、試験（70%）により評価する。なお、試験は試験期間中に別途実施。

科目名	教育の方法と技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	担当者	須甲　理生
英文名	Methodology of Education		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE203・DTE203・HTE203		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

本講義では、学習指導要領で求められる資質・能力を子供たちに習得させていくために必要な、教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的とする。具体的には、教育の方法として、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開方法、学習成果を確実に上げるための基礎的条件と内容的条件、目標に準拠した評価や指導と評価の一体化等に関する学習評価について理解していく。また、教育の技術として、授業中の子供たちに対する相互作用行動（言葉がけ）、学習指導案の作成方法について理解していく。さらに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るための情報通信技術の効果的な活用の意義と方法、情報通信技術を活用した学習指導や校務の推進の在り方、子供たちに情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法についても身に付けることを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
教育の方法に関する事項	理論を踏まえて、教育の方法について具体的に説明できる。	教育の方法について説明できる。	教育の方法について説明できない。
教育の技術に関する事項	理論を踏まえて、教育の技術について具体的に説明できる。	教育の技術について説明できる。	教育の技術について説明できない。
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法に関する事項	理論を踏まえて、情報通信技術の活用について具体的に説明できる。	情報通信技術の活用について説明できる。	情報通信技術の活用について説明でない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　学習指導要領で求められる資質・能力と保健体育科における見方・考え方
【　到達目標　】
教育方法の基礎的理論と実践について理解すると共に、学習指導要領で求められる資質・能力の各要素と要素間の関係性について保健体育科という教科の特性の視点から理解する。また、保健体育科における見方・考え方について説明できるようにする。
【授業時間外学修】
考え方についてまとめる。(4.0hr)

第２回　授業の基礎的条件と内容的条件
【　到達目標　】
教育方法の基礎的理論である授業の基礎的条件（学習規律の確立等）と内容的条件（目標・内容・教材、教具・方法の一貫性等）について、説明できるようにする。また、学級・生徒・教員・教室・教材・ICTなど授業を構成する基礎的な要件を理解する。
【授業時間外学修】
基礎的条件と内容的条件について記載された資料（論文）を読んでまとめる。(4.0hr)

第３回　授業における教師の効果的な指導方略と指導技術（１）
【　到達目標　】
教師による発問、肯定的・矯正的な言葉がけ、励まし等の行い方について、授業場面を想定して、具体例を挙げながら説明できるようにする。また、基礎的な板書、掲示物の示し方、ICTを活用したインストラクションの仕方等の技術を身に付ける。体育授業における四大教師行動について理解する。
【授業時間外学修】
指導技術について記載された資料（論文）を読んでまとめる。(4.0hr)

第４回　授業における教師の効果的な指導方略と指導技術（２）
【　到達目標　】
「デモンストレーション・説明・掲示物・ICTの活用・発問等の言葉がけ・指導内容の単純化やキーワード化、学習形態」等の授業計画段階で設定・選択する指導方略について理解する。
【授業時間外学修】
具体的な授業例を想定した指導技術や指導方略について小レポートをまとめる。(4.0hr)

第５回　授業の目標・指導内容の設定と教材・教具の開発・適用
【　到達目標　】
学習指導要領を踏まえた授業の目標や指導内容の設定、目標の達成や指導内容の習得を促す教材・教具（ICTの活用含む）の開発・適用について、具体例を挙げながら説明できるようにする。また、単元教材と単位教材の関係性と教材配列についても理解する。
【授業時間外学修】
目標・指導内容、教材・教具の設定について具体例を挙げながら小レポートを作成する。(4.0hr)

第６回　主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の実現
【　到達目標　】
主体的・対話的で深い学びとは何か、また、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の展開方法について、具体的な授業研究の成果や授業映像から理解する。
【授業時間外学修】
主体的・対話的で深い学びを取り入れた体育あるいは保健授業の具体例を作成する。(4.0hr)

第７回　学習指導案の作成方法（1）：学習評価の基礎的な考え方
【　到達目標　】
学習指導案例を基に、評価規準及び基準の設定方法、評価計画の作成方法について理解する。また、目標に準拠した評価、指導と評価の一体化、観点別学習状況の評価の考え方について説明できるようにする。目標・内容、教材・教具、学習形態等の一貫性を有する授業の設計方法について理解する。
【授業時間外学修】学習指導案例を基に、評価規準及び基準の設定方法、評価計画の作成方法について、また、目標・内容、教材・教具、学習形態等の一貫性につまとめる。(4.0hr)

第８回　学習指導案の作成方法（２）：学習場面に応じた情報通信技術の効果的な活用
【　到達目標　】
学習指導案例に基づき、育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用する方法について理解する。
【授業時間外学修】
学習指導案例を基に、目育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用する方法について小レポートをまとめる。(4.0hr)

第９回　個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るための情報通信技術の効果的な活用
【　到達目標　】
保健体育科における個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るための情報通信技術活用の意義と在り方について、具体的な授業事例を通して理解する。また、特別に支援を要する生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用にあたっての留意点について説明できる。
【授業時間外学修】学習指導案例を基に、目育成を目指す資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用する方法について小レポートをまとめる。(4.0hr)

第10回　保健体育科におけるデジタル教材の作成と活用（１）
【　到達目標　】
「体育分野」や「科目体育」の実技の授業において、反転学習や授業内で活用できるデジタル教材の作成方法を理解する。また、デジタル教材を作成・活用する際には、運動領域の特性、単元の位置、生徒の実態、育成を目指す資質・能力、学習場面等の要因を複眼的に捉える必要性について理解する。
【授業時間外学修】
具体的な学習場面等を想定した実技授業用のデジタル教材を作成する。(4.0hr)

第11回　保健体育科におけるデジタル教材の作成と活用（２）
【　到達目標　】
作成した実技授業用のデジタル教材をグループに分かれて発表・討議し、各発表事例から情報通信技術の効果的な活用方法や基礎的な指導法を身に付ける。また、情報活用力（情報モラルを含む）について、保健体育科の実技授業の特性に応じた基礎的な指導法を身に付ける。
【授業時間外学修】実技授業において情報通信技術を活用する効果的な指導法、情報活用力（情報モラルを含む）を育成するための効果的な指導法について小レポートをまとめる。(4.0hr)

第12回　保健体育科におけるデジタル教材の作成と活用（３）
【　到達目標　】
「保健分野」、「科目保健」、「体育理論」の座学の授業において、反転学習や授業内で活用できるデジタル教材の作成方法を理解する。また、その際には、単元の特性、単元の位置、生徒の実態、育成を目指す資質・能力、学習場面等の諸要因を複眼的に捉える必要があることについて理解する。
【授業時間外学修】
具体的な学習場面等を想定した座学授業用のデジタル教材を作成する。(4.0hr)

第13回　保健体育科におけるデジタル教材の作成と活用（４）
【　到達目標　】
作成した座学授業用のデジタル教材をグループに分かれて発表・討議し、各発表事例から情報通信技術の効果的な活用方法や基礎的な指導法を身に付ける。また、情報活用力（情報モラルを含む）について、保健体育科の座学授業の特性に応じた基礎的な指導法を身に付ける。
【授業時間外学修】座学授業において情報通信技術を活用する効果的な指導法、情報活用力（情報モラルを含む）を育成するための効果的な指導法について小レポートをまとめる。(4.0hr)

第14回　情報通信技術に関わる学校内外の環境と教師の働き方の変容（１）
【　到達目標　】
ICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方について、事例を通して理解する。また、情報通信技術を指導や学習評価に効果的に活用することで教師の働き方が変容してきていることについて、事例を通して理解する。
【授業時間外学修】
学習評価に活用できる情報通信技術を活用した学習カードを作成する。(4.0hr)

第15回　情報通信技術に関わる学校内外の環境と教師の働き方の変容（１）
【　到達目標　】
遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法について理解する。また、統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進が教師の働き方の変容に及ぼす影響について理解する。最後に、学校や教員自身の情報セキュリティや生徒に対する情報活用力（情報モラルを含む）を教科横断的に育成していくことの意義や方法について事例を通して理解する。
【授業時間外学修】上記の授業内容に関するレポートを作成する。

【学修上の留意点】

教育実習において、学校現場の生徒に大きな影響を与えることを十分に自覚し、教職免許を取るのにふさわしい態度で講義に臨むこと。毎回の講義は相互に関連しているので、講義内容について集中してノートをとり、予習・復習を行っていくことが必要になる。デジタル教材作成やレポート等の課題、テストにも積極的に取り組むことが大切である。

【教科書・参考書など】

文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編』（2018年）東山書房
文部科学省『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』（2019年）東山書房
岡出美則 他 編著『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店（2020年）

【成績評価方法】

デジタル教材や小レポート等の課題（50%）及び試験（50%）にて評価する。

科目名	特別支援教育入門			担当者	前島　光	
英文名	Introduction to Special Needs Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE204・DTE204・HTE204		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

特別支援教育の入門編として、様々な障害のある子どもとともに、障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもも含め、特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための基礎的知識や支援方法を理解することを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
特別の支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性と心身の発達について	障害の特性と心身の発達について十分理解し、説明できる	障害の特性と心身の発達について理解し、資料を参照しながら説明できる	障害の特性と心身の発達について理解が不十分で、説明できない
特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する教育課程や支援の方法について	教育課程や支援方法について十分理解し、的確な説明と実践的思考ができる	教育課程や支援方法について理解し、的確に説明できる	教育課程や支援方法の理解が不十分で、的確に説明できない
特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上・生活上の困難とその対応について	学習上・生活上の困難とその対応について十分理解し、的確な説明と実践的思考ができる	学習上・生活上の困難とその対応について理解し、的確に説明できる	学習上・生活上の困難とその対応について理解が不十分で、的確に説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　特別支援教育の理念と制度（1）
【　到達目標　】
(1)特別支援教育の基本的な考え方を理解する。
(2)障害の捉え方について理解する。
【授業時間外学修】
授業後はプリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第２回　特別支援教育の理念と制度（2）
【　到達目標　】
(1)特別支援教育の歴史的変遷について理解する。
(2)インクルーシブ教育システムについて理解する。
(3)合理的配慮について理解する。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第３回　通常の学級の学級担任の気づきとアセスメント
【　到達目標　】
(1)通常の学級における特別支援教育の重要性について理解する。
(2)子どもをより理解するためのアセスメントの方法を理解する。
(3)通常の学級での支援と授業づくり・学級経営の実際について理解する。
【授業時間外学修】
授業後はプリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第４回　発達障害（LD、ADHD）のある子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)LD-学習障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)ADHD-注意欠陥多動性障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学修】
授業後はプリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第５回　発達障害（ASD）軽度知的障害のある子どもの理解と支援
【　到達目標　】
(1)ASD-自閉症スペクトラム障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
(2)軽度知的障害について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学修】
授業後はプリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第６回　二次障害の理解と対応
【　到達目標　】
(1)二次障害について理解する。
(2)発達障害の関連症状と行動問題について理解する。
(3)二次障害への対応について理解し、支援のあり方を説明できる。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第７回　様々な障害の理解と対応(1)
【　到達目標　】
(1)視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱について理解する。
(2)障害のある子どもの発達と学習上・生活上の困難について理解する。
(3)障害のある子どもの特別な指導と合理的配慮について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)

第８回　様々な障害の理解と対応(2)
【　到達目標　】
(1)視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱について理解する。
(2)障害のある子どもの発達と学習上・生活上の困難について理解する。
(3)障害のある子どもの特別な指導と合理的配慮について理解する。
【授業時間外学修】
授業を振り返り、実践に役立てるための検討を行う。(4.0hr)

第９回　特別な教育的ニーズへの理解と対応
【　到達目標　】
(1)日本語指導が必要な子どもや貧困、虐待、DV、社会的養護等により、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上の困難について理解し、対応のあり方を説明できる。
(2)LGBTについて理解し、支援の在り方を説明できる。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第10回　特別の指導「自立活動」
【　到達目標　】
(1)「自立活動」について理解する。
(2)障害の捉え方と「自立活動」について理解する。
(3)「通級による指導」「自立活動」について理解する。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第11回　「通級による指導」での指導の実際
【　到達目標　】
(1)「通級による指導」の意義について理解する。
(2)「通級による指導」「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容について理解する。
(3)特別な教育的ニーズのある子どもへの効果的な指導方法について理解する。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第12回　特別支援学校、特別支援学級での指導の実際
【　到達目標　】
(1)特別支援学校と特別支援学級の制度と特別な教育課程について理解する。
(2)特別支援学校と特別支援学級における指導について理解する。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第13回　個別の教育支援計画と個別の指導計画
【　到達目標　】
(1)個別の教育支援計画と個別の指導計画について理解する。
(2)事例をもとに個別の指導計画を作成し、支援の方法を説明できる。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第14回　特別支援教育コーディネーターの役割
【　到達目標　】
(1)特別支援教育における校内体制について理解する。
(2)保護者との連携と支援について理解する。
(3)関係機関との連携について理解する。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

第15回　特別の支援を必要とする子どもの現状と課題
【　到達目標　】
(1)特別の支援を必要とする子どもの現状と課題を理解する。
(2)特別の支援を必要としている子どもの現状からアセスメントをし、具体的な指導や支援の手立てを説明できる。
【授業時間外学修】
授業後は教科書・プリント資料を復習して理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

実際に通常の学級にいる支援の必要な児童生徒や、特別支援学校・特別支援学級の児童生徒とかかわる機会を持ちながら学習し、理論と実際を結び付けて理解を深めていくことを勧める。貧困や虐待問題等、社会の動向にも目を向け、家族や関係機関、地域社会の人々との連携の進め方など幅広い視点を学習し、自らが主体的に子どもの育ちの支援にかかわることを想定しながら取り組んでほしい。パワーポイントと補足資料を用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。必要に応じて映像資料も提示し、具体的事例を確認しながら理解を深めていく。ほぼ毎時間、講義内容に関する小レポートにより、理解度を確認する。その結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行い、適宜ディスカッションにつなげていく。

【教科書・参考書など】

教科書、資料プリント、ビデオ教材等使用。授業時に指示する。
参考書：アクティベート教育学07「特別支援教育」（ミネルヴァ書房）
「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省　最新版）

【成績評価方法】

授業時のレポート、授業出席２／３を満たした学生に対し試験を実施し、レポート(40%)と試験(60%)で評価する。

科目名	教育社会学			担当者	小堀　哲郎	
英文名	Sociology of Education					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE302・DTE302・HTE302		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

教育や学校に関する事項について社会学的な視点で学ぶ科目である。現代社会の状況の変化がもたらす学校教育への影響ならびに、現代の子どもたちの生活の変化に伴って生じる指導上の課題を理解する。また、日本のみならず諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することに加え、近年重要性を増している、学校と地域との連携に関する意義や方法を理解し、学校管理下で生じる事件や事故等に対応するために学校安全に関する基礎的知識を身につけることも目標とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
現代社会の状況の変化ならびに現代の子どもたちの生活の変化がもたらす学校教育への影響	現代社会の状況の変化、現代の子どもたちの生活の変化が学校教育に与える影響や指導上の課題について理解し、その対策について考えることができる。	現代社会の状況の変化、現代の子どもたちの生活の変化が学校教育に与える影響や指導上の課題について理解することができる。	現代社会の状況の変化、現代の子どもたちの生活の変化が学校教育に与える影響や指導上の課題について理解することができない。
日本および諸外国の教育事情や教育政策の動向	日本および諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解し、今後の教育のありかたについて考えることができる。	日本および諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することができる。	日本および諸外国の教育事情や教育政策の動向を理解することができない。
学校と地域の連携や学校安全	学校と地域の連携に関する意義や方法を理解し、学校安全に関する基礎知識を備え、実践方法を考えることができる。	学校と地域の連携に関する意義や方法を理解し、学校安全に関する基礎知識を身につけることができる。	学校と地域の連携に関する意義や方法を理解し、学校安全に関する基礎知識を身につけることができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　学校を取り巻く状況の変化
【　到達目標　】
グローバル化・情報化・少子化などの社会の変化に伴う学校のありかたについて理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第２回　ライフコース
【　到達目標　】
急速に変化をしている日本人のライフコースにおける教育の意味や役割について理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第３回　少子社会の家族と子ども
【　到達目標　】
少子社会における家族と子どものありようについて、虐待等を事例に理解を深める。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第４回　子どもの人間関係
【　到達目標　】
子どもたちの人間関係の変化について、仲間意識や友だちづくりの点から理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第５回　子どもの学力と体力
【　到達目標　】
子どもの学力と体力がどのように変化してきているかを理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第６回　学力と意欲の階層差
【　到達目標　】
格差社会との関連で、学力と意欲の階層差について提起されている問題点を理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第７回　いじめ・不登校
【　到達目標　】
教育社会学の主要テーマである「いじめ」と「不登校」について理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第８回　資格社会と就職
【　到達目標　】
日本における学校卒業後の就職の状況について、歴史的経緯をふまえて理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第９回　インターネット社会と若者
【　到達目標　】
インターネットの普及による社会変動をどう捉えていくのかを若者を中心に理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第10回　学習指導要領改訂の理念
【　到達目標　】
「主体的・対話的で深い学び」を中心に、新しい学習指導要領の理念を理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第11回　学び続ける教師
【　到達目標　】
教員に要求される役割と専門的資質・能力について理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第12回　諸外国の教育事情と教育改革
【　到達目標　】
アメリカ・イギリス・韓国・フィンランドなどの諸外国の教育事情について理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第13回　学校と地域の連携
【　到達目標　】
地域との連携による学校教育活動の意義を具体的に理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第14回　開かれた学校づくりへの課題
【　到達目標　】
学校と地域の連携や協働による「開かれた学校づくり」の経緯を踏まえ、
今後の課題を理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

第15回　学校安全への対応
【　到達目標　】
学校管理下で起こる事件や事故、災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む
学校安全について理解する。
【授業時間外学修】
配布した資料を丁寧に読んで、授業内容の理解を深めること。(4.0hr)

【学修上の留意点】

授業は教員による講義形式に加え、アクティブラーニングを導入する。毎回の授業の際に「授業内レポート」等を作成し、評価に算入する。私語その他、他の学生に迷惑となる行為は厳禁。場合によっては退出してもらうこともある。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。適宜、資料等を配布。
参考書等については授業時に紹介する。

【成績評価方法】

各回の授業課題（45%）、期末レポート課題（55%）。

科目名	教育相談			担当者	角田　和也	
英文名	Educational Counseling					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE303・DTE303・HTE303		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。
本授業では、特に生徒を中心とした子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
教育相談の基本的事項・理論について	基本的事項・理論について理解し自らまとめて説明ができる	基本的事項・理論について理解している	理解が不十分で説明できない
生徒理解に必要な相談技術とカウンセリングマインドについて	相談技術・カウンセリングマインドについて工夫しながら日常的に活用できる	相談技術・カウンセリングマインドについて理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない
教育相談の展開について	既出の知見を基に展開の方法・問題点について自らの意見を示すことができる	展開の方法・問題点について既出の知見を理解し説明ができる	理解が不十分で説明できない

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　オリエンテーション／教育相談とは何？
【　到達目標　】
(1)自分の理解している「教育相談」とは何かを説明できる。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第２回　教育相談の実際
【　到達目標　】
(1) 教育相談の実際について、正しい認識をもつことができる。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第３回　学校における教育相談の意義
【　到達目標　】
(1)教員を目指す学生が教育相談を学ぶ意義を理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第４回　教育相談の基本的事項①　実践のための基本的な理論・概念①
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践に必要な、臨床心理学（カウンセリング）の基本理論・概念を理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第５回 教育相談の基本的事項②　実践のための基本的な理論・概念②
【　到達目標　】
(1)前回の授業内容を踏まえ、教育相談で実践されている臨床心理学（カウンセリング）の理論・概念について理解を深める。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第６回　教育相談の基本的事項③　カウンセリングマインドの必要性
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践に必要なカウンセリングマインドについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第７回　生徒理解の方法①　「きく」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「きく」ということについて理解を深める。
(2)「きく」方法を実践するためのポイントを理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第８回　生徒理解の方法②　「きく」ことについて②
【　到達目標　】
(1)前回の授業をうけて、さらに「きく」際に注意するポイントについての理解を深める。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第９回　生徒理解の方法③　「話す」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「話す」ということについて理解を深める。
(2)「話す」方法を実践するためのポイントを理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第10回　生徒理解の方法④　「話す」ことについて②
【　到達目標　】
(1)不快に思われない話し方について理解を深める。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第11回　生徒理解の方法⑤　「みる」ことについて①
【　到達目標　】
(1)生徒理解に必要な「みる」ということについて理解を深める。
(2)「みる」方法を実践するためのポイントを理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第12回　生徒理解の方法⑥　「みる」ことについて②
【　到達目標　】
(1)みられている側の気持ちを理解する。
(2)「みる」際に注意するさらなるポイントについて理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成／次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第13回　教育相談の展開①　「私」が教育相談を行うために
【　到達目標　】
(1)テーマに沿って、実際に教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を考えることができる。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第14回　教育相談の展開②　連携の必要性について
【　到達目標　】
(1)実際に教育相談を行う際に欠くことのできない学校内・外における連携について、理解する。

【授業時間外学修】
次回授業内容およびレポートの課題内容の確認。(4.0hr)

第15回　教育相談の展開③　組織的な取り組みの必要性について
【　到達目標　】
(1)教育相談の実践には、組織的な展開が必要であることを理解する。

【授業時間外学修】
課題レポートの作成。(4.0hr)

【学修上の留意点】

①基本的にPowerPoint画像や動画を使用し、プロジェクターもしくはモニターに投影して授業を進める。使用する穴埋め方式の本授業用のオリジナルテキストに即して説明するが、口頭で補足および詳細な説明も併せて行うので、集中してメモを取り、日常生活や教育現場での実践で活用できるオリジナルテキストの作成を目指す必要がある。
②授業内容の理解を深めることを目的とした実践的な課題レポートの作成を、単元毎に授業時間外学習で求める。この課題は後日インターネット上の指定されたURLから提出してもらい、評価に反映させる（下欄「成績評価方法」の「提出物の総合評価」に該当）。また、提出された課題は、提出翌週以降の授業内で口頭での補足や追加の説明などを加えながらフィードバックするので、他の受講者の意見を共有し自身のものの見方・考え方を広げ、さらに実践力を高めるよう努めることが求められる（当然メモは必須）。
③期末試験は、授業時に説明した基本的な事項や知識の定着の確認、および授業時間外学習で取り組んだ課題とその後のフィードバックで学習した実践的な力の定着の確認を目的として実施する。したがって、ルーブリックの「標準的な到達レベル」から「理想的な到達レベル」で出題されることになるので、授業時間外での日常的な自主学習・復習および実践的な研鑽を積み重ねることが単位取得のためには必要である。
④出席を確認するため、授業は座席指定で行う。前方での受講を希望する場合は、その旨を申告することで座席の配置を配慮する。

【教科書・参考書など】

教科書：本授業用に作成したテキストを使用する。テキストは１回目の授業開始時に販売するので、受講する学生は必ず購入すること。
参考書：テキスト内に授業回ごとの参考文献を示してあるので、そちらを参照のこと。

【成績評価方法】

・提出物の総合評価（50%）と期末試験の結果（50%）を合算して総合成績（100%）を算出する。合格基準は60%である。
・試験は試験期間中に別途実施する。

科 目 名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			担当者	稲垣　孝章	
英 文 名	Special Activities & Integrated Learning					
単 位 数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE304・DTE304・HTE304		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

生徒の全人的成長を促すための教育活動としての特質を有し、キャリア教育の要として教育課程に位置付けられている特別活動について、学級担任・ホームルーム担任として指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解し、望ましい集団・個別指導の在り方を研究するとともに、実践活動を基に特別活動の教育的意義について考える。また、各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく総合的な学習(探究)の時間の教育的意義や特質を踏まえ、実社会・実生活の課題について往還的な探究学習としての学びを実現するため、カリキュラム編成、指導計画の作成等に必要な知識・理論及び指導方法を具体的な実践事例を通して理解する。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
特別活動における基本的な理論及び具体的な指導方法について	特別活動の理論を理解し、自らまとめて具体的な指導方法を説明できる。	特別活動の理論を参考資料等を活用しながら説明できる。	特別活動の理解が不十分で説明できない。
総合的な学習(探究)の時間における基本的な理論と具体的な指導方法について	総合学習の理論を理解し、自らまとめて具体的な指導方法を説明できる。	総合学習の理論を参考資料等を活用しながら説明できる。	総合学習の理解が不十分で説明できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　特別活動の歴史的な変遷と特別活動の目標
【　到達目標　】
教育課程における特別活動の位置付けや特別活動の目標について理解する。また、特別活動の歴史的な変遷を踏まえ、改訂の視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」について理解し、学級経営との関連を踏まえ、レスポンスシートを活用し特別活動を考える。
【授業時間外学修】
学習指導要領解説編を通読し、全体の構成を把握する。(4.0hr)

第２回　現代の子供の現状と教育課程における特別活動の役割
【　到達目標　】
現代の子供の現状を踏まえ、教育課程における特別活動の役割を理解する。また、いじめ問題の現状と課題を把握し、生徒指導との関連を図り、いじめの根絶に向けた特別活動の実践の重要性についてレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
いじめ問題の現状と課題について検討する。(4.0hr)

第３回　社会の変化と学級活動・ホームルーム活動(1)の目標と内容
【　到達目標　】
社会の変化や動向を把握し、学級活動、ホームルーム活動の目標と活動内容について理解する。また、生徒による自発的・自治的な活動の中核となる学級活動(1)の学習過程を具体的な実践例を通してレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
学級活動・ホームルーム活動(1)の目標と活動内容について整理する。(4.0hr)

第４回　学級活動・ホームルーム活動(2)の目標と内容
【　到達目標　】
生徒指導の機能を具現化する時間である学級活動・ホームルーム活動(2)の目標と活動内容について理解する。また、具体的な学習過程を踏まえ、集団思考による個人目標の意思決定の望ましい指導方法についてレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
学級活動・ホームルーム活動(2)の目標と活動内容について整理する。(4.0hr)

第５回　学級活動・ホームルーム活動(3)の目標と内容
【　到達目標　】
キャリア形成と自己実現を特質とする学級活動・ホームルーム活動(3)の目標と活動内容について理解する。また、具体的な学習過程を踏まえ、なりたい自分に向けた指導方法とキャリアパスポートの活用についてレスポンスシートを用いて理解する。
【授業時間外学修】
学級活動・ホームルーム活動(3)の目標と活動内容について整理する。(4.0hr)

第６回　児童会・生徒会活動、クラブ活動(小学校のみ)の特質と学級担任の役割
【　到達目標　】
生徒会活動の目標と内容について理解するとともに、系統的な指導として児童会活動の目標と内容及び小学校のクラブ活動についても理解する。また、生徒会活動の具体的な実践事例をもとに集団活動における合意形成などについてレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
生徒総会の指導計画を立案する。(4.0hr)

第７回　学校行事の目標と内容(儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事)
【　到達目標　】
五つの学校行事の目標と内容について理解するとともに、特に健康安全・体育的行事について、運動会・体育祭の指導計画の実例を検討し、よりよい指導計画の在り方などについてレスポンスシートを活用して具体的に理解する。
【授業時間外学修】
体育祭の指導計画を立案する。(4.0hr)

第８回　学校行事の目標と内容(旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事)
【　到達目標　】
旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事について理解するとともに、中学校における修学旅行の実例について検討し、望ましい集団活動の在り方についてレスポンスシートを活用して考える。また、修学旅行の指導計画を立案する。
【授業時間外学修】
修学旅行の指導計画を立案する。(4.0hr)

第９回　総合的な学習の時間の創設と目標及び特質
【　到達目標　】
生活科と総合的な学習の時間の創設の経緯及び総合的な学習の時間の目標と内容について理解するとともに、横断的・総合的な学習の意義について理解する。また、探究的な学習を推進する教師の在り方についてレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
出身中学校の総合的な学習の時間のカリキュラムについて調べる。(4.0hr)

第10回　総合的な学習の時間の指導計画の作成と育てたい資質・能力
【　到達目標　】
学習指導要領に示されている総合的な学習の時間の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するとともに、総合的な学習の時間で育てたい資質・能力を踏まえ、具体的な実践上の課題についてレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
総合的な学習の時間の特質と実施上の課題についてまとめる。(4.0hr)

第11回　総合的な学習の時間の多様な学習方法と指導計画の作成
【　到達目標　】
総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメントをもとに、全体計画・単元計画の作成について理解するとともに、ジグソー学習法など多様な学習方法と考えるための技法(思考ツール)の具体的な活用方法についてレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
考えるための技法(思考ツール)の種類と活用方法についてまとめる。(4.0hr)

第12回　総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力の整理
【　到達目標　】
総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力の視点として、思考力・判断力・表現力と学びに向かう力・人間性等について、具体的な学習過程や能力に分けて捉え、小学校から高等学校までの系統的な学びをレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
総合的な学習の時間で育成すべき資質・能力についてまとめる。(4.0hr)

第13回　総合的な学習の時間の授業づくりのポイント
【　到達目標　】
総合的な学習の時間の探究課題における生徒の興味・関心に基づく課題をもとに、授業づくりのポイントを理解するとともに、属性変換法やパネルディスカッションなどの多様な学習形態についてレスポンスシートを活用して理解する。
【授業時間外学修】
総合的な学習の時間における多様な学習方法についてまとめる。(4.0hr)

第14回　総合的な学習の時間と社会に開かれた教育課程の実現
【　到達目標　】
総合的な学習の時間の探究課題における地域や学校の特色に応じた課題に基づく課題をもとに、適切な指導計画の作成について理解するとともに、「社会に開かれた教育課程の実現」を目指した特色ある実践事例をレスポンスシートを活用して検討する。
【授業時間外学修】
地域との連携を踏まえた総合的な学習の時間指導計画について確認する。(4.0hr)

第15回　総合的な学習の時間の学習効果を高める教師の在り方
【　到達目標　】
生徒の探究学習を推進し、自己の生き方につながる総合的な学習の時間の学習活動を展開するために求められる教師の在り方についての理解を深めるとともに、改めて教育課程における総合的な学習の時間の教育的意義つについてレスポンスシートを活用して確認する。
【授業時間外学修】
改めて学習指導要領解説編を読み、課題にそって自分の理解をまとめる。(4.0hr)

【学修上の留意点】

特別活動と総合的な学習(探究)の時間が学校教育で教育課程に位置付く役割は大きい。授業では、パワーポイントを用いて授業内容の要点や学習指導要領の内容を示しながら、具体的な事例をもとに理解を深めていく。教職科目の授業として、教師の指導計画、指導方法、評価等の教育指導における実践力を身に付けるため、教育実践へのイメージを膨らませ、受け身の授業にならないように積極的な学習参加に努めること。学習指導要領の解説書をよく読み込むとともに、教師としての業務など実践事例を踏まえ、レスポンスシート等を通して、実践的な指導力を身につけてもらいたい。

【教科書・参考書など】

「１年間で学級・学校経営が劇的に変わる教師の一般教養」稲垣孝章著(文溪堂・定価1,500＋税)を教科書とし、パワーポイントの資料などを使用する。なお、文部科学省『中学校学習指導要領解説特別活動編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』、文部科学省『中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』(各最新版)を参考資料とする。

【成績評価方法】

毎回のレスポンスシートの提出を75％(各回５点満点で評価×１５回)と確認レポート作成25％(100点満点を25点に換算)で評価する。

科目名	生徒指導法(進路指導を含む)			担当者	三好　昭子	
英文名	Guidance Services in School (Career Counseling)					
単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	3		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	講義	科目ナンバー	STE305・DTE305・HTE305		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

生徒指導・進路指導は学習指導とともに教育の二大支柱の一つであり、学習指導に劣らず重要なものである。特に、いじめ、不登校、非行などの問題の改善・克服は生徒指導・進路指導上の重要な課題であり、児童生徒の将来、すなわち生き方やキャリア形成につながっていく。本講義は、生徒指導・進路指導の目的や方法、意義などの基本的な内容を理解した上で、今日的課題の特徴やそれに対する対応についての理解を深め実践できるようになることを目的とする。生徒指導・進路指導は幅が広くかつ高い専門性を必要とするため、教職についてからも継続的に自己研鑽を積むことが必要である。そのための基盤作りをすることが本講義のねらいである。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
生徒指導・進路指導の基本的な内容について	自分の言葉で説明できる。	ノートや参考書を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
今後も継続的に自己研鑽を積むための基礎知識	自分の言葉で説明できる。	ノートや参考書を参考にしながら説明できる。	理解が不十分で説明できない。
今日的な課題に対する対応について	自ら考え対応を提案できる。	ノートや参考書を参考にすれば自分で対応を考え提案できる。	課題に対する理解が不十分で対応を検討・提案できない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　生徒指導の目的と必要性（意義）
【　到達目標　】
(1)生徒指導の目的とその必要性（意義）について理解し説明することができる。
(2)教育課程における生徒指導の位置付けを理解し説明することができる。
(3)各教科や特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解し説明することができる。
【授業時間外学修】
生徒指導の目的と必要性（意義）についての理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第２回　学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組
【　到達目標　】
(1)学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解し説明することができる。
(2)学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組を通してのアイデンティティ形成について理解し説明することができる。
【授業時間外学修】学校の指導方針・年間指導計画に基づいた組織的な取組についての理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第３回　基本的信頼感の発達
【　到達目標　】
(1)基本的信頼感の発達について理解し説明することができる。
(2)愛の本質的特徴である無条件性と相互性について理解し説明することができる。
(3)「人格を尊重する」ということを理解し説明することができる。
【授業時間外学修】
基本的信頼感の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第４回　自律性の発達
【　到達目標　】
(1)自律性の発達について理解し説明することができる。
(2)基礎的な生活習慣の確立のための日々の生徒指導の在り方を理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
自律性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第５回　主導性の発達
【　到達目標　】
(1)主導性の発達と役割実験について理解し説明することができる。
(2)規範意識醸成のための日々の生徒指導の在り方を理解し実際に提案することができる。

【授業時間外学修】
主導性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第６回　否定的アイデンティティ「どうせ私は～」の心理
【　到達目標　】
(1)否定的アイデンティティについて理解し説明することができる。
(2)児童生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。
【授業時間外学修】
否定的アイデンティティに関する課題を行う。(4.0hr)

第７回　生産性の発達と進路への自覚
【　到達目標　】
(1)生産性と劣等感について理解し説明することができる。
(2)自己効力感について理解し説明することができる。

【授業時間外学修】
生産性の発達について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第８回　集団指導・個別指導
【　到達目標　】
(1)集団指導について理解し説明することができる。
(2)個別指導について理解し説明することができる。
(3)生徒指導体制と教育相談体制について理解し説明することができる。
【授業時間外学修】
集団指導と個別指導について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第９回　専門家や関係機関との連携
【　到達目標　】
(1)生徒指導における校内の連携について理解し説明することができる。
(2)生徒指導における外部機関との連携について理解し説明することができる。
(3)生徒指導における専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。
【授業時間外学修】
専門家や関係機関との連携について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第10回　非行・性非行・暴力行為
【　到達目標　】
(1)喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導について理解し説明することができる。
(2)非行・性非行・暴力行為の背景について理解し説明することができる。
(3)非行・性非行・暴力行為への対応の基本について理解し実際に提案することができる。
【授業時間外学修】
非行・性非行・暴力行為について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第11回　いじめ（インターネット含む）・不登校
【　到達目標　】
(1)いじめ（インターネット含む）の実態、要因について理解し説明することができる。
(2)いじめ防止対策推進法について理解し説明することができる。
(3)不登校の実態・要因、およびその対応について理解し説明することができる。
【授業時間外学修】
いじめ（インターネット含む）・不登校について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第12回　生徒指導に関する法令
【　到達目標　】
(1)校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解し説明することができる。
(2)児童虐待への対応を理解し実際に提案することができる。

【授業時間外学修】
生徒指導に関する法令や児童虐待について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第13回　進路指導・キャリア教育の意義と原理
【　到達目標　】
(1)教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解し説明することができる。
(2)学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。
(3)進路指導における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解し説明することができる。
【授業時間外学修】
進路指導・キャリア教育の意義と原理について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第14回 全体に対する進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法
【　到達目標　】
(1)職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解し説明することができる。
(2)ガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解し説明することができる。
【授業時間外学修】全体に対する進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

第15回　個別の進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法
【　到達目標　】
(1)生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し説明することができる。
(2)ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。
(3)キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明し、提案することができる。
【授業時間外学修】個別の進路指導・キャリア教育の考え方と指導の方法について理解を深める課題を行う。(4.0hr)

【学修上の留意点】

パワーポイントを用いて講義内容の要点を示し、口頭でその詳細を説明する。また、必要に応じて映像資料も提示し、具体的例証を確認しながら理解を深めていく。講義で取り上げた重要概念の理解を確実にするため、毎回Phollyの「アンケート課題」を提出する必要がある。次回の授業で解説によるフィードバックをおこなう。適宜、心理テストを実施し自己分析をおこなったり、グループワークをおこなう。生徒指導に関しては教員としてのあり方というよりも、もっと根本的な、人としてのあり方が問われるため、自分に真摯に向き合い、常に自己研鑽につながるように受講することが求められる。

【教科書・参考書など】

教科書は使用しない。資料は毎回、Phollyの参考資料にアップロードする。
参考書：日本青年心理学会企画　2017 『君の悩みに答えよう：青年心理学者と考える10代・20代のための生きるヒント』福村出版
日本青年心理学会企画　2023 『心のなかはどうなっているの？　高校生の「なぜ」に答える心理学』福村出版
文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領』（最新版）、文部科学省『生徒指導提要』(最新版)

【成績評価方法】

時間外学習としてのPholly「アンケート課題」20%、期末試験の結果（試験は試験期間中に別途実施）を80%として総合的に評価する。合格基準は60%である。

科目名	教職実践演習（中・高）	担当者	大塚　雅一・助友　裕子・須甲　理生・瀬川　大 髙野　美和子・高橋　修一・前島　光・宮本　乙女・横嶋　剛
英文名	Practical Seminar for the Teaching Profession		

単位数	2	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	演習	科目ナンバー	STE401・DTE401・HTE401		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

この科目は、教職課程の総仕上げとして、教育実習経験を踏まえて、学生による発表やグループ討論によって、学生ひとり一人が自己の学修課題を見つけ、課題解決のための学修を積極的に進めていく。そのため教育実習を踏まえた課題の発表は、中学校・高等学校の体育実技の授業を分けて検討する。また、保健分野及び学級活動を含む特別活動との関わりで、学級担任としての役割と使命を十分に理解できるように演習を構成する。演習全体として、保健体育の教科の指導力と学校経営の視点を持った学級経営ができる実践的な力量形成を目指す。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
教職課程における学修の省察に関する事項	教育実習を含めたこれまでの教職課程における学修を省察し、自身の教員としての課題を的確に説明することができる。	教育実習を含めたこれまでの教職課程における学修を省察し、自身の教員としての課題を説明することができる。	自身の教員としての課題を説明することができない。
学習指導及び学級経営に関する事項	教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に効果的に応用することできる。	教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に応用することできる。	教職課程で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、グループワークや指導案等の課題に応用することできない。
教職への意識と目指すべき教師像に関する事項	教職への意識を高め、「授業で勝負できる教師」、「学び続ける教師」等、明確な目指すべき教師像を確立することができる。	「授業で勝負できる教師」、「学び続ける教師」等、目指すべき教師像を確立することができる。	目指すべき教師像を確立することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　教職課程学修の振り返りと自己の課題確認
【　到達目標　】
教科指導、生徒指導、特別活動、部活動指導等の視点から教育実習について振り返ることができる。
【授業時間外学修】
教育実習を振り返り、課題レポートを作成する。(4.0hr)

第２回　保健体育科教員の使命と責任（講義）
【　到達目標　】
今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解する。
【授業時間外学修】
今日の学校教育における保健体育の重要性、およびそれを担う教員の意義や責任について理解を深める。(4.0hr)

第３回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）①
【　到達目標　】
保健体育科の体育分野及び科目体育の授業研究（授業のVTR視聴とディスカッション）を通して、体育授業を効果的に設計・指導・評価するためのポイントを理解することができる。
【授業時間外学修】
保健体育科の体育分野及び科目体育の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)

第４回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）②
【　到達目標　】
保健体育科の保健分野及び科目保健の授業研究（授業のVTR視聴とディスカッション）を通して、保健授業を効果的に設計・指導・評価するためのポイントを理解することができる。
【授業時間外学修】
保健体育科の保健分野及び科目保健の授業研究から得られたことを整理する。(4.0hr)

第５回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）③
【　到達目標　】
保健体育科の年間指導計画の事例検討を通して、年間指導計画作成上の留意点を理解する。
【授業時間外学修】
保健体育科の年間指導計画を作成する。(4.0hr)

第６回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）④
【　到達目標　】
教育実習における研究授業の指導案分析を通して、改善点を適切に抽出し、適切な評価規準を設定し直すことができる。
【授業時間外学修】
学習指導案の改善点の抽出、評価規準の設定を行う。(4.0hr)

第７回　授業指導力の向上（教育実習を踏まえて）⑤
【　到達目標　】
教科指導におけるICT機器の活用方法や主体的・対話的で深い学びを取り入れる方法について理解する。
【授業時間外学修】
ICT機器の活用方法や主体的・対話的で深い学びの具体例について検討する。(4.0hr)

第８回　教科外における生徒指導について　「学校生活改善プロジェクト」の実践①
【　到達目標　】
あらかじめ考えてきた活動内容を持ち寄りプロジェクトを決定し、具体的な対策を検討。
実際に現場に出て観察、聞き取り、巡回などを行った後、本日の活動をまとめ、次回までに取り組んでくる内容を決定する。上記の活動を通して、効果的な生徒指導の方法について理解する。
【授業時間外学修】
各自プロジェクト内容を考案してくる。(4.0hr)

第９回　教科外における生徒指導について　「学校生活改善プロジェクト」の実践②
【　到達目標　】
プロジェクト活動の続きを行い、報告書を完成させ、グループ間で発表を行う。
上記の活動を通して、効果的な生徒指導の方法について理解する。
【授業時間外学修】
プロジェクトを継続して行い、問題点等を記録しておく。(4.0hr)

第10回　特別活動・部活動指導から学んだこと
【　到達目標　】
部活動指導に関する事例に基づきグループ討論を行う。
上記の活動を通して、効果的な部活動指導の方法について理解する。
【授業時間外学修】
グループ討論から学んだことや気づいたことを整理する。(4.0hr)

第11回　自己の学修課題の確認と研究活動
【　到達目標　】
第３回～10回の発表・討論を踏まえ、とりわけ不足している知識と実技能力の課題の補完に向けて各自研究活動を進める。この活動を通して、自身の教員としての課題を理解する。
【授業時間外学修】
これまでに学んできたことを生かして、新たな指導案を作成する。(4.0hr)

第12回　教員として求められる社会性・対人関係能力は何か（講話）
【　到達目標　】
現職教員を招き、現場の実情について講話を聞くことにより、教職現場で求められている教員としての能力を把握し、これから何をすべきかを明確にする。
【授業時間外学修】
教員として求められる社会性・対人関係能力について理解を深める。(4.0hr)

第13回　教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題（講話）
【　到達目標　】
現職教員を招き、教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深め、教育現場で果たすべき義務と責任を果たすための心構えを養い、さらにはライフサイクルに応じた課題の変化についてどのように対応していくべきかについての準備をする。
【授業時間外学修】
教員の服務と研修、教師としてのライフサイクルと成長の課題について理解を深める。(4.0hr)

第14回　各自の研究活動の成果発表と学生の相互評価
【　到達目標　】
第11回における研究活動およびその後の授業時間外学習の成果を発表相互に発表しあい、討論を行う。この活動を通して、自身の教員としての課題点を補うための学びの視点を深めることができる。
【授業時間外学修】
各自の研究活動の成果発表から学んだことを整理する。(4.0hr)

第15回　魅力ある教員をめざして―まとめレポートの作成と意見交換―
【　到達目標　】
教員としての資質能力（技術・知識・教職の適性）を確認し、学び続ける教員像に向けた今後の教員としての成長課題を理解する。
【授業時間外学修】
教員としての資質能力（実技・知識・教職の適性）について理解を深める。(4.0hr)

【学修上の留意点】

夏季休業期間中に、教育実習を含めたこれまでの教職課程での学びを振り返り、その学びの成果と課題等についてレポートを作成すること。そのため、各実習中に作成した指導案や資料等は整理しておくこと。なお、教職実践演習は、グループでのディスカッション、ポスター作成、事例研究等のアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業スタイルで進められる。そのため、受講生には、主体的に学修に取り組む態度が求められる。また、授業の中、あるいは、課題として作成される学習指導案、ポスター、事例研究のディスカッション内容等については、担当教員から適宜フィードバックされる。

【実務経験のある教員による授業科目】

高等学校教員および校長職の実務経験を活かし、教育実習をふまえて自己課題を明確にし、教員としての専門性と学級経営等について理解できるよう演習を行う。

【教科書・参考書など】

テキスト：学習指導要領、「体育教育学入門 三訂版」（大修館）、中・高体育科教育法（建帛社）、体育授業の副読本
参考書・参考資料等：教育実習事前指導である「教育実践研究」の授業時に作成する教職課程履修チェックリスト、教育実習時に作成する教科指導案、「教育実習の手引き」「教育実習ノート」等

【成績評価方法】

各種レポート等の提出状況と完成度等を総合的に評価する。（履修カルテ：10%、第2回から第10回までの授業内提出物：40%、自己の学修課題の確認と研究活動により作成した指導案：30%、「魅力ある教員をめざして」に関するまとめレポート：20%）
本授業の欠席は原則として認めない。欠席する場合には、欠席を予定している授業回の事前に「教職実践演習」の授業専用の欠席届を学生支援課（教務・修学担当）で受け取り、必要事項を記入の上、担当教員に提出すると共に、後日、欠席をした授業回については、必ず補講を受講する必要がある。15回の授業のうち、事前の欠席届の提出無しに2回の無断欠席をした場合には、本授業の履修を放棄したものとしてみなす。

科目名	教育実習（事前・事後指導を含む）	担当者	大塚　雅一・須甲　理生・髙野　美和子・高橋　修一 前島　光・宮本　乙女・湯澤　芳貴・横嶋　剛
英文名	Teaching Practice		

単位数	5	科目区分・必修／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		教職科目	教職科目	教職科目	
授業形態	実習	科目ナンバー	STE402・DTE402・HTE402		卒業認定方針との関連	⑨

【到達目標】

「教育実習」は、大学内で行う「事前･事後指導」（1単位）と実習校で行う「実習校実習」（4単位）からなる。「事前・事後指導」は2年次後期から始まり、講義、外部講師による講話、上級生からの報告とディスカッション、模擬授業等の他、教育実習に関する諸事項と、介護等体験に関する事前指導も含めて展開する。これらのことを通して、教員として必要な実践的力量を向上させていくことを目的とする。

【ルーブリック（学修の到達レベル）】

学修内容	理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	未到達レベル
事前指導・事後指導に関する事項	事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。また、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。	事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解することができる。	事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高めることができず、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察することができない。
教育実習校の理解に関する事項	生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた具体的な学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。	生徒や学習環境等に対して観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。	教育実習校の学校経営及び教育活動の特色について理解することができない。
学習指導及び学級経営に関する事項	大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で効果的に実践することができる。	大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践することができる。	大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践することができない。

【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学修】

第１回　教員養成と免許法について、授業日程、介護等体験について（2年次）
【　到達目標　】
(1)説明を聞いて理解し、4年次の自分の姿をイメージする。
(2)学び続ける教員像について理解できる。
【授業時間外学修】
自身の目指すべき教員像について考察する。

第２回　本学の教員養成の特色、口頭内諾の進め方（2年次）
【　到達目標　】
(1)本学の教員養成の特色と口頭内諾の進め方を理解する。
【授業時間外学修】
本学の教員養成の特色について復習する。

第３回　保健体育教師の使命、内諾手続きについて
【　到達目標　】
(1)保健体育教師の使命について理解する。
(2)正式な内諾手続きについて理解する。
【授業時間外学修】
学び続ける教員像や授業で勝負できる教員像の視点から改めて理想の教師像について考察する。

第４回　4年生の教育実習体験報告
【　到達目標　】
(1)4年生の報告から、自己の課題を明確にする。
【授業時間外学修】
自己の課題を明確にし、教育実習のイメージを深める。

第５回　授業研究1(模擬授業の意義と進め方について)
【　到達目標　】
(1)模擬授業の意義と進め方について理解する。
(2)アクティブラーニングやICTを取り入れた授業計画や実践について理解する。
(3)特別の支援を必要とする生徒の理解を踏まえた授業計画や実践について理解する。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第６回　授業研究2（体育授業におけるマネジメント技術の習得）
【　到達目標　】
(1)体育授業の基礎的条件となるマネジメント技術について、実技を通して理解する。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第７回　授業研究3（模擬授業の実践1）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第８回　授業研究4（模擬授業の実践2）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第９回　授業研究5（模擬授業の実践3）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第10回　授業研究6（模擬授業の実践4）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第11回　授業研究7（模擬授業の実践5）
【　到達目標　】
(1)教師役は、効果的な指導を行うことができる。
(2)観察役は、授業の事実を正確に記録することができる。
(3)生徒役は、学習内容を把握しながら活動することができる。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第12回　外部講師による講話（中学校教員）
【　到達目標　】
(1)中学校での教育実習の進め方や中学校保健体育科教員としての在り方を理解する。
(2)中学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。
(3)中学校における道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第13回　外部講師による講話（高等学校教員）
【　到達目標　】
(1)高等学校での教育実習の進め方や高等学校保健体育教員としての在り方を理解する。
(2)高等学校における職務内容、地域との連携、学校安全について理解する。
(3)高等学校における総合的な学習の時間、キャリア教育等について理解する。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

第14回　教育実習直前の諸注意
【　到達目標　】
(1)教育実習期間中（3週間）の過ごし方、事務処理、報告方法等を理解する。
【授業時間外学修】
教育実習に向けて教材研究を進める。また、適宜レポート課題等が課されるので、その課題を進める。

《教育実習校実習　3週間》
これまでの教職課程や事前指導で身に付けた力量を教育実習で発揮し、実践と省察の往還を通して、教員としての実践的力量を身に付けることができる。

第15回　教育実習の報告会
【　到達目標　】
(1)教育実習で学んだことをレポートにまとめ、報告する。
上記の活動を通して、自身の教育実習の成果と課題を理解する。
【授業時間外学修】
教育実習を省察し、改めて、自身の目指すべき保健体育教師像について考察する。

【学修上の留意点】

教育実習校実習は4年次であるが、この授業は2年次後期から始まり、教育実習事後指導までの長期間に亘る。この間の欠席は一切許されない。教職に就くことを目指す者として、真剣な態度で臨んで欲しい。なお、本授業の第6回～11回については、模擬授業設計・実施・省察のサイクルをグループで行っていく。教育実習において主体的・対話的で深い学びを実現するための手続きについて、受講生自ら対話的な学びを通して学んでいくため、積極的な態度で授業に臨むこと。また、グループで作成する学習指導案や個人で作成する模擬授業の振り返りシートについては、提出後、担当教員からフィードバックされる。

【実務経験のある教員による授業科目】

高等学校教員および校長職の実務経験を活かし、教育実習に関する個別の事前・事後指導および実習校巡回指導を行う。

【教科書・参考書など】

「教育実習の手引き」
白旗和也他編著「中学校・高等学校 体育科教育法」建帛社（2021年）

【成績評価方法】

「事前・事後指導」の成績と教育実習校からの評価を総合して単位を認定する。
本授業における事前・事後指導の中での欠席は原則として認めない。欠席する場合には、欠席を予定している授業回の事前に「教育実習（事前・事後指導を含む）」の授業専用の欠席届を学生支援課（教務・修学担当）で受け取り、必要事項を記入の上、担当教員に提出する必要がある。また、欠席をした授業回については、必ず補講を受講する必要がある。15回の授業のうち、事前の欠席届の提出無しに2回の無断欠席をした場合には、本授業の履修を放棄したものとしてみなす。